

## 八代平野干拓遺跡群

高田手永旧堤防・四百町開旧堤防

## 宮地小畑遺跡・宮地觀行寺遺跡

—九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—

---

2009

熊本県教育委員会

## 八代平野干拓遺跡群

高田手永旧堤防・四百町開旧堤防

## 宮地小畠遺跡・宮地觀行寺遺跡

—九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—

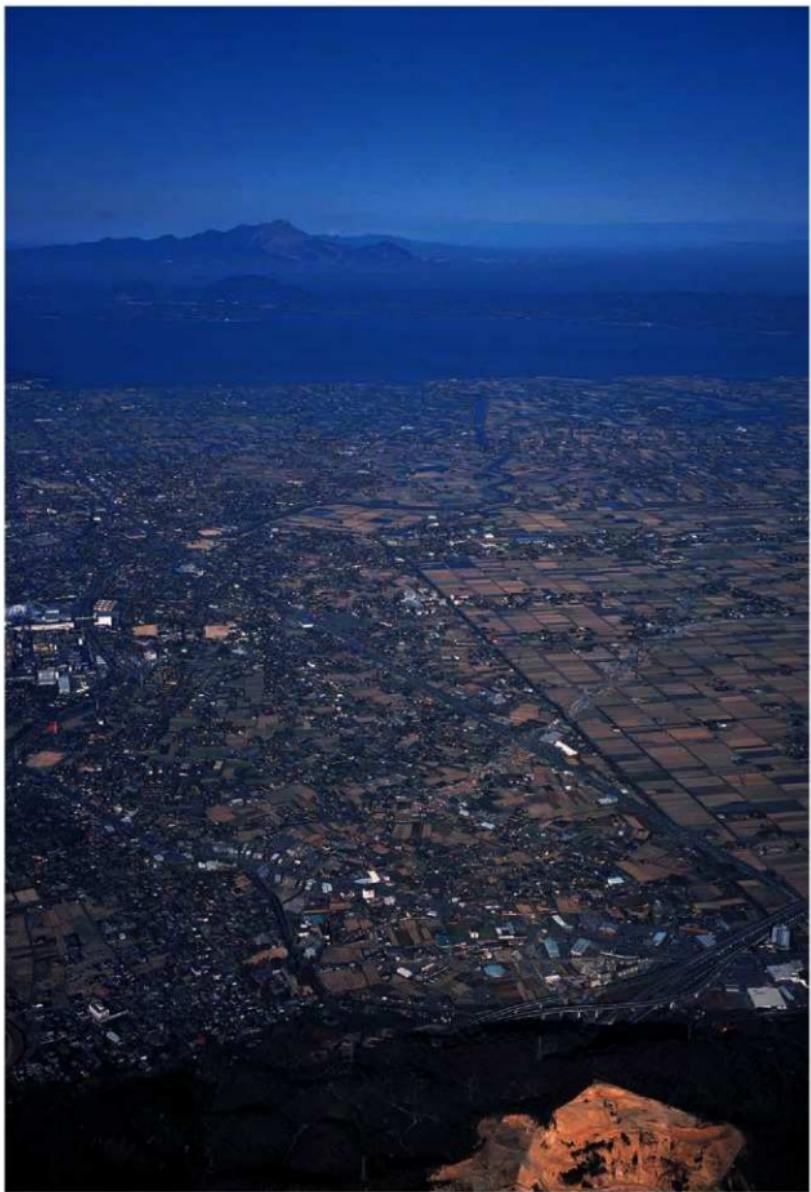
2009

熊本県教育委員会



現在の八代神社（妙見宮）

PL. 2 遺跡の鳥瞰（1）



八代平野から八代海、雲仙普賢岳を望む

P.L. 3 遺跡の鳥瞰（2）



九州山地末端部に現れる『日奈久断層線』



宮地小畠遺跡 F・G-14～17Grid



宮地小畠遺跡 F・G-14～17Grid 7層上面(古代) 完堀状況



1. 宮地小畠遺跡 F-15.16Grid 西壁土層断面  
3. 宮地小畠遺跡 F-12Grid 西壁土層断面

2. 宮地小畠遺跡 G-15Grid 東壁土層断面  
4. 宮地小畠遺跡 G-9 Grid 碓層断面



宮地銀行寺遺跡 1区 7層(古代)遺構検出状況(北より)



宮地觀行寺遺跡 2区 8層(古代)遺構検出状況(北西より)

## 序 文

本書は、九州新幹線建設工事に伴い実施した八代平野干拓遺跡群・宮地小畠遺跡、宮地觀行寺遺跡の調査報告書です。

熊本県では平成23年春の九州新幹線開業に向け、平成12年から県内の埋蔵文化財発掘調査に取り組んでおり、平成16年には全線開業に先立ち、新八代・鹿児島中央間の開業を迎えることが出来ました。

ここで報告する八代平野干拓遺跡群は県下でも有数の平野を形づくっている干拓堤防の調査を実施したもので、県内でも類例を見ない調査です。

樋門など主要施設の調査ではありませんが、堤防の成り立ちを考える上で非常に重要な調査結果を得ることができました。

また、「宮地小畠遺跡」、「宮地觀行寺遺跡」は近世まで八代の文化の中心であった八代市宮地町に所在する遺跡で、平成13年から14年に本線部で実施した調査分と合わせると、これまで知られていなかった古い宮地町の歴史を物語る資料が多く出土しました。

その結果、八代市域でも遺跡の密度が最も多く重要な地域であることが確認されました。

最後に、本書の刊行にあたって多大のご協力をいただいた関係者、関係機関の方々に深く感謝申しあげます。

平成22年3月31日

熊本県教育長 山本 隆生

# 八代平野干拓遺跡群・宮地小畠遺跡・宮地觀行寺遺跡発掘調査報告書 —九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—

## 目 次

第1章 序 言 .....	1
1 調査の経緯 .....	1
2 調査組織 .....	3
3 報告書の作成 .....	4
第2章 調 査 .....	6
1 調査地域 .....	6
A 遺跡の位置 .....	B 歴史的背景 .....
1 遺跡の地理的環境 .....	
2 八代平野の地下地質 .....	
(1) 堆積物の概要 .....	
(2) 自然科学分析の結果 .....	
(3) 八代平野の形成史 .....	
C 既往の調査 .....	D 測量 .....
2 調査日誌抄 .....	15
A 八代平野干拓遺跡群 .....	B 宮地小畠遺跡 .....
C 宮地觀行寺遺跡 .....	
第3章 遺 構 .....	20
1 八代平野干拓遺跡群 .....	20
A 調査の方法 .....	B 干拓の沿革 .....
C 遺跡の概要 .....	
2 宮地小畠遺跡 .....	26
A 遺跡の概要 .....	B 出土遺物 .....
3 宮地觀行寺遺跡 .....	98
A 遺跡の概要 .....	B 出土遺物 .....
附編 .....	130
新幹線建設に伴う宮地地区の発掘調査がもたらした成果と今後の課題 .....	130
八代宮地地区における自然科学分析業務報告 .....	139
写真図版 .....	
報告書抄録 .....	
奥付 .....	

## 挿 図 目 次

- Fig.1 熊本県域における地形表記と九州新幹線建設に伴い発掘調査を実施した遺跡  
Fig.2 八代平野干拓遺跡群・宮地小畠遺跡・宮地銀行寺遺跡周辺地形図 (1/50,000)  
Fig.3 自然科学分析柱状図  
Fig.4 宮地小畠遺跡・宮地銀行寺遺跡周辺遺跡図 (1/10,000)  
Fig.5 周辺地形図（西海道ライン）(1/2,500)  
Fig.6 四百町開旧堤防座標点  
Fig.7 高田手永旧堤防座標点  
Fig.8 宮地小畠遺跡・宮地銀行寺遺跡座標点  
Fig.9 八代平野年代別干拓略図  
Fig.10 高田手永旧堤防検出石敷き平面図と断面図  
Fig.11 四百町開旧堤防検出石敷き平面図と断面図  
Fig.12 土坑SK003・SK004平面図と断面図  
Fig.13 土坑SK029平面図と断面図  
Fig.14 宮地小畠遺跡 5層上面（古代1）遺構図  
Fig.15 土坑SK030平面図と断面図  
Fig.16 宮地小畠遺跡 7層上面（古代2）遺構図  
Fig.17 土坑SK031・SK032平面図と断面図  
Fig.18 土坑SK033平面図と断面図  
Fig.19 土坑SK035・SK036平面図と断面図  
Fig.20 土坑SK044平面図と断面図  
Fig.21 土坑SK048平面図と断面図  
Fig.22 蓋ST001平面図と断面図  
Fig.23 宮地小畠遺跡土層推移模式図  
Fig.24 宮地小畠遺跡 8層上面（古代3）遺構図  
Fig.25 土坑SK051・SK053・SK054平面図と断面図  
Fig.26 土坑SK051・SK053・SK054出土遺物実測図  
Fig.27 宮地小畠遺跡調査区土層断面図  
Fig.28 満SD002出土遺物実測図  
Fig.29 土坑SK001・SK007・SK008・SK011・SK012・SK016・SK018・SK019・SK023出土遺物実測図  
Fig.30 土坑SK027・SK029出土遺物実測図  
Fig.31 土坑SK030出土遺物実測図  
Fig.32 土坑SK033出土遺物実測図  
Fig.33 土坑SK035出土遺物実測図  
Fig.34 土坑SK036出土遺物実測図  
Fig.35 土坑SK037・SK038・SK039・SK040出土遺物実測図  
Fig.36 土坑SK041・SK043出土遺物実測図  
Fig.37 土坑SK044出土遺物実測図  
Fig.38 土坑SK045出土遺物実測図  
Fig.39 土坑SK046・SK047・SK049・SK050出土遺物実測図  
Fig.40 土坑SK051出土遺物実測図-①  
Fig.41 土坑SK051出土遺物実測図-②  
Fig.42 土坑SK053・SK054・SK055・SK056出土遺物実測図  
Fig.43 蓋ST001出土遺物実測図  
Fig.44 不明遺構SX001出土遺物実測図-①  
Fig.45 不明遺構SX001出土遺物実測図-②  
Fig.46 不明遺構SX001出土遺物実測図-③  
Fig.47 不明遺構SX001出土遺物実測図-④  
Fig.48 不明遺構SX001出土遺物実測図-⑤  
Fig.49 不明遺構SX001出土遺物実測図-⑥  
Fig.50 不明遺構SX002出土遺物実測図-①

## 挿 図 目 次

- Fig.51 不明遺構SX002出土遺物実測図－②  
Fig.52 調査区出土遺物実測図－①  
Fig.53 調査区出土遺物実測図－②  
Fig.54 調査区出土遺物実測図－③  
Fig.55 調査区出土遺物実測図（須恵器）－④  
Fig.56 調査区出土遺物実測図－⑤  
Fig.57 調査区出土遺物実測図－⑥  
Fig.58 調査区出土遺物実測図－⑦  
Fig.59 調査区出土遺物実測図－⑧  
Fig.60 調査区出土遺物実測図－⑨  
Fig.61 調査区出土遺物実測図（土師器ヘラ書き）－⑩  
Fig.62 調査区出土遺物実測図（土師器ヘラ書き）－⑪  
Fig.63 調査区出土遺物実測図（須恵器・墨書・ヘラ書き）－⑫  
Fig.64 調査区出土遺物実測図－⑬  
Fig.65 調査区出土遺物実測図（平瓦）－⑭  
Fig.66 調査区出土遺物実測図（平瓦・丸瓦）－⑮  
Fig.67 土坑SK005・SK012・SK026出土遺物実測図（銅鏡）  
Fig.68 調査区出土遺物実測図（鉄製品）－⑯  
Fig.69 調査区出土遺物実測図（筋鍾車）－⑰  
Fig.70 調査区出土遺物実測図（石製品）－⑱  
Fig.71 調査区出土遺物実測図（トチン）－⑲  
Fig.72 宮地銀行寺遺跡遺構配置図（1/500）  
Fig.73 宮地銀行寺遺跡1区5層（古代）遺構配置図  
Fig.74 宮地銀行寺遺跡1区7層（古代）遺構配置図  
Fig.75 宮地銀行寺遺跡2区4層遺構配置図  
Fig.76 宮地銀行寺遺跡2区7層（古代）遺構配置図  
Fig.77 宮地銀行寺遺跡2区8層遺構配置図  
Fig.78 2区溝SD002平面図と断面図  
Fig.79 2区溝SD004平面図と断面図  
Fig.80 2区土坑SK002平面図と断面図  
Fig.81 2区土坑SK003平面図と断面図  
Fig.82 宮地銀行寺遺跡1区・3区土層断面図および土層推移模式図  
Fig.83 宮地銀行寺遺跡2区土層断面図および土層推移模式図  
Fig.84 1区土坑SK001・SK003・SK004出土遺物実測図  
Fig.85 1区3層・4層・5層・6層出土遺物実測図  
Fig.86 1区F-27Grid 4層出土遺物実測図（中空円面鏡）  
Fig.87 1区4層・5層出土遺物実測図  
Fig.88 2区溝SD003出土遺物実測図  
Fig.89 2区土坑SK001出土遺物実測図  
Fig.90 2区土坑SK002出土遺物実測図－①  
Fig.91 2区土坑SK002出土遺物実測図－②  
Fig.92 2区土坑SK003出土遺物実測図  
Fig.93 2区土坑SK004・SK005・SK013・SK014・SK015出土遺物実測図  
Fig.94 2区調査区出土遺物実測図－①  
Fig.95 2区調査区出土遺物実測図－②  
Fig.96 3区出土遺物実測図

## 図版目次

- Tab.1 八代・水俣地区調査一覧  
Tab.2 周辺遺跡一覧  
Tab.3 八代平野干拓遺跡群・宮地小畠遺跡・宮地銀行寺遺跡 4 級基準点測量成果  
Tab.4 不知火干拓の沿革-①  
Tab.5 不知火干拓の沿革-②  
Tab.6 宮地小畠遺跡出土遺物観察表-①  
Tab.7 宮地小畠遺跡出土遺物観察表-②  
Tab.8 宮地小畠遺跡出土遺物観察表-③  
Tab.9 宮地小畠遺跡出土遺物観察表-④  
Tab.10 宮地小畠遺跡出土遺物観察表-⑤  
Tab.11 宮地小畠遺跡出土遺物観察表-⑥  
Tab.12 宮地銀行寺遺跡出土遺物観察表-①  
Tab.13 宮地銀行寺遺跡出土遺物観察表-②

## 写真目次

- PL1 現在の八代神社（妙見宮）  
PL2 八代平野から八代海、雲仙普賢岳を望む  
PL3 九州山地末端部に現れる『日奈久断層線』  
PL4 宮地小畠遺跡 F・G-14 ~ 17Grid  
PL5 宮地小畠遺跡 F・G-14 ~ 17Grid 7 層上面（古代）完掘状況  
PL6 1. 宮地小畠遺跡 F-15・16Grid西壁土層断面 2. 宮地小畠遺跡 F-15Grid東壁土層断面  
3. 宮地小畠遺跡 F-12Grid西壁土層断面 4. 宮地小畠遺跡 G-9Grid礫層断面  
PL7 宮地銀行寺遺跡 1 区 7 層（古代）遺構検出状況（北より）  
PL8 宮地銀行寺遺跡 2 区 8 層（古代）遺構検出状況（北西より）  
PL9 1. 四百町開旧堤防全景（土空より） 2. 四百町開旧堤防石積み検出状況  
PL10 1. 宮地小畠遺跡 E・F-11・12Grid 5 層遺構検出状況  
2. 完掘状況  
PL11 1. 宮地小畠遺跡 溝SD001完掘状況  
2. 宮地小畠遺跡 F・G-14・15Grid 5 層遺物出土状況  
3. 宮地小畠遺跡 土坑SK003・SK004遺物出土状況  
4. 宮地小畠遺跡 G-15Grid 5 層遺構完掘状況  
PL12 1. 宮地小畠遺跡 7 層遺構検出状況  
2. 宮地小畠遺跡 土坑SK029遺物出土状況  
3. 宮地小畠遺跡 土坑SK030・SK033・SK034遺構検出状況  
4. 宮地小畠遺跡 土坑SK031・SK032完掘状況  
PL13 1. 宮地小畠遺跡 土坑SK030検出調査状況 2. 宮地小畠遺跡 土坑SK030土層断面  
3. 宮地小畠遺跡 土坑SK033遺物出土状況 4. 宮地小畠遺跡 土坑SK033遺物出土状況  
PL14 1. 宮地小畠遺跡 土坑SK035遺物出土状況 2. 宮地小畠遺跡 土坑SK036遺物出土状況  
3. 宮地小畠遺跡 土坑SK044遺物出土状況 4. 宮地小畠遺跡 土坑SK048完掘状況  
PL15 1. 宮地小畠遺跡 墓ST001検出調査状況 2. 宮地小畠遺跡 墓ST001遺物出土状況  
3. 宮地小畠遺跡 墓ST001、Pit2完掘状況 4. 宮地小畠遺跡 不明遺構SX001遺物出土状況  
PL16 宮地小畠遺跡 7 層上面（古代）完掘状況  
PL17 宮地小畠遺跡 土坑SK051 ~ SK054 1. 検出状況 2. 完掘状況  
PL18 宮地小畠遺跡 G-14・15Grid土層断面、検出状況  
PL19 1. 宮地銀行寺遺跡 1 区 4 層遺構完掘状況  
2. 宮地銀行寺遺跡 1 区 5 層遺構検出状況  
3. 4. 宮地銀行寺遺跡 1 区 土坑SK003遺物出土状況

## 写真目次

- PL.20 1. 宮地銀行寺遺跡1区 土坑SK004土層断面  
2. 宮地銀行寺遺跡1区 5層遺物出土状況（中空円面鏡）  
3. 宮地銀行寺遺跡1区 7層検出状況  
4. 宮地銀行寺遺跡1区 7層完掘状況
- PL.21 宮地銀行寺遺跡2区 4層遺構 1. 検出状況 2. 完掘状況
- PL.22 宮地銀行寺遺跡2区 溝SD002 1. 2. 磁出土状況 3. 土層断面 4. 完掘状況
- PL.23 宮地銀行寺遺跡2区 土坑SK002 1. 3. 遺物出土状況 2. 土層断面 4. 完掘状況
- PL.24 1. 宮地銀行寺遺跡2区 溝SD004縦列出土状況  
2. 宮地銀行寺遺跡2区 溝SD004縦出土・SK009完掘状況  
3. 宮地銀行寺遺跡2区 作業風景  
4. 宮地銀行寺遺跡2区 古代完掘状況
- PL.25 宮地銀行寺遺跡2区 溝SD004 1. 検出状況 2. 土層断面 3. 磁出土状況 4. 完掘状況
- PL.26 1. 宮地小畠遺跡 溝SD002出土遺物 2. 宮地小畠遺跡 土坑SK027出土遺物
- PL.27 1. 宮地小畠遺跡 土坑SK030出土遺物 2. 宮地小畠遺跡 土坑SK033出土遺物
- PL.28 1. 2. 宮地小畠遺跡 土坑SK035出土遺物
- PL.29 1. 宮地小畠遺跡 土坑SK036出土遺物 2. 宮地小畠遺跡 土坑SK044出土遺物
- PL.30 1. 宮地小畠遺跡 土坑SK027出土遺物 2. 宮地小畠遺跡 土坑SK050出土遺物  
3. 宮地小畠遺跡 土坑SK036出土遺物 4. 宮地小畠遺跡 土坑SK054・SK055出土遺物
- PL.31 1. 宮地小畠遺跡 土坑SK051出土遺物 2. 宮地小畠遺跡 土坑SK045出土遺物  
3. 宮地小畠遺跡 土坑SK056出土遺物 4. 宮地小畠遺跡 土坑SK054出土遺物
- PL.32 1. 宮地小畠遺跡 土坑SK041(80)・不明遺構SX001出土遺物  
2. 宮地小畠遺跡 不明遺構SX001出土遺物
- PL.33 1. 2. 宮地小畠遺跡 不明遺構SX001出土遺物
- PL.34 1. 宮地小畠遺跡 不明遺構SX001出土遺物 2. 宮地小畠遺跡 不明遺構SX002出土遺物
- PL.35 1. 宮地小畠遺跡 不明遺構SX002出土遺物 2. 宮地小畠遺跡 不明遺構SX001出土遺物  
3. 宮地小畠遺跡 調査区出土遺物 4. 宮地小畠遺跡 F・G-13Grid出土遺物
- PL.36 1. 宮地小畠遺跡 調査区出土遺物（転用窓）  
2. 宮地小畠遺跡 土坑SK030(37)・調査区出土遺物（瓦）
- PL.37 1. 宮地小畠遺跡 調査区出土遺物（鉄製品）  
2. 宮地小畠遺跡 土坑SK012・SK026出土遺物  
3. 宮地小畠遺跡 土坑SK005出土遺物  
4. 宮地小畠遺跡 土坑SK019出土遺物（軒丸瓦）  
5. 宮地小畠遺跡 調査区出土遺物（鐵滓）  
6. 宮地小畠遺跡 調査区出土遺物（瓶、胴部）
- PL.38 1. 宮地小畠遺跡 調査区出土遺物（紡錘車） 2. 宮地小畠遺跡 調査区出土遺物（砥石）
- PL.39 1. 宮地小畠遺跡 調査区出土遺物（土鍤） 2. 宮地小畠遺跡 調査区出土遺物
- PL.40 1. 宮地銀行寺遺跡1区 土坑SK001（1）・調査区出土遺物  
2. 宮地銀行寺遺跡1区 土坑SK003出土遺物
- PL.41 1. 宮地銀行寺遺跡1区 土坑SK003出土遺物  
2. 宮地銀行寺遺跡1区 調査区出土遺物（中空円面鏡）  
3. 宮地銀行寺遺跡2区 土坑SK002・SK016出土遺物
- PL.42 1. 2. 宮地銀行寺遺跡2区 土坑SK003出土遺物  
3. 宮地銀行寺遺跡2区 土坑SK005出土遺物  
4. 宮地銀行寺遺跡2区 土坑SK002出土遺物  
5. 宮地銀行寺遺跡3区 調査区出土遺物
- PL.43 参考資料（江上コレクションより八代市立博物館未来の森ミュージアム所蔵）
- PL.44 宮地小畠遺跡出土遺物（ヘラ書き）-①
- PL.45 宮地小畠遺跡出土遺物（ヘラ書き・ヘラ記号）-②
- PL.46 宮地小畠遺跡出土遺物（ヘラ書き）-③
- PL.47 1. 宮地小畠遺跡出土遺物（墨書き）  
2. 3. 宮地銀行寺出土遺物（ヘラ書き・ヘラ記号）
- PL.48 宮地小畠遺跡出土遺物（畫符焼、窯道具）

# 八代平野干拓遺跡群・宮地小畠遺跡・宮地觀行寺遺跡 発掘調査報告書

—九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—

## 第1章 序言

本書は、熊本県教育委員会が九州新幹線建設工事に先立ち独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部 九州新幹線建設局（旧：日本鉄道建設公団、以下、「鉄道・運輸機構」という。）より依頼を受け、熊本県八代市宮地町から宇城市松橋町までに所在する、八代平野干拓遺跡群（四百町開田堤防、高田手永田堤防）及び宮地小畠遺跡・宮地觀行寺遺跡の発掘調査成果をとりまとめたものである。

干拓遺跡群は、急峻な九州山地を源とする多くの小河川から運ばれる堆積物により、長期間にわたり自然の作用によって八代海に向って形成された干潟を人工的に仕切り、その内部を淡水化し耕作地を広げると言う新たな新田開発により建設された潮受け堤防の一部である。干拓は藩による積極的な推進により干拓面積の大型化が始まり、飛躍的に耕作地が広がった。それを支えたのが「肥後の石工」と呼ばれる石橋を中心とした高度な規矩術を有する技術集団の存在であった。彼らは、干拓で最も重要なとされる樋門を始め潮受け堤防の建設に携わり、事業を推進する上で重要な一端を担う事となった。

現在、当時の干拓潮受け堤防や樋門は、生活道路や住宅地として使用され、当時の姿を残しているものはない。

今回の本地域における新幹線建設工事は、新八代駅を発し八代平野を北上する間は主に干拓地上を北上し、宇土半島基部を経由して熊本駅に至るという経路で計画・施工された。そこで、古い干拓の単位となる潮受け堤防の一部が工事により破壊されることになったため調査を実施した。

遺跡名は当時の名称ではなく、通称であったり、現在の行政区名を取り入れたものであり、現在は通称として呼称されているものである。

宮地小畠遺跡・宮地觀行寺遺跡は八代市宮地町に所在し、九州三大祭りで、熊本県指定無形重要文化財に指定されている「妙見祭」を奉納する妙見宮（通称妙見さん）の南側に位置する。

現在の社殿は近世に遷宮されてきたもので、古代には背後の八丁山中に上宮が置かれ、中世には現在の社殿の南側を西流する水無川上流部の妙見町に置かれていたとされる。上宮が置かれていた山中には現在も布目瓦が散布しており、水場と伝えられる場所では湧水を見ることができる。宮地小畠遺跡・宮地觀行寺遺跡は、本来は一つの広がりとしてとらえることができるが、便宜上字名を境に遺跡名を分けて使用している。

### 1 調査の経緯

宮地小畠遺跡・宮地觀行寺遺跡が存在する宮地町町内からは、古代の瓦や土器が散布することは、以前から一部では知られていたが、中世から現在に至るまで妙見宮を中心とする町屋の広がりがそれらを厚く覆い、大規模な開発もなかったことから、広く周知の埋蔵文化財包蔵地として知られることは少なかった。

近年、八代市妙見町在住の故 江上利勝氏が報告されていた「觀行寺跡出土瓦」等が、埋蔵文化財包蔵地「觀行寺跡」として遺跡地図へ登録され周知されたことから、本事業における工事着工前の埋蔵文化財発掘調査へと繋がった。

また、調査地を含む球磨川北岸域には、『延喜式』『和抄』『駿路通』等に記載される「西海道」が南北に縦貫しており、豊向一片野一朽網一佐職一水保一仁主と続く線上に位置し、片野駅家推定地に比定されている地域もある。

1 江戸時代末期から明治中期まで県内を中心に数多くの組頭橋を架けた石工集団

2 九州三大祭りは「長崎くんち」（長崎市諏訪神社）、「博多祇園山笠」（福岡市祇園宮）、「妙見宮大祭」（八代市妙見宮）を言う。

3 熊本県文化財調査報告第45集「興善寺」 熊本県教育委員会 1980

九州新幹線事業は、平成3年9月に新八代～西鹿児島（現鹿児島中央）間が起工したのを受け最終的に路線が決定し、八代市宮地町においても工事計画が公表された。八代市域では、2000年（平成12年）8月から西片町において「西片百田遺跡」の調査を皮切りに、断続的に調査に着手した。

宮地町では、平成13年10月に本線部調査で宮地銀行寺遺跡に最初に着手し、平成14年2月から宮地小畠遺跡調査（本線部）を実施している。

No.	遺跡名及び面積	所在地	調査期間	調査員	遺跡の時代	遺跡の性格	報告番号
1	長野遺跡（本） 1,200m <sup>2</sup> （×2倍）	水俣市長野町	H19.12.8～H20.3.31	村崎 実宏 中川 拓二	國文～生糸 中世	水俣川左岸、段丘上に所在する集落跡	第189集
2	古籬遺跡（本） 3,800m <sup>2</sup>	八代市古籬町	H12.12.5～H13.5.31	出田 久齊 米村 大	中世	大型五輪塔を中心とする墓域	第227集
3	古籬城跡（本） 2,200m <sup>2</sup>	八代市古籬町	H13.10.9～H14.4.30	古城 守忠・水野 哲郎 吉柳 博晃・松尾 茂	中世	中世古籬城の城の一部	第227集
4	古籬城寺遺跡（本） 4,520m <sup>2</sup> （×2倍）	八代市古籬町字能寺	H13.4.28～H14.3.29	青木 勝士 高橋 康	古代・中世 近世	水俣川右岸に位置し、古代は集落跡、中世は寺跡（圓融寺）	第216集
5	古籬城跡遺跡（本） 505m <sup>2</sup> （×2倍）	八代市古籬町祇崎	H14.1.8～H14.4.20	青木 勝士・米村 大 佐原 康二・木本 麻紀	古代・中世	水俣川に接し位置する。古代は集落跡辺り、中世は古籬城跡城下集落跡	第227集
6	宮地銀行寺遺跡（本） 1,862.7m <sup>2</sup> （×1倍）	八代市宮地町 字銀行寺	H13.10.9～H14.6.30	山城 敏明・道田 明生 脇原加奈子・瀬田 露穂	古代・中世 近世	水俣川右岸に位置し、銀行寺建物、石敷道塁等、貨幣の性質を有すると思われる遺構を多数検出。併せて門に近い場所や小畠付近に寺内特徴的な遺構を有した。古墳時代の「六住坊」住居跡を検出し、西側に位置する寺門・古墳群等との関連も考えられる。	第235集
7	宮地小畠遺跡（本） 352.4m <sup>2</sup> （×2倍）	八代市宮地町 字小畠	H15.5.6～H15.9.30	高田 美鶴・宇田 直得	古墳・古墳 近世	1 区は斜面中より、中空円筒形が出土。本體は側面に開口する 2 区からは小畠周辺遺跡と考えられる箇所。土器類を多く検出。	第245集
	宮地小畠遺跡（本） 1,072.1m <sup>2</sup> （×4倍）						
8	宮地小畠遺跡（本） 507.7m <sup>2</sup> （×3倍）	八代市宮地町 字小畠	H14.2.1～H14.6.3	坂田 和弘・水野 武彦 坂口主太郎・宮澤 伸一 長谷部善一・中川 大 東木 伸一・大平 伸 上高瀬 伸一・和田 研 内田 成秀・木本 麻紀 河崎 明子・中村 野裕	古墳・古墳 近世	砂利・骨粉遣から小畠遺跡の本體の構造部検出。 2区で中空円筒下部から複数さざな木頭を分離検出。3区から4区は 8 世紀前半～三河平扇から 9 世紀後半～四半削の遺物を中心とする銀行寺建物跡を多数検出。出土遺物中にはうら書き土器が多量出土。貴重な出土品。貴重な出土品の可能性あり。	第235集
	宮地小畠遺跡（本） 1,530.4m <sup>2</sup> （×3倍）						
9	西片池田遺跡（本） 635m <sup>2</sup> （×3倍）	八代市西片町 字五反田・池田	H13.11.26～H14.5.31	八代市教委（民間収集）	古墳～近世	—	第245集
	宮地小畠遺跡（本） 912m <sup>2</sup> （×3倍）						
11	中片小畠遺跡（本） 3,800m <sup>2</sup> （×2倍）	八代市中片町字小畠	H12.8.1～H13.3.31 3・4区 H13.10.1～H14.2.28	出田 久齊・米村 大 坂口主太郎・森 貴史	古墳・古墳 近世	近世の大規模柱立建物を始め、中片柱立建物等を検出。	第228集
	中片小畠遺跡（本） 1,200m <sup>2</sup> （×2倍）						
12	西片福村遺跡（本） 2,800m <sup>2</sup>	八代市西片町字福村	H13.4.15～H13.9.28	坂口主太郎・森 貴史	弥生～古墳 中世	沖縄平野上へ伸びる縱丘陵上に位置する集落跡。	第228集
13	西片吉田遺跡（本） 6,282m <sup>2</sup> （×2倍）	八代市西片町字吉田	H12.7.1～	長谷部善一・上高瀬 雄 荒木 錠宏・猪谷 智子 河崎 明子	弥生・古墳	沖縄平野上に位置する吉田・後御前平から古墳時代の開拓地である。古墳で最も古い段丘式古墳の発見がある。また、土坑3,000個以上古墳時代後期層では、室内に小切札底面を有し、埋納焼拂の可能性あり。	第242集
14	上日置女木木遺跡（本）	八代市上日置町 字女木木	H13.10.1～H14.1.31	中村 守弘・高谷 稔生 後藤義美子・古閑 敦士 瀬田 成香	弥生前期・ 後期	沖縄平野上にあり、微高地に所在する集落及び墓域。	第236集
15	島田遺跡（本） 1,530.4m <sup>2</sup> （×2倍）	八代市島田町	H13.8.6～H14.3.29	野田 英治・西山由美子 内田 成香	弥生前期・ 後期	細い突堤を複数に有する住居跡群を検出。また、柱立建物部材である板延しまを出土。	第241集

\*遺跡名横に記す。（本）（側）はそれぞれ、本線部調査、側道部調査を示す。

Tab.1 八代・水俣地区調査一覧

## 2 調査組織

今回報告する調査報告は、八代市鏡町に所在する干拓旧堤防跡及び、八代市宮地町における新幹線本線及び新幹線本線側道、高架下横断道路建設のため実施した埋蔵文化財発掘調査報告である。

堤防名称及び遺跡名称は、「高田手永旧堤防」、「四百町開旧堤防」はそれぞれ、干拓を実施し入植した住民の出身地名、干拓により開かれた面積を表す名称等を取り入れ、当時から付されていた名称を継承し遺跡名としている。

「宮地小畠遺跡・宮地銀行寺遺跡」は現在、当該地域に残されている行政区名をもとに大字名に小字名を組み合わせ、遺跡名称としている。

また、新幹線本線に伴い実施した調査分を「宮地小畠遺跡（本線）」「宮地銀行寺遺跡（本線）」とし、今回実施した側道部分を「宮地小畠遺跡（側道）」「宮地銀行寺遺跡（側道）」と区別し表記している。

以下、各々の発掘調査・整理業務担当の責任者と調査担当者を掲げる。

(<sup>\*</sup>は調査非常勤職員、<sup>\*\*</sup>は整理非常勤職員)

熊本県教育委員会

【発掘調査】 2003年（平成15年）

調査責任者	文化課長	成瀬烈大
調査総括	教育審議員（課長補佐）	島津義昭
	主幹（文化財調査第1係長）	高木正文
調査担当	主任学芸員	長谷部善一
	主任主事	高田英樹
	調査員	宇田員将 <sup>*</sup> 、和田敏郎 <sup>*</sup> 、三宅一生 <sup>*</sup>
専門調査員	熊本県立大津養護学校長	松本健郎

【整理業務】 2009年（平成21年）

整理責任者	文化課長	米岡正治
整理総括	課長補佐	木崎康弘
	文化財調査第1係長	村崎孝宏
	参事（文化財資料室長）	坂田和弘
整理担当	参事	長谷部 善一
	非常勤職員	唐木ひとみ <sup>**</sup> 、稻葉貴子 <sup>**</sup>
	整理作業員（二次整理）	土田みどり、中村直美

### 調査協力者

牛嶋 茂、杉本和樹、吉永 明、米崎 寿、坂井義哉、猿渡真弓、島津亮二、西山由美子  
荒木隆宏、藤川智絵、上高原 聰、米村 大、角田賢二、青木勝士、池田朋生、坂本千恵

### 調査協力機関

独立行政法人文化財機構 文化財研究所 奈良文化財研究所  
熊本県立裝飾古墳館

八代史談会、八代市教育委員会、八代市立博物館未来の森ミュージアム、宇城市教育委員会  
大牟田市教育委員会、みやま市教育委員会

1 肥後福岡藩では、村落の単位を「手永」と称した。

### 3 報告書の作成

報告書の作成は、熊本県文化財資料室にておこなった。八代平野干拓遺跡群は2008年に整理・原稿作成を実施し、2009年に編集した。

宮地小畠遺跡・宮地觀行寺遺跡は、発掘調査終了後の2005年度に一次・二次整理を、2009年に原稿の作成及び編集をおこなった。出土遺物については、熊本市教育委員会文化財課の網田龍生氏、美濃口雅朗氏により御指導頂いた。驚く感謝の意を表したい。

宮地小畠遺跡・宮地觀行寺遺跡に関する報告中には、発掘調査を実施した当時、主任主事として調査を担当した高田英樹、当県非常勤職員（調査員）であった宇田員将（現：株式会社埋蔵文化財サポートシステム）が執筆した分を含む。内容については、長谷部善一、高田英樹、宇田員将で当時、討議した内容を踏まえ、主に長谷部、宇田が執筆し、一部を高田が担当している。

また、八代平野干拓遺跡群は坂口圭太郎（現：県立装飾古墳館）執筆の原稿に、長谷部が加筆・修正して掲載した。編集は長谷部が行った。

1. 本書の執筆分担は、以下のとおりである。

第1章 序 言 長谷部

第2章 調 査 長谷部

1 八代平野干拓遺跡群 坂口

2 宮地小畠遺跡 長谷部・高田

3 宮地觀行寺遺跡 宇田・高田・長谷部

第3章 考 察 宇田・長谷部

2. 八代平野干拓遺跡群の遺構写真は主に調査担当であった青柳博晃、坂口が撮影した。

宮地小畠遺跡・宮地觀行寺遺跡については、遺構の写真撮影を宇田、長谷部が担当し、遺物写真撮影及び印刷用原稿を西大寺フォトに委託した。

3. 八代平野干拓遺跡群の報告は平成20年度に坂口の主導のもと、非常勤職員の補助を受け作成した。

宮地小畠遺跡・宮地觀行寺遺跡の遺物実測図は、唐木ひとみ・稻葉貴子が担当し、土田みどりが補助をした。製図は株式会社埋蔵文化財サポートシステム熊本支店に委託し、Adobe Illustrator CS3を用いデジタルトレースを実施した。掲載に際しての編集作業は同ソフトを使用し、唐木・稻葉がレイアウトをおこなった。

4. 遺構図の座標値は、平面直角座標系II系による。高さは東京湾平均海面を基準とする海拔高であらわす（日本水準点：H=24,4140m）。なお、2002年4月1日からの改正測量法の施行とともに、日本測地系から世界測地系へ移行することとなったが、九州新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査はすべて日本測地系になっているので、本書の平面座標も日本測地系で表示した。

5. 発掘遺構は、遺構の種別を示す以下の記号と、一連の番号の組み合わせにより表記した。

SA（扉） SB（建物） SC（回廊） SD（溝） SE（井戸） SF（道路） SG（池） SI（豊穴住居跡）

SK（土坑） SP（柱穴） SS（足場） SX（その他）

※本遺跡で、一部検出していない遺構もあるが、記号は表記している。

※本表記を用いるのは本報告書では、宮地小畠遺跡・宮地觀行寺遺跡のみである。

6. 遺物観察表に記している色調については「新版標準土色帖」(1999)、DICカラーガイド「中国の伝統職」(第2版)、標準色カード230⑤日本色研1988を使用した。

7. 本書中での人名はすべて敬称を省略させていただいた。

8. 註は、各頁ごとの下段に記している。

9. 本書の編集は、熊本県文化財資料室長 坂田和弘（平成21年度）の指導のもとに、長谷部善一がおこなった。

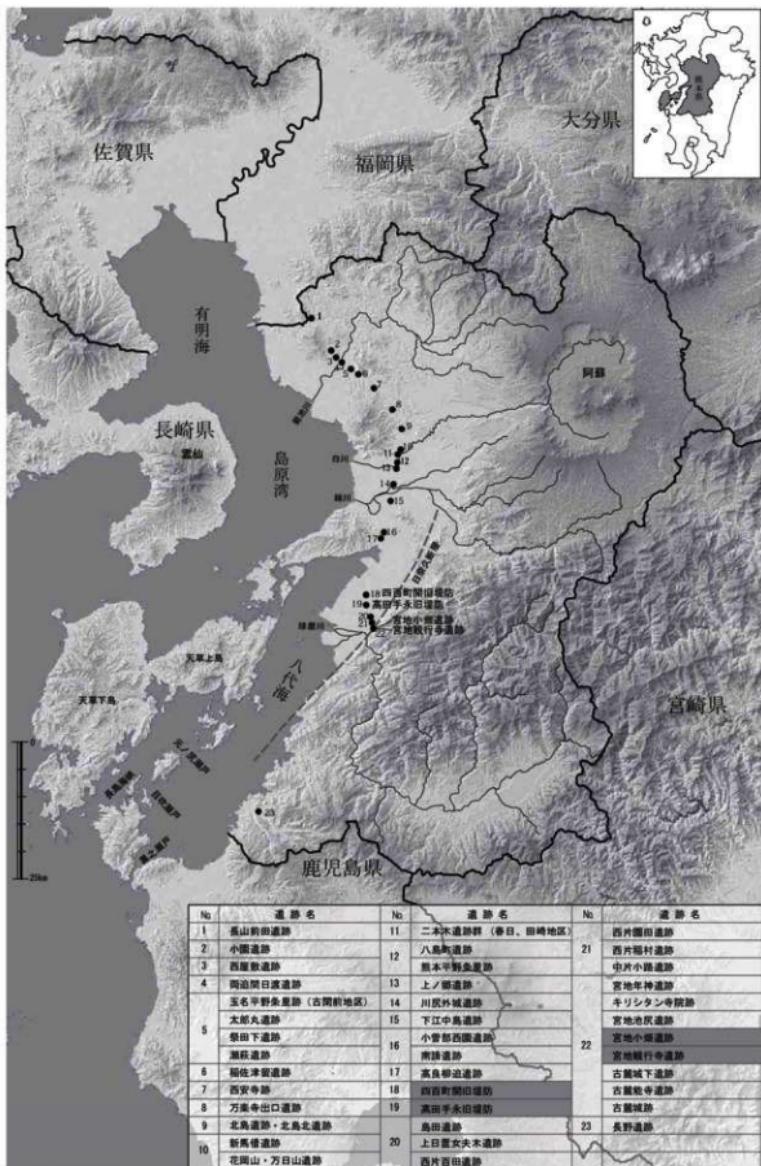


Fig.1 熊本県域における地形表記と九州新幹線建設に伴い発掘調査を実施した遺跡

## 第2章 調査

### 1. 調査地域

#### A 遺跡の位置

##### 1 遺跡の地理的環境

宮地小畠遺跡・宮地観行寺遺跡は、熊本県八代市宮地町字小畠・観行寺に所在し、八代平野南部に位置している。八代平野は不知火海東岸に発達した沖積平野であり、九州山地から流下する球磨川、水無川、氷川、砂川によって形成された複合三角州とその後に発達した干潟を人工的に埋めた干拓地によって構成されている。

平野部分の西端からほぼ3km付近までが自然に陸化した地域であるが、球磨川の河口付近はその堆積量が大きいため、約4.5kmまで陸化しており、八代市街地西端まで広がっている。

平野東側には熊本市東部に位置する益城町小池から芦北町海浦沖に延びる日奈久断層（Fig. 1中に記載、巻頭PL.3参照）が存在しており、九州山地西側に直線的な断層崖を形成し三角末端面を見ることができる。この断層崖には幾筋もの谷が形成され、崖縁や小規模な扇状地が発達している。また、大分県臼杵市から竜峰山の東側を通り八代市宮地町にかけて、中央構造線の延長部として内帶と外帶を分ける「臼杵一八代構造線」がある。この構造線の北側には内帶である白亜系の堆積岩類や古生界の変成岩類からなる肥後帯、南側には外帶である中生界の黒瀬川構造帯や三宝山帯等の堆積岩類がある。水無川の流路はこの構造線に伴う破碎帯の影響を受ける一方、球磨川は外帶の複雑な構造体の地域を、深く谷を削り込みながら八代平野に出る。平野に出た球磨川は北向きの流れを西に大きく蛇行し、八代海に注いでいる。

今回調査した宮地小畠遺跡、宮地観行寺遺跡はその大きく蛇行した球磨川のカーブから外側へ約700m、水無川から北に約100mの所に位置し、二つの河川の幾度となく発生した土石流や洪水による堆積物により形成された標高約8mの陸地に所在する。

#### 2 八代平野の地下地質

鉄道・運輸機構は九州新幹線本線建設に先がけ、平成12年から平成13年にかけて妙見トンネル出口から新八代駅までのボーリング調査を行っている。熊本県教育委員会ではそのボーリングコア試料の提供を受け、宮地地区のボーリングコアの自然科学分析を委託し実施した。

##### （1）堆積物の概要

今回、自然科学分析を行ったボーリングNo.164870からNo.226570までの4本と、資料提供を受けたが分析を行わなかったNo.038000とNo.257335の計6本のボーリングコアの柱状図（Fig. 3）を作成した。（ボーリングNo.の数字は新八代駅起点からの距離）

地表から数メートルは表土や粘性土～砂があり、その下に球磨川の氾濫によると見られる層厚16m～7mの玉石混じりの砂礫層、その下位に礫混じり砂～シルト質層、更にその下位にはシルトや砂を挟みながら砂礫層が厚く堆積している。

九州山地側のNo.257335の12m以深には流紋岩がある。この流紋岩は臼杵一八代構造線上に存在し、宮地東小学校近くの水無川左岸では、風化して陶石（リソイダイト石）となった露頭が見られる。また、古麓町では中生代の宮地層である砂岩頁岩互層が九州山地につながる山帯を形成している。

##### （2）自然科学分析の結果

標高マイナス10mからマイナス13mに堆積しているシルト質層の炭化物から、年代測定で7,000～7,500年前（放射性炭素年代測定による）の数値が得られた。これらのシルト質層は縄文海進と呼ばれる高海面期に堆積したと考えられ、鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah：6.3千年前）は上位の砂礫層の堆積時に流れ去ってしまったことになる。また、姶良Tn火山灰（ATn:約2.5万年前）や阿蘇4火砕流堆積物（Aso-4:8.5～9万年前）は今回のボーリング深度からは見出しができなかった。

各地点のシルト堆積物から、海水～海水生種及び汽水生種によって特徴づけられる珪藻が見出された。河

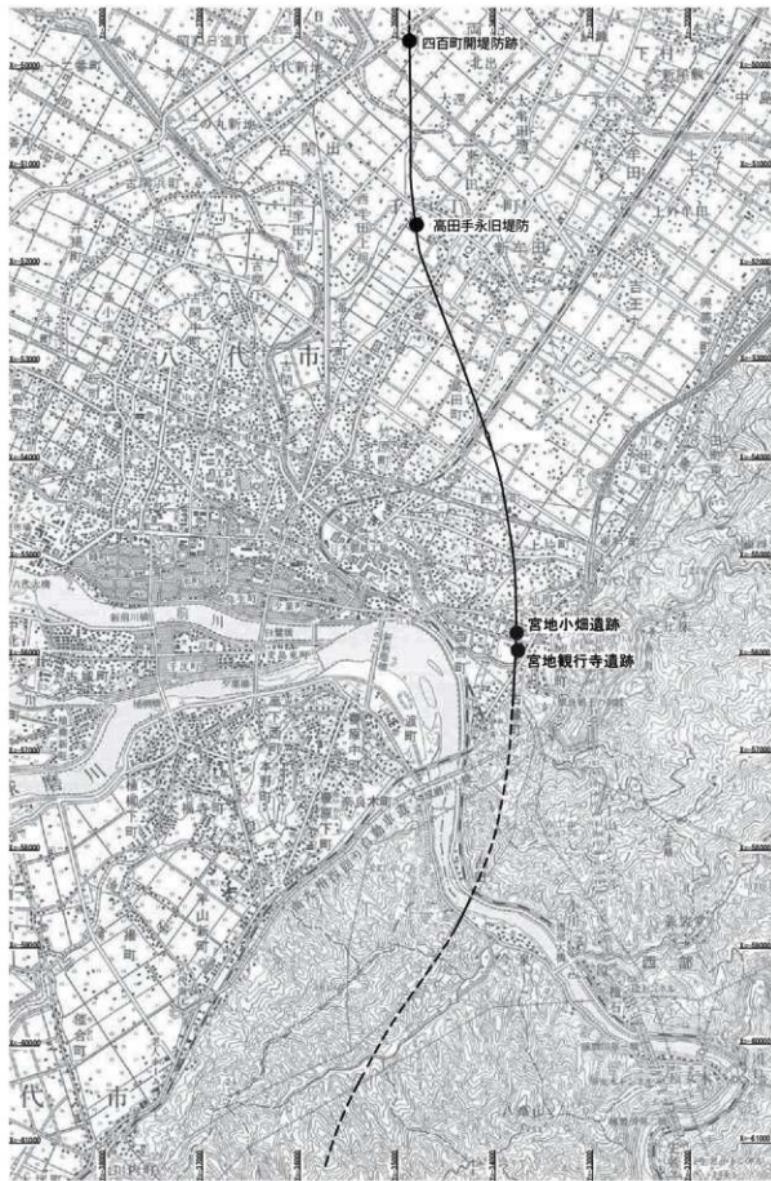


Fig. 2 八代平野干拓遺跡群・宮地小畠遺跡・宮地觀行寺遺跡 周辺地形図 1/50,000

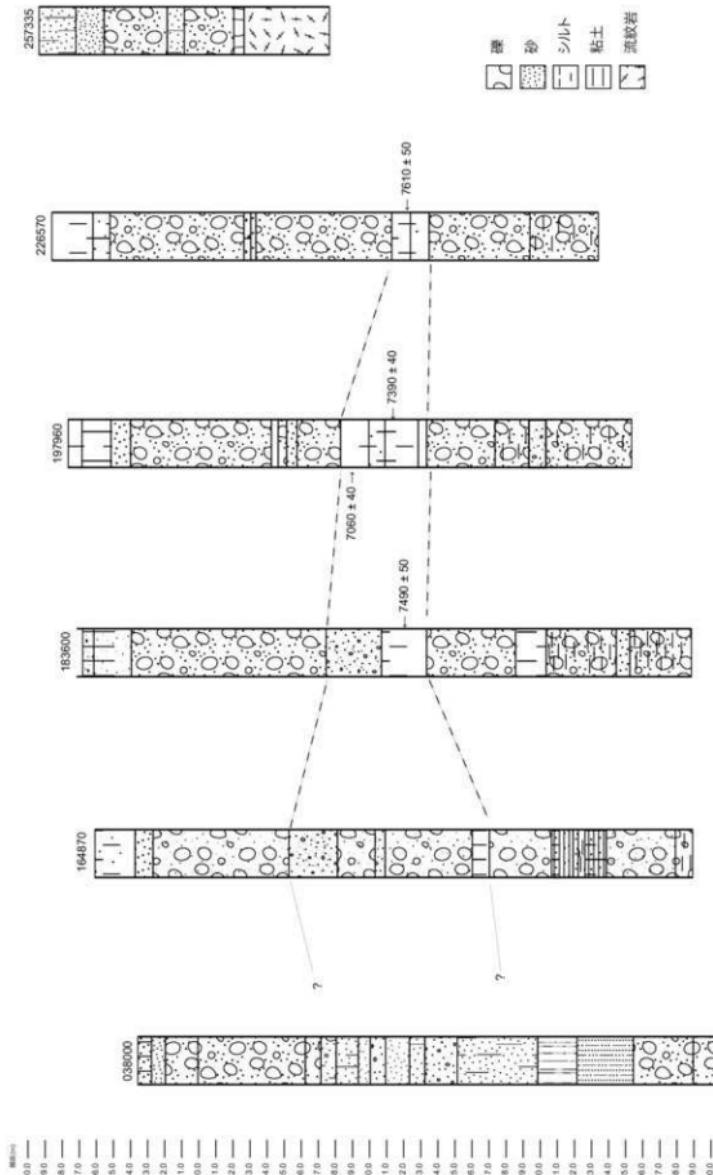


Fig. 3 自然科学分析柱状图

口周辺の泥質海底あるいは、常に海水が流入する海岸近くの湿地のような堆積環境を想定することができる。

### (3) 八代平野の形成史

八代平野形成の大きな要因には、地殻変動と海水準変動との二つが考えられる。八代平野東部の日奈久断層の活動で、数万年間に平野側が少しずつ落ちては河川の洪水堆積物や崖疊堆積物に埋められてきた。熊本県の調査では、日奈久断層の活動が鉛直方向で0.1～0.4m/1,000年と報告されており、過去7,500年で最大3.0mの沈降が想定される。

しかし、沖積地の断層変位データが不足しているため、断層活動がどの程度平野の形成に影響を与えているか、不明な部分が多い。

海水準変動により、八代地域でも過去に海水面の上昇と下降を繰り返している。ギュルム氷期と呼ばれる7万年前から始まり1万年前に終わった最終氷期のうち、約2万年前頃の最終氷期最盛期には、海水面が現在より約100m下がり、気候も現在の東北地方程度に寒冷化していたと考えられる。当時の海岸線は牛深沖まで後退しており、八代海は完全に陸化し、九州山地や天草諸島に囲まれた盆地になっていたと思われる。球磨川をはじめ、盆地を流れる河川は元ノ尻瀬戸や目吹瀬戸を通り、一本の川となって長島海峡を通って東シナ海へ注いでいたのであろう。この頃は、後期旧石器時代になるが、当時の人々の海岸線における営みの場は、今はすでに海底に埋もれているだろうと思われる。

最終氷期最盛期以降、海水準は上昇を始め、約6千年前までに100mほど上昇し（縄文海進）、最高潮期には現在より約3m高くなっていたと考えられている。気候も今よりわずかに温暖化しており、人々は豊かな自然を背景に生活を営み、その痕跡は八代平野の周囲に存在する貝塚として残っている。

この時代の堆積物が、標高マイナス12m～13mのシルト層である。今回の自然科学分析では、当時の海水準や海岸・海底地形を正確に復元することは困難であるが、少なくとも当時の八代平野では、満潮時に九州山地の近くまで海水が流入し、美しい海岸線が広がっていたに違いない。

その後、海退が始まって初期の八代平野が形成され、人が生活できる環境へと変化していった。河川の氾濫による土砂が堆積することで、平野低地も少しずつ乾き始め、人々の生活が盛んになり、宮地小畠遺跡・宮地銀行寺遺跡付近に定着していったものと考えられる。（高田英樹）

## B 歴史的背景

宮地小畠遺跡・宮地銀行寺遺跡は先に記した日奈久断層が南北に縱断する山地際からやや平野上にあたる場所に位置し、山地から広がる低小丘陵の連続する中に所在する。（Fig.1 参照）

また、遺跡の南には、熊本四大河川の一つの球磨川があり、その支流の水無川が宮地銀行寺遺跡の南端に接する。

古代大和朝廷により全国に整備された主要道の一つ、「西海道」が日奈久断層と並行に南北に走る。調査区はその西海道推定線に近い部分で数十メートルの場所に位置し、最も離れる部分でも100メートル以内に位置する。ちなみに、西海道には各地に駅家が置かれ、当遺跡に最も近い駅家推定地は「片野駅」とされ、現在の地名から言うと、当遺跡から北へ約1kmに位置する「上片町」「西片町」「東片町」周辺と推定されている。また、同時期の瓦を出土している「興善寺<sup>2</sup>」は調査地から北東へ約4kmに位置する。

## C 既往の調査

ここで、今回報告する調査以前、または今回整理報告するまでにおこなわれた、宮地小畠遺跡・宮地銀行寺遺跡周辺の発掘調査を簡単に振り返っていく。

まず、2001年（平成13年）から2002年（平成14年）にかけ、今回調査を実施した西側に平行に新幹線本線の橋脚部の調査を実施している。この調査では橋脚部分のみの調査を行い、宮地小畠遺跡で29区から36区間

1 「古代国家と道路（考古学からの検証）」近江俊秀2006 青木書店

2 熊本県教育委員会「興善寺<sup>2</sup>」熊本県文化財調査報告第45集 1980

3 熊本県教育委員会「宮地小畠遺跡・宮地銀行寺遺跡」熊本県文化財調査報告第235集 2006



Fig. 4 宮地小烟遺跡・宮地銀行寺遺跡周辺遺跡図 1/10,000

番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
1	宮地小畠遺跡	宮地町 小畠	古墳～近世	集落		
2	宮地銀行寺遺跡	宮地町 銀行寺	古墳～古代	集落		
3	西片園田遺跡	西片町 園田				
4	西片百田遺跡	西片町 百田	弥生	包藏地		黒髮・兔田式土器、須恵器、土師器、青・白磁
5	西片福村遺跡	西片町 福村				
6	中片小路遺跡	中片町 小路	古墳～中世	集落		
7	条里跡	中片町	古代・中世	生産		
8	瀬上遺跡	西宮町	古墳			
9	熊下古墳群	西宮町 西階下 他	古墳	古墳		
10	宮地年神遺跡	宮地町 年神	弥生～古墳	集落		
11	乙丸古墳群(第1号～第10号墳)	宮地町 乙丸	古墳	古墳		第1号墳(土師器、須恵器、白磁、青磁、天目) 第3号墳(石室、漆塗び)、前方後円墳、圓丘
12	キリシタン寺院跡	宮地町				
13	村上河内岸戸跡	宮地町 池尻	近世	包藏地		五輪塔一部残存
14	宮地池尻遺跡	宮地町 池尻	古墳～中世	集落		
15	荒神塚遺跡	宮地町 石原	弥生～古墳	包藏地		黒髮式土器、須恵器
16	神宮寺跡	宮地町 池尻	中世～近世	寺社		宮地小学校敷地内
17	池尻古跡	宮地町 池尻	中世～近世	包藏地		土師器、須恵器、円面鏡、五輪塔
18	符山虎堂跡	宮地町 池尻	近世	生産		符山城
19	宮地古跡	宮地町 小畠	近世	包藏地		
20	一安坊跡	宮地町 小畠	中世～近世	寺社		土師器、須恵器、宮地公民館敷地内
21	院上跡	宮地町 小畠	中世～近世	寺社		
22	觀音寺跡	宮地町 小畠	中世～近世	寺社		土師器、須恵器、布目瓦
23	古難波下道跡	古難波町 砥崎	中世	集落		土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器、建物跡多数
24	古難波城跡	古難波町 上り山	中世	城	市	曲輪、礎切、陶磁器、五輪塔
25	古難波寺道跡	古難波町 能寺	古代・中世	集落		土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器、建物跡多数
26	能寺魔寺跡	古難波町 能寺	中世	寺社		布目瓦
27	加藤正方父母菩提所安養寺	古難波町 能寺	中世	寺社		妙慶禪尼(加藤正方の母)墓
28	片岡云正墓	古難波町 新城	中世	墓		五輪塔
29	山下古墳	古難波町 新城	古墳	古墳		須恵器、円墳
30	江口山春光寺 実相院の庚申碑	古難波町 地頭	近世	石造物	市	五輪塔、板碑、古廟・新廟
31	春光寺製鉄跡	古難波町 地頭	平安～中世	生産		鉄滓
32	勝尾城跡	古難波町 上り山	中世	城		中世城跡
33	中宮山悟真寺	宮地・妙見町 谷	中世	建造物	市	
34	悟真院宝篋印塔	宮地・妙見町 谷	中世	石造物	市	懐良親王白筆
35	加藤忠正墓	妙見町 谷	近世	墓	市	五輪塔、泉福山本成寺
36	泉福山本成寺跡	妙見町 谷	近世	寺社	市	
37	中宮山護神寺跡(塔心礎)	妙見町 中宮	中世	寺社	市	布目瓦、礎石群、塔心礎石、スラダ
38	護神寺製鉄跡	妙見町 中宮	平安～中世	生産		鉄滓
39	懐良親王御墓	妙見町 中宮	中世	石造物	市	宝篋印塔 墓内に移設
40	木村家三次屋敷跡	妙見町 山下	近世	包藏地	市	
41	護山山頭坐寺跡	妙見町 懇親院	中世	寺社		五輪塔 懐良親王創建の丙親の菩提所
42	御川油塚	妙見町 懇親院	中世	墳墓	市	五輪塔 無縫塔 懐良親王建立の丙親の陵墓
43	長崎古墳	東片町	古墳			土師器、須恵器、円筒埴輪
44	条里跡	東片町	古代・中世			
45	方足跡遺跡	上片町	近世			弥生土器、土師器、須恵器、瓦、陶磁器
46	大塚古墳	上片町	古墳			人物埴輪、須恵器、石製品
47	茶山古墳	上片町	古墳			石材
48	上片町鬼の岩屋古墳群	上片町	古墳			石室
49	高取上／山古墳	上片町	古墳			横六式石室、土師器、須恵器、馬具、鉾、刀
50	中片町観渡遺跡	中片町	古代			
51	大平山遺跡	妙見町	中世			堀切
52	西川田古墳群	川田町西				
53	東片町古墳群	東片町	古墳			石材
54	天神古墳	東片町	古墳			石材
55	岡ノ上古墳	東片町	古墳			
56	むかしやま古墳	東片町	古墳			石材
57	御川塚古墳	東片町	古墳			
58	妙見中宮跡	妙見町	中世			布目瓦
59	新城跡	妙見町				
60	丸山城跡	妙見町				

Tab.2 周辺遺跡一覧

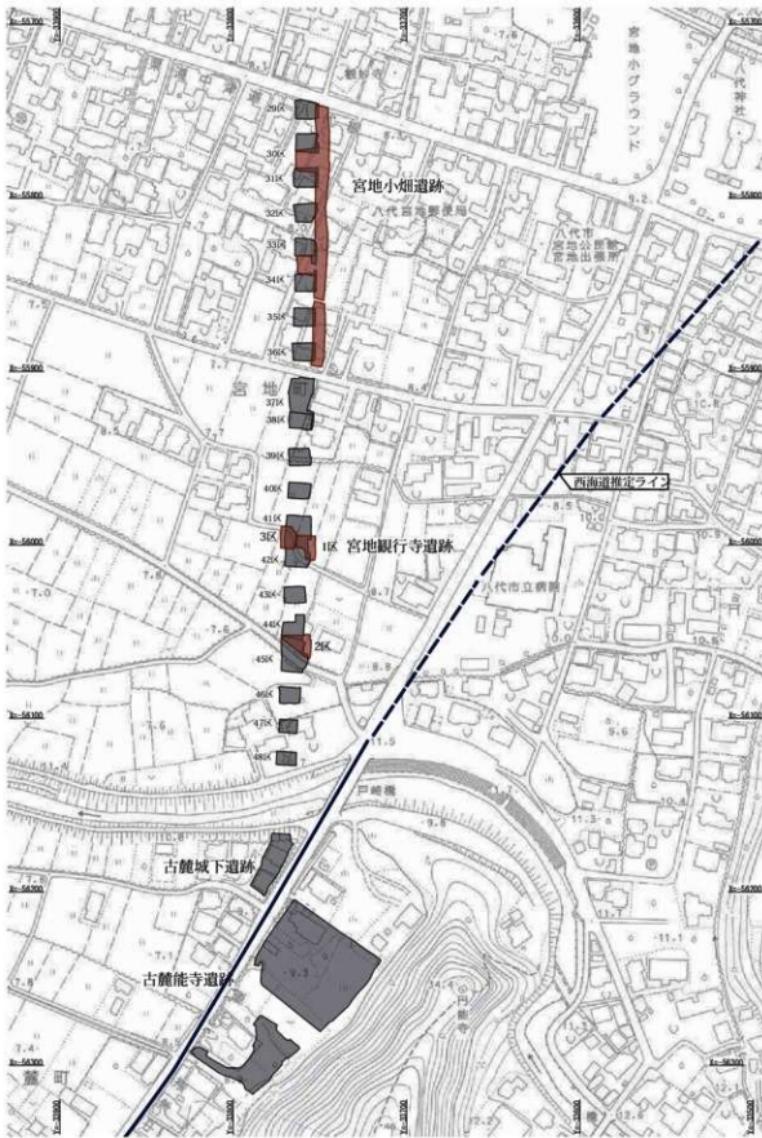


Fig.5 周辺地形図（西海道ライン）(1/2,500)

の調査区、宮地銀行寺遺跡で37区から42区（調査区番号は両遺跡通じて連番）の全14調査区で発掘調査を実施している。

そのうち、宮地小畠遺跡34区・35区、宮地銀行寺遺跡37区から39区間で大規模な掘立柱建物及び柱穴群、敷石状遺構を多数検出している。出土遺物としては、8世紀末から9世紀前半にかけて宇城産の須恵器を中心に搬入され、それと共に八代地域独特の調整技法を用いた土師器が出土する。また、主に外面部に漢字をヘラ書きする一群の土器が見られ、これら遺構・遺物から「官衙」の遺跡の存在とも考えられる重要な遺跡である。

#### D 測量

八代平野干拓遺跡群・宮地小畠遺跡・宮地銀行寺遺跡の調査を開始するにあたっては、事前に基準点測量と水準測量を実施した。基準点は、鉄道・運輸機構が着工時に設置した1級基準点ならびに3級基準点をを起点として導き出した。測量成果はそれぞれの調査区平面図中にX・Y表記で明示し、将来、所在を確認できるようにしている。また、2002年4月1日からの改正測量法の施行にともない、日本測地系から世界測地系へ移行することとなったが、九州新幹線建設工事に係る埋蔵文化財発掘調査はすべて日本測地系に基づく。そのため、本書の平面座標は日本測地系で表示し一部、表を作成のうえ世界測地系へ変換し示している。

遺跡名	点名	日本測地系		世界測地系	
		X座標	Y座標	X座標	Y座標
四百町開旧堤防	座標数値No.1	-49675	-34905	-49303.2522	-35125.7843
高田手永旧堤防	座標数値No.1	-51550	-34885	-51178.3111	-35105.7674
宮地小畠遺跡	座標数値No.1	-55780	-33750	-55408.3805	-33970.7711
	座標数値No.2	-55870	-33750	-55498.3823	-33970.7724
宮地銀行寺遺跡	座標数値No.1	-56000	-33755	-55628.3849	-33975.7749
	座標数値No.2	-56055	-33760	-55683.3866	-33980.7761
	座標数値No.3	-55995	-33770	-55623.3857	-33990.7756

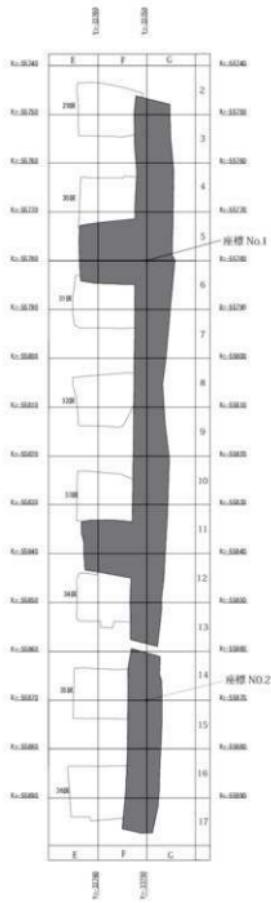
Tab.3 八代平野干拓遺跡群・宮地小畠遺跡・宮地銀行寺遺跡 4級基準点測量成果



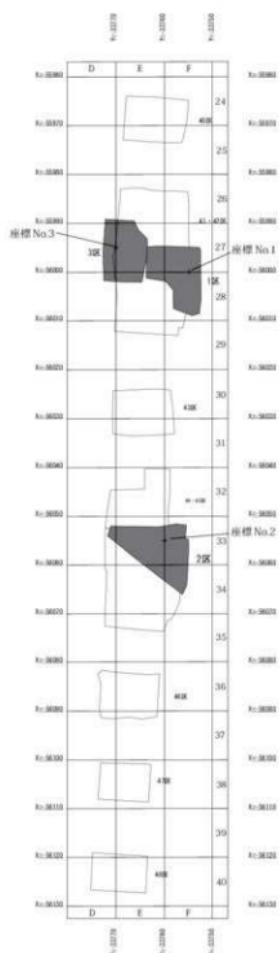
Fig.6 四百町開旧堤防座標点



Fig.7 高田手永旧堤防座標点



宮地小畠齋跡



实验报告一

\*宮地銀行寺道跡 37 区～39 区間は側道部調査とは隣接していないため相殺していない。

## 2 調査日誌抄

### A 八代平野干拓遺跡群

#### 【四百町開削堤防】

平成14年

11.5 器材の調整等の準備

11.8 表土剥ぎを開始。

11.10 試掘時に確認した石灰岩を確認したが、同時に近代のごみも確認したため、更に掘下げを行ふ。

11.11 午前中、降雨のため表土剥ぎを中止し排水作業を実施。

11.12 石灰岩石列の頂部を確認。

11.15 石列が東に広がるのを確認。

11.16 木杭が出土。築堤の際に使用されたものかもしくはれないと想い、取り上げる。

11.19 石列周辺で計5本の木杭を確認。

11.22 旧堤防の決壊の際に散乱した石材を除去し、残存する石列の検出を行う。同時に、石列の断面図実測も開始。

11.24 散乱している石材の除去を終了する。その結果、石列の東側で新たに石灰岩の集中する範囲を確認。

11.25～28

石列と礫群の清掃を実施。

11.29 石列、礫群の全体写真撮影。

11.30 石列、礫群の実測を開始。

12.6 石列の実測終了。

12.13 石列にトレチを設定し掘削。

12.14 石材の赤外線カメラによる調査を実施。

12.15 石列の断面実測。

12.20 完掘状況の写真撮影。

12.22 調査区の埋め戻し。

12.24 撤収。

#### 【高田手永旧堤防】

平成15年

1.14 調査開始。

中旬 搾乱の除去が終了。

2月 石灰岩の敷石を確認。実測を実施。

3月 実測作業終了。敷石検出を空撮。下部構造の調査へと移る。下部構造は検出できなかったため、年度末をもって調査終了。

(坂口圭太郎)

### B 宮地小畠遺跡

2003年(平成15年)5月6日～

2003年(平成15年)10月31日

5.6 本線部橋脚No.29からNo.32間の東側、側道建設予定地の表土剥ぎを行う。

5.7 昨日に引き続き、表土剥ぎ作業。本線橋脚No.33区隣接で砂礫層が顔を出し、本線部調査時との整合を確認。

5.8 降雨のため表土剥ぎは中止。

5.12 調査区壁面清掃開始。

5.13 午前は壁面、調査区清掃。午後からは降雨のため調査は中止。

5.19 搾乱部掘削と調査着手前の調査区撮影。

6.2 F-13Grid、G-13Grid調査。SK003、SK004調査後、完掘写真撮影。

6.3 F-G-13GridにてSK007、SK006、SK008、S017、S018を検出。F-G-14Grid遺構検出撮影。

6.4 F-G-14Grid遺構調査、F-G-15Grid遺構検出。SK006土層断面写真撮影及び実測。

6.5 S018土層断面撮影及び実測。

6.9 F-G-15Grid SK006、S018調査。SK008、S017土層断面撮影及び実測。

6.10 植塚括弧教育審議員視察。F-G-12Grid掘下げ。S019、S018、S024調査。

6.12 降雨のため調査休止。

6.13 F-G-12・15Grid遺構検出のため掘下げ。S026、SK039遺構検出状況撮影。

6.16 降雨のため調査休止。

6.17 降雨のため調査休止。

6.18 降雨のため調査休止。

6.19 台風のため調査休止。

6.20 台風一過の快晴。午前中は雨水除去作業。

F-G-12Grid、G-15・16Grid遺構検出のため掘下げ。F-G-12・13Grid遺構検出。

6.25 F-G-12・13Grid遺構検出。

6.26 F-G-12Grid S026からS028半段。F-G-7Grid遺構検出撮影。

6.27 E-F-11・12Grid遺構検出のため掘下げ、清掃。

6.30 E-F-11・12Grid掘下げ及び清掃、遺構検出作業。S030～S031まで遺構を検出。E-F-11・12Grid遺構検出撮影。調査範囲の一部が橋脚の下にあたるため、雨天でも調査をおこなうことができる。

7.1 F-12Grid遺構検出及びS032調査。F-G-12Grid

	遺構検出のための掘下げ、清掃。	8.12	降雨のため調査休止。土層断面のみ実測をおこなう。午後からは雨が激しくなったため、事務所にて図面整理。
7.2	E・F-11・12Grid、S033、S036、S039、S040の調査を実施。G-12Grid、SX001調査。 F-11・12Grid遺構実測。E・F-11・12Grid遺構完掘状況撮影。F-11、G-12Grid土層断面撮影。	8.13	八代地区は8月盆のため調査は休止。
7.3	SX001、S043調査。E・F-11・12Grid実測。 F-13Grid、S027土層断面実測。	8.18	G・F-14・15Grid復旧作業、遺構検出。宮地小畠遺跡、先に引き渡し分、工事開始。また、F・G-2～5Gridにも着手。
7.7	E・F-11・12Grid、E-11Grid掘下げ、検出状況撮影。	8.19	F・G-14・17Grid、復旧及び遺構検出。G-14・15Grid土層断面実測のための清掃。F・G-2～5Grid遺構検出。
7.8	E・F-11・12Grid遺構検出のため掘下げ。自然流路壁面清掃、精查。	8.20	F・G-16・17Grid掘下げ、遺構検出。 F・G-2～5Grid遺構検出。
7.9	E・F-11・12Grid遺構検出のため掘下げ。SX001調査。	8.21	F・G-14Grid、F-16・17Grid掘下げ、遺構調査。 F・G-2～5Grid遺構検出、遺構調査。
7.10	S044からS048調査。F-13Grid掘下げ。 E・F-12Grid遺構検出後調査。	8.22	G-16・17Grid遺構検出。S091からS094調査。 F・G-2～5Grid遺構検出、遺構調査。
7.11	E・F-11・12Grid、G・F-13Grid遺構検出状況撮影。	8.25	F・G-16Grid S095からS101の遺構調査及び近世面完掘撮影。F・G-5Grid搅乱掘。
7.14	E・F-11・12Grid遺構検出のため掘下げ。S049からS056調査。	8.26	降雨のため調査休止。
7.16	S058、S059、S055調査。S058、S059遺構検出状況撮影。	8.27	F・G-16・17Grid遺構検出のため掘下げ。 F・G-4・5Grid、3・4層掘下げ。
7.17	F・G-12Grid遺構検出のため掘下げ。 S055、S058、S059調査。	8.28	G-16・F-17Grid遺構検出。F・G-4・5Grid、3・4層掘下げ。午後から降雨のため作業中止。
7.22	F-12Grid、F・G-13Grid遺構検出のため掘下げ。 G-13Grid、S062調査。	8.29	降雨のため調査休止。
7.23	S058、S059調査。G-13Grid遺構検出のため掘下げ。S063遺構検出撮影。	9.1	午前中は昨日の降雨の復旧作業。F-14・15・16・17Grid、G-14・15・16Gridにて遺構検出及び調査。F・G-14Grid平面実測。
7.25	F-12Grid、G・F-12Grid調査。	9.2	F-14～17Grid、G-14～16Grid遺構検出及び遺構調査。F・G-14、F-17Grid平面実測。
7.28	F・G-8Gridトレンチ掘り。本日まで古代(8世紀末から9世紀初頭)の面、調査終了。	9.3	F・G-14Grid、F-17Grid遺構検出及び遺構調査。 F-15・16Grid、G-15・16Grid平面実測。SD001完掘。F・G-4Grid、4層掘下げ。
7.29	F-11・12Grid、SK035調査。遺構検出実測、遺物出土状況撮影。砂礫流路により切られている状況が確認でき、土砂の年代を探るうえで重要と考えられる。	9.4	F・G-4Grid、4層掘下げ。
7.30	SK035、SK036調査完掘。実測、遺物出土状況写真撮影まで終了。	9.5	F-G-14Grid 4層掘下げ。F-15・16Grid、F-15・16Grid 4層掘下げ。F・G-4Grid、4層掘下げ。
8.4	F-12Grid遺構検出作業。	9.8	F-17Grid、礫層掘削。F-15・16、G-15・16Grid遺構検出及び遺構調査。F・G-4・5Grid、5層掘下げ。
8.5	S077、S078、S080、S082完掘。 F・G-12Grid遺構実測。S078完掘状況撮影。	9.9	F-14・15・16Grid、G-14・15・16Grid遺構検出及び遺構調査。F-15Grid平面実測。F・G-4・5Grid、5層掘下げ。
8.6	S080、S077、S078調査。F・G-12Grid実測。	9.10	降雨のため作業休止。
8.7	F-12Grid、古墳時代遺物出土。F・G-12Grid土層断面図実測。F-12Grid古墳時代遺物出土状況撮影。	9.11	F-17Grid遺構検出及び遺構調査。F-15・16、G-15・16Grid平面実測。F・G-1～4Gridトレンチ掘り。
8.8	台風10号来襲のため調査休止。		
8.11	宮地小畠遺跡、先に引き渡し分調査終了。		

- 9.12 F-15・16Grid、G-15・16Grid遺構検出及び遺構調査。台風接近のため、現場周辺の片づけ。
- 9.16 F-15・16Grid、G-15・16Grid遺構検出及び遺構調査。F・G-1～4Grid、5層掘下げ。F・G-5Grid、6層掘下げ。
- 9.17 F-15・16Grid、G-15・16Grid遺構検出及び遺構調査。F-15、G-15平面実測。F・G-1～4Grid、5層掘下げ。F・G-5Grid、6層掘下げ。
- 9.18 F-15Grid、G-15・16Grid遺構検出及び遺構調査。G-16Grid平面実測。F・G-1～4Grid、5層掘下げ。F・G-5Grid、6層掘下げ。F・G-5Grid実測。再び台風接近。
- 9.19 F-16Grid、G-16Grid全面掘下げ。F-15・16Grid、G-15・16掘下げ後の清掃。F・G-1～4Grid、5層掘下げ。F・G-5Grid、6層掘下げ。
- 9.22 作業員日数調整のため現場休止。事務所にて図面整理。
- 9.23 F・G-2～4Grid、5層掘下げ。F・G-5Grid、6層掘下げ。
- 9.24 F・G-14・15Grid遺構検出及び遺構調査。F・G-3・4Grid遺構検出及び遺構調査。F・G-2～4Grid、5層掘下げ。F・G-5Grid、7層掘下げ。
- 9.25 F・G-14・15Grid包含層掘削及び遺構検出。F-14・15Grid中世面の掘下げ。F・G-2～4Grid、5層掘下げ。F・G-5Grid、7層掘下げ。
- 9.26 作業員が少ないため、F・G-2～5Gridのみ調査を実施。
- 9.29 F・G-14・15Grid中世面を掘下げながら遺構検出。作業員が少ないため、F・G-2～5Gridは休止。
- 9.30 F・G-14・15Grid包含層掘下げ。作業員が少ないため、F・G-2～5Gridは休止。
- 10.1 F-14・15Grid、G-14・15Grid、F・G-3～5Grid遺構検出及び遺構調査。G-7Grid 7層掘下げ。G-3・4Grid 6層上面での遺構検出。
- 10.2 F・G-2・3、F・G-14・15Grid遺構検出及び遺構調査。G-5 7層掘下げ。G-3・4Grid東側土層掘下げ。
- 10.3 F・G-2～5、F・G-14・15Grid遺構調査。G-5Grid 7層掘下げ。G-3・4Grid東側トレンチ掘下げ。
- 10.6 F-15・16、G-15・16Grid遺構調査。F-14・15Grid、G-14・15Grid平面実測。F-5Grid礫面まで掘下げ。G-5Gridトレンチ掘り。
- 10.7 G-5Grid全体清掃、遺構検出、撮影。
- 10.8 F-14・15Grid、G-14・15Grid 遺構調査。F-14・15Grid掘下げ。F-15・16Grid、G-15・16Grid平面実測。G-4Gridトレンチ掘削。
- 10.9 F-14・15Grid、G-14・15Grid掘下げ。F-14・15Grid平面実測。G-5Gridトレンチ掘下げ。
- 10.10 E-14・15Grid、F-14・15Grid掘下げ。G-5Grid礫層上面まで掘下げ。
- 10.15 F-14・15Grid、G-14・15Grid遺構検出及び遺構調査。G-5Grid地形確認のためトレンチ掘削。
- 10.16 F・G-16Grid砂礫粘性砂層まで掘下げ。G-5Gridを中心に丁寧に清掃をかけ最後の遺構検出に務める。特に壁面土層部は丁寧に行う。
- 10.17 F-15Grid、G-15Grid砂層の掘下げ。G-5Grid周辺は実測及び撮影を実施。
- 10.20 八代市立代陽小学校生(4人)が社会科見学のため来訪。F・G-14Grid、15Grid掘下げ及び遺構検出。F・G-3・4Gridトレンチ掘削。G-5Grid等高線入れ。
- 10.21 F-14・15Grid、G-14・15Grid掘下げ。
- 10.22 F・G-14・15Grid砂礫層掘下げ。G-14Grid遺構実測、新規レベル杭設置。
- 10.24 F・G-14・15Grid遺構調査。SK052、S415、S416の遺構の性格までは判断できなかった。
- 10.27 重機により砂礫層の掘下げ。G-5Grid土層確認のため重機を用いて深掘りを実施。F・G-15・16・17Grid遺構検出及び遺構調査。SK052・SK055土層断面実測。
- 10.28 F・G-14Grid遺構調査。SK054、SK051、SK053検出及び撮影、調査。G-5Grid壁面清掃、礫層落ち込み状況の撮影。
- 10.29 F・G-15Grid掘下げ。
- 本層を除去後に遺構が検出がなかったため、調査終了。G-5Grid壁面実測。実測終了後、現場作業の見直し、図面の見直しを実施後、工事側へ現場引き渡し。
- 10.30 F・G-15Grid遺構調査。S432及び調査区土層断面実測。高所作業車を用いて調査区古代面完掘撮影。
- 10.31 宮地小畠遺跡調査終了。撤収作業。

(宇田、長谷部)

<b>C 宮地銀行寺遺跡</b>		
2003(平成15年)5月1日～同年8月25日		
5.1 調査準備	6.10	1区、5層掘下げ。2区S016、No.4トレントレンチ鋤削。
5.6 重機を用いて表土剥ぎ作業	6.11	1区、5層掘下げ。2区S017・S019調査。 S018土層断面、S019遺構検出撮影。
5.7 表土剥ぎ作業	6.12	降雨のため作業休止。
5.8 降雨のため表土剥ぎ休止	6.13	1区は昨日の降雨により、法面が崩れたため土留め作業を実施。2区、S017、S018、019～S023調査。 S017完掘撮影。
5.9 表土剥ぎ再開		
5.12 1区、2区清掃開始	6.16	降雨のため作業休止。
5.13 1区、2区清掃開始。午後から降雨のため作業中止。	6.17	降雨のため作業休止。
5.14 降雨のため作業休止。	6.18	降雨のため作業休止。
5.15 降雨のため作業休止。	6.19	降雨のため作業休止。
5.16 1区トレントレンチ鋤削。2区中世遺物包含層掘下げ。	6.20	2区、E-33Grid遺構検出。
5.19 1区S001～S009遺構調査。搅乱及びトレントレンチ鋤下げ続行。2区中世遺物包含層掘下げ。 1区遺構検出状況撮影（上高原）	6.23	降雨のため作業休止。
5.20 1区搅乱掘下げ、S010検出、調査。2区中世遺物包含層掘下げ。	6.24	降雨のため作業休止。
5.21 調査区内メッシュ杭設置。1区トレントレンチ鋤下げ、撮影前の清掃。2区中世遺物包含層掘下げ。1区近世から中世面完掘撮影。	6.25	1区、調査区法面補強工事終了、調査開始。 2区E-33Grid遺構検出 S024～S027調査
5.22 2区3層掘下げ。S001～S009まで調査。 第1面遺構配置図作成。	6.26	1区、5層上面でS010～SK006遺構検出。2区 No.8トレントレンチ鋤削。S024～S027平面実測。
5.23 1区3層掘下げ、2区S001～S009調査。 S006完掘状況撮影。	6.27	1区、S015～S015調査。
5.26 降雨により作業休止。	6.30	1区、SK006調査。2区、No.7・8トレントレンチ鋤削。
5.27 2区S006～SK007調査。S010、S005実測。	7.1	1区、SK006、S016調査。2区No.7・8トレントレンチ鋤削。S029、S030、SK003調査。
5.28 1区、3層掘下げ。	7.2	1区、SK006、SK008調査。2区S030調査、撮影。
5.29 1区、3層掘下げ。S001～S014完掘状況撮影。	7.3	1区、SK006、SK008調査。SK006遺物出土状況撮影。2区S030実測。
6.2 5.30に通過した台風4号の降雨のため、2区水没。	7.4	午前中、降雨、午後からは係会議のため終日作業は休止。
6.3 1区、3層掘下げ。2区東側へ土層確認用のトレントレンチ設定。	7.5	1区、6層掘下げ。6層中から用途不明須恵器（後に中空円面鏡と判明）出土。出土状況撮影。
6.4 1区、4層掘下げ。2区、No.4トレントレンチ鋤下げ。F-33・34Grid、10層掘下げ。2区の土層層序番号は本線44区の層序番号と合わせることとする。	7.8	1区、6層掘下げ。2区、S030調査。
6.5 1区、4層掘下げ。2区F-33・34Grid鋤下げ。 S010完掘状況撮影。	7.9	1区、6層掘下げ。SK006実測。
6.6 1区、4層掘下げ。2区、遺構検出。	7.10	2区、製鉄（小鍛冶）遺構調査指導のため、大津養護学校 松本健郎氏、来歴。
6.8 1区、4層掘下げ。2区、No.5・6トレントレンチ鋤削。 調査区東側トレントレンチ周辺、遺構検出。	7.11	1区、6層掘下げ。
	7.14	1区、6層掘下げ。2区S030完掘撮影
	7.15	降雨のため作業休止。
	7.16	2区、S034、S036、S029、S039調査。
	7.17	1区、6層上面で清掃、古代遺構面撮影。 2区、No.12・13トレントレンチ鋤削。
	7.23	1区、調査終了。

- 7.24 降雨のため作業休止。先日の松本専門調査員により指導を受けた鍛造鉄片を確認するため、ブロックで取り上げた土の洗浄作業を事務所で行う。
- 7.25 2区製鉄（小鍛冶）遺構について、愛媛大学村上助教授、指導のため来跡。
- 7.28 2区、S037、S038、SX001～S046調査。
- 7.29 2区、S018、S011調査。
- 7.30 2区、S038、S039、SX001～S046調査。  
S018完掘。
- 7.31 2区、S037、S038調査。
- 8.1 2区、S037、S038調査。
- 8.4 2区、柱穴（S050～S062）調査。3区、表土剥ぎ開始。
- 8.5 2区、S065～S068調査。3区、表土剥ぎ、清掃開始。
- 8.6 2区、S038、E-33Grid調査。3区、西側断面清掃。
- 8.7 2区、E-33Grid調査。
- 8.11 2区、S038、F-33Grid掘下げ。3区、調査終了。
- 8.12 降雨のため作業休止。
- 8.18 前日までの降雨のため、午前中は復旧作業。  
2区F-33・F34Grid掘下げ。
- 8.19 2区、4面目遺構検出。
- 8.20 2区、4面目、調査。
- 8.21 2区、S072まで調査。
- 8.22 2区、S072～S095遺構完掘。
- 8.25 2区、4面目遺構完掘実測、撮影終了をもって本調査区の調査を終了。

(高田、宇田)

※ S番で記載しているものについては調査の結果、  
遺構と判断できなかった為そのまま掲載してい  
る。



## 第3章 遺構

### 1 八代平野干拓遺跡群

八代市域で新幹線の工事に着手した平成12年に、新八代駅以南において多くの埋蔵文化財包蔵地を確認したとの併せて、新八代駅以北での予備調査にも着手した。その結果、新八代駅と宇土半島基部にあたる松橋町（現、宇城市松橋町）までの間に近世に干拓された際の潮受け堤防が文献調査、聞き取り、現地踏査の結果、確認された。その結果、「高田手永旧干拓堤防」「四百町開旧堤防」「櫛場新地旧堤防」「中道往還跡」「築添新地旧堤防」「松橋新聞旧堤防」の5ヶ所で工事着手に先立ち予備調査が必要な旨を12月に鉄道・運輸建設機構あて回答した。

その結果を受け、平成14年8月から6ヶ所の旧堤防推定地及びその周辺の予備調査を実施した。

最初に、宇城市松橋町南豊崎において「松橋新聞旧堤防」で予備調査を実施した。堤防跡本体と思われる箇所は現在も河川堤防として利用されていることから掘削出来ないため、隣接地を掘削し遺構の広がりを確認した。その結果、遺構等は確認なかった。

次に、「築添新地旧堤防」も予備調査を実施したが、多くの破碎された石灰岩の広がりを確認したのみで、石列をなさないこと、工事によると見られる搅乱が入ることなどから遺構の残りは無いと判断した。また、周辺の聞き取りや文献調査の結果を併せて判断すると、松橋新聞旧堤防が決壊したことから、その補強のために築添新聞旧堤防が築かれたことが史実として判明した。よって、調査の必要はないとした。

同年、11月から八代郡千丁町（現、八代市千丁町）古閑において、予備調査を実施し石灰岩の石列を確認した。併せて文献調査を実施した結果、当該地域が「高田手永旧堤防」推定地であることから発掘調査が必要と判断し、鉄道・運輸機構あて通知した。その結果を受け、千丁町教育委員会と協議し、同年12月19日付けで周知の埋蔵文化財包蔵地『高田手永旧堤防』として新規登録し、鉄道・運輸機構から同年12月24日に発掘調査の依頼書が提出された。

県文化課では平成15年1月10日付けで文化財保護法第58条の2の規定に基づき発掘調査に着手する旨を千丁町、鉄道・運輸機構あて通知し、平成15年1月14日に調査に着手し同年3月20日まで発掘調査を実施した。

平成15年12月からは、八代市「櫛場新地旧堤防」推定地において予備調査を実施した。同旧堤防は現在の県道14号線（八代鏡線）にあたる。今回の橋梁建設予定は同道路を跨ぎ横断すること、また幹線道路である県道14号線を止めての調査が実施できないことから、隣接する畠地で予備調査を実施した。調査結果、浅い流路を確認したが、堤防に伴う遺構とは判断できなかったことから調査は不要と判断した。

ついで、平成16年1月27日から「中道往還」推定地の予備調査に着手した。この往還については、隣接する市道がその推定地にあたるが、本体部分と思われる範囲は橋脚で跨ぐこと、また、市道であるため調査が出来ないことから隣接地の橋脚建設工事予定地を掘削した。調査では、近世の区画溝を検出した。

最後に、同年6月23日から「四百町開旧堤防」推定地の予備調査に着手した。この調査で石灰岩の石列を確認したことから、「四百町開旧堤防」跡と判断し、鏡町教育委員会協議のうえ周知の埋蔵文化財包蔵地『四百町開旧堤防』として新規登録し、鉄道・運輸機構から同年10月27日付けで県文化課に対し、発掘調査の依頼が提出された。

県文化課では、文化財保護法第58条の2の規定に基づき11月4日付けで鏡町教育委員会ならびに鉄道・運輸機構に対し発掘調査を実施する旨を通知した。同月5日から調査に着手した。（坂口）

1 鏡町干拓史編纂委員会「鏡地方における干拓のあゆみ」鏡町教育委員会 平成15年10月1日

#### A 調査の方法

調査に際しては、現状の路盤となる表土を重機を用いて剥ぎ、堤防の基底部となる石列等の遺構検出に努めた。調査に際して、事前に国土座標II系測量（日本測地系）を行い、それを基準に5mメッシュ杭を設置した。石列等、確認された遺構は調査員が1/20で平面・断面実測をおこなった。また、航空写真撮影も併せて実施した。（坂口）

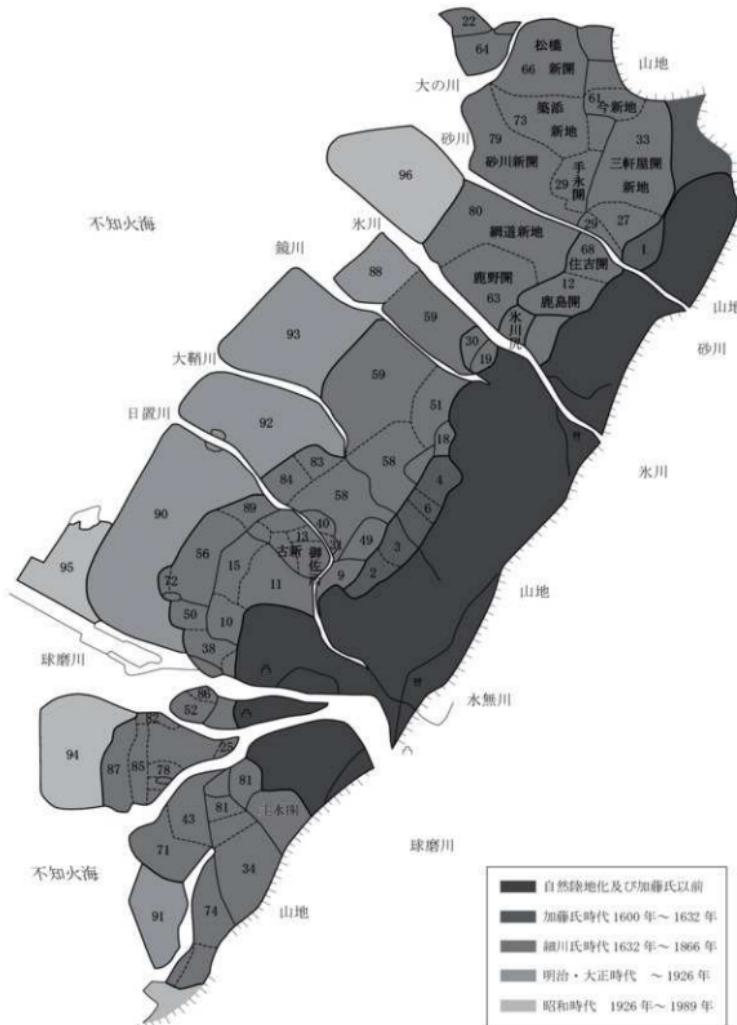


Fig. 9 八代平野年代別干拓略図

不知火海干拓の沿革

番号	干拓地名	築造年	位置	面積	築造主
1	新田村新地	慶長13(1608)	小川河江	67町2反9畝	加藤氏
2	海士江開	慶長年中	八代市海士江附近		
3	新华田開	慶長年中	千丁新华田	89町3反9畝	加藤氏
4	外牟田開	慶長年中	千丁町外牟田	95町	加藤氏
5	下江中間開	慶長年中	松橋町		
6	淨信寺聖田	元和年中	千丁太牟田	20-30町	加藤正方
7	竹崎新地	寛永年中	松橋町竹崎		
8	大野新田新地	慶安4(1651)	松橋町大野		細川氏
9	海士江新地	明暦元(1655)	八代市八千把	13町1反2畝	松井興長
10	松崎新地	明暦元(1655)	八代市忠高	34町1反2畝	松井興長
11	明勝古開	明暦2(1656)	八代市八千把	39町1反2畝	松井興長
12	鹿島開	寛文7(1667)	竜北町柳の江	51町6反4畝	細川氏
13	寛文古開	寛文8(1668)	八代市八千把	48町	松井直之
14	住吉新地	寛文12(1672)	小川町河江	186町	細川氏
15	高子原新地	延宝元(1673)	八代市松高	121町2反7畝	松井直之
16	久貝浦田新地	延宝4(1676)	松橋町久貝	5町6反5畝	長岡院物(米田氏)
17	北新地	元禄2(1689)	八代市植柳		松井直之
18	下村御開	元禄4(1691)	鶴町下村	11町8反6畝	細川氏
19	鶴町御開	元禄11(1698)	鶴町鎌村	31町	細川氏
20	忠臣蔵新地	元禄14(1701)	竜北町鹿野	33町1反5畝	細川氏
21	宝永古開	宝永4(1707)	八代市八千把	4町7反8畝	松井豊之
22	亀崎新地	享保2(1717)	不知火亀崎	23町9反7畝	宇土細川氏
23	建馬地区	享保3(1718)	八代市建馬		
24	出来須	享保5(1720)	八代市植柳新町一帯	34町3反	
25	江筋		八代市植柳新町附近	13町3反2畝	
26	北岡開		八代市金剛	98町	
27	南新田	元文元(1736)	小川町河江		細川氏
28	宝曆古開	宝曆3(1753)	八代市八千把		松井豊之
29	川尻新地	宝曆4(1754)	小川町河江		細川氏
30	鶴町沖開	宝曆7(1757)	鶴町鎌村	31町7反4畝	細川氏
31	十町開	宝曆10(1760)	千丁町古開田	12町3反2畝	子飼細川氏
32	掲新地	明和元(1764)	八代市金剛	104町	
33	三軒屋新地	明和3(1766)	松橋町利福から小川町河江	283町2畝	細川氏・吉大蔵・宇土細川氏
34	敷川内新地	明和6(1769)	八代市金剛	132町	松井豊之
35	山本新地	明和6(1769)	八代市植柳		
36	源氏地区	明和6(1769)	八代市堀屋		
37	源太開	安永2(1773)	八代市八千把	10町	
38	北浜堀屋新地	安永6(1777)	八代市堀屋		
39	安永古開	安永7(1778)	八代市八千把	23町9反6畝	松井豊之
40	東浜開	安永9(1780)	千丁町古開田	36町1反1畝	高田手永
41	北村御開	寛政元(1789)	千丁町新华田	16町9反3畝	細川氏
42	麦島村新地	寛政元(1789)	八代市麦島		
43	築添新地	寛政4(1792)	八代市築添町	16町2反5畝	松井豊之
44	寛政古開	寛政5(1793)	八代市八千把		
45	新浜地区	寛政6(1794)	八代市新浜町		
46	十二町開	寛政6(1794)	千丁町新华田	14町6反7畝	
47	下郷北割	寛政10(1798)	松橋町下郷	32町	
48	下郷南割	寛政11(1799)	松橋町下郷	69町1反9畝	
49	高田手永	寛政11(1799)	千丁町新华田	41町	高田手永
50	築添新地	文化元(1804)	八代市金剛	109町4畝	松井豊之

Tab. 4 不知火干拓の沿革-①

不知火海干拓の沿革

番号	干拓地名	築造年	位置	面積	築造主
51	百町開	文化2 (1805)	鏡町内田	101町5反	野津手永
52	中牟田新地	文化3 (1806)	八代市麦島	23町8反	高田手永
53	八町開	文化4 (1807)	千丁町古闇出	9町9反9畝	
54	三町開	文化10 (1813)	千丁町古闇出	3町3反1畝	
55	七町開	文化13 (1816)	千丁町古闇出	8町2畝	
56	高島新地	文化13 (1816)	八代市松高	234町6反2畝	松井徳之
57	武田新地	文政元 (1818)	松崎町大野	6町7反7畝	
58	大牟田新地	文政2 (1819)	千丁古闇出から鏡ぬ出	408町5反9畝	細川氏
59	七百町新地	文政4 (1821)	鏡町文政	640町1反5畝	細川氏
60	下り松新地	文政7 (1824)	不知火町高良	10町	松山手永
61	今新地	天保7 (1836)	松崎町下郡		有吉氏
62	高下差桟・鶴洲新地	天保8 (1837)	八代市金剛	17町8反	松井督之
63	鹿野新地	天保9 (1838)	奄北町鹿野	201町3反5畝	細川氏
64	龟松新地	天保10 (1839)	不知火町長崎	94町	宇土細川氏
65	松崎新地	天保10 (1839)	松崎町大野	12町	
66	松崎新開	天保10 (1839)	松崎町豊川	135町1反7畝	
67	八千把・二の丸新地	天保11 (1840)	八代市八千把	47町5反	細川興増
68	下住吉新地	天保11 (1840)	小川町河江	96町	細川氏
69	新田新地	天保11 (1840)	小川町河江	105町	河江手永
70	葭牟田新地	天保13 (1842)	八代市金剛	105町1反	
71	水島新地	天保14 (1843)	八代市金剛	147町9反1畝	松井章之
72	栗延新地	天保14 (1843)	八代市松高		
73	篠添新地	天保14 (1843)	松崎町豊川	112町7反1畝	
74	嵯合新地	弘化2 (1845)	八代市金剛	52町6反7畝	松井章之・細川氏
75	日余久新地	弘化2 (1845)	八代市日余久	34町8反1畝	田浦手永
76	岩崎新地	弘化2 (1845)	八代市日余久	2町5反1畝	広瀬
77	小三新地	弘化4 (1847)	八代市龜屋	6町5反7畝	小三兵衛
78	沖の瀬新地	弘化4 (1847)	八代市金剛	41町7反3畝	松井章之
79	砂川新地	嘉永5 (1852)	松崎町豊川	302町6反	
80	朝道新地	嘉永5 (1852)	奄北町朝道	592町3反5畝	野津手永
81	蛇籠新地	安政元 (1854)	八代市柏柳	24町2反3畝	米村金右衛門
82	北原新地	安政元 (1854)	八代市金剛	26町7反8畝	松井章之
83	八代新地	安政2 (1855)	千丁町古闇出	30町2反2畝	細川氏
84	千丁・二の丸新地	安政2 (1855)	千丁町古闇出	86町4反7畝	細川氏
85	三江瀬	安政2 (1855)	八代市金剛	74町8反7畝	松井章之
86	北牟田新地	安政2 (1855)	八代市麦島	14町3反	松井章之
87	三江瀬・栗添新地	慶応元 (1865)	八代市金剛	103町5反5畝	松井章之
88	野崎新地	慶応2 (1866)	鏡町野崎	183町	宇土細川氏
89	岡本新地	明治20 (1887)	八代市八千把	6町3反5畝	岡本又喜
90	郡榮新地	明治37 (1904)	八代市郡榮	1046町7反1畝	八代郡
91	明治新田	明治37 (1904)	八代市金剛、日余久	258町8反	民間共同
92	南新地	大正11 (1922)	八代市昭和	570町4反5畝	熊本県
93	北新地	大正15 (1926)	鏡町北新地	687町7反2畝	熊本県
94	金剛干拓	昭和28 (1953)	八代市平和町	425町6反4畝	国営
95	八代港干拓	昭和39 (1964)	八代市港町	255.02ha	代行
96	不知火干拓	昭和41 (1966)	奄北町・小川町地先	528ha	国営
97	高田手永開	寛政11 (1799)	千丁町新柴田	41町	高田手永

(干拓地・築造年代・位置・面積については、資料によって異なる)

Tab. 5 不知火干拓の沿革-②

## B 干拓の沿革

八代平野は総面積の9割以上が干拓により作り出された人口の平野である。その歴史は古く、中世には初期の干拓が作られたと伝えられている。

干拓の最盛期は江戸時代になる。藩営の干拓事業がこれにあたる。更に、明治から大正、昭和にかけて次々と作られ多くの入植者が干拓地に入り、八代地域ひいては熊本県全体の発展に寄与した。(坂口)

## C 遺跡の概要

### 1 高田手永旧堤防

本堤防跡の調査は、県内で初めての事例である。旧堤防は現在宅地化されて上部構造が全く残っていない中で、手探りの状態で調査を進めた。予備調査で石灰岩質の岩石が検出され、沖積平野上に自然には見ることのできないものであることから、干拓工事により持ち込まれた石材であることを想定し調査を実施した。

調査の結果、南北に伸びる配石群を確認できた。乱雑でありながらも一定の方向性を持つこの遺構の性格は狭小な調査区の関係から判明しなかった。(坂口)

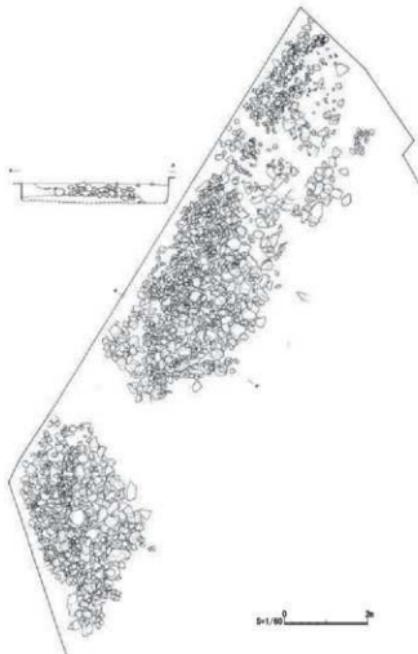


Fig.10 高田手永旧堤防検出石敷き遺構平面図と断面図

## 2 四百町開旧堤防

本堤防跡は、江戸時代後期の文政二年に完成したと伝えられている。今回の調査地は大鞘池の近傍である。この池は、堤防完成後の大潮で決壊した際に堤防を大きく迂回する形でつくられたもので、その役割を果たし終えた後に溜池と変化したもので、地元では「大鞘回し」と呼ばれている。

予備調査で確認されていた石列は、調査の結果、直置きされているものではなく、逆台形状の掘り込みを有する溝状遺構の中に敷き詰められたものと確認された。また、石列はほぼ水平に置かれ石疊状に規則性を有し積み上げられ、これ自体が堤防の基礎構造物であった可能性がある。

この石列東側にも石灰岩の集中する箇所を確認した。また、石列両側に木杭が打ちこまれているのを確認したが、調査の結果からは堤防構造中に伴うものかは確認できなかった。

最終的に、遺構の性格を考えるうえで干拓遺跡の調査事例がある岡山県の児島湾干拓資料現地見学や堤防に関する文献資料等の調査により、本調査区で確認した石列は堤防全面に設置された消波ブロックである可能性も出てきた。干拓堤防の築造にあたっては地域性や土壤条件により違いがあると思われるため、性格は断定はできないが、干拓堤防の下部構造を知る上で一定の成果は上げられたものと思われる。

狭小な面積での調査であったため、遺構の性格まで判断できる材料を揃えることはできなかったが一応の成果を提示するまで出来た意義は大きいと言えよう。(坂口)

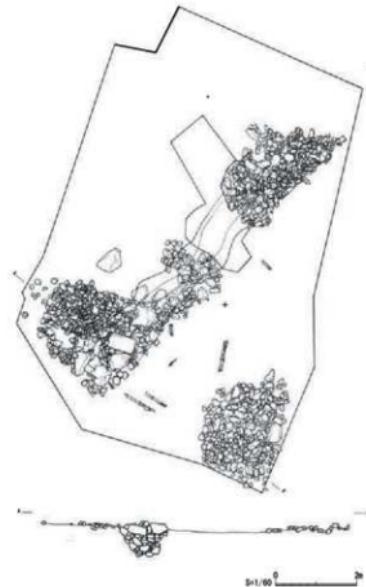


Fig.11 四百町開旧堤防検出石敷き遺構平面図と断面図

## 2 宮地小畠遺跡

### A 遺跡の概要

#### (1) 5層上面検出遺構

溝SD001 36区に隣接し、F-17Grid 5層上面から掘り込まれ東西に延びる遺構。遺構東端が削平され、西側は調査区外に出るため全長は不明。本調査区内での検出長は約2.60m、幅0.75m、深さは0.08mを測る。

断面は浅く逆台形で、下端はほぼ水平を呈す。

土坑SK001 34区に隣接し、F-13Grid 5層上面から掘り込まれる。方形の掘り込みを呈する。

土坑SK003・SK004 (Fig.12) 34区に隣接し、F-13Grid 5層上面から掘り込まれる。調査段階で両遺構とも主軸を同じくする。平面形はいずれも圓丸長方形、断面は傾斜の緩やかな掘り方を有し、方形を呈する。SK003は長径1.72m、短径0.83m、深さ0.26m、SK004は長径0.92m、短径0.5m、深さ0.16mを測る。埋土から遺物も出土しているが、小片であること、出土部位が図示できないことから図化はしていない。

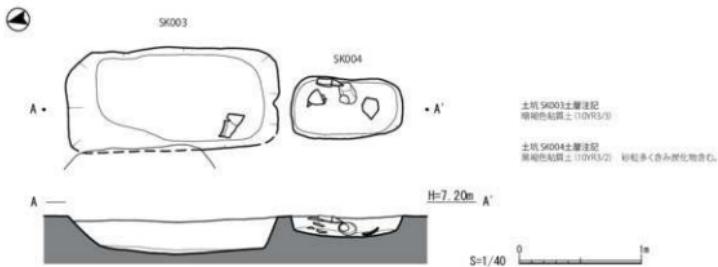


Fig.12 土坑 SK003・SK004 平面図と断面実測図

土坑SK007 G-13Grid 5層上面から掘り込まれた楕円形の掘り方を呈する。埋土から須恵器蓋（8）、土師器杯（9）が出土する。

土坑SK008 F-G-13Grid 5層上面から掘り込まれ楕円形の掘り込みを呈し、柱穴の可能性もある。須恵器高台付杯（10）が埋土中から出土する。

土坑SK011 G-15Grid 周囲の遺構に切られているが、円形の掘り込みを呈す。須恵器皿（11）が埋土中から出土する。

土坑SK012 F-15Grid 方形掘り込みを呈する。埋土中より須恵器杯（12）が出土する。

土坑SK016 F-G-15Grid 周囲の遺構に切られて

おり、本来の形状は不明だが検出時には不定形の土坑として検出している。龍泉窯系青磁碗（13）が埋土中より出土する。

土坑SK018 F-15Grid 長方形の掘り込みを有する遺構だが、周囲の遺構により一部を切られる。埋土中より土師器杯（14）が出土する。

土坑SK019 F-15+16Grid 長方形の掘り方を有する遺構。埋土中より軒丸瓦（15）が1点出土する。

土坑SK023 G-16Grid 楕円形の掘り方を有する土坑。土師器杯（16・17）が埋土中より出土する。

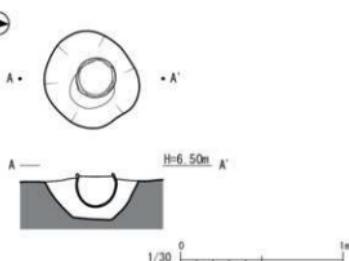


Fig.13 土坑 SK029 平面図と断面実測図



Fig.14 宮地小烟遺跡 5層上面(古代1)遺構図

## (2) 7層上面検出遺構

**土坑SK027** F-4・5Grid 遺構の西側が調査区の外に出る遺構。平面形は稍円形を呈す。土師器杯（18～20）、皿（21）、黒色土器（22）、須恵器杯（23）、広口壺（24）等多数の遺物が埋土中より出土する。

土坑SK029 (Fig.13) G-5Grid 長径0.58m、短径0.60m、深さ0.26mの掘り方を有する中に土師器(25)が据え置かれた状態で出土する。

土坑SK030 (Fig.15) F-G-7Grid 西側調査区外に伸びる楕円形を呈する遺構。複数の遺構掘り込みが窺えるが、調査時には切り合い等は確認できなかった。断面形は緩やかに丸みを帯びる。出土遺物は主に3層から5・6層までに含まれる。土師器杯(26~28)、黒色土器(30~35)で、うち30・34は杯、高台付き杯(32・33・35)、榙(29)、縄輪陶器榙(36)、平瓦(37)が出土する。

上坑SK033 (Fig.18) F-G-7Grid 長楕円形で、長径2.9m×短径1.64mを測る。下端は狭く緩やかなU字状を呈する。北側を柱穴状の遺構に切られる。土師器杯 (38 ~ 47)、榤 (48)、高台付き杯 (49)、黒色土器杯 (50)、土師器壺 (51)、須恵器杯 (52・53) 高台付き榤 (54)、壺 (55) が出土する。

土坑SK035 (Fig.19) F-11Grid 遺構上面が土砂により切られている遺構。土砂により傾斜する面上に位置し本来の形状は失われている。検出形状では長方形を呈し、長径2.34m×短径約1.18m、深さ0.38mを測る。埋土中からは土師器杯(56～58)、鉢(59)、甕(60・61)、須恵器蓋(62・63)、高台付き杯(64・65)、皿(66)が出土する。

上坑SK036 (Fig.19) F-11Grid SK035同様に遺構の一部が土砂により切られる。本来は方形の土坑であったと考えられる。遺物は、一部SK035へ落ち込むが、区別して取り上げたものを掲載している。長径約1.82m、短径約0.58m、深さ0.32mを測る。土師器杯 (67・68) 裹 (69)、須恵器蓋 (70～72)、高台付き杯 (73・74) 皿 (75)が出土する。

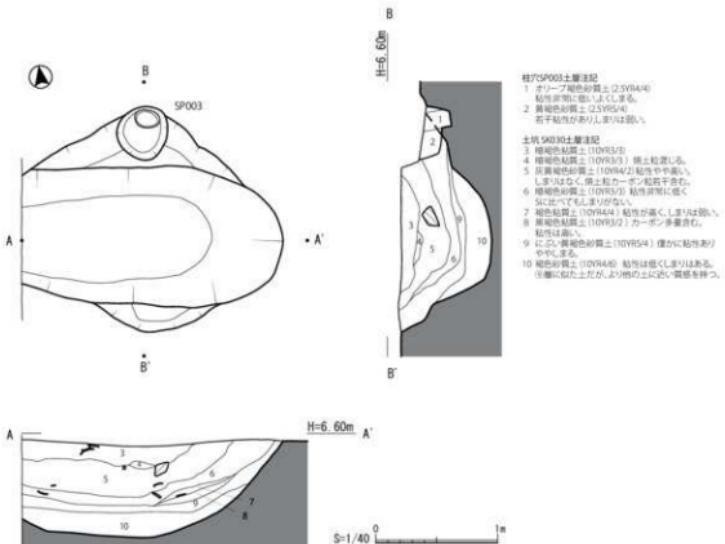


Fig.15 土坑 SK030 平面圖と断面実測図



Fig.16 宮地小烟道跡7層上面（古代2）遺構図

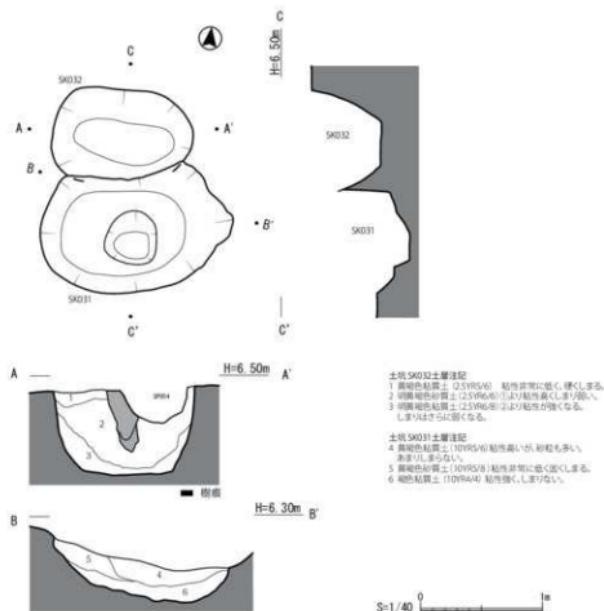


Fig.17 土坑 SK031-SK032 平面図と断面実測図

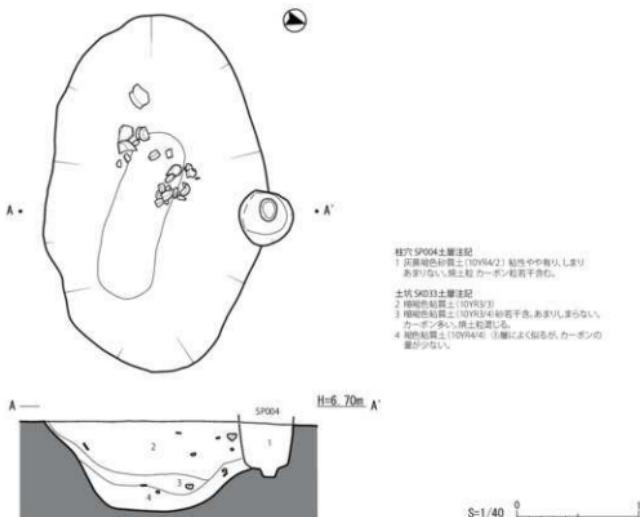


Fig.18 土坑 SK033 平面図と断面実測図

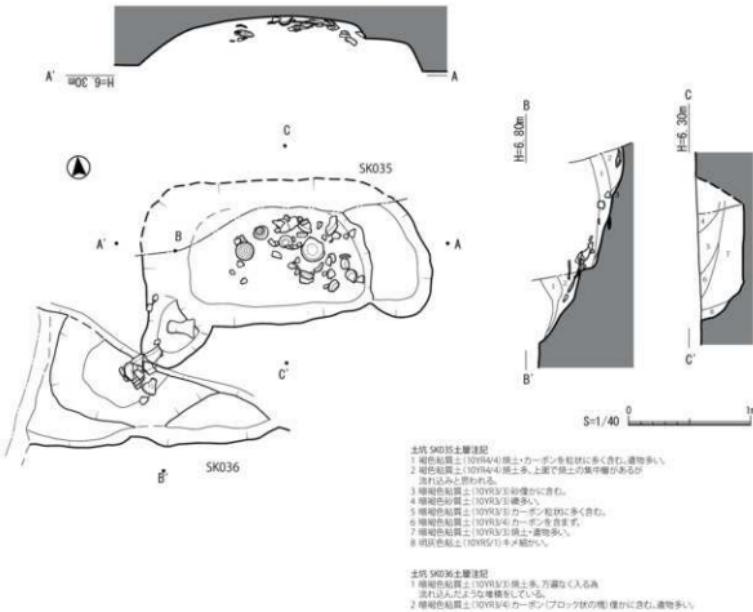


Fig.19 土坑 SK035-SK036 平面図と断面実測図

**土坑SK037 F-12Grid** 7層上面で検出した遺構、溝SD002東側に隣接する。平面形は円形を呈する。須恵器高台付き杯(76)が出土する。

**土坑SK038 F-13Grid** 7層上面で検出した遺構。平面形は長方形を呈する。須恵器高台付き杯(77)が出土する。

**土坑SK039 G-13Grid** 本線調査区34区東側に隣接し、7層上面で検出した遺構。平面形は楕円形を呈する。須恵器高台付き杯(78)が出土する。

**土坑SK040 F-14Grid** 本線34区、35区間の東側に位置し、7層上面で検出した遺構。平面形は長方形を呈する。須恵器杯(79)が出土する。

**土坑SK041 F-14Grid** 本線35区北側に位置し、7層上面で検出した遺構。遺構の一部は調査区外へ伸びる、不定形の土坑。土師器蓋(80)、須恵器蓋(81)、杯(82)が出土する。

**土坑SK043 F-14Grid** 7層上面で検出し、不明遺構SX002に切られる。楕円形の掘り込みを呈する。土師器杯(83)を埋土中から出土する。

**土坑SK044 F.G-14Grid** 本線35区東側で検出した楕円形を呈する遺構。7層上面で検出し、長径約1.08m、短径約0.88m、深さ0.27mを測る。遺物がやや浮いた状態で検出したが、埋土の状況から本遺構の遺物と判断し記録した。遺物は土師器が重ねられ斜めに置かれた状態で出土。土師器杯(84～88)、(89～102)が出土する。

**土坑SK045 G-14Grid** 7層上面で検出。平面形は細長く底部は緩くU字状を呈する。東側に柱穴状の掘り込みを有するが、性格は不明。須恵器杯(103)、甕(104)が出土する。

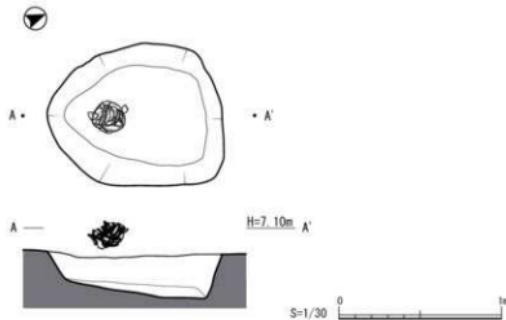


Fig.20 土坑 SK044 平面図と断面実測図

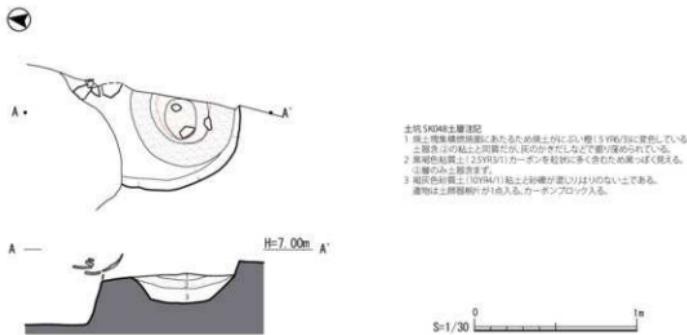


Fig.21 土坑 SK048 平面図と断面実測図

**土坑SK046 F-15Grid 7層上面で検出。**本線部35区隣接で検出した円形の遺構。埋土中から土師器杯(105)が1点出土する。

**土坑SK047 G-15Grid 7層上面で検出** 調査区東側で他の遺構に切られた状態で検出した遺構。底部は緩やかにU字状を呈する。埋土中から須恵器蓋(106)が出土す。

**土坑SK048 G-15Grid 7層上面で検出した遺構** 調査区東側へ遺構が伸び全体形は不明。また、5層からの掘り込みにも切られる。残る形状から円形の土坑状の遺構と思われる。断面径は緩やかなU字状を呈する。遺構埋土中には1層に焼土塊集積燃焼面があり、長時間使用されていたことが窺える。2層面は粘質土を中心とする土で、上層を燃焼面とすると、防湿を兼ねたカーボンベッドである可能性が高い。

**土坑SK049 G-15Grid 7層上面で検出** 搾乱や他の遺構に切られ全体形は不明であるが、長椭円形の掘り込みを有する土坑状の遺構と考えられる。埋土中から土師器壺(107)が出土す。

**土坑SK050 F-15Grid 7層上面で検出** 長段径を呈する遺構。本調査区の最も南に位置する遺構。埋土中より土師器釜(108)が出土する。

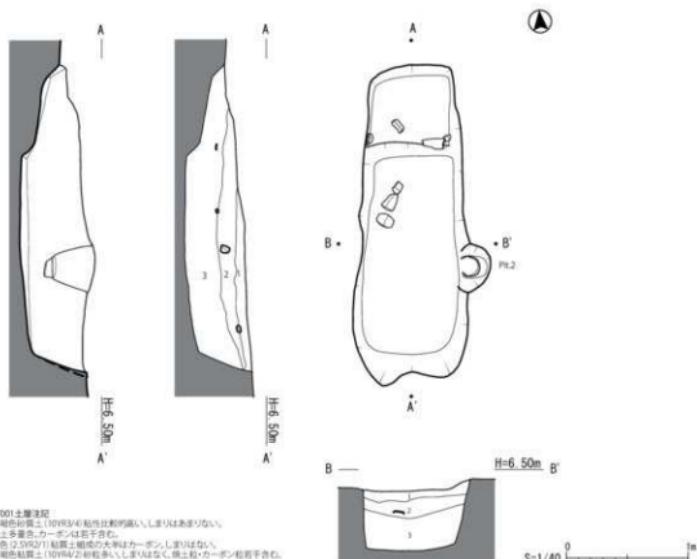


Fig.22 墓 ST001 平面図と断面実測図

墓ST001 7層上面検出遺構 G-7Grid 長径2.5m、短径0.89m、深さ0.49mを測る。北側1/3の範囲で1段平坦面を有する。木棺等の痕跡、人骨等は認められていないが、遺構の形状から土坑墓であったと判断し、遺構の性格付けをおこなった。埋土床面から土師器蓋 (137～142)、甕 (143)、須恵器杯 (144)、鉢 (145) が出土する。

不明遺構SX001 G-12・13自然地形の落ちにも見て取れるが、本来は浅く掘り窪められた土坑状の遺構であった可能性が高い。検出した状態は掘り込みも浅く、他の遺構、攪乱等により切られ、全体形を見て取ることができない。出土遺物は、土師器蓋 (146～149)、杯 (150～159)、楕 (160)、甕 (161～167)、石製品 砥石 (168)、須恵蓋 (169～184)、杯 (185～192)、高台付き杯 (193～204)、皿 (205～209)、短頸壺 (210)、甕 (211・212) など多数の遺物が一括性高く出土している。

不明遺構SX002 F-14・15Grid 調査区西側、本線部35区との間に位置する溝状を呈する遺構。遺構の全容を確認することができないことから不明遺構として取り扱う。埋土中からは土師器蓋 (213～215)、杯 (216～223)、鉢 (224・225)、小型壺 (226)、甕 (227)、須恵器蓋 (228)、杯 (229)、高台付き杯 (230)、皿 (231) など多数出土している。

### (3) 8層検出遺構

**土坑SK051 G-14Grid** 一部が調査区東側へ伸びるため正確な長さは把握できないが、東西に約2.9mを測る。検出した平面形では2基の土坑状の遺構が切り合っているように見えるが、調査時には区別しては確認できていない。土師器杯（109～125）、高杯（126～128）、須恵器蓋（129・130）広口壺（131）が出土する。

**土坑SK053 G-14Grid** 遺構の南側でSK052（円形土坑）に切られ検出した楕円形を呈する遺構。土層は自然堆積による廃絶の過程を窺うことができる。短径は0.85mを測る。出土遺物は須恵器高杯（132）が出土する。

**土坑SK054 G-14Grid** 遺構の一部が調査区東側へ伸びる。下端は調査区内で收まるため不定形の土坑と見られる。土層断面は自然堆積による廃絶が想定される。中心を切っていないが調査区内で長径約2.0mを測る。土師器杯（133）が出土する。

**土坑SK055 F-15Grid** 本線部35区東側で検出した遺構。上端、下端とも不定形を呈する遺構。埋土中より土師器杯（134）が出土する。

**土坑SK056 G-15Grid** 上端の一部が調査区東側へ延びる遺構。下端は調査区内で收まるため楕円形の土坑と思われる。埋土中より須恵器高杯（135）、土師器甕（136）が出土する。

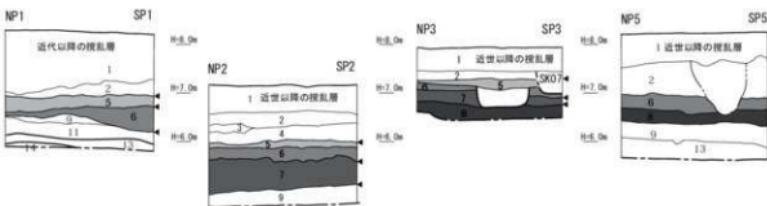


Fig.23 小畠遺跡土層変遷模式図

#### 宮地小畠遺跡土層変遷図について

調査区各土層断面図作成箇所から柱状に抽出し図示した。(Fig.23)

現状では、平坦な地形が広がる宮地の町であるが、古代には山側からの小規模な土石流などで細かく分断され、それぞれの平坦部には高低差があったことを土層図等から見てとることができよう。

古代には標高約6～7m前後で東西に延びる緩斜面上に今回調査した遺跡は広がっている。

新幹線本線調査区No 33区では、土石流の疊の中から、古墳時代後期から古代（9世紀前半）にかけての須恵器が、また、今回調査した側道部F-11Grid、土坑SK035,036は土石流により削平を受けているのを見て取ることができる。

本調査区のなかで最も大きな土石流は西側でG-9～G-11Gridにかけてほぼ東から西にかけて幅約32mに渡り検出している。調査時に重機を用いて掘削を行ったが、下端を確認する前に脆い土砂のため断念せざるを得なかった。

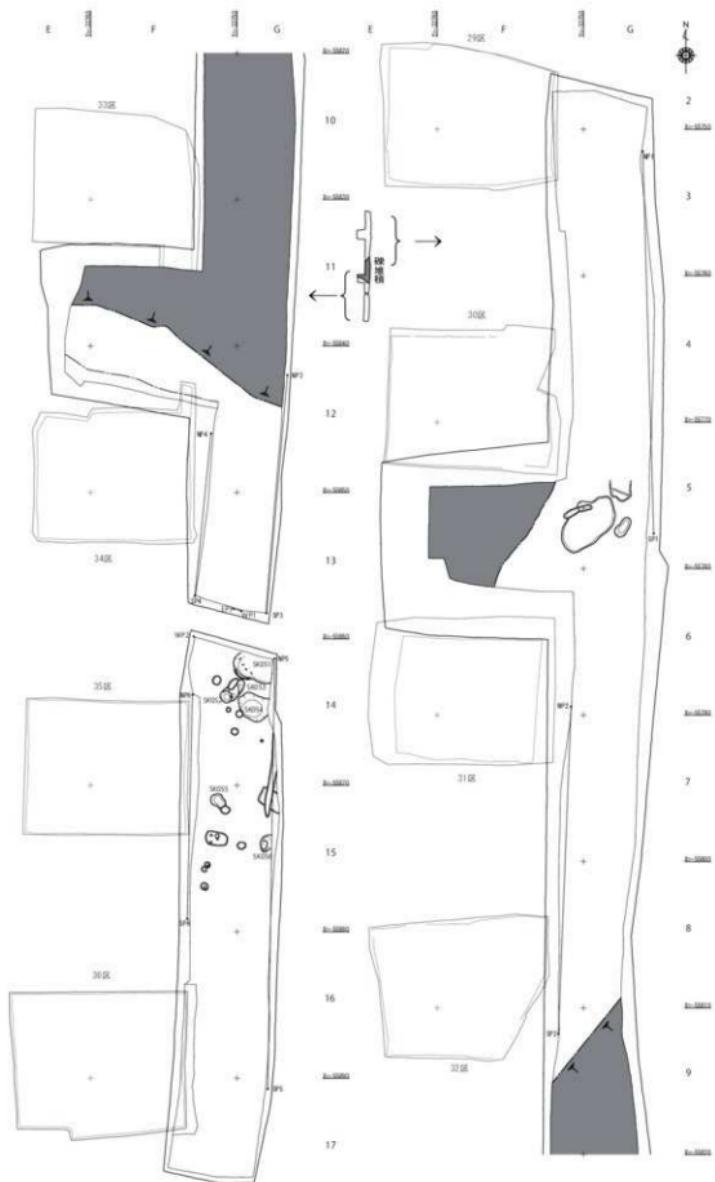


Fig.24 宮地小烟道跡 8層上面（古代3）遺構図

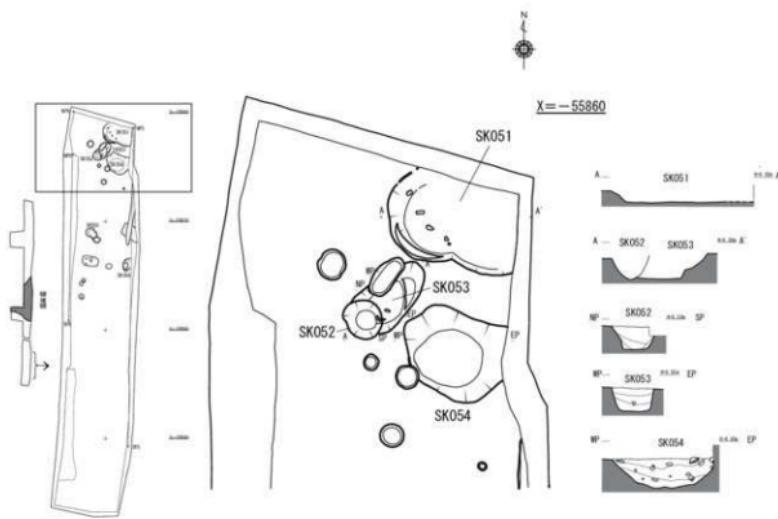


Fig.25 土坑 SK051·SK052·SK053·SK054 遗物实测图

S=1/100

H=6.50m

X=-55870

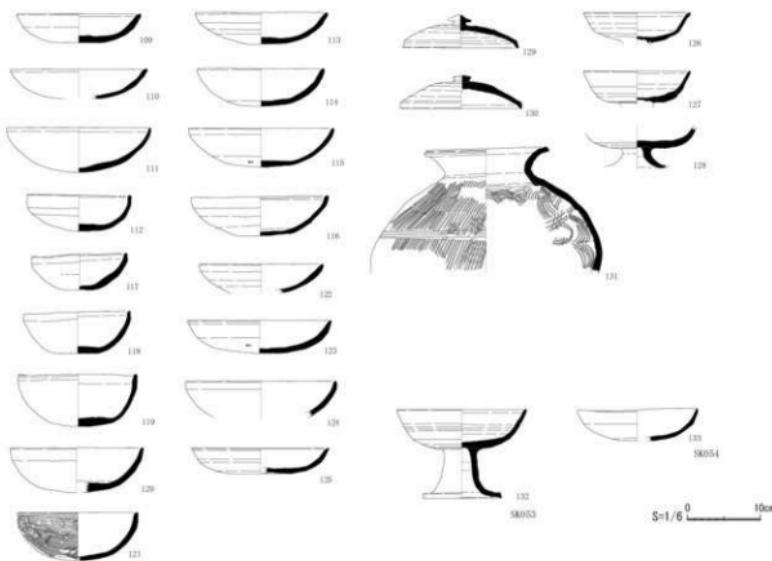
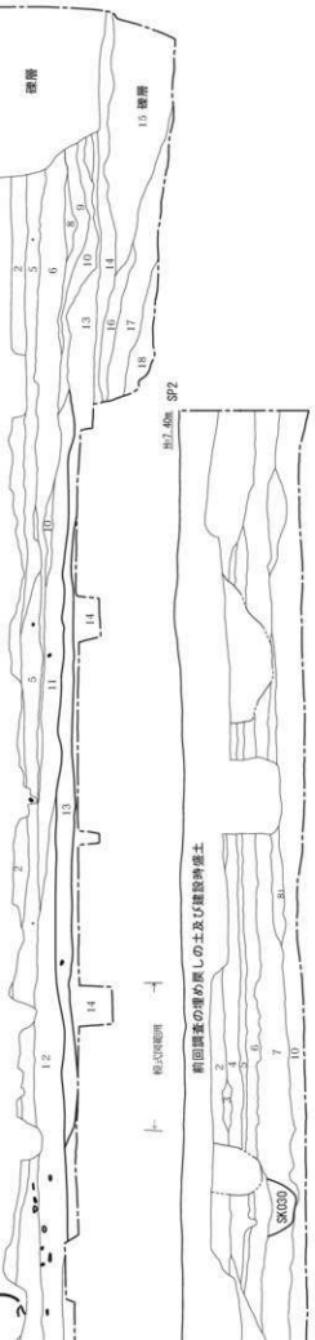
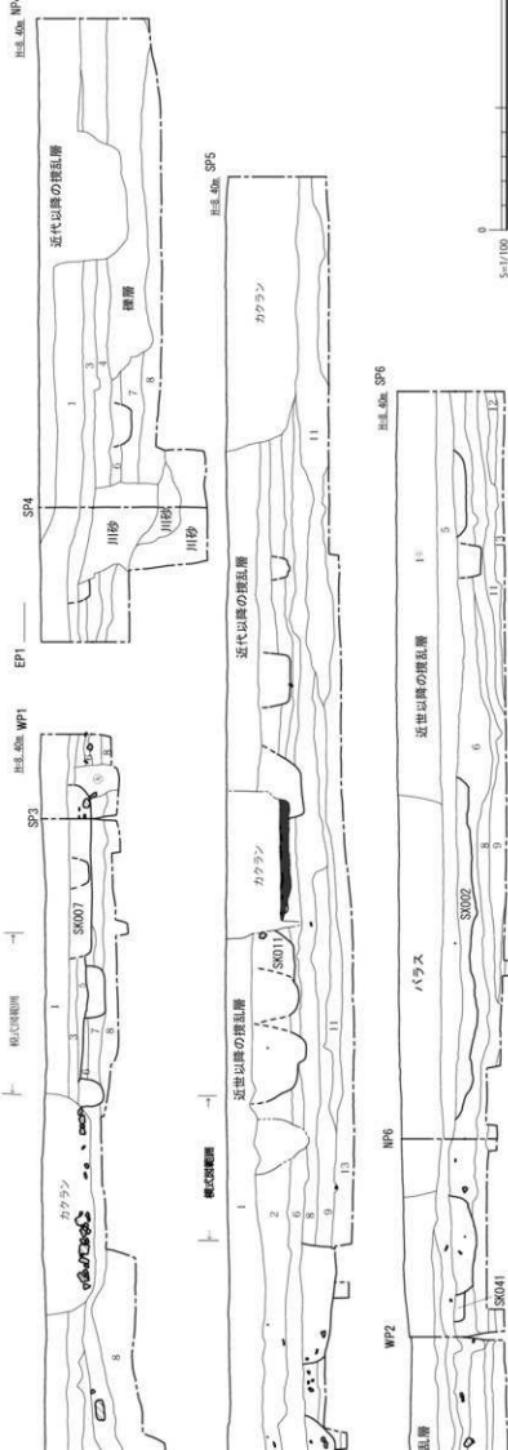


Fig.26 土坑 SK051·SK053·SK054 出土遗物实测图



1) 地盤は上位より砂質粘土層(1-1)・砂層(1-2)・砂質粘土層(1-3)で構成される。表面には1-3層が剥離して存在する。  
2) 1-1層は砂質粘土層で、中層部では砂層が混入する。表面は風化した状態で、表面付近は砂層である。  
3) 1-2層は砂層で、中層部では砂質粘土層が混入する。表面は風化した状態で、表面付近は砂層である。  
4) 1-3層は砂質粘土層で、中層部では砂層が混入する。表面は風化した状態で、表面付近は砂層である。  
5) 1-4層は砂層で、中層部では砂質粘土層が混入する。表面は風化した状態で、表面付近は砂層である。  
6) 1-5層は砂質粘土層で、中層部では砂層が混入する。表面は風化した状態で、表面付近は砂層である。  
7) 1-6層は砂層で、中層部では砂質粘土層が混入する。表面は風化した状態で、表面付近は砂層である。  
8) 1-7層は砂質粘土層で、中層部では砂層が混入する。表面は風化した状態で、表面付近は砂層である。  
9) 1-8層は砂層で、中層部では砂質粘土層が混入する。表面は風化した状態で、表面付近は砂層である。  
10) 1-9層は砂質粘土層で、中層部では砂層が混入する。表面は風化した状態で、表面付近は砂層である。  
11) 1-10層は砂層で、中層部では砂質粘土層が混入する。表面は風化した状態で、表面付近は砂層である。  
12) 1-11層は砂質粘土層で、中層部では砂層が混入する。表面は風化した状態で、表面付近は砂層である。  
13) 1-12層は砂層で、中層部では砂質粘土層が混入する。表面は風化した状態で、表面付近は砂層である。  
14) 1-13層は砂質粘土層で、中層部では砂層が混入する。表面は風化した状態で、表面付近は砂層である。  
15) 1-14層は砂層で、中層部では砂質粘土層が混入する。表面は風化した状態で、表面付近は砂層である。  
16) 1-15層は砂質粘土層で、中層部では砂層が混入する。表面は風化した状態で、表面付近は砂層である。  
17) 1-16層は砂層で、中層部では砂質粘土層が混入する。表面は風化した状態で、表面付近は砂層である。  
18) 1-17層は砂質粘土層で、中層部では砂層が混入する。表面は風化した状態で、表面付近は砂層である。



## B 出土遺物

溝SD002出土遺物 (Fig.28) 須恵器 蓋（1）は外面天井部にのみ回転ヘラ切りが施され他は回転ナデにより整形される。宝珠は整形後、貼り付け。口縁短部付近で稜が付き短部は丸い。焼歪みがひどい。（2）低い体高をなす。外面天井部にのみ回転ヘラ切りを施し、他は回転ナデ整形。口縁短部は短く折れ、先端はやや尖る。（3）も体高は低いが、86に比べるとやや丸みを感じさせる。外面天井部にのみ回転ヘラ切り、他は回転ナデ整形。短部は鋭角に折れ丸い。やや焼歪みが見られる。

土師器 杯（4）丁寧な回転ナデにより整形。底部は回転ヘラ切り後未調整。緩やかに外反し立ち上がり口縁近くで強い回転ナデのせいかやや薄くなり、口縁部で肥厚し端部で丸い。

須恵器 杯（5）外面底部に回転ヘラ削り調整、他は横ナデ整形。底部と体部の屈曲よりやや内に入った位置に高台を貼り付ける。（6）外面底部に回転ヘラ切り、他は横ナデ整形。底部と胴部の屈曲部からわずかに底部寄りに高台を貼り付ける。

土坑SK011出土遺物 (Fig.29) 須恵器 杯（7）外面底部に回転ヘラ切り、他は横ナデ整形。直線に伸びる体部は短部で抑えによりやや外に開く。

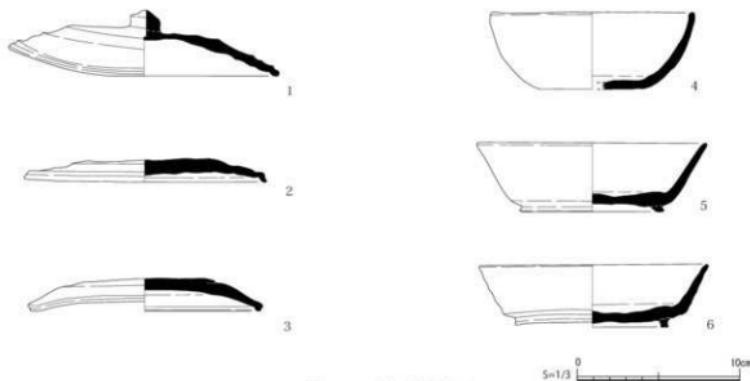


Fig.28 溝 SD002 出土遺物実測図

土坑SK007出土遺物 (Fig.29) 須恵器 蓋（8）外面天井部のみ回転ヘラ切りを施し、他は回転ナデ整形。低い体高をなし天井部と体部の屈曲部で最も肥厚し口縁短部に至る。短部は直角に折れやや尖る。

土師器 杯（9）底部に回転ヘラ切り、他は回転ナデ整形。底部と体部の屈曲は緩く、大きく外に開き短部付近で更に外反する。内外面とも磨滅が激しいが、内面にわずかに赤色顔料が塗布されていた痕跡を認める。

土坑SK008出土遺物 (Fig.29) 須恵器 杯（10）外面底部に回転ヘラ切り、他は横ナデ整形。貼り付け高台。

土坑SK011出土遺物 (Fig.29) 須恵器 盆（11）外面底部回転ヘラ切り、他は横ナデ整形。口縁は緩やかに外反し端部に至る。端部は横ナデによりやや尖る。

土坑SK012出土遺物 (Fig.29) 土師器 杯（12）回転台を利用して作成されており、外面底部に回転ヘラ切り、他は横ナデ整形。体部と体部の屈曲は緩やかで直線的に開き、端部付近で肥厚し先端は内面を押えたことによりやや尖る。

土坑SK016出土遺物 (Fig.29) 青磁 梱（13）見込に「河濱遺範」のスタンプを押印。削り出し高台費み付け、高台内部には施釉なし。

土坑SK018出土遺物 (Fig.29) 土師器 杯（14）外面底部に回転ヘラ切りを施し、他はナデ整形。口縁部は横ナデによりわずかに湾曲する。端部で短く外反する。

土坑SK019出土遺物 (Fig.29) 軒丸瓦 (15) 複弁八葉蓮花軒丸瓦 中区中房に 5つの蓮子を配し、外縁幅は 1.2cm とやや狭く、平坦な面に蓮子を施す。

土坑SK023出土遺物 (Fig.29) 土師器 杯 (16)、杯 (17) とも底部糸切り、他は横ナデ整形。底部と体部境は厚く内面は緩やかに、外面は明瞭な角を作り出し上方に立ち上がる。

土坑SK027・029出土遺物 (Fig.30) 本線調査区30区に隣接し側道部上に位置する。6層を包含層とし 7層上面での検出遺構。土師器 杯 (18・19・20・22)。(18) は外面底部を回転ヘラ切り後、横ナデ整形。体部は緩く丸みを帯び立ち上がる。口縁は端部近くでやや肥厚する。(19) は外底面回転ヘラ切り、体部外面立ち上がり屈曲部 1 条まで回転ヘラ削り、その他は回転ナデ整形。体部は直線的に伸び、横ナデ単位毎に緩やかに波打つ。(20) は外面底部は回転ヘラ切りを施し、体部屈曲部から中位までの 3 条に回転ヘラ削りを施す。ほかは回転ナデ整形。口縁端部近くでやや外反し端部は丸く收める。

土師器 皿 (21) 浅い杯部と高い脚部が特徴をなす。杯部外面底部は横ナデを呈するが、強く開く体部の一部まで回転ヘラ削りが施されていることから、回転ヘラ切りによるものと考えられる。高台貼り付け後のナ

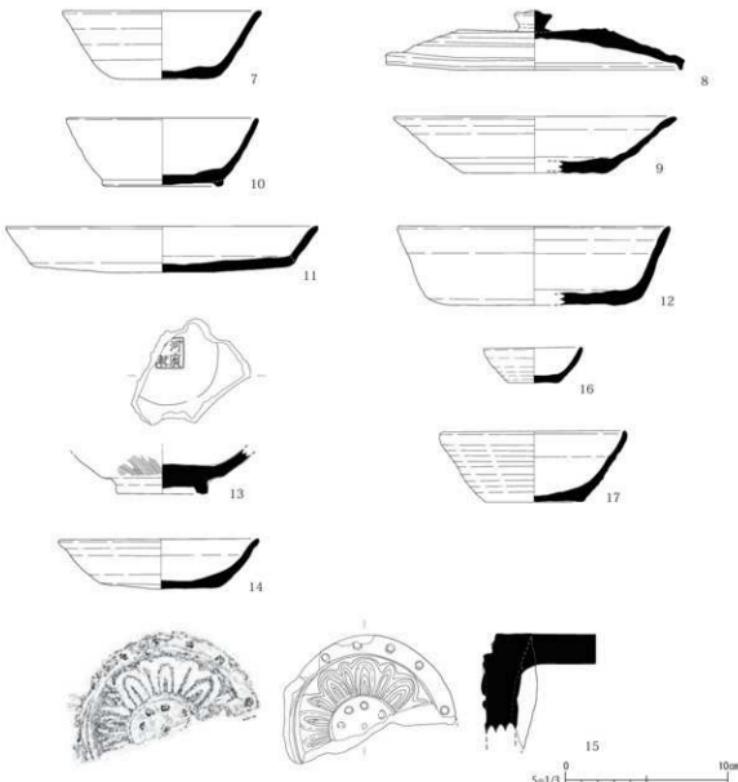


Fig.29 土坑 SK001(7)、SK007(8・9)、SK008(10)、SK011(11)、SK012(12)、  
SK016(13)、SK018(14)、SK019(15)、SK023(16・17)出土遺物実測図

デにより消えている。高台は緩やかに立ち上がる位置に貼り付く。(22)は外面底部は整形痕は不明であるが、丁寧な横ナデを施す。底部と体部屈曲部に高台を貼り付けた痕を認める。他は回転ナデ整形。内面は黒色を呈し、細かく横方向の磨きを施す。

須恵器 杯 (23) 外面底部には回転ヘラ切り後、ナデ整形。底部から体部屈曲部にかけ肥厚する。体部は緩やかに直線的に伸び端部は丸く收める。

須恵器 広口壺 (24) 頸部が伸びる広口壺の一部。体部貼り付け痕から外れており体部は不明。横ナデにより整形され、口縁部で折れ立ち上がる。端部は上部を抑え丸く收める。

土師器 豆 (25) 土坑SK029の埋土中に据えられるように置かれた状態で出土。口縁屈曲部上部より失われるが、どの段階(時期)に打ち欠けたのかは不明。屈曲は緩やかな円弧を描き、明確な稜はない。体部は球体で丸底を呈す。外面調整は刷毛目によるもので最大径部上部で縱方向の調整、底部に行くに従い横方向の調整を施す。内面は底部付近に指頭圧痕を残し、他は下から上への幅の狭いヘラ削り調整。口縁部は内外面ともに刷毛目調整後などで消すように整形。内外面ともに煙状の黒色範囲を見ることができる。

土坑SK030出土遺物 (Fig.31) 本線調査の際に最も多くの瓦を出土した31区土坑SK015に近い場所で検出した遺構。

土師器 杯 (26) 外面底部回転ヘラ切り、他は回転ナデ整形。底部はやや平底で体部は垂直に立ち上がり口縁近くで肥厚し強く外反しながら端部に至る。(27) 底部は回転ヘラ切り後ナデ、体部外面は底部屈曲部から2条回転ヘラ削り調整。体部中位より口縁に向かいやや肥厚し端部は丸く收める。(28) 外面底部に回転ヘラ削り痕、外面屈曲部から体部下部にかけて2条の回転ヘラ削りを施す。他は回転ナデ整形。口縁端部で強く外反し端部は丸く收める。

土師器 梹 (29) 杯部は外面底部回転ヘラ切り後なでてヘラ切り痕を消す。底部から体部を経て立ち上がる体部外面に1条の回転ヘラ削りを施す。また、底部と体部屈曲部に強く外反する高台を貼り付ける。外面底部の高台内部に、「黒」とみられる一文字を施す。

(30~35) は黒色土器(内黒) 杯、椀にあたる。杯 (30) 底部外面回転ヘラ切り後ナデ、底部から体部屈曲部から2条の回転ヘラ削り痕、他は回転ナデ整形。体部は厚く口縁近くでわずかに外反し端部に至る。(31) 外面底部回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。底部と体部屈曲部に短く高台が貼り付く。口縁は緩やかに立ち上がり端部近くで緩やかに外反する。(32) 外面底部は(33) 同様に丁寧なナデ整形のため、切り離し手法は不明。底部と体部屈曲部の稜を残し、やや内部に外反する短い高台が貼り付く。内面には底部付近に縱方向の細いミガキが薄く残り内黒。外面底部、高台内にヘラ書きを施す。(33) 外面底部は完全になされ、切り離しの際の調整は窓えない。他は回転ナデ整形。体部はほぼ直線的に伸び、口縁でわずかに外反し、端部は丸く收める。底部と体部の境に高台が貼り付いていた痕跡が残る。内面は幅約2mm程度の細かな横方向のミガキが、口縁近くまで薄く入る。器面表面に細かな雲母粒が付着し、他の土器に比べると目を引く。(34) 外面底部、回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。底部と体部屈曲部に短い高台が貼り付く。外面体部中位にまで回転ヘラ削りを施す。黒色を呈する内面には口縁近くに、横方向のミガキをわずかに残す。

椀 (35) 丸みを帯びる底部から体部にかけて深みのある器形を呈する。外面底部は丁寧にナデ、他は回転ナデ整形。口縁はやや肥厚し端部で強く外反し丸く收める。外面体部中位にまで4条の回転ヘラ削りを認める。内面は狭い単位で縱方向に薄いが、底部、体部中位、口縁直下の3単位に磨きを見ることができる。外面底部から体部にかけて短く高台が貼り付く。外面底部、高台内部のほぼ1/2の面積に「×」のヘラ書きを施す。縁袖陶器 楪 (36) 底部のみの部位出土。底部外面は削り出しでやや中央部が緩やかに弧を描き凹む。内面は横ナデ整形。全面施釉。

平瓦 (37) 外面に格子目叩き、内面に布目を残す瓦。布面目には布の折れ痕が中央部に明瞭に残る。断面整形が見られる3面ではヘラ状工具による鋭い切り取り痕面が残る。

土坑SK033出土遺物 (Fig.32) (38~55) 本線調査区31・32区間の東側、側道部上に位置し、6層を包含層とし、7層上面での検出遺構。

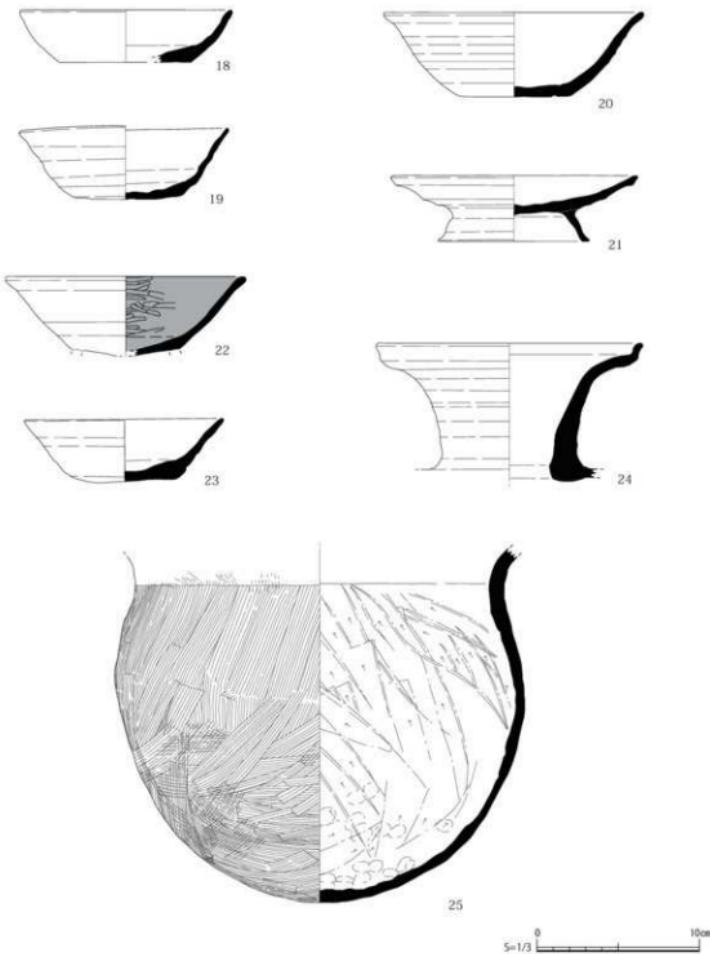


Fig.30 土坑SK027（18・19・20・21・22・23・24）、SK029（25）出土遺物実測図

土師器 杯（38）底部回転ヘラ切り、他は回転ナデ整形。底部から体部への屈曲部で1条の回転ヘラ削りを施す。体部は口縁まで直線的。（39）外底部回転ヘラ切り、他は回転ナデ整形。底部から体部への屈曲部で1条の回転ヘラ削りを施す。体部は口縁まで直線的だが、端部内面でわずかに押え薄く尖る。（40）外面底部回転ヘラ切り後ナデ、底部から体部の屈曲部に2条の回転ヘラ削りを施す。他は、回転ナデ整形。体部は口縁近くで一度薄くなり、端部近くで肥厚しながら外反し丸く收める。内外面に赤色顔料の塗布痕が残る。（41）外面底部回転ヘラ切り後ナデ、底部から体部の屈曲部にかけ1条の回転ヘラ削りを施す。

口縁は端部近くで肥厚しながら外反し丸く收める。(42) 外面底部回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。本資料は屈曲部から体部にかけての回転ヘラ削りは確認できない。体部は回転ナデ痕が明瞭に残る。口縁は端部近くで肥厚しながら外反し丸く收める。(43) 外面底部回転ヘラ切り後ナデ、底部から体部の屈曲部にかけ1条の回転ヘラ削りを施す。口縁は端部近くで肥厚しながら外反し丸く收める。(44) 外面底部回転ヘラ切り後ナデ、底部から体部の屈曲部にかけ1条の回転ヘラ削りを施す。口縁は端部近くで肥厚しながら外反し丸く收める。外面底部には「□川」(□部分は文字が入るかは不明)のヘラ書きを施す。(45) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。外面底部から体部屈曲部にかけ1条の回転ヘラ削りを施す。体部は直線的で口縁内面が肥厚し端部を丸く收める。内外面とも赤色顔料を塗布した痕跡が器面表面の窪みに

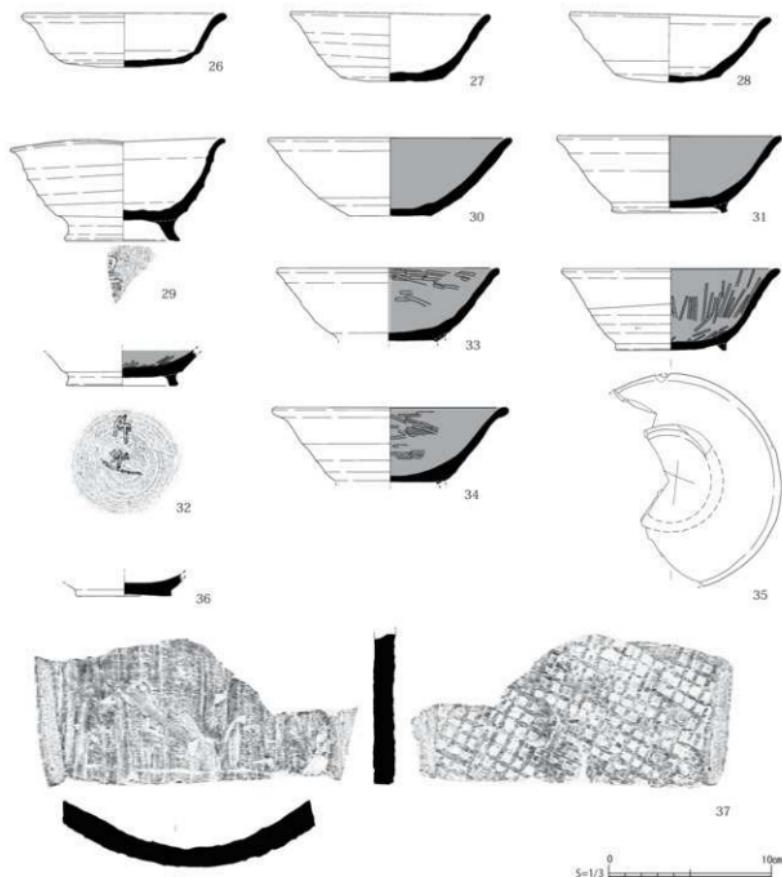


Fig.31 土坑SK030出土遺物実測図

残る。(46) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。外面底部から体部屈曲部にかけての回転ヘラ削りがあるようだが明瞭には確認できない。体部は直線的で口縁内面が肥厚し端部を丸く收める。内外面とも赤色顔料を塗布した痕跡が器面表面の僅みに残る。(47) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。外面底部から体部屈曲部にかけての回転ヘラ削りがあるようだが明瞭には確認できない。体部は直線的で口縁内面が肥厚し端部を丸く收める。

椀(48) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。外面底部から体部屈曲部にかけ1条の回転ヘラ削りを施す。杯部は後に報告する土師器椀(49)と体部の立ち上がりが類似する。内面底部はナデ整形で凸凹は見られない。(49) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。外面底部から体部屈曲部にかけ2条の回転ヘラ削りを施す。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部で緩く外反する。椀部は深く底部は横ナデの単位毎に更に深みを増す。底部から体部屈曲部へ移行する底辺側に、端部で強く外反する高台を貼り付ける。高台にも回転ナデ整形痕が残る。

黒色土器 杯(50) 口縁部のみの出土。外面は横ナデ整形。口縁部近くで稜を有し、端部で強く外反し丸く收める。内面黒色、ミガキ痕は観察できない。

土師器 豐(51) 壺は出土量は多いが、図化できるものは少ない。体部の張りは少なく、頭部は「く」字状に屈曲する。端部は角ぼり、小口に沈線を施す。外面頸部下は荒い刷毛目調整を施すが、頭部外面から口縁内外面にかけては横ナデ整形が施される。

須恵器 蓋(52) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く、口縁内面近くで薄くなり端部は折れ、丸く收める。杯(53) 外面底部回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。外面底部から体部屈曲部にかけ2条の回転ヘラ削りを施す。

須恵器 椭(54) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。外面底部から体部屈曲部にかけ1条の回転ヘラ削りを施す。体部は直線的に伸び、口縁端部の外面でやや肥厚する。

須恵器 壺(55) 器形は壺もしくは瓶の体部下半から底部にかけての部位。横ナデ整形で明確に稜を残し調整している。体部は緩やかに内湾しながら立ち上がる。高台は底部と体部の屈曲部に、短く貼り付く。外面底部に列点状の叩き目を残す。

土坑SKO35出土遺物(Fig.33)(56~66) 本線調査区33区・34区間に位置し、6層を包含層とし、7層上面での検出遺構。

土師器 杯(56) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。外面底部から体部屈曲部にかけ2条の回転ヘラ削りを施す。体部は直線的で口縁内面でわずかに押え、端部はやや尖る。(57) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的で端部はやや尖る。底部は器壁が厚く、外底面は歪む。(58) 外面底部回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。横ナデの残りは悪い。

鉢(59) 体部は浅く肩部は緩やかに「く」字状に張り、口縁は極めて短く立ち上がる。高台は内外面より強くなつて付けられ、断面は三角形をなす。

土師器 豐(60) 体部の張りは少なく頭部は「く」字状に屈曲する。端部は角ぼり小口に沈線を施す。外面頸部下は荒い刷毛目調整を施すが、頭部外面から口縁内外面にかけては横ナデ整形が施される。(61) 体部の張りは少なく頭部は「く」字状に屈曲する。胸部内面は横方向のヘラ削りを細かな単位で行う。頭部外面から口縁内外面にかけては横ナデ整形が施される。

須恵器 蓋(62) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く口縁内面近くで薄くなり端部は折れ、丸く收める。全体に焼き歪みあり。(63) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高はやや高く口縁内面近くで薄くなり、端部は折れ尖る。つまみは中心部がわずかに盛り上がるものが貼り付く。杯(64・65) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり口縁端部は丸く收まる。高台は底部と体部屈曲部よりやや底部中心よりに貼り付ける。断面は逆台形をなす。皿(66) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部はわずかに外湾し立ち上がる。口縁端部は丸く收まる。

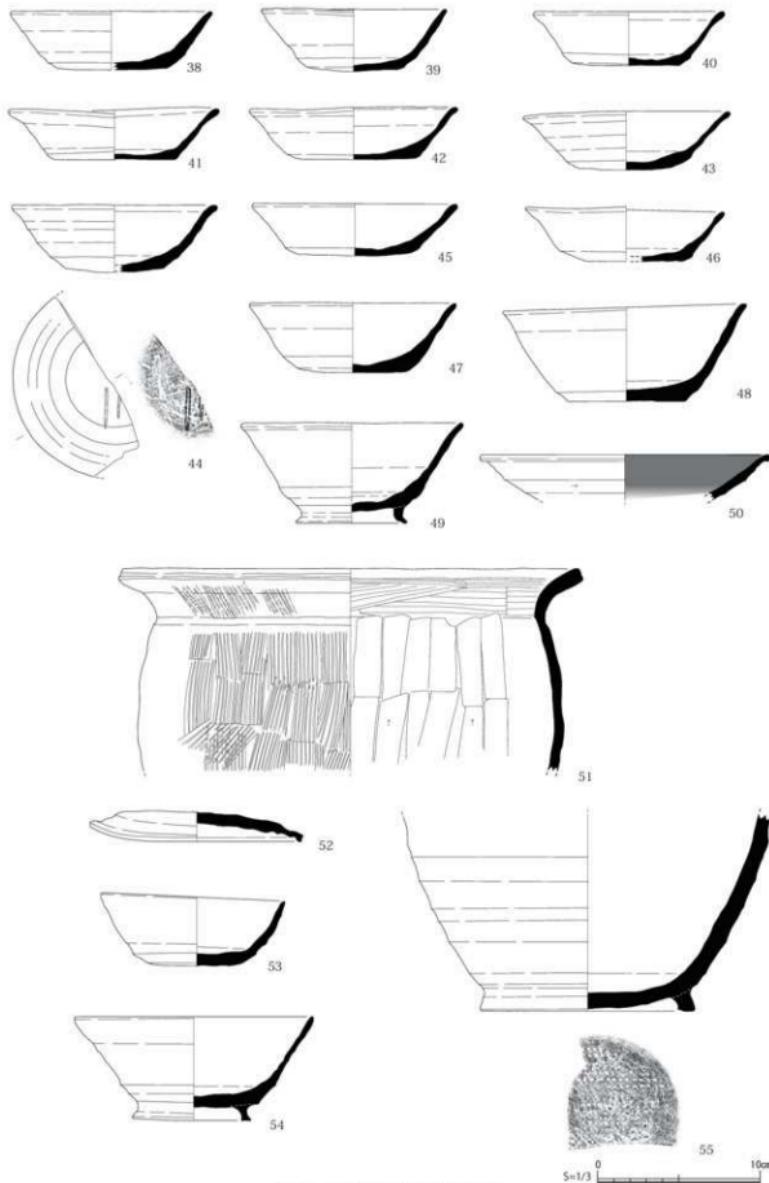


Fig.32 土坑 SK033 出土遺物実測図

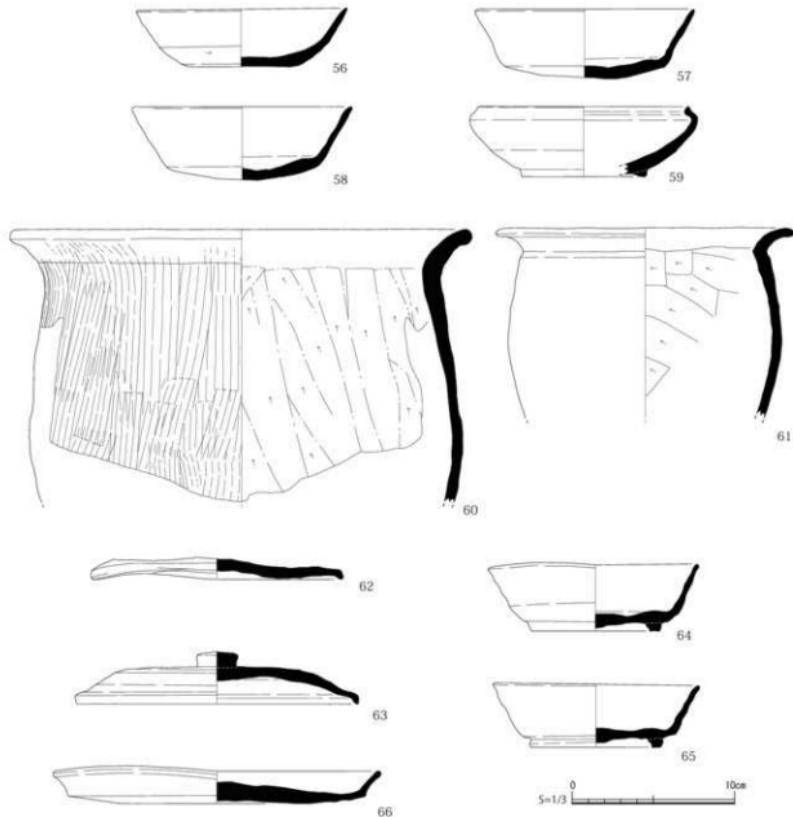


Fig.33 土坑SK035出土遺物実測図

土坑SK036出土遺物 (Fig.34) (67 ~ 75) 本線調査区33区・34区間に位置し、6層を包含層とし、7層上面での検出遺構。

土師器 杯 (67) 整形痕の残らないほどナデ整形を受けている。体部は緩やかに内湾し中位から垂直に立ち上がり端部は尖り気味に收まる。全体に器壁は厚い。(68)外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。外面底部から体部屈曲部にかけ2条の回転ヘラ削りを施す。体部は緩やかにわずかに内湾し伸び、端部は内外面から押えやや尖る。甕(69)口縁は短く屈曲し、肩部の張りが少なく、「く」字状に外反する口径を有する。胴部最大径は下部にあり、底部形状は不明。口縁端部の断面は四角をなす。外面は端部近くのみ刷毛目を磨り消す。頸部から胴部にかけては縱方向の荒い刷毛目が残る。内面は口縁部で横方向の荒い刷毛目、頸部下は下から上へ幅の広いヘラ削り痕を残す。

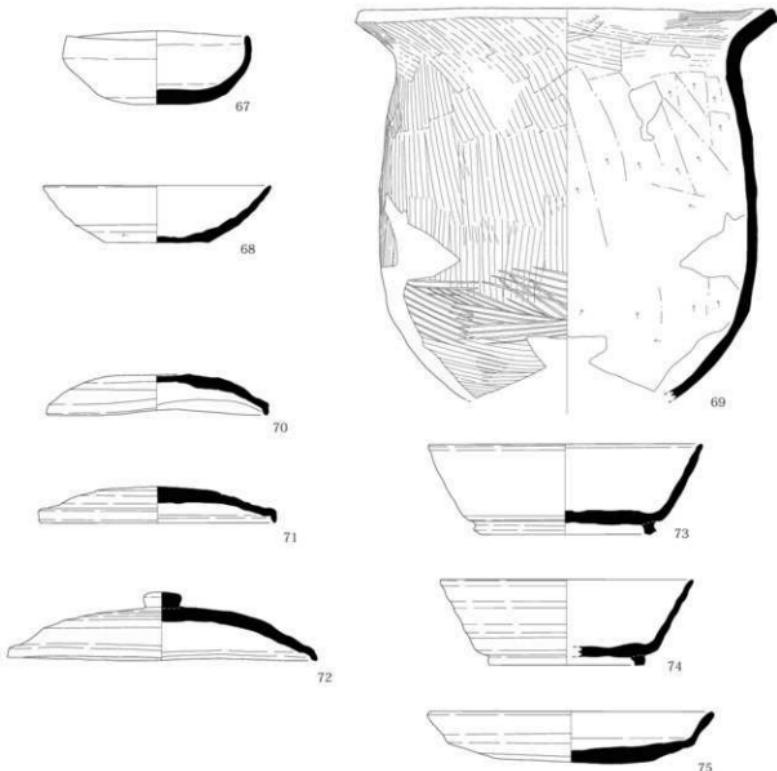


Fig.34 土坑SK036出土遗物实测图

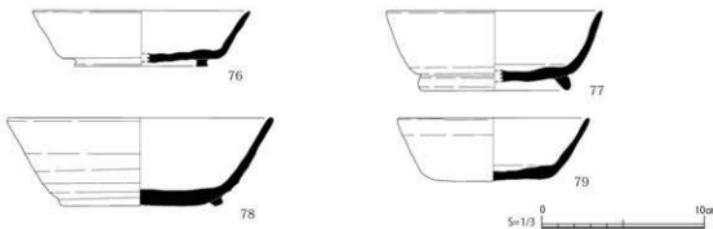


Fig.35 土坑SK037(76)·SK038(77)·SK039(78)·SK040(79)出土遗物实测图

須恵器 蓋 (70) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く、口縁内面近くで器壁は薄くなり、端部は折れ、丸く收める。(71) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く口縁内面近くで薄くなり端部は折れ、丸く收める。器高は (70) より更に低い。(72) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高はやや高く、口縁内面近くで薄くなり端部は直線的に收まる。つまみは中心部がわずかに盛り上がり、外面から良くなで付ける。杯 (73) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く收まる。高台は底部と体部屈曲部よりやや底部中心により貼り付ける。断面は逆台形をなす。(74) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。外面底部下位に2条の回転ヘラ削りを施す。体部は直線的に立ち上がり口縁端部は丸く收まる。高台は底部と体部屈曲部よりやや底部中心により貼り付ける。断面は逆台形をなす。

須恵器 皿 (75) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部はわずかに外湾し立ち上がる。口縁端部は丸く收まる。

土坑SK037出土遺物 (Fig.35) 須恵器 杯 (76) 高台付き杯。外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。底部内面及び体部は横ナデによる凹凸が残る。口縁部は薄く端部はやや尖る。高台は短く垂直に貼り付き、断面は台形を呈す。

土坑SK038出土遺物 (Fig.35) 須恵器 杯 (77) 高台付き杯。外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は底部付近からやや丸みを帯び、口縁部でやや肥厚し端部に至る。端部はやや尖る。

土坑SK039出土遺物 (Fig.35) 須恵器 杯 (78) 高台付き杯。外面底部は回転ヘラ切り、他は回転ナデ整形。底部器壁は厚いが、体部器壁は底部に比べると薄く仕上げる。底部から体部にかけての屈曲部はヘラ削りを施し丸みを付け、底部側に短く斜めに高台が貼り付く。

土坑SK040出土遺物 (Fig.35) 須恵器 杯 (79) 外面底部は回転ヘラ切り、他はナデ整形。

土坑SK041出土遺物 (Fig.36) 土師器 蓋 (80) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他はナデ整形。外面の一部に刷毛目が残る。口縁部はやや内湾しながら端部に至り、端部はヘラ切りにより整える。天井部中心に宝珠型つまみが貼り付く。

須恵器 蓋 (81) 外面天井部回転ヘラ切り後、他はナデ整形。口縁部はやや薄く端部は短く折れ、更に先端部は外反する。天井部中心には宝珠型のつまみが貼り付く。杯 (82) 外面底部は回転ヘラ切り後、ナデ整形。器壁内面には横ナデによる凹凸が細かな単位で残る。外面はナデ整形によりなめらかな表情を呈す。口縁部はわずかに肥厚し、端部は尖る。

土坑SK043出土遺物 (Fig.36) 土師器 杯 (83) 外面底部、回転ヘラ切り部の一部。小片であるため全体形は不明である。外面底部にヘラ書きを施すが、解説不明。

土坑SK044出土遺物 (Fig.37) (84～102) 本線調査区35区東の側道部上に位置し、6層を包含層とし、7層上面での検出遺構。遺物の出土状態はやや浮いてしまったが、遺構掘り込み上層で、重ねて横倒しの状態で出土。

土師器 杯 (84～88) は小型杯。外面底部は糸切り痕が明瞭に残り、他は横ナデ整形。体部は直線的に短く伸び、端部は丸く收まる。杯 (89～102) 外面底部は糸切り痕が明瞭に残り、他は横ナデ整形。体部は直線的に短く伸び端部は丸く收まる。器形形状は小型杯と同じである。また、底部と体部境の断面径が三角を呈するもの (97・99・100・101)、断面径が丸みを帯びるものとに分けられる。前者の調整は後者に比べると横ナデが強い。

土坑SK045出土遺物 (Fig.38) 本線35区東側の側道部上に位置し、6層を包含層とし、7層上面での検出遺構。須恵器 杯 (103) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり口縁端部はやや尖る。外面底部に2本の平行直線によりヘラ記号が残る。須恵器の焼成で用いて良いか迷うが、備前焼等でみられる火襷状の焼成痕が外外面に残る。甕 (104) 口縁は短く屈曲し肩部から胴部にかけ強くはり体部は球体をなす。頸部は強く外反する口縁にかけ「く」字状を呈する。端部は稜をなし断面の形状は三角となる。外面は格子目叩き、内面は同心円文の当て具痕からなる。頸部から口縁にかけては横ナデ整形。

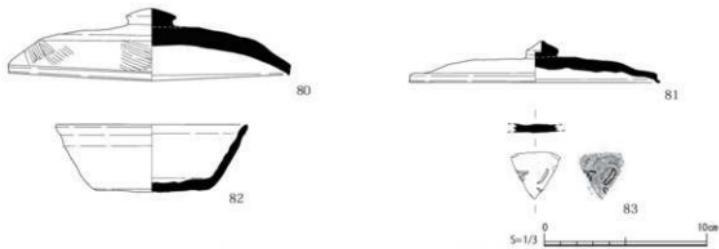


Fig.36 土坑SK041(80•81•82)、SK043(83)出土遺物実測図

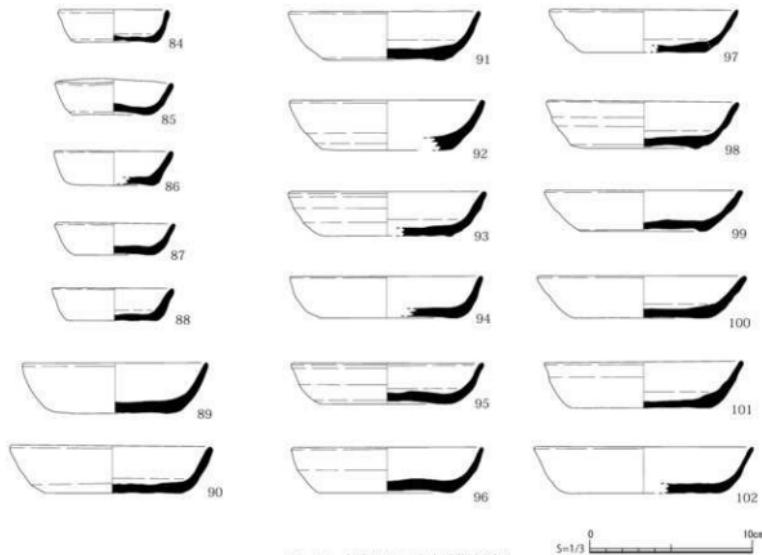


Fig.37 土坑SK044出土遺物実測図

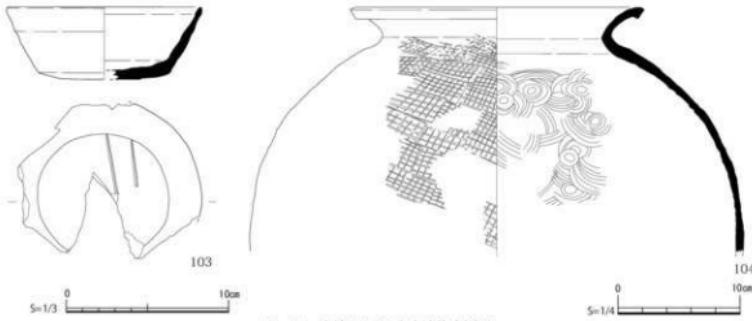


Fig.38 土坑SK045出土遺物実測図

土坑SK046出土遺物 (Fig.39) 本線35区東側の側道部上に位置する。

土師器 杯 (105) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり口縁端部内面で押えているため、やや尖る。

土坑SK047出土遺物 (Fig.39) 本線35区東側の側道部上に位置し 6 層を包含層とし、7 層上面での検出遺構。須恵器 蓋 (106) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く口縁は短く折れ、端部は丸く收める。全体に焼き歪みが見られる。

土坑SK049出土遺物 (Fig.39) 本線35区・36区間東側の側道部上に位置し、6 層を包含層とし、7 層上面での検出遺構。

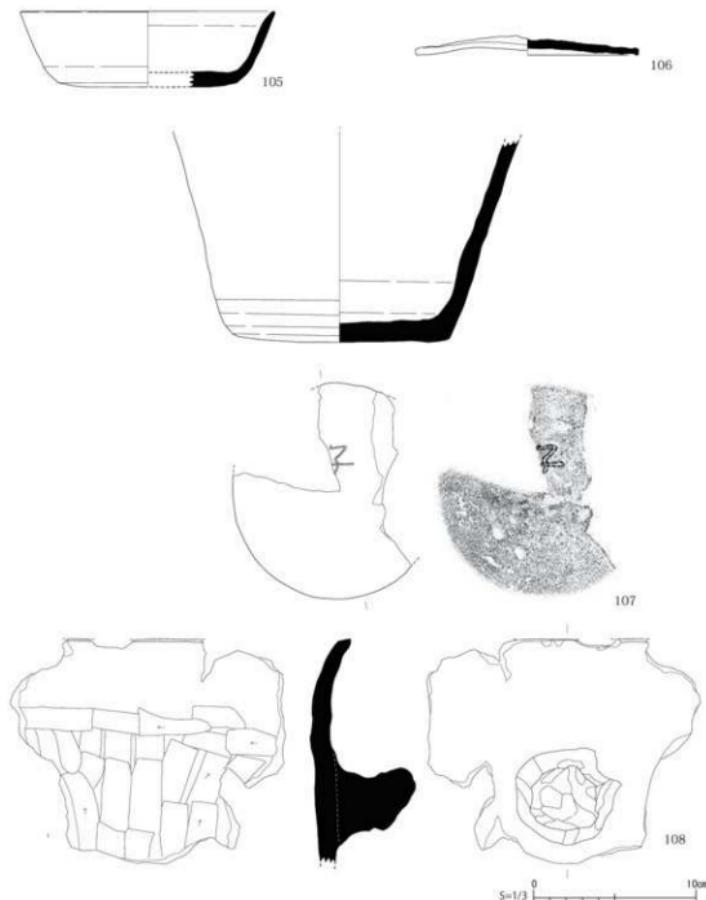


Fig.39 土坑 SK046(105)、SK047(106)、SK049(107)、SK050(108)出土遺物実測図

**土師器 壺** (107) 底部から胴部中位までの資料であるため器種は確定できたわけではない。瓶の可能性もある。底部から体部にかけて回転ナデにより整形される。底部近くで明確な稜線を有する調整が残る。外面底部にヘラ書きで「子」が施される。

**土坑SK050出土遺物** (Fig.39) 本線35区、36区間東側の側道部上に位置し、6層を包含層とし、7層上面での検出遺構。

**土師器 篓** (108) 口縁から胴部把手までの資料。口縁は端部近くで開き体部では直線である。把手は手握棒状で別途作成され、強く貼り付けられる。内面は胴部で縱方向ヘラ削り、口縁直下で横方向のヘラ削りを施し、口縁端部近くの内面はナデ整形。出土した部位は一部であることから籠である可能性もある。

**土坑SK051出土遺物** (Fig.40～41) 本線調査区33区東の側道部に位置し、7層を包含層とし、8層上面での検出遺構。

**土師器 杯** (109～125) (109) 外面底部は手持ちヘラ削り調整、他は横ナデ整形。杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。口縁端部はやや肥厚し、内面上部を押え端部直下に稜を有する。(110) 外面底部は手持ちヘラ削り調整、他は横ナデ整形。杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。口縁端部はやや肥厚し、内面上部を押え端部直下にわずかだがら稜を持つ。(111) 外面底部は手持ちヘラ削り調整、他は横ナデ整形。杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。口縁端部はやや肥厚し、内面上部を押え端部直下にわずかに稜を有する。(112) やや小ぶりな杯だが整形、調整は同じ。外面底部は手持ちヘラ削り調整、他は横ナデ整形。杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。やや内湾しながら伸びる口縁は端部直下で幅は変わらないが直立する。外面体部には横ナデが明瞭に残る。(113) 外面底部は手持ちヘラ削り調整、他は横ナデ整形。杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。口縁端部は外面で押えられ、稜を有する。(114) 外面底部は手持ちヘラ削り調整、他は横ナデ整形。杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。やや内湾しながら伸びる口縁は端部まで幅を変えず伸び丸く収める。(115) 外面底部は手持ちヘラ削り調整、他は横ナデ整形。杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。やや内湾しながら伸びる口縁は端部まで幅を変えず伸び丸く収める。(116) 外面底部は手持ちヘラ削り調整、他は横ナデ整形。杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。やや内湾しながら伸びる口縁は端部直下で短く直立する。外面体部には横ナデ痕が明瞭に残る。(117) 最も小ぶりな杯。底部から体部にかけて器壁は厚く、一単位毎の横ナデの幅も大きい。口縁は垂直に立ち端部は丸く収まる。(118) 外面底部は手持ちヘラ削り調整、他は横ナデ整形。杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。やや内湾しながら伸びる口縁は端部直下で幅は変わらないが直立する。底部近くは器壁が厚い。(119) 外面底部は手持ちヘラ削り調整、他は横ナデ整形。杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。外面は底部から口縁にかけ刷毛目調整が施される。(120) 杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。口縁端部でやや肥厚し外面端部下に横ナデを施し、やや尖り気味の端部を形作る。(121) 外面底部は手持ちヘラ削り調整、他は横ナデ整形。杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。口縁端部でやや肥厚し外面端部下に横ナデを施し、やや尖り気味の端部を形作る。(122) 口縁から体部にかけての部位。体部は横ナデ整形。杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。口縁端部でやや肥厚し外面端部下に横ナデを施し、やや尖り気味の端部を形作る。(123) これまでの杯と比べ体高は低く口径も広い。外面底部は手持ちヘラ削り調整、他は横ナデ整形。杯部は浅く緩やかに円弧を描き口縁に至る。底部は平らで体部は短く立ち上がり、口縁は端部上面を押え外反させる。高杯 (126, 127) 無蓋高杯の身にあたる。身底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は横ナデ整形。体部は直線的に伸び、口縁部で短く外反し端部は丸く収める。脚部接合面より下部の脚は貼り付け部より剥離する。(128) 同様に無蓋高杯の杯部から脚部に当たる。杯部は口縁が欠損し、脚部は接地面端部近くが欠損する低脚である。身底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は横ナデ整形。

**須恵器 蓋** (129・130) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は比較的高く天井部付

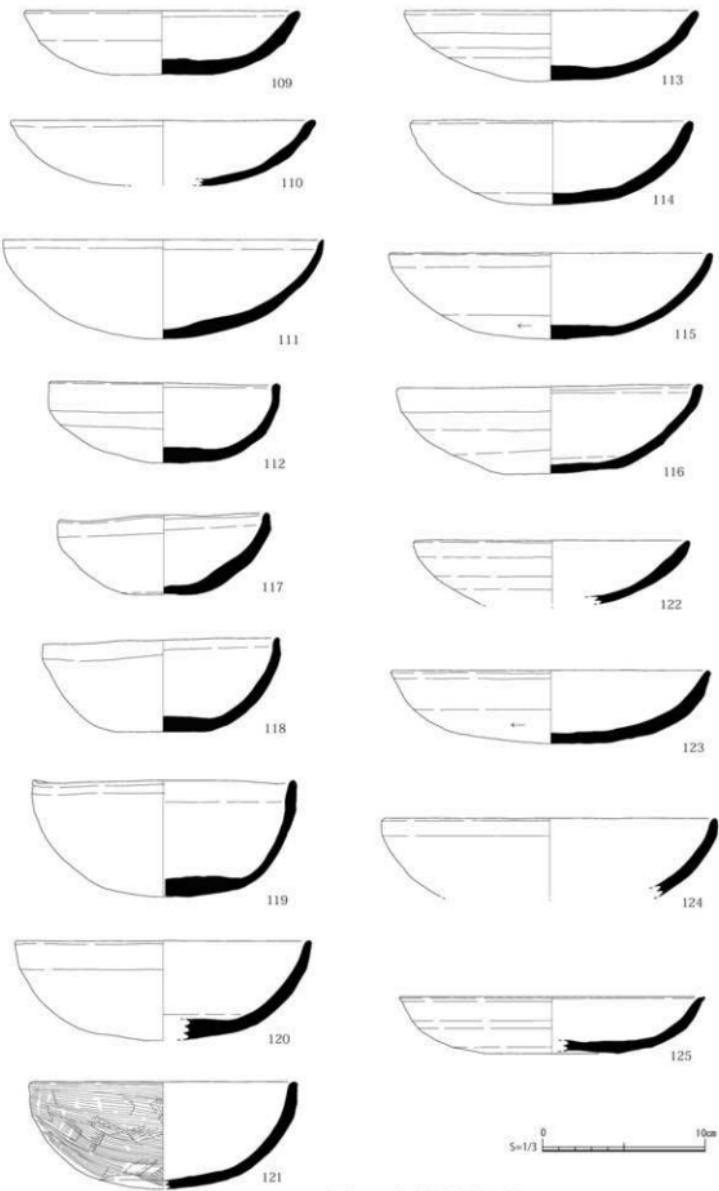


Fig.40 土坑SK051出土遺物實測圖一①

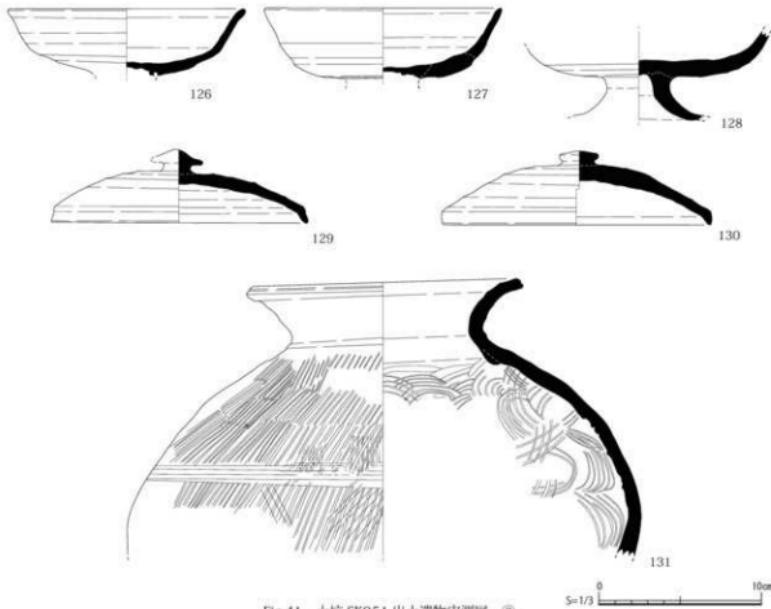


Fig.41 土坑 SK051 出土遺物実測図-②

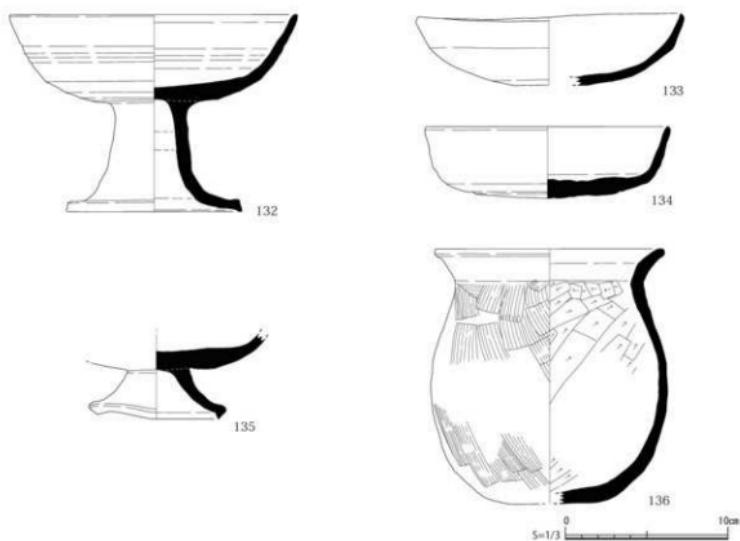


Fig.42 土坑 SK053(132)、SK054(133)、SK055(134)、SK056(135・136) 出土遺物実測図

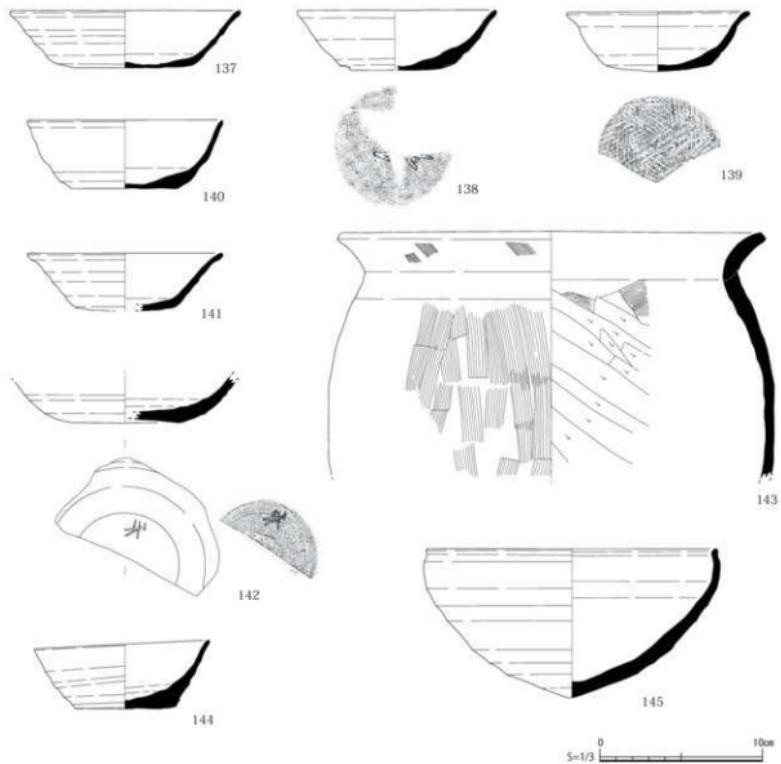


Fig.43 墓ST001出土遺物実測図

近は丸みを帯びる。口縁は短く折れ、端部は丸く收まる。広口壺（131）口縁は短く屈曲し肩部から胴部にかけ強く張り、体部は球体をなす。頸部は強く外反し口縁にかけ「く」字状を呈する。外面は平行叩き、内面は同心円の當て具痕からなる。外面肩部に刷毛目（一単位）による横一字文字の区画線が入る。頸部から口縁にかけては横ナデ整形を施す。

土坑SK053出土遺物（Fig.42）本線35区東の側道部に位置し、7層を包含層とし、8層上面での検出遺構。須恵器 高杯（132）無蓋高杯 杯部は外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。底部から体部にかけ1条の回転ヘラ割りを施す。脚部は中空で横ナデ整形、底部は強く外反し端部で短く折れる。端部は折れる部分で稜をなし断面は三角形を呈す。

土坑SK054出土遺物（Fig.42）本線35区東の側道部に位置し、8層上面での検出遺構にあたる。

土師器 杯（133）外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く收まる。横ナデ痕が体部外面、口縁端部直下に稜をわずかに残す程度残る。

土坑SK055出土遺物（Fig.42）本線35区東の側道部に位置し、7層を包含層とし、8層上面での検出遺構。

土師器 杯（134）外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。器壁は底部で厚く、体部は薄くなる。

口縁端部は丸く収まる。

土坑SK056出土遺物 (Fig.42) 本線35区東の側道部に位置し、7層を包含層とし、8層上面での検出遺構。

須恵器 高杯 (135) 無蓋高杯 杯部は外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。底部から体部にかけ1条の回転ヘラ削りを施す。脚部は中空で横ナデ整形、底部は強く外反し端部で短く折れる。端部は折れる部分で稜をなし断面は三角形を呈す。

土師器 豊 (136) 小型甕 体部の張りは少なく、頸部は「く」字形に屈曲する。端部は角ぼり、小口に沈線を施す。外面頸部下は荒い刷毛目調整を施すが、頸部外面から口縁内外面にかけては横ナデ整形が施される。墓ST001出土遺物 (Fig.43) 本線35区東の側道部に位置し、6層を包含層とし、7層上面での検出遺構。長方形の土坑であるが、北側に一段の高まりを有すること、下端がほぼ水平であること等から、他に見られる遺構とは違う可能性を想定し、土坑墓と調査段階で判断した。

土師器 杯 (137) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は横ナデによる稜を有し、直線的に伸びるが口縁でわざかに反り端部は丸く収まる。(138) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は横ナデによる稜を有し、直線的に伸びるが口縁でわざかに反り端部は丸く収まる。底部から体部にかけてはやや厚みを帯びる。外面底部にヘラ書き（文字不明）が残る。(139) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は横ナデによる稜を有し、内湾し伸びるが口縁部の強い横ナデによりやや外反し端部にいたる。(140) 杯の144に類似するが、底部から体部にかけての屈曲部に回転ヘラ削りが入り丸みを感じさせる仕上げとなる。(141) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は口縁直下で緩やかに外反し端部に至る。端部は丸く収める。杯 (142) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は器壁が厚いま立ち上がる。外面底部にヘラ書きを施す。内容は不明。甕 (143) 体部の張りは少なく、頸部は「く」字形に屈曲する。端部は角ぼり、小口に沈線を施す。外面頸部下は荒い刷毛目調整を施すが、頸部外面から口縁内外面にかけては横ナデ整形が施される。

須恵器 杯 (144) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち、口縁でわざかに反り端部は丸く収まる。外面底部から体部にかけての屈曲部に削りが入らず、断面は三角形を呈する。本遺構出土の他の土器は、屈曲部が回転ヘラ削りか横ナデ整形により、なだらかに表現される。鉢 (145) 底部が尖底となる鉄鉢模倣土器。底部から回転ヘラ削りを施し、口縁部から横ナデ整形となる。端部はやや内湾し短く立つ。

不明遺構SX001出土遺物—① (Fig.44) 本線35区東側の側道部に位置し、6層を包含層とし、7層上面で検出した遺構。遺構の性格は調査段階では掴めなかったが、出土遺物の一括性は高い。

土師器 蓋 (146) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。天井部は回転ヘラ削りにより肩部より一段下がる。(147) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は比較的高く天井部付近は丸みを帯びる。148・146と外面肩部から中心に向かっての調整は類似する。口縁は短く折れ、端部は丸く収まる。上辺の平らなつまみを付す。内面器壁に「姓」とヘラ書きを施す。(148) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は同形の器種に比べると直線的でやや低い体高を示す。口縁は短く折れ、端部は丸く収まる。上辺の平らなつまみを付す。(149) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。肩部の張りはなく、端部まで直線的に伸び、短く折れ先端は丸く収める。外面に「二百」とヘラ書きを施す。杯 (150) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。外面底部にナデ後、ヘラ書きが施される。文字内容は不明。(151) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち、口縁でわざかに反り端部は丸く収まる。外面底部から体部にかけ2条の回転ヘラ削りを施し器形を整え、外面底部に「大倉」とヘラ書きを施す。(152) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部はやや内湾しながら立ち上がり、口縁でわざかに反り、端部は上部を押えやや尖る。外面底部から体部にかけ2条の回転ヘラ削りを施し器形を整える。(153) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち、口縁でわざかに反り端部は丸く収まる。外面底部から体部にかけ3条の回転ヘラ削り

を施し器形を整える。口縁にわずかに焼き垂みが入る。(154) 面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち、口縁でわずかに反り端部はわずかに折れ短く直立する。やや肥厚し外面に稜を有する。外面底部から体部にかけ2条の回転ヘラ削りを施し器形を整える。(155) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部はやや内湾しながら立ち上がり、口縁でわずかに反り、端部は上部を押えやや尖る。外面底部から体部にかけ2条の回転ヘラ削りを施し器形を整える。(156) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部はやや内湾しながら立ち上がり、全体に丸みを帯びる。口縁でわずかに反り、端部は横ナデによりやや尖る。外面底部から体部にかけ2条の回転ヘラ削りを施し器形を整える。(157) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり底部は扁平を呈す。端部は横ナデにより丸く収まる。(158) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部はやや内湾しながら立ち上がり、口縁でわずかに反り、端部は横ナデによりやや尖る。底部は外面底部から体部にかけ4条の回転ヘラ削りを施し器形を整える。(159) 外面底部は回転ヘラ切りだが、横ナデ痕と境が明瞭ではない。強い横ナデにより器壁は波打つ。底部から体部にかけ器壁は厚い。椀(160) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち、口縁でわずかに反り端部は丸く収まる。底部から体部へ屈曲する最も端に高台を貼り付ける。

不明遺構SX001出土遺物—②(Fig.45) 土師器 瓢(161) 体部の張りは少なく、頸部は「く」字状に屈曲する。端部は丸みを帯びる。外面頸部下は荒い刷毛目調整を施すが、頸部外面から口縁内外面にかけては横ナデ整形を施し、刷毛目調整は残らない。(162) 体部の張りは少なく、頸部は「く」字状に屈曲する。端部は上部を押えているためか稜を有し、やや尖る。外面頸部下は荒い刷毛目調整を施すが、頸部外面から口縁内外面にかけては横ナデ整形を施し刷毛目は残らない。(163) 体部の張りは少なく、頸部は「く」字状に屈曲する。端部はわずかに角ばる。外面頸部下は荒い刷毛目調整を施すが、頸部外面から口縁内外面にかけては横ナデ整形を施し、口縁内面に横方向の刷毛目が一部残る。(164) 体部の張りは少なく、頸部は「く」字状に屈曲する。端部はわずかに角ばる。外面頸部下は荒い刷毛目調整を施すが、頸部外面から口縁内外面にかけては横ナデ整形を施し、口縁内面に斜め及び横方向の刷毛目が一部残る。(165) 体部の張りはなく、外反する口縁から頸部下は垂直に落ち、底部に至る。口縁端部は丸みを帯びる。外面は縱方向の刷毛目を施し、内面には中段より下部に縱方向のヘラ削り、頸部下にかけて斜め上方への刷毛目を施す。また、頸部下、口縁との屈曲下にわずかに横方向の刷毛目が残る。

不明遺構SX001出土遺物—③(Fig.46) 土師器 瓢(166) 体部の張りはなく、外反する口縁から頸部下は垂直に落ち、底部へ向かう。口縁端部は端部へラ調整を受けているためやや角ばる。外面は縱方向の刷毛目を施し、内面には縱方向のヘラ削り、口縁内部には横方向の刷毛目を施す。また、頸部下、口縁との屈曲下にわずかに横方向の刷毛目が残る。(167) 体部は球体を呈し底部は丸底となる。頸部は強く外反し「く」字状を呈し、端部は丸く収まる。外面はナデ整形により刷毛目などの調整痕は残らない。内面は底部から指頭圧痕、中位からは下から上部へのヘラ削り痕が明瞭に残る。

石製品 磨石(168) 石材はリソイダイドでキメ細やかな表面を呈する。使用面は2面。1面は磨り面的な磨り痕が残り、もう一面には刃部削りに使用したと見られる面が残る。両端は製作時か使用時かは不明だが欠損している。

不明遺構SX001出土遺物—④(Fig.47) 須恵器 蓋(169) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く口縁内面近くで薄く端部は折れ、丸く収める。(170) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く口縁内面近くで薄くなり端部は折れ、丸く収める。器壁にやや厚みを帯びる。(171) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く口縁内面近くで薄く端部は折れ、丸く収める。(172) 外面天井部回転ヘラ切り、他はナデ整形。器高は低く、口縁は横ナデにより稜を有す。端部は短く折れ丸く収まる。全体に焼き垂みあり。(173) 外面天井部回転ヘラ切り、他はナデ整形。器高は低く、口縁は横ナデにより稜を有す。端部は短く折れ丸く収まる。(174) 外面天井部回転ヘラ切り、他はナデ整形。器高は低く、口縁は横ナデにより稜を有す。端部は短く折れ丸く収まる。(175) 外面天井部は

回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く口縁内面近くで薄く端部は折れ、丸く収める。これまでの蓋と違い体高を持ち、つまみ付きの蓋に器形は類似する。(176) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。宝珠型のつまみが付き、体高が低く口径も小さい。(177) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く口縁内面近くで薄く端部は折れ、丸く収める。天井部から口縁部にかけ稜を有せず直線的に伸びる。つまみ貼り付け痕が残る。(179) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く口縁内面近くで薄く端部は折れ、丸く収める。口径、器高とも最大径を呈する。つまみは宝珠型を付す。(180) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く、口縁内面近くで薄く端部は折れ、丸く収める。33と比べ、天井部の回転ヘラ削りが顯著で中心部つまみを付す位置が低くなる特徴を有する。口径、器高とも最大径を呈する。つまみは宝珠形を付す。(181) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く口縁内面近くで薄く端部は折れ、丸く収める。口縁部近くで角度を持ち端部に至り体高を高くする。つまみはボタン状で上面はほぼ水平。(182) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く口縁内面近くで薄く端部は折れ、丸く収める。焼き歪みが酷く詳細な形状を見て取ることはできないが、高い器高を有するタイプと考えられる。つまみはボタン状で上面は水平。(183) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く口縁内面近くで薄く端部は折れ、丸く収める。天井部に棱を残しヘラ削りを施す。つまみはボタン状で上辺は水平。(184) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く口縁内面近くで薄く端部は折れ、丸く収める。天井部はヘラ削りにより水平をなし、上部が丸みを帯びるつまみを有す。

須恵器 杯 (185) 全体的に丸みを帯び、外面底部に回転ヘラ削りを有し他は回転ナデ整形。体部は直線的に伸び端部は丸く収める。底部は平底と言うより、丸底に近い感もある。(186) 全体的に丸みを帯び、外面底部に回転ヘラ削りを有し、他は回転ナデ整形。体部は直線的に伸び端部は丸く収める。41同様底部に丸みを帯びる特徴を有する。(187) 全体的に丸みを帯び、外面底部に回転ヘラ削りを有し、他は回転ナデ整形。体部は直線的に伸び端部は丸く収める。(188) 全体的に丸みを帯び、外面底部に回転ヘラ削りを有し、他は回転ナデ整形。体部は直線的に伸び端部は丸く収める。底部は水平を呈す。(189) 全体的に丸みを帯び、外面底部に回転ヘラ削りを有し、他は回転ナデ整形。体部は直線的に伸び端部は丸く収める。底部は丸みを帯びる。器壁の一部に火襷状の痕跡を有す。(190) 全体的に丸みを帯び、外面底部に回転ヘラ削りを有し、他は回転ナデ整形。体部は直線的に伸び端部は丸く収める。底部に丸みを帯びる。(191) 器壁が厚く、持った際に重量感を有する。全体的に丸みを有し、外面底部に回転ヘラ削りを有し他は回転ナデ整形。体部は直線的に伸び端部は丸く収める。(192) 全体的に丸みを有し、外面底部に回転ヘラ削りを有し他は回転ナデ整形。体部は直線的に伸び端部は丸く収める。器形の特徴として土師器杯に類似する部分を多く有し、体部のわずかな反りに最も現れる。

不明遺構SX001出土遺物-⑤ (Fig.48) 須恵器 高台付き杯 (193) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり口縁端部は丸く収まる。高台は屈曲部よりやや内に位置し、断面が逆台形を呈し強くなで付ける。(194) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり口縁端部は丸く収まる。内面屈曲部で横ナデにより窪み、外面の屈曲部にまで及ぶ。高台は屈曲部よりやや内に位置し、断面が逆台形を呈し強くなで付ける。(195) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり口縁端部は丸く収まる。高台は屈曲部よりやや内に位置し、断面が逆台形を呈し強くなで付ける。(196) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり口縁端部は丸く収まる。内面底部は横ナデにより大きく波打ち、器壁も厚い。高台は屈曲部よりやや内に位置し、断面が逆台形を呈し強くなで付ける。(197) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。外面底部と体部の屈曲部は、高台を貼り付ける位置まで強く回転ヘラ削りが施されるため底部が丸みを帯びる。体部は直線的に立ち上がり口縁端部は丸く収まる。高台は屈曲部よりやや内に位置し、断面が逆台形を呈し強くなで付ける。(198) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線

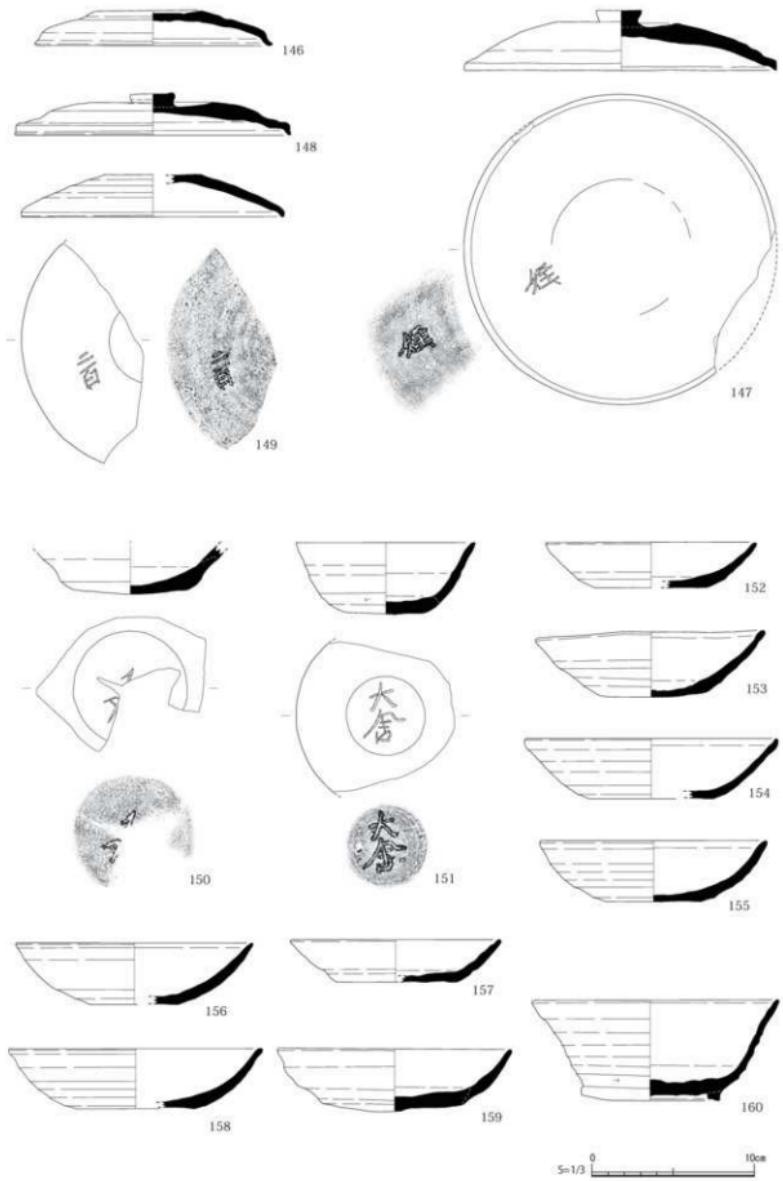
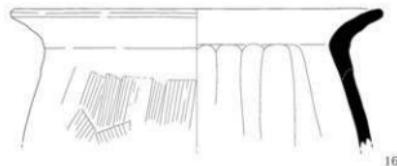
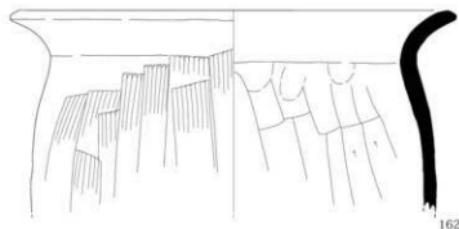


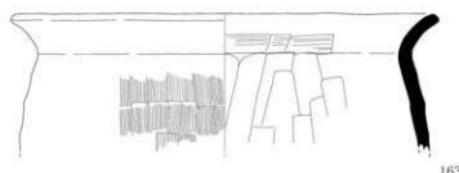
Fig.44 不明遺構SX001出土遺物実測図—①



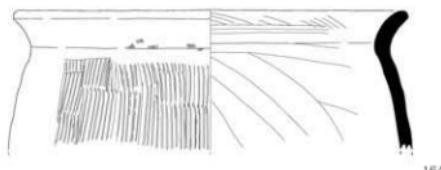
161



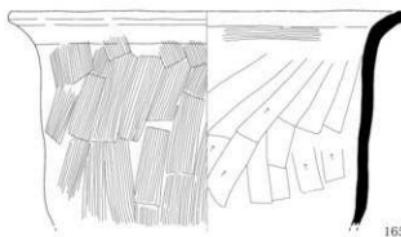
162



163



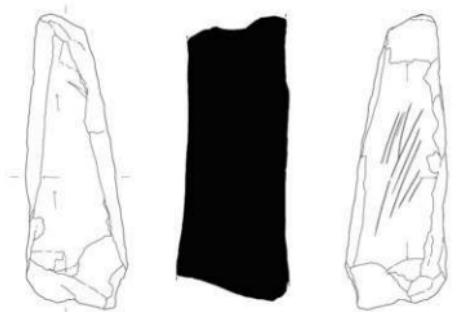
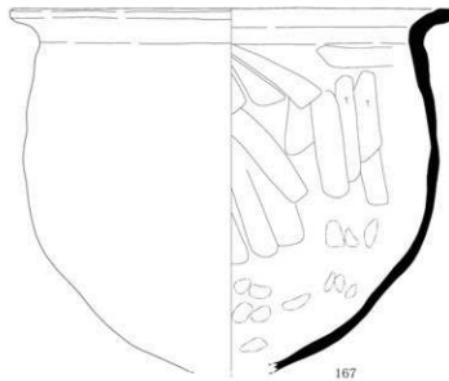
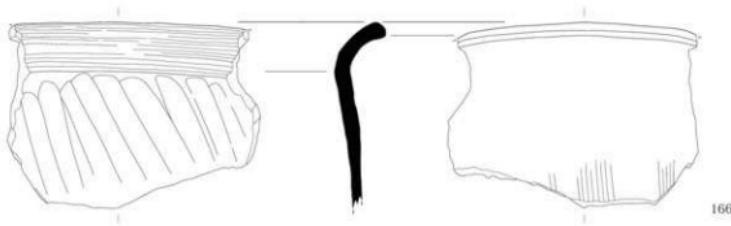
164



165

5=1/3 0 100

Fig.45 不明遺構SX001出土遺物実測図一②



5=1/3 0 10cm

Fig.46 不明遺構SX001出土遺物実測図-③

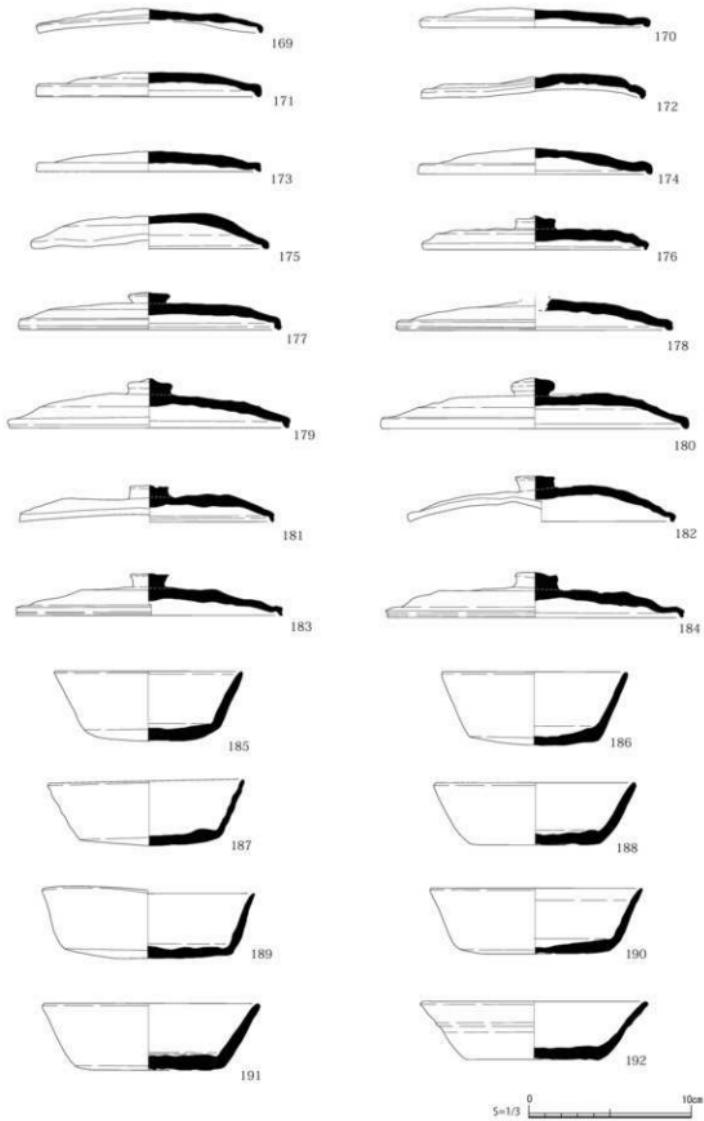


Fig.47 不明遺構 SX001 出土遺物実測図-④

的に立ち上がり口縁端部はわずかに外反し丸く收まる。底部から底部にかけ横ナデが強く、稜を残す。高台は屈曲部よりやや内に位置し、断面は四角形を呈し強くなで付ける。(199) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり口縁端部は丸く收まる。口縁端部外面に横ナデによる浅い沈線を巡らす。高台は屈曲部よりやや内に位置し、断面は逆三角形を呈しヘラを用いなで付ける。(200) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり口縁端部は丸く收まる。高台は屈曲部よりやや内に位置し、内側に稜を有する。(201) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり口縁端部は丸く收まる。高台は屈曲部に接し、外側貼り付けは一部体部にかかる。外表面端部に端部わずかに稜をなす。(202) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり口縁端部はやや尖る。端部内面では横ナデによりわずかに外反する。高台は屈曲部よりやや内に位置し、短く先端が尖り内に入る断面を呈す。回転調整は受けおらず、手持ちによりのちに貼り付けられた高台と見える。(203) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり口縁端部は丸く收まる。高台を貼り付ける部分は、底部回転ヘラ削りにより屈曲部に向かい斜め上方に緩やかな傾斜を有する位置に、外面に稜を有する高台をなで付ける。(204) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり口縁端部は丸く收まる。高台は接合面より剥離し残っていないが、屈曲部よりやや内に位置し、おそらく断面が逆台形をなす高台が貼り付いていたものと考えられる。

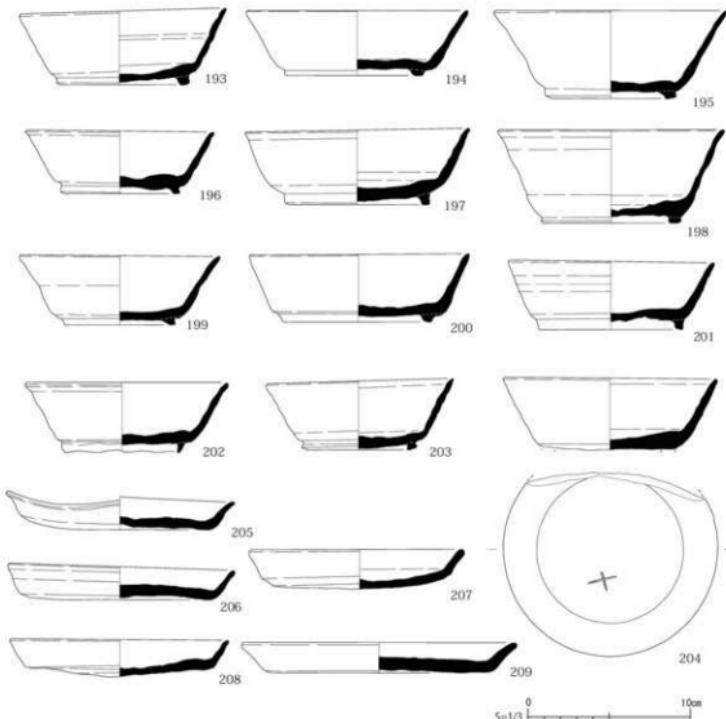
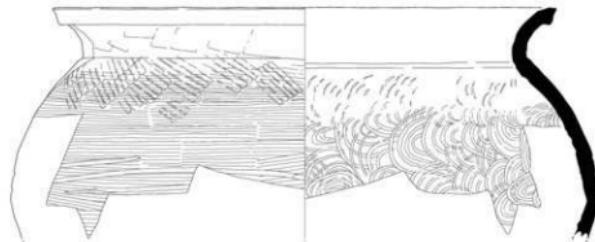


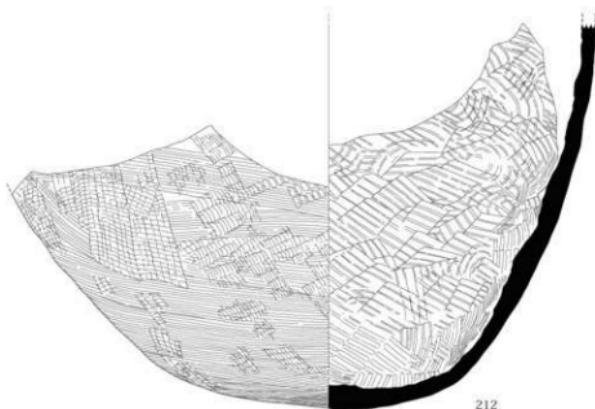
Fig.48 不明遺構 SX001 出土遺物実測図—⑤



210



211



212

5=1/3 0 10cm

Fig.49 不明遺構SX001出土遺物実測図一⑥

皿(205) 外面底部に体部との屈曲近くまで回転ヘラ削りを施し、横ナデにより体部及び内面底部を整形する。体部は短く端部近くで先細り、やや外反する。(206) 外面底部に体部との屈曲近くまで回転ヘラ削りを施し、横ナデにより体部及び内面底部を整形する。外面底部は中心と屈曲部間に回転ヘラ削りにより窪む。体部は短く端部は丸く收まる。(207) 外面底部に体部との屈曲近くまで回転ヘラ削りを施し、横ナデにより体部及び内面底部を整形する。底部外面は緩やかな弧を描き丸みを帯びる器形をなす。体部はやや肥厚し口縁端部は丸く收める。(208) 外面底部に体部との屈曲近くまで回転ヘラ削りを施し、横ナデにより体部及び内面底部を整形する。底部外面中心が回転ヘラ削りによりやや尖り、座りが悪い。底部屈曲部でやや肥厚し体部は薄く端部でわずかに外反する。(209) 外面底部に体部との屈曲近くまで回転ヘラ削りを施し、横ナデにより体部及び内面底部を整形する。外面底部が上げ底気味の整形となる。底面及び体部は他と比べ器壁が厚い。端部は緩く外反する。

不明遺構SX001出土遺物-⑥ (Fig.49) 須恵器 罐(210) 短頸壺。外面底部は回転ヘラ切り後、ナデ。底部から1/3の位置まで格子目叩きにより成形後、回転ヘラ削り。他は回転ナデ整形。内面は横ナデ整形後、下部から上方に引き上げるようにヘラ削り。肩部に最大径を有し頸部に至る。頸部は短く直立し、端部に至り外反する。甕(211) 広口甕。丸みを帯びる体部は肩部に最大径を有し、下部に行くにしたがい急速にすぼまる。肩部までの資料であるため下部の形状は不明。外面は平行叩きの後、横向方向の刷毛目調整、内面は明瞭に同心円文の當て具痕を残し、頸部近くでナデにより薄くなる。頸部は緩やかに外反し、端部では外面に稜を残し断面は三角形を呈す。(212) 長胴型の胴部中位より底部にかけての部位。断面に粘土紐輪積みの跡をわずかに見ることができる。外面は格子目叩き痕を刷毛目で磨り消したのち、一部に更に格子目叩きを施す。内面は同心円当て具痕をわずかに残し、平行に目のあるヘラ状の工具で調整を施す。

不明遺構SX002出土遺物-① (Fig.50) 本線調査区35区に隣接し6層を遺物包含層とし、7層上面で検出した遺構。

土師器 蓋(213) ヘラ書きの部位のみであるが、破片に蓋の特徴を有することから、215同様外面体部にヘラ書きを有する蓋と判断した。ヘラ書きは「成」の一文字であろう。(214) 本資料もヘラ書きを有する土器片である。外面の調整痕から蓋の一部と判断する。ヘラ書き文字の一部を見ることができると、文字判読には至っていない。(215) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く、口縁内面近くで薄く端部は折れ、丸く收める。頂部に宝珠形つまみを付す。また、口縁にむかい落ちる外面中位に「成」とヘラ書きを施す。

杯(216) 外面底部は切り離し後の調整により痕跡を見ることがないが、おそらく回転ヘラ切り離しであろう。他は横ナデ整形。底部器壁は薄く、体部で肥厚し、端部付近で最も厚みを帯びる。端部は内面にわずかに稜を有するが全体には不明瞭な部分もある。(217) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く收まる。外面の底部と体部境に2本の沈線を巡らす。また、外面底部には約半分の面積にヘラ書きで「縦成」と施す。(218) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く收まる。外面は横ナデ整形の結果、ヘラ削り等の調整は見られない。(219) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く收まる。底部から体部にかけての屈曲部は、内面に横ナデによる緩やかな傾斜を有し、外面に2条からなる回転ヘラ削りを施すことで断面は三角形を呈す。(220) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く收まる。体部は横ナデにより器壁を薄く整形し、底面との屈曲部から3条の回転ヘラ削りを施すことで丸みを帯びる端正な器形に仕上げている。(221) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く收まる。端部内面にわずかに稜を有するが、全体には不明瞭な部分もある。(222) 本資料も器種の整形及び調整痕から杯底部と判断した。外面底部にヘラ書きで「舍」を見ることができ、他資料で「大舍」とあることからその一部と判断した。(223) 小片であるが、器面整形及び調整の状態から杯底部と判断した。判読はできなかつたが、外面底部にヘラ書きによる文字の一部が残る。

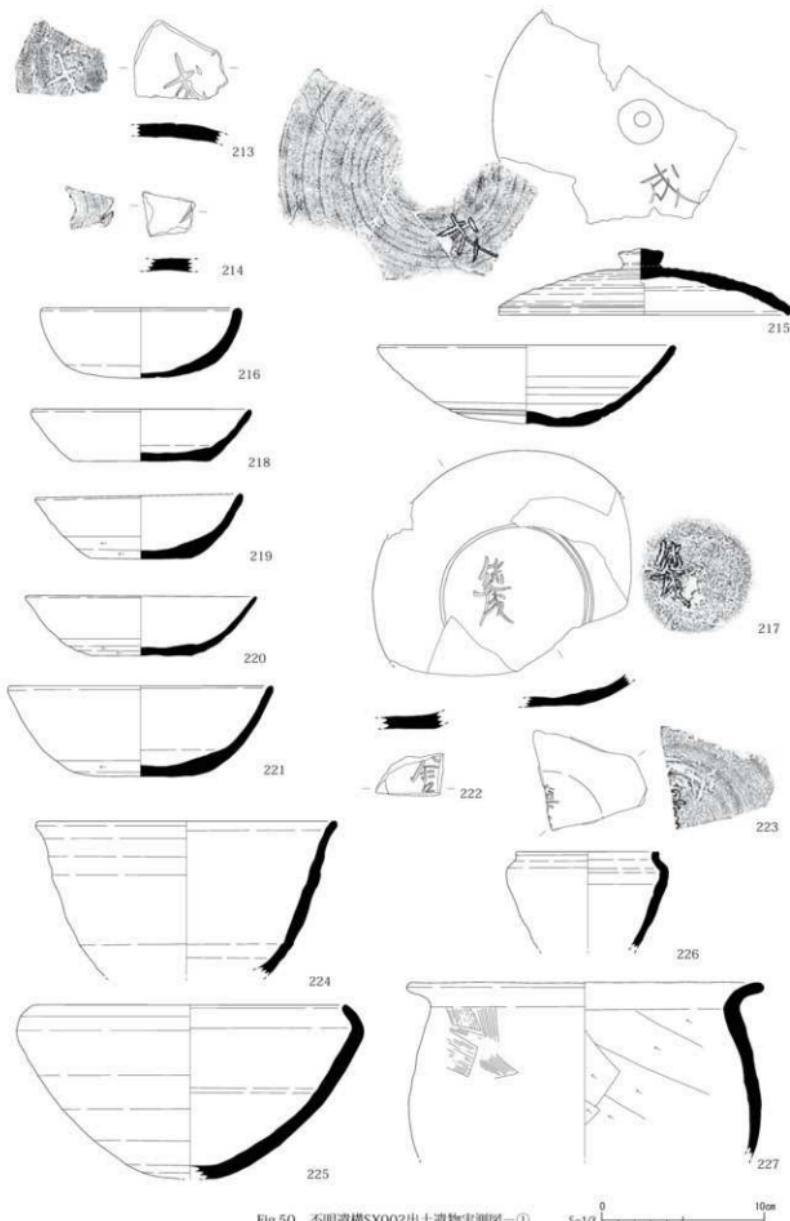


Fig.50 不明遺構SX002出土遺物実測図-①

0 10cm  
S=1/3

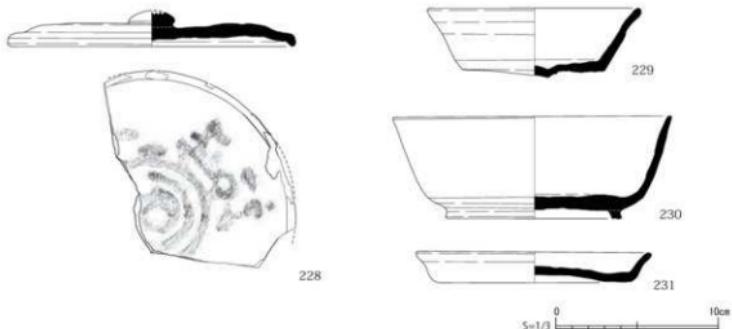


Fig.51 不明遺構 SX002 出土遺物実測図一②

鉢（224）口縁から体部にかけての部位。底部は欠損し残らない。横ナデ整形により緩やかに開きながら立ち上がり、端部でわずかに外反する。（225）底部尖底の鉢。横ナデ整形により立ち上がる。口縁直下で短く内に折れ、端部は内面に稜をなし四角く收める。

壺（226）短頸壺。底部は欠損し形状は不明だが、本線部37区で出土している「托」の可能性もある。横ナデ整形後、ナデ。口縁直下で内に折れ、端部で直立し四角く收める。

甕（227）体部の張りは少なく頸部は「く」字状に屈曲する。口縁は端部にかけ強く外反し、端部は丸く收める。外面体部は、わずかに刷毛目調整を施し、内面は下から上へへら削りを施す。頸部外面から口縁内外面にかけては横ナデ整形。

不明遺構SX002出土遺物一② (Fig.51) 須恵器 蓋：転用硯（228）外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く端部は短く折れ、丸く收める。内面は横ナデ整形。つまみは頂部がわずかに欠損するが、本来はやや丸みを帯びると思われる。内面は磨れ痕と朱墨が認められる。

杯（229）外面底部に回転ヘラ削りを有し、他は回転ナデ整形を施す。体部は直線的に伸び、口縁中位で角度が変わり外反、端部近くで肥厚し端部は丸く收める。底部回転ヘラ削り後調整が施されず、中心部がわずかに尖底状に残る。

高台付き杯（230）外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く收まる。高台は屈曲部よりやや内に位置し、断面は方形を呈し、強くなで付ける。

皿（231）外面底部に体部との屈曲近くまで回転ヘラ削りを施し、横ナデにより体部及び内面底部を整形する。体部は短く端部近くで先細り、やや外反する。

調査区出土遺物一① (Fig.52) 須恵器蓋（232）天井部中央に基部の太いつまみを貼り付ける。口縁部との境には凸線が巡り、口縁部はやや肥厚し垂直に端部に至る。端部は内傾しわずかに沈線を巡らす。天井部外面に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ整形を行う。蓋杯（蓋）（233）天井は丸みを帯び、口縁部との境には稜を巡らせている。端部は内傾する凹面をなす。天井部外面に回転ヘラ削り調整、他の各部分は回転ナデ整形を行う。蓋杯（蓋）（234）天井は丸みを帯び口縁部との境には稜が退化したと考えられる沈線が見られ、口縁部は内湾気味に下がり端部に至る。端部はわずかに内傾するが退化し、凹面はなくわずかに平坦面を残す。蓋杯（身）（235）立ち上がりは比較的高く、端部は丸く上げられる。受部は水平に外に伸び、端部は丸い。底部は深く丸い。底部外面に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ整形。（236）立ち上がりは短く内傾し、端部はやや尖る。受部は横に伸び端部は丸い。底部は浅く、焼き歪みにより平坦面を呈す。底部外面に回転ヘラ削り調整を行う。

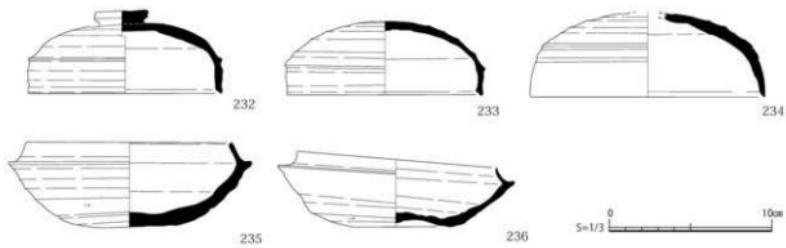


Fig.52 調査区出土遺物実測図-①

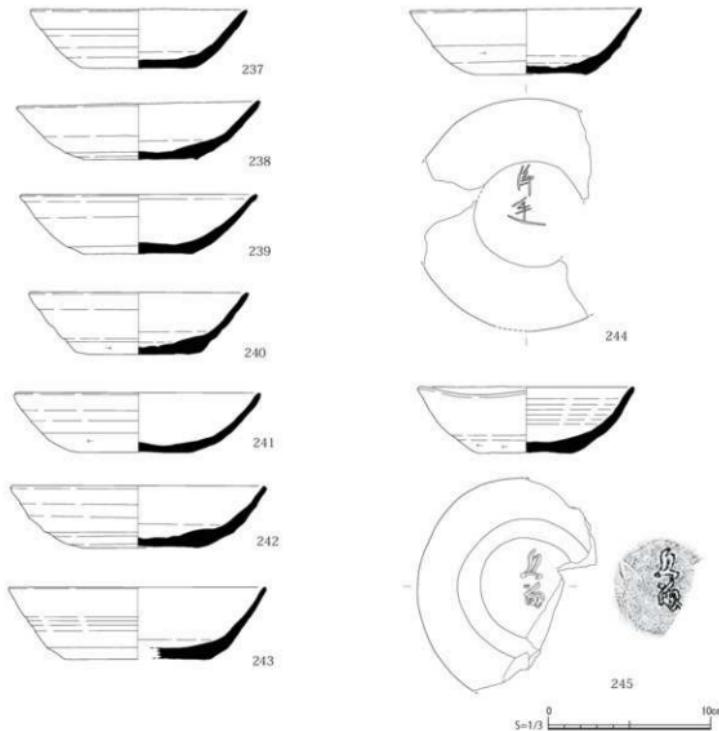


Fig.53 調査区出土遺物実測図-②

調査区出土遺物一② (Fig.53) 土師器 杯 (237) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり口縁端部はやや尖る。(238) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く収まる。外面底部と体部の屈曲部には2条の回転ヘラ削りを施す。(239) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く収まる。外面底部と体部の屈曲部には1条の回転ヘラ削りを施す。(240) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く収まる。外面底部と体部の屈曲部には1条の回転ヘラ削りを施す。(241) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部はやや丸みを帯び立ち上がり、口縁端部は丸く収まる。外面底部と体部の屈曲部には1条の回転ヘラ削りを施す。(242) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く収まる。外面底部と体部の屈曲部には3条の回転ヘラ削りを施す。(243) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く収まる。外面底部と体部の屈曲部にはやや広めの回転ヘラ削りを1条巡らす。

ヘラ書き文字が描かれる土器 杯 (244) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く収まる。外面底部と体部の屈曲部には2条の回転ヘラ削りを施す。外面底部中心に「淨口(庭か)」とヘラ書きを施す。(245) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。

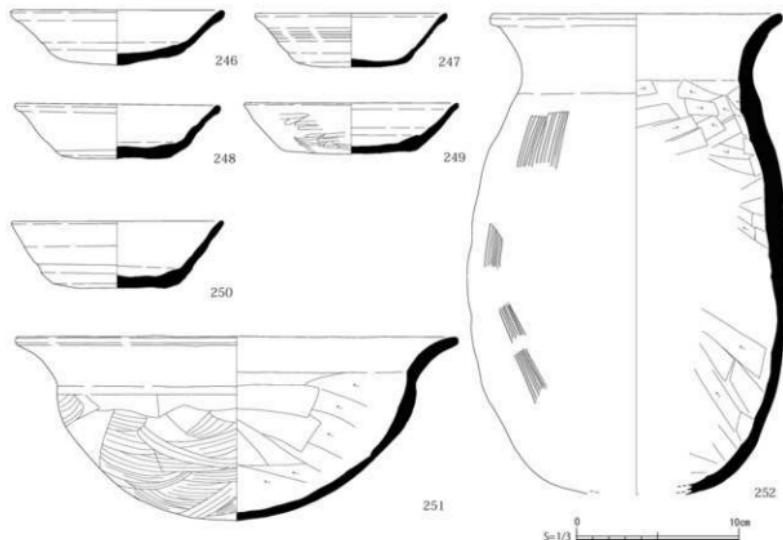


Fig.54 調査区出土遺物実測図一③

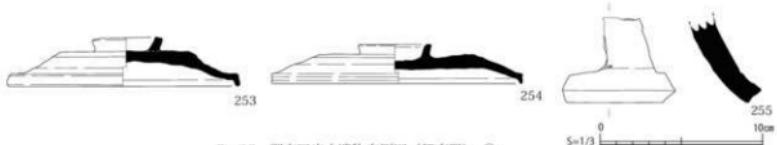


Fig.55 調査区出土遺物実測図(須恵器)一④

体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く収まる。外面底部と体部の屈曲部には1条の回転ヘラ削りを施す。外面底部の中心にヘラ書きを施す。

調査区出土遺物③ (Fig.54) 土師器 杯 (246) G-7Grid出土。外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁でやや肥厚し端部は丸く収まる。全面に丹塗りを施す。(247) F-7Grid出土。外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁で肥厚し端部は丸く収まる。体部外面にヘラ整形によるナデが施され、6条の浅い稜をなす。全面に丹塗りを施す。(248) F-4Grid、3層出土。外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁でやや肥厚し端部は丸く収まる。全面に丹塗りを施す。(249) G-4Grid、5層出土。外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がり、口縁でやや肥厚し端部は丸く収まる。外面にわずかにミガキ痕が見られる。全面に丹塗りを施す。(250) F-13Grid出土。外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線的に立ち上がる。外面底部から体部、屈曲部から2条の回転ヘラ削りを認める。土師器 鋼 (251) F-C-4+5Gridにかけて出土した。一部反転復元。鉢部外面には荒い刷毛目調整、内面は斜め上方へのヘラ削りを施す。頸部で強く外反し、口縁は外面とも刷毛目調整後ナデ。外面に煤付着。

土師器 袋 (252) F-G-5Grid 7層出土。器壁断面観察とヘラ削りの方向等を見る限り、胴部中位までと体部上半とに製作の段階を見ることができよう。器壁の厚さは、ヘラ削りの斜め上方へ削るか、横もしくは斜め下方への削りかに違いを見出すことができる。体部外面は縱方向の刷毛目調整後ナデを主体とするが大半は磨滅、風化等により器壁の表情を見ることができない。口縁部は頸部で一端すぼまり、端部に向け緩く外反する。底端部は断面が方形で小口側にわずかに崩れた沈線が巡る。

調査区出土遺物④ (Fig.55) 須恵器 蓋 (253) 外面天井部回転ヘラ切り、他は回転ナデ整形。天井部は比較的平らな面を有し、口縁部で内湾しながら端部に至る。端部は短く直角に折れる。天井部に輪状のつまみを貼り付ける。蓋 (254) 253と同形である。天井部の平坦面が中央に向かいやや落ちる。円面硯 (255) 内湾しながら立ち上がる部位には、2ヶ所に方形透かし切り込みを見ることができる。透かし底辺に横位沈線が巡る。

調査区出土遺物⑤ (Fig.56) 土師器 袋 (256) 頸部がわずかに直立し、端部に向け緩く外反し、端部外面に稜を有する。体部は卵倒型を呈すると考えられる。体部は外面は縱方向を主体とする荒い刷毛目、内面は横方向を主体とするヘラ削り、頸部から口縁部は外面に縱方向の刷毛目、内面は横方向の刷毛目調整が残る。(257) やや内湾し端部内外面に稜を有する。体部は中位に最大径を有し、球体を呈す。頸部と体部中位とのほぼ中間に、内面からの穿孔が一か所見られる。体部外面は荒い刷毛目調整、内面は斜め上方に引き上げるヘラ削り、口縁部内面には斜めに引き上げる刷毛目がわずかに残る。(258) 口縁部はやや内湾し、外面中位にわずかに稜を有する。体部は球体で、最大径を体部中位に有する。外面は体部下半では縱、横方向の雑な刷毛目を施し、上半では縱方向を主体とする刷毛面調整を施す。内面は下から上へを基本とするヘラ削りを全面に施す。頸部屈曲部から口縁端部にかけては横方向の刷毛目を施す。

壺 (259) 残存部位が少ないことから全体像の復元は難しい。出土部位は口縁部から体部へ移行する部位までである。口縁は体部との境の頸部でやや直立し、端部近くで強く外反する。体部は開き気味に下方へ伸びる、球体もしくは卵倒型の体部をなすと想像される。外面は頸部から体部にかけ縱方向を主体とする刷毛目調整、内面は口縁から頸部にかけ横方向の刷毛目を施し、外反する端部付近はなでる。頸部と体部の接点を消すように体部から頸部にかけ、ヘラ削りを施す。

調査区出土遺物⑥ (Fig.57) 土師器 壺 (260) 体部下半に最大径部を有するが、緩やかな球体をなす体部を示す。頸部ですぼまった口縁は、短いが強く外反し端部に至る。外面底部（最大径部まで）は縱、横からの刷毛目を、体部上半から頸部にかけては縱方向の刷毛目を施す。内面は、外反する口縁部に横方向の刷毛目を施した後に体部から頸部にまでやや幅の広いヘラ削りを施す。(261) 最大径部を体部中位に有し、球体をなす底部を有する。外面は頸部下から体部にかけて縱方向を主体とした刷毛目調整、内面は荒く方向の一一定しないヘラ削り、外反する頸部から口縁にかけて横方向の刷毛目を施す。(262) 脇部中位に最大径を持ち、

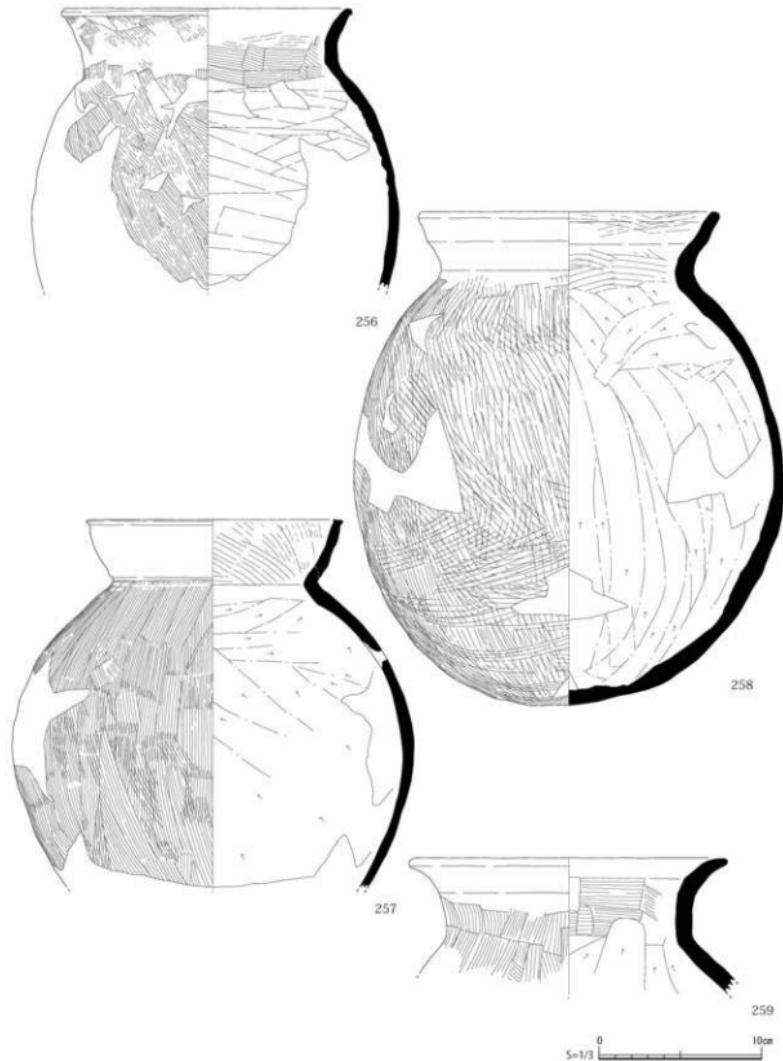
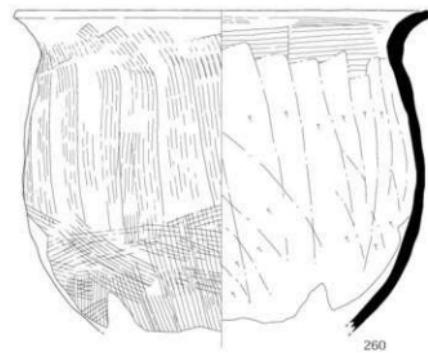
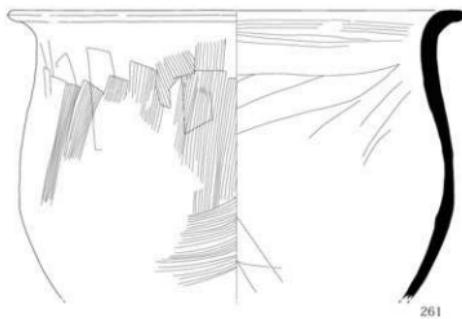


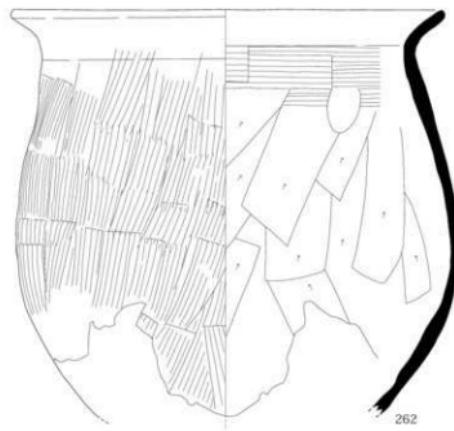
Fig.56 調査区出土遺物実測図一⑤



260



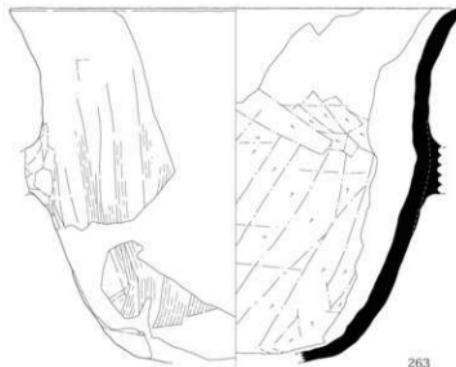
261



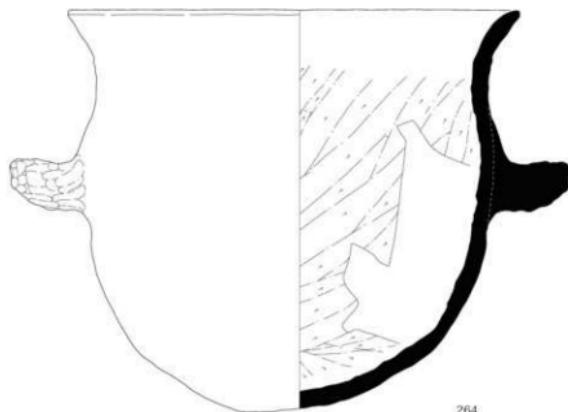
262

0  
5=1/3 10cm

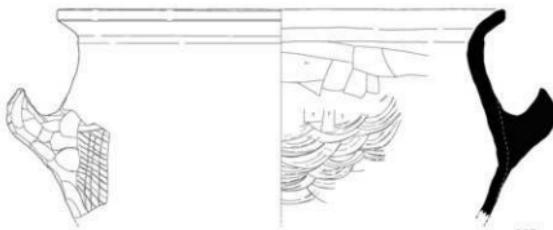
Fig.57 調査区出土遺物実測図一⑥



263



264



265

5x1/4 1cm 2mm

Fig.58 調査区出土遺物実測図一⑦

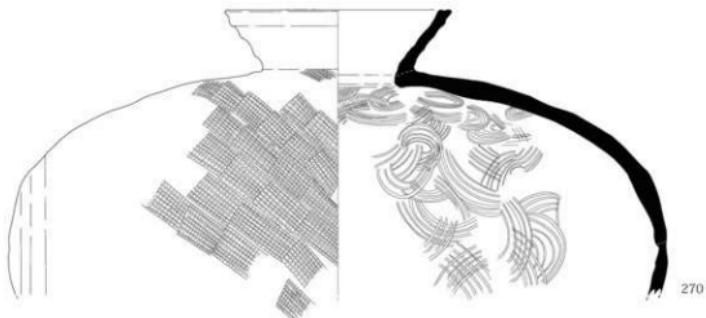
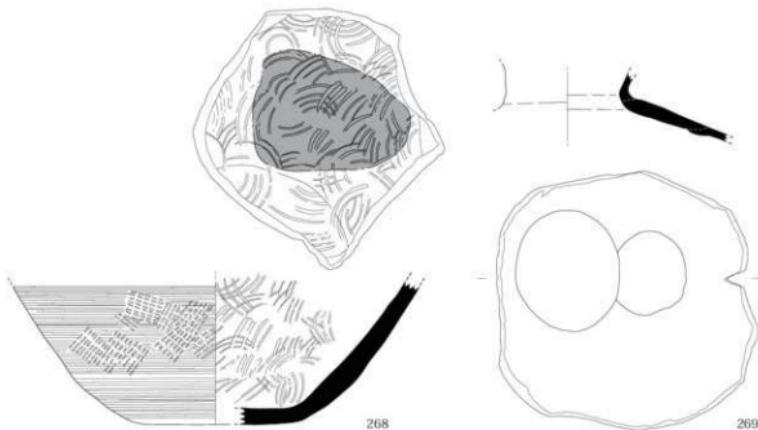
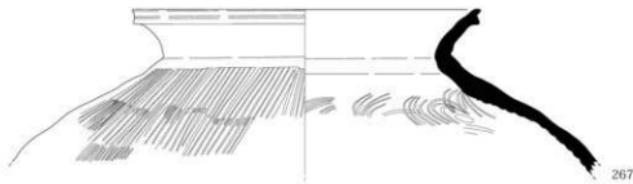
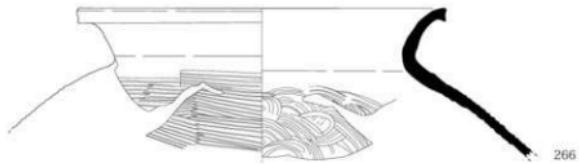


Fig.59 調査区出土遺物実測図-⑧

0  
5=1/3  
10cm

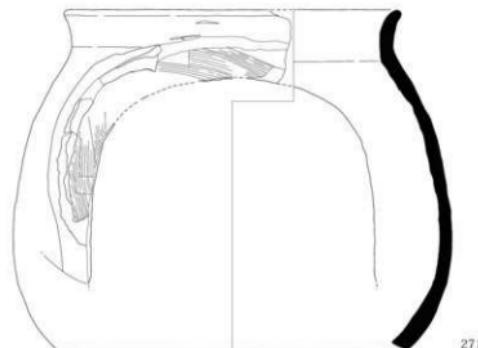
やや丸みを帯びる器形をなす。外面は頸部から体部中位まで縱方向の刷毛目、底部近くは残っていないが、磨滅もしくはナデ整形。内面は外面と同じく頸部中位までは下から上へのヘラ削りを明瞭に残すが、底部近くは希薄となる。内面頸部屈曲部に横方向の刷毛目を明瞭に残す。

調査区出土遺物一⑦ (Fig.58) 土師器 釜 (263) 器種の特徴として、口縁の開き、丸みを帯びた彫型の胴部、両側に貼り付く把手等を考慮すると、甑とも見てとれるが、底部近くの器壁の状態から蒸気穴を有しないことから釜と判断される。外面は縱方向を中心とした刷毛目調整、内面は底部から口縁直下までヘラ削りによる調整、口縁直下から端部を経て外面口縁下までナデ整形を施す。把手は胴部のほぼ中央に強く貼り付く。(264) 本資料は完形品として出土しているため、底部、蒸気穴がないことが確認できる。器形及び内外面調整は178とほぼ同じである。把手は棒状の完形で、胴部中位に水平に貼り付く。

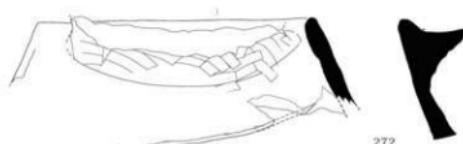
須恵器 把手付き甕 (265) 器種については、体部把手が貼り付く胴部中位より上のみであるため263、264の例もあることから確定ではない。胴部外面は平行叩きで、内面の頸部下までに同心円當て具痕が、頸部附近でヘラ削りが、強く外反する端部にかけて横ナデが施される。把手は、基部は棒状で、上方に向き、先端近くでは円柱を保ったまま尖る。外面は平行叩き、内面は同心円當て具痕が残る。

調査区出土遺物一⑧ (Fig.59) 須恵器 甕 (266・267) 口縁から肩部にかけての部位。体部から口縁にかけ断面は「く」字状を呈し、頸部から口縁にかけ強く外反する。端部は外面に棱を有し、断面は三角形を呈す。体部外面平行叩き、内面は同心円當て具痕を施す。(268) 甕体部下半から底部。甕としての用途を終えた体部から底部にかけての屈曲部は二次利用され、転用硯として使用される。破片は中心部の海となる部分のみ磨り痕が激しく當て具痕が浅くなる。

平瓶 (269) 横ナデ整形により頂部近くまで整形され、最後に浅く薄い蓋を付着させ天井部を塞ぐ。その後、



271



272

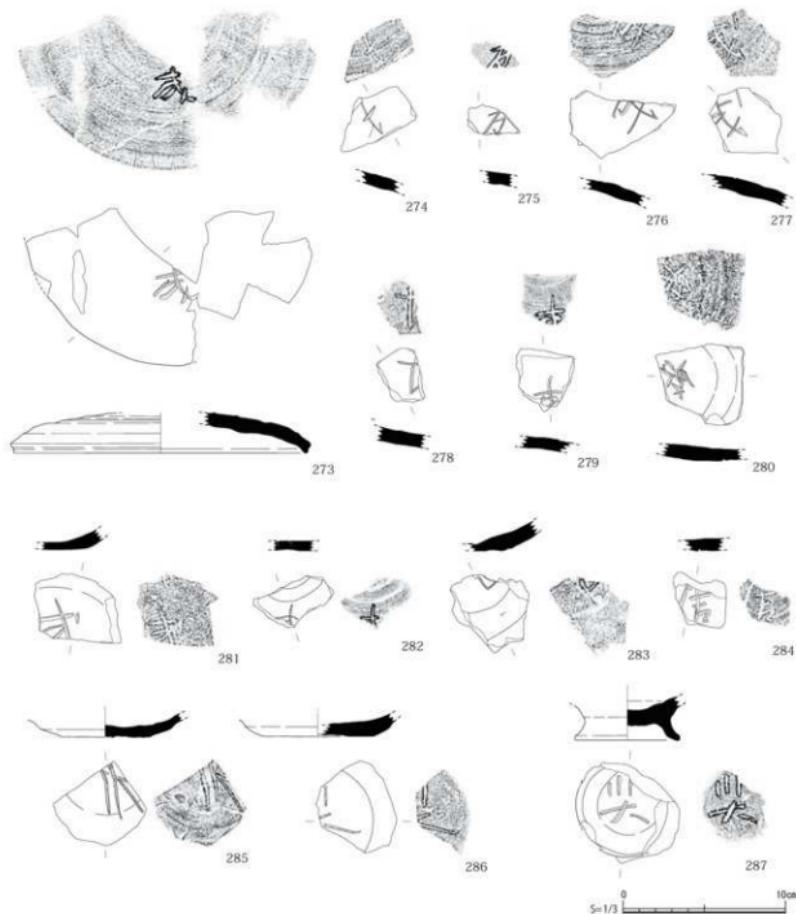


Fig.60 調査区出土遺物実測図一⑨

中央部を外した位置に、別途形づくられた頸部から口縁部を貼り付ける。本資料はその製作順を追うことのできる資料である。

横瓶(270) 口径部は基部が太く強く外反し、途中内外面に1条の稜を形成しながら端部に至る。体部は横に長い球体をなし、外面中心部寄りに格子目印きを、その受けとして内面に同心円当て具痕を残す。実測図に向かって右侧(断面図側)が、胸部を作成した際の上面側に当たる。

調査区出土遺物-⑨ (Fig.60) 土師器 移動式壺(271) 鍔付きの壺。体部は粘土組輪積みにより整形し、内外面の調整、頸部から口縁にかけての調整を終えた後に、燃焼穴を鋭利なヘラ状の工具を用いて門型に切り込む。その後、上向きの鍔を貼り付ける。鍔は手づくねにより荒く、器面はヘラ状工具を用い調整を施す。



体部内面及び鈎の燃焼穴に接する面は煤付着。(272) 移動式竈の口縁部及び鈎部分。鈎は表面に細かなヘラ削り痕が残る。鈎の燃焼穴に接する面は煤付着。

調査区出土遺物一⑩ (Fig.61) 土師器 蓋 (273) 中心部の残りが悪いが、器形の特徴からつまみを付す蓋である。外面体部中位にヘラ書きにより「成」を施す。(274・275・276・277・278・279) は共に蓋外面中位に「成」一文字を施す。(280) もおそらく蓋の器壁の一部と思われる。体部外面中位にヘラ書きによる文字を認識するが判読不明。

土師器 (281・282) 杯底部。外面底部に「成」一文字を判別する。(283) 杯外面底部。外面底部にヘラ書き文字を認識するも文字端部であるため、判読不能。(284) 杯底部。外面底部に「舍」一文字を判別する。(285) 杯底部。外面底部にヘラ書き文字を認識するも判別し難し。(286) 杯底部。外面底部に「川大」の文字右下付近のヘラ書きを判別する。(287) 本資料のみ高台付き杯。高台貼り付け後に「川大」の2文字をヘラ書き。

調査区出土遺物一⑪ (Fig.62) 土師器 皿 (288) 外面底部にヘラ書きによる「成」の一文字を判読。(289) も外面底部に「大」を一文字判読する。288・289とも外面底部接地面近くに小さく施す。(293) 皿底部。外面底部に「黒」一文字を判読する。

土師器 鉢 (291) 外面底部回転ヘラ切り後ナデ、他はナデ整形。垂直に立ち上がる体部は、横ナデの単位をわずかに残しつつ口縁部に至る。底部屈曲部から2条の回転ヘラ削りを施す。外面体部の途中に1条の沈線を巡らし、その上に上方に折れる把手が貼り付く。口縁端部は外面に稜を有し、端部下には浅くナデが残る。胸部中位に「成」とヘラ書きを施す。

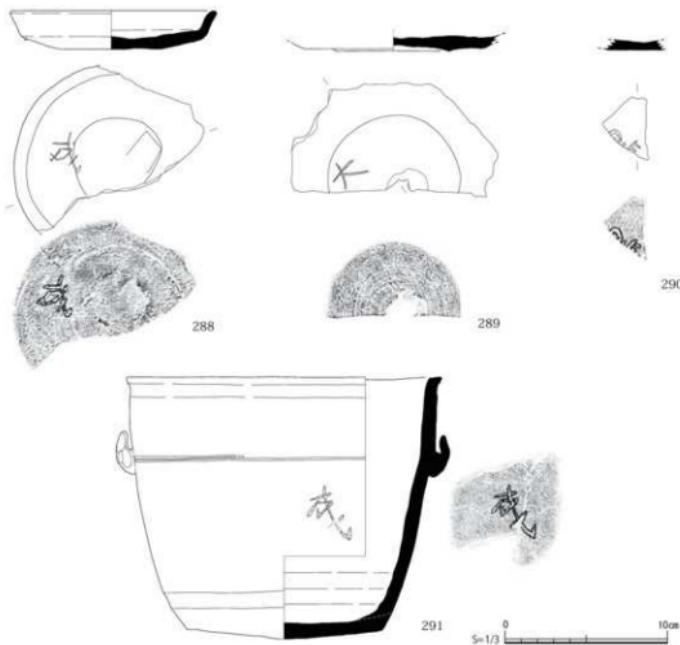


Fig.62 調査区出土遺物実測図（土師器ヘラ書き）一⑪

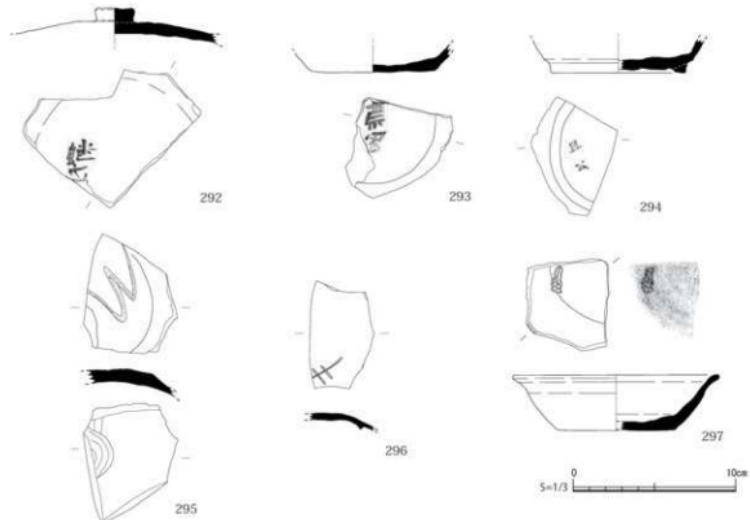


Fig.63 調査区出土遺物実測図（須恵器 墨書、ヘラ書き）—②

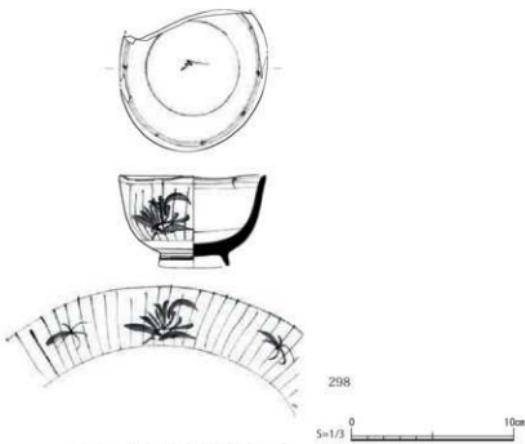


Fig.64 調査区出土遺物実測図—③

調査区出土遺物—② (Fig.63) 須恵器 蓋 (292) 外面中心につまみを貼り付ける蓋。周囲は欠損し中心近くに「雜庭」と思われる墨書あり。杯 (293) 外面底部中心に「荒守」と思われる墨書あり。高台付き杯 (294) 断面三角形の高台が体部との屈曲面に貼り付く。底部高台内に小さく「旦公」と墨書される。蓋 (295) 蓋

天井部と口縁部との境に内外面ともにヘラ書きあり。蓋（296）内面に稜を呈する突起が残る。天井部から口縁部にかけての部位外面に「キ」状のヘラ記号あり。杯（297）外面底部回転ヘラ切り、他はナデ整形。体部は外に開き、口縁部で強く反り、端部は平坦面を呈す。内面見込みから体部立ち上がりに係る部位に、葉をヘラ書きした文様が残る。

調査区出土遺物-⑩ (Fig.64) 磁器 梱（298）内外面ともに染付を施す。外面口縁部に1重圓線、底部に2重圓線。内面口縁には3重圓線を施し、線上に等間隔に文様が配される。外面体部には口縁から底部まで縱線、その上から手書きにより草花文を描く。高台は横ナデにより作り出され、外面に横太線が巡る。全体に透明釉がかかる。体部全体が格円形に歪む。八代産出の陶石を利用した雷符焼である可能性が高い。

調査区出土遺物-⑪ (Fig.65) 瓦（299～301）本出土遺物も、調査区Gridで取り上げた資料である。

平瓦（299）右側縁先端にあたる。凹面に布目、凸面に格子目叩き痕を残す。側縁調整は垂直切り取り。（300）左側縁部先端にあたる凹面に布目、凸面に格子目叩き痕を残す。側縁調整は垂直切り取り。（301）4層出土遺物。右側縁先端にあたる。凹面に布目、凸面に格子目叩き痕を残す。側縁調整は「く」字状切り取り。

調査区出土遺物-⑫ (Fig.66) 瓦 平瓦（302）4層出土。右側縁中位の部位。凹面に布目痕を残すが、一部に布の重複部が残る。凸面に格子目叩き痕を残す。側縁調整は「く」字状切り取り。

丸瓦（303）小片であるため、見出せる情報は限られる。瓦凸面は無文、凹面は布面を呈す。端部は垂直に切り落とされる。

特殊遺物 (Fig.67) 銅錢等 貨幣（304・305・306）土坑SK005埋土中出土。青銅製模造錢。同時に出土している銘の読める貨幣より小さいが、中央部の孔は同じ大きさである。

貨錢（307）土坑SK026埋土中より出土した遺物。皇宋通寶と読むことができる。1038年中国、北宋の時代仁宗期に鑄造された貨幣。

貨錢（308）土坑SK012から出土した遺物。元祐通寶と読むことができる。中国宋の時代、哲宗期に鑄造された貨幣。

調査区出土遺物-⑬ (Fig.68) 鉄製品（309～319）調査区内より出土した鉄製品を器種の分かれる資料のみ抽出し掲載した。

鉸具（309）方形の鉄環状を呈し断面は四角で一方に2か所の孔が残る。おそらく対になるものと思われる。本来中心にくる鉄棒は、失われてない。

雲珠（310）鉄製、馬具の一部。四か所に孔を有し、中心部は丸くドーム状に膨らむ。

杏葉（311）4層出土。円形容杏葉の一部で、側縁が丸く厚みを帯びる。

鉄鎌（312）残存度が悪く詳細は不明。出土部位は基部から上方に伸び、緩やかに幅が広がり始める部分に当たる。断面は基部で四角、広がり始める部分で梢円を呈す。長頸鎌である可能性もある。周辺で古墳時代から古代の遺物までを出土しているため、時代まで求めるのは難しい。

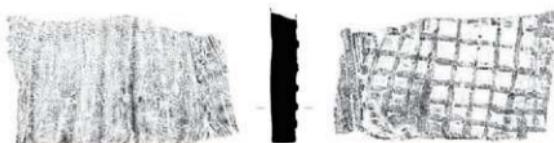
刀子（313）刀子の刃部にあたる。刃部は片刃で先端は回り込み刃部を形成する。断面はいずれも三角を呈するが、やや厚みを帯びる。基部は欠損して不明。

釣針（314）軸部に抉りを有し、緩やかに「J」字型を呈し、針先端へ至る。逆刺はない。

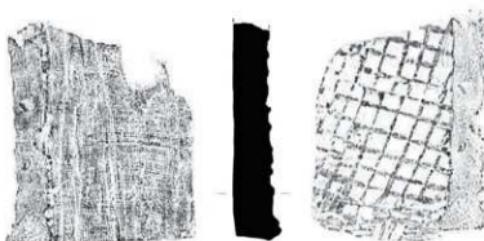
鉄鎌（315）4層出土。鎌本体の中位にあたる部位。鎌が酷く本来の形状を見ることはできない。（316）4層出土遺物。刃部は鎌がひどいため観察不能。基部は短く折り返す。

袋状手斧（317）先端、刃部が欠損。基部は袋状に両端から巻き込まれる。内部には木質部が残っており、基軸の一端と考えられる。

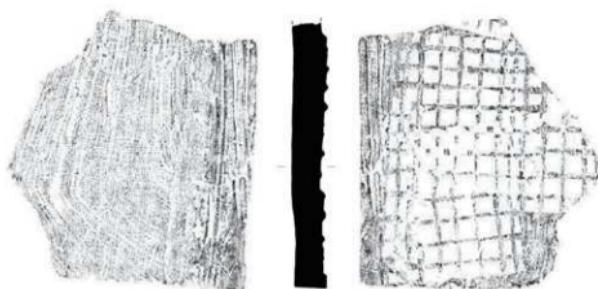
鉄滓（318）下部が楕形を描き、上部中央にわずかな窪みを持つことから楕形滓である可能性が高い。442.6g（319）図示した図面上部に、炉からスラグが流れ出す流状口と思われる方形の形状を見て取れるところから、本資料も炉底滓である可能性が高い。272.6g



299



300



301



Fig.65 调查区出土遗物实测图 (平瓦) - ⑩

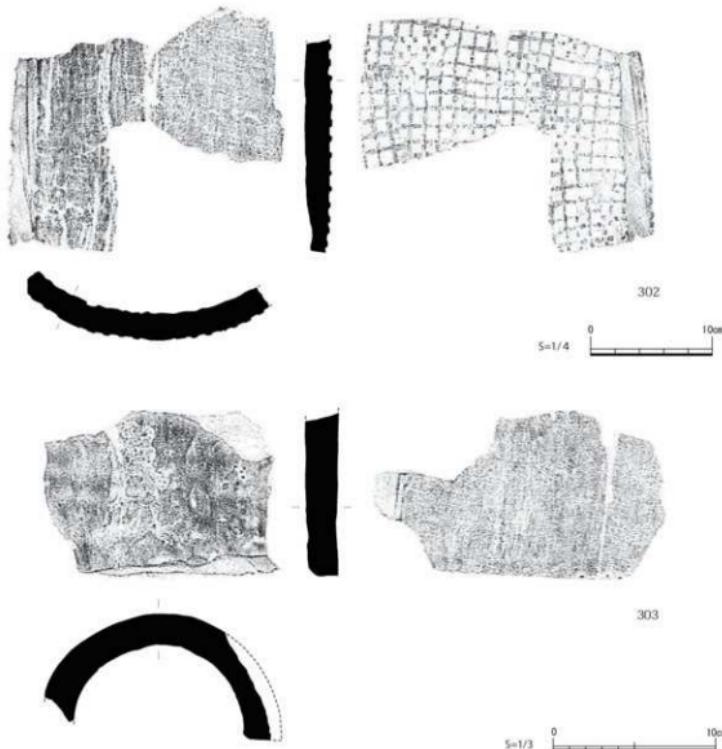


Fig.66 調査区出土遺物実測図（平瓦、丸瓦）-⑤

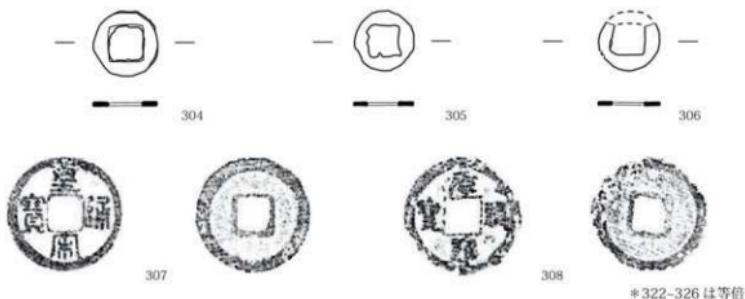


Fig.67 土坑 SK005(304・305・306)、SK012(308)、SK026(307) 出土遺物実測図（銅錢）

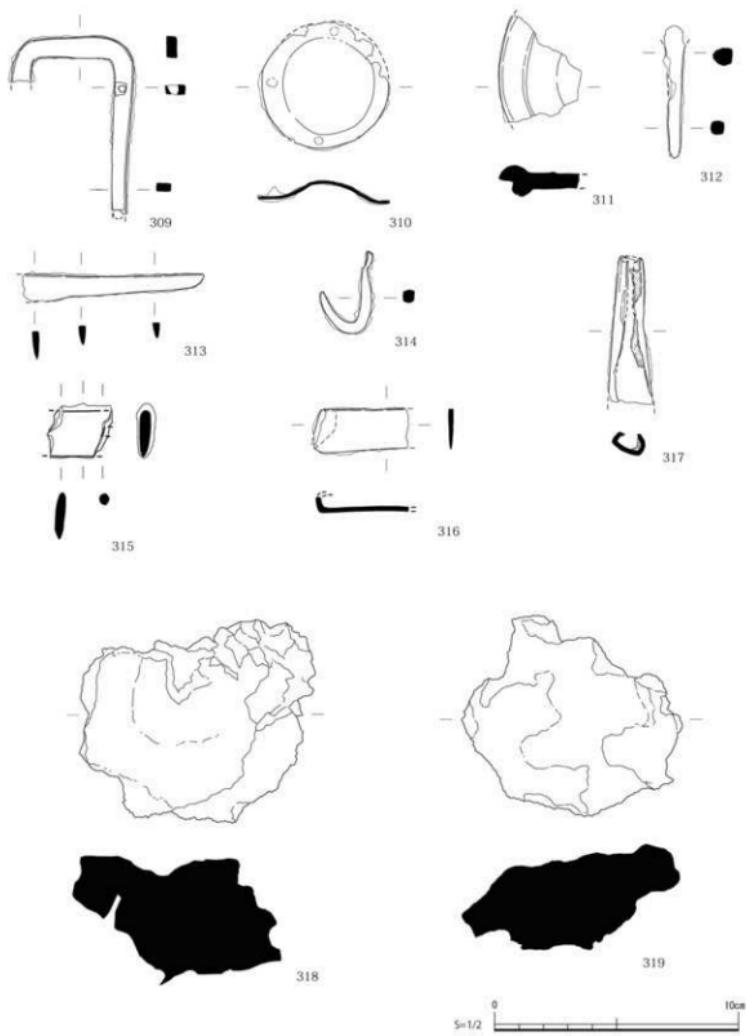


Fig.68 調査区出土遺物実測図(鉄製品) - ⑧

調査区出土遺物-⑦ (Fig.69) 特殊遺物 鉄製紡錘車 (320) 3層出土。鉄製の紡錘車で一様に平たく、中央に孔を残す。

石製紡錘車 (321) 4層出土。ほぼ完形品だが一部欠損。断面は四角を呈するが、端部はやや丸みを帯びる。中心の孔は両端から穿孔され中央部で繋がる。(322) 4層出土。残存度 1/4。断面は四角で中央に穿孔あり。表面に擦痕あり。

土製紡錘車 (323) 4層出土。残存度 1/4。断面端部丸く、中央に穿孔あり。(324) 4層出土。残存度 1/2。断面は厚く、断面端部は丸みを帯びる。表面には指印痕がわずかに残る。(325) 4層出土。残存度 1/2。中心部が厚く両端が薄くなる。断面は四角を呈す。中心穿孔部両端には粘土の盛り上がりが残る。(326) 4層出土遺物。残存度 1/4。断面は四角で中央に穿孔あり。(327) 4層出土。残存度 1/2。断面は四角で端部は丸く、中央に穿孔あり。(328) 土製としては唯一の完形品。断面形状は台形を呈す。穿孔部周辺は盛り上がる。

調査区出土遺物-⑧ (Fig.70) 石製品 石帶具 (329) 平・断面とも方形を呈し、2か所に両側から穿孔し、孔をあける。一部欠損あり。石材は砂岩。

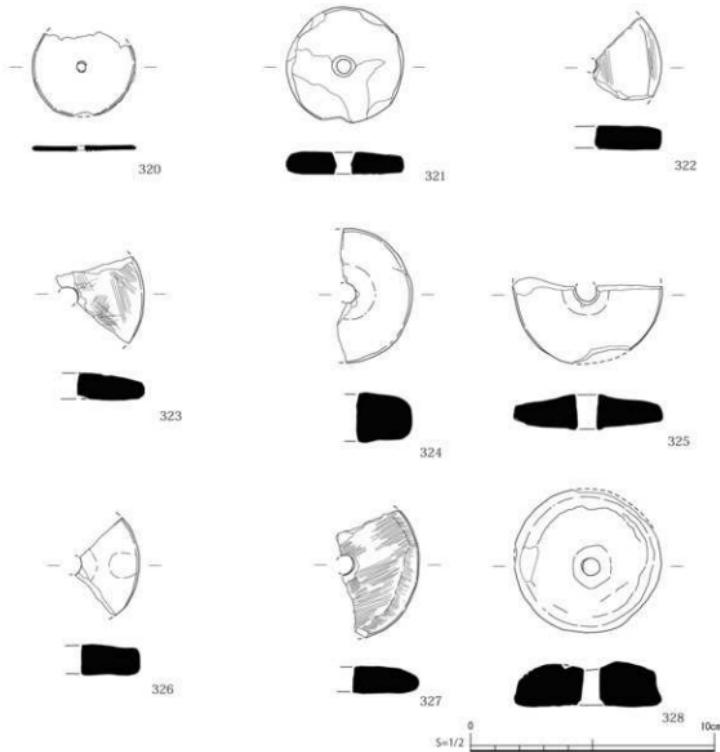


Fig.69 調査区出土遺物実測図(紡錘車)-⑦

管玉（330）4層出土。碧玉製管玉。中心部に穿孔。一方は欠損。

石製勾玉（331）4層出土。穿孔する頸部が最も厚み、幅とも大きく、湾曲し先端に至る部位が細くなる。穿孔は両端から施し、中央部で繋がる。全面に擦痕を残す。

砥石（332）7層出土。砂岩性砥石。使用面は1面で中央部は使用痕により窪む。

調査区出土遺物一覧 (Fig.71) 特殊遺物 トチン（窯道具）(333) 底辺が台形状を呈し、中位は柱状をなす。表面の欠損が激しく二次的に熱が加わることにより爆ぜている可能性もある。一部磁器化している部分も見られる。(334) 底辺が台形状を呈し、中位は柱状をなす。表面の欠損が激しく、二次的に熱が加わることにより爆ぜている可能性もある。一部磁器化している部分も見られる。(335) 底辺が台形状を呈し中位は柱状をなす。表面の欠損が激しく、二次的に熱が加わることにより爆ぜている可能性もある。一部磁器化している部分も見られる。

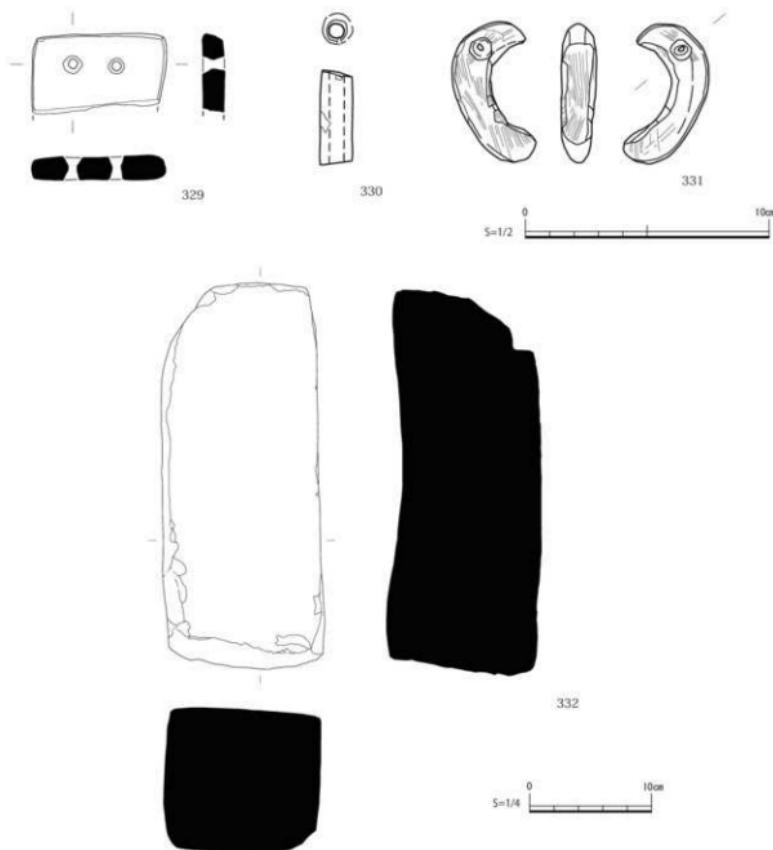


Fig.70 調査区出土遺物実測図 (石製品)-⑧

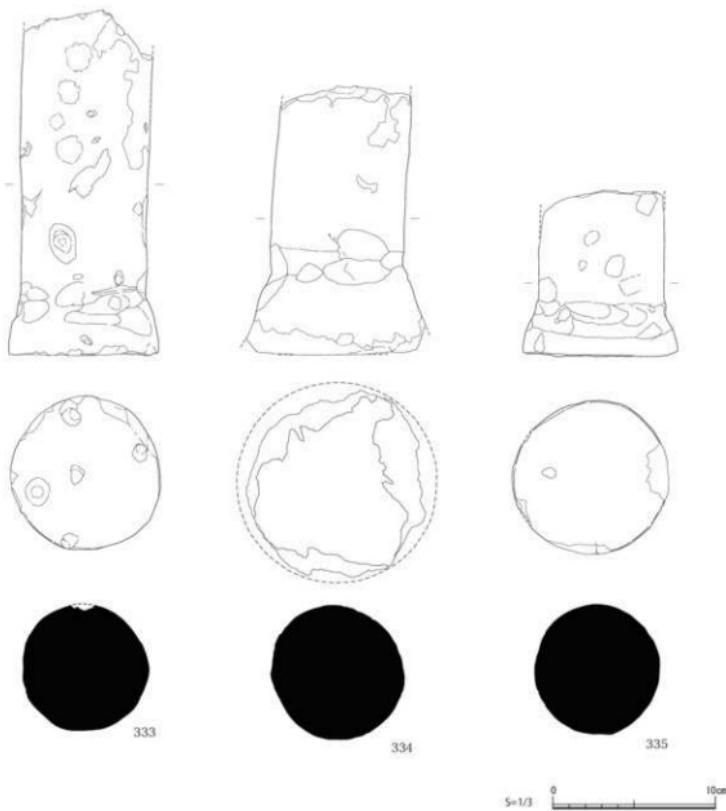


Fig.71 調査区出土遺物実測図(トチン)一⑨

宮地小畠遺跡 遺物觀察表

高地小窑遗址 出土遗物观察表

Tab.6

地 点	地 質	外 部 形 態	内 部 構 造	外 部 形 態	内 部 構 造	地 点
高石、脚石	様子テ、凹凸へう振り	様子テ、ナダ	—	—	つまみ柱付 焼き込み	1
高石、角閃石、富母	へう切り後へう振り、富母	様子テ、ナダ	—	—	(内面)青ね焼き窓。(天井部)ハケ目串串引か	2
高石、角閃石、富母	様子テ、天井部へう振り	様子テ、ナダ	—	—	—	3
石英、長石、赤色顔化粒	調整不規	調整不規	調整不規	調整不規	—	4
高石	様子テ	様子テ	—	—	斜竹面台	5
高石、角閃石	様子テ	様子テ	へう切り後ナダ	様子テ	斜竹面台	6
石英、長石	様子テ	様子テ	—	—	斜竹面台	7
石英、長石、角閃石	凹凸へう振り	様子テ、凹凸へう振り	—	—	つまみ込み	8
高石、角閃石、富母	様子テ	様子テ	—	—	(内面)青ね焼き窓。(内面)赤色顔料、内外層滅	9
高石、角閃石	様子テ	様子テ	—	—	斜竹面台	10
石英、角閃石、富母	—	—	—	—	斜竹面台	11
石英、角閃石、角閃石	様子テ、へう振り	様子テ	—	—	—	12
石英、角閃石	—	—	—	—	■斑状(南壁面)参照	13
石英、角閃石	様子テ	様子テ	へう切り後ナダ	様子テ後ナダ	—	14
石英、赤色顔化粒	—	—	—	—	—	15
石英、富母	様子テ	ナダ	あきり	様子テ	—	16
石英、脚石	様子テ	様子テ	あきり	様子テ	—	17
石英、富母、赤色顔化粒	—	—	—	—	■斑状(南壁面)参照	322
石英、富母	—	—	—	—	■斑状(南壁面)参照	323
石英、富母	—	—	—	—	■斑状(南壁面)参照	324
石英、富母	—	—	—	—	■斑状(南壁面)参照	325
石英、富母、赤色顔化粒	—	—	—	—	■斑状(南壁面)参照	326
高石、富母、赤色顔化粒	ナダ	ナダ	へう切り後ナダ	ナダ	(内、外面)赤色顔料	18
高石、富母	凹凸へう振り	様子テ	へう切り後ナダ	様子テ後ナダ	—	19
高石、富母	—	—	—	—	—	20
石英、富母	凹凸へう振り	様子テ	へう切り後ナダ	様子テ後ナダ	—	21
石英、富母、角閃石	凹凸へう振り	様子テ、凹凸へう振り	—	—	斜竹面台、昇降式窓がつき引剥離している。へつまき	22
富母	—	—	—	—	高士土層、外側一面	33
石英、富母、赤色顔化粒	様子テ、凹凸へう振り	—	—	—	高士土層、高士延伸	34
高石、富母	—	—	—	—	—	35
石英、角閃石、富母	—	—	—	—	—	36
石英、角閃石、富母	—	—	—	—	—	37
石英、角閃石、富母	—	—	—	—	—	38
石英、角閃石、富母	—	—	—	—	—	39
石英、角閃石、富母	—	—	—	—	—	40
石英、角閃石、赤色顔化粒	—	—	—	—	—	41
石英、角閃石、赤色顔化粒	—	—	—	—	—	42
石英、富母、赤色顔化粒	—	—	—	—	—	43
石英、富母、赤色顔化粒	—	—	—	—	—	44
石英、富母、赤色顔化粒	—	—	—	—	—	45
石英、富母、赤色顔化粒	—	—	—	—	—	46
石英、角閃石、富母	—	—	—	—	—	47
石英、角閃石、富母	—	—	—	—	—	48
石英、角閃石、富母	—	—	—	—	—	49
石英、角閃石、富母	—	—	—	—	—	50
角閃石、石英、富母	凹凸へう振り	様子テ	—	—	—	51
高石、角閃石	—	—	—	—	—	52
高石、角閃石	—	—	—	—	—	53
高石、角閃石、富母	—	—	—	—	—	54
高石、富母	—	—	—	—	—	55
高石、富母、赤色顔化粒	—	—	—	—	—	56
高石、富母、赤色顔化粒	—	—	—	—	—	57
高石、富母、赤色顔化粒	—	—	—	—	—	58
高石、富母、赤色顔化粒	—	—	—	—	—	59
高石、赤色顔化粒	—	—	—	—	—	60
高石、赤色顔化粒	—	—	—	—	—	61
高石、角閃石、富母	—	—	—	—	—	62
高石、富母	—	—	—	—	—	63
高石、富母	—	—	—	—	—	64
高石、富母	—	—	—	—	—	65
高石	—	—	—	—	—	66
赤色顔化粒、石英、角閃石、富母	—	—	—	—	—	67
石英、角閃石、富母	—	—	—	—	—	68
石英、角閃石、富母	—	—	—	—	—	69
石英、角閃石、富母	—	—	—	—	—	70
石英、角閃石	—	—	—	—	—	71
石英、角閃石	—	—	—	—	—	72
石英、角閃石	—	—	—	—	—	73
石英、角閃石	—	—	—	—	—	74
石英、角閃石	—	—	—	—	—	75

品番	品名	規格番号	アリカル	原産地	品種	品目	数量		重量		単価		金額	
							個	kg	個	kg	個	kg	金額	金額
76		SK037	F-12	赤紫蘇	杯	-	No.2	(13.2)	18.2	-	3.8	赤紫蘇	3.8	赤紫蘇3.8
77	35	SK038	F-13	赤紫蘇	杯	-	-	(3.2)	3.4	-	4.9	赤紫蘇	4.9	赤紫蘇4.9
78		SK039	G-13	赤紫蘇	杯	-	-	(16.2)	10.0	-	6.4	赤紫蘇	6.4	赤紫蘇6.4
79		SK040	F-14	赤紫蘇	杯	-	-	(11.6)	7.1	-	3.9	赤紫蘇	3.9	赤紫蘇3.9
80	32	SK041	F-14	赤紫蘇	葉	-	No.2	17.2	-	-	4.5	にんじん	4.5	にんじん4.5
81	36	SK041	F-14	赤紫蘇	葉	-	No.1	15.4	-	-	2.55	にんじん	2.55	にんじん2.55
82		SK041	F-14	赤紫蘇	葉	-	No.5	(11.7)	(7.1)	-	4.15	にんじん	4.15	にんじん4.15
83		SK043	F-14	赤紫蘇	葉	-	-	-	-	-	0.65	にんじん	0.65	にんじん0.65
84		SK044	F-14	赤紫蘇	小細切り	-	-	(6.6)	5.0	-	2.0	にんじん	2.0	にんじん2.0
85		SK044	F-14	赤紫蘇	小細切り	-	-	7.1	4.6	-	2.2	にんじん	2.2	にんじん2.2
86		SK044	F-14	赤紫蘇	小細切り	-	-	(7.1)	5.0	-	2.1	にんじん	2.1	にんじん2.1
87		SK044	F-14	赤紫蘇	小細切り	-	-	7.2	4.9	-	2.0	にんじん	2.0	にんじん2.0
88		SK044	F-14	赤紫蘇	小細切り	-	-	7.4	5.5	-	2.0	にんじん	2.0	にんじん2.0
89		SK044	F-14	赤紫蘇	小細切り	-	-	(11.1)	(7.6)	-	3.1	にんじん	3.1	にんじん3.1
90		SK044	F-14	赤紫蘇	小細切り	-	-	12.2	8.3	-	2.05	にんじん	2.05	にんじん2.05
91		SK044	F-14	赤紫蘇	小細切り	-	-	11.7	7.1	-	3.0	にんじん	3.0	にんじん3.0
92		SK044	F-14	赤紫蘇	小細切り	-	-	(11.7)	(8.0)	-	3.1	にんじん	3.1	にんじん3.1
93		SK044	F-14	赤紫蘇	小細切り	-	-	(11.8)	7.9	-	2.75	にんじん	2.75	にんじん2.75
94		SK044	F-14	赤紫蘇	小細切り	-	-	(11.6)	(8.5)	-	2.6	にんじん	2.6	にんじん2.6
95		SK044	F-14	赤紫蘇	小細切り	-	-	(11.6)	7.9	-	2.5	にんじん	2.5	にんじん2.5
96		SK044	F-14	赤紫蘇	小細切り	-	-	(11.6)	8.4	-	2.8	にんじん	2.8	にんじん2.8
97		SK044	F-14	赤紫蘇	小細切り	-	-	(11.4)	(7.5)	-	2.6	にんじん	2.6	にんじん2.6
98		SK044	F-14	赤紫蘇	小細切り	-	-	11.6	8.5	-	2.95	にんじん	2.95	にんじん2.95
99		SK044	F-14	赤紫蘇	小細切り	-	-	(12.1)	(7.5)	-	2.5	にんじん	2.5	にんじん2.5
100		SK044	F-14	赤紫蘇	小細切り	-	-	(12.6)	8.4	-	2.8	にんじん	2.8	にんじん2.8
101		SK044	F-14	赤紫蘇	小細切り	-	-	12.1	8.5	-	2.85	にんじん	2.85	にんじん2.85
102		SK044	F-14	赤紫蘇	小細切り	-	-	(13.4)	(9.56)	-	2.9	にんじん	2.9	にんじん2.9
103	46	SK045	G-14	赤紫蘇	杯	-	(11.9)	8.1	-	4.45	にんじん	4.45	にんじん4.45	
104	31	SK045	G-14	赤紫蘇	葉	-	-	(22.2)	-	-	(20.1)	にんじん	(20.1)	にんじん20.1
105		SK046	F-15	赤紫蘇	杯	50個	-	(15.5)	(11.0)	-	1.2	にんじん	1.2	にんじん1.2
106		SK047	G-15	赤紫蘇	葉	-	-	(13.6)	-	-	1.2	にんじん	1.2	にんじん1.2
107	44	SK049	G-15	赤紫蘇	葉	4kg	-	-	13.35	-	(12.4)	にんじん	(12.4)	にんじん12.4
108	35	SK050	F-15	赤紫蘇	葉	7kg	7kg	7kg	-	-	(13.8)	にんじん2.5	(13.8)	にんじん2.5
109		SK051	G-14	赤紫蘇	杯	砂糖漬	-	(86.8)	-	-	3.9	赤紫蘇	3.9	赤紫蘇3.9
110		SK051	G-14	赤紫蘇	葉	-	-	(18.8)	-	-	4.01	赤紫蘇	4.01	赤紫蘇4.01
111		SK051	G-14	赤紫蘇	葉	-	-	(19.7)	-	-	6.1	赤紫蘇	6.1	赤紫蘇6.1
112		SK051	G-14	赤紫蘇	葉	-	-	13.35	-	-	6.1	赤紫蘇	6.1	赤紫蘇6.1
113		SK051	G-14	赤紫蘇	葉	-	-	17.9	-	-	4.3	赤紫蘇	4.3	赤紫蘇4.3
114		SK051	F-14	赤紫蘇	葉	-	-	16.9	-	-	5.15	にんじん	5.15	にんじん5.15
115		SK051	G-14	赤紫蘇	葉	-	-	(19.7)	-	-	5.3	赤紫蘇	5.3	赤紫蘇5.3
116		SK051	G-14	赤紫蘇	葉	-	-	18.7	-	-	5.5	赤紫蘇	5.5	赤紫蘇5.5
117		SK051	F-14	赤紫蘇	葉	砂糖漬	-	12.6	4.5	-	5.0	にんじん	5.0	にんじん5.0
118		SK051	F-14	赤紫蘇	葉	-	-	14.5	5.9	-	5.8	赤紫蘇	5.8	赤紫蘇5.8
119		SK051	F-14	赤紫蘇	葉	-	-	16.0	(9.2)	-	7.15	赤紫蘇	7.15	赤紫蘇7.15
120		SK051	G-14	赤紫蘇	葉	-	-	(18.2)	-	-	6.1	にんじん	6.1	にんじん6.1
121		SK051	F-14	赤紫蘇	葉	-	No.2	(16.1)	(7.8)	-	(6.6)	にんじん	(6.6)	にんじん6.6
122		SK051	F-14	赤紫蘇	葉	砂糖漬	-	(16.8)	-	-	(3.9)	にんじん	(3.9)	にんじん3.9
123		SK051	G-14	赤紫蘇	葉	-	-	19.4	-	-	4.5	にんじん	4.5	にんじん4.5
124		SK051	G-14	赤紫蘇	葉	-	-	(20.4)	-	-	(4.8)	赤紫蘇	(4.8)	赤紫蘇4.8
125		SK051	G-14	赤紫蘇	葉	-	-	(18.8)	(7.8)	-	3.5	にんじん	3.5	にんじん3.5
126		SK051	G-14	赤紫蘇	葉	-	-	(14.4)	-	-	(4.13)	にんじん	(4.13)	にんじん4.13
127		SK051	G-18	赤紫蘇	葉	-	-	(14.6)	-	-	(4.3)	赤紫蘇	(4.3)	赤紫蘇4.3
128		SK051	G-18	赤紫蘇	葉	-	-	-	-	-	(5.4)	赤紫蘇	(5.4)	赤紫蘇5.4
129		SK051	G-14~15	赤紫蘇	葉	-	-	15.7	-	-	4.5	赤紫蘇	4.5	赤紫蘇4.5
130		SK051	G-12	赤紫蘇	葉	-	-	16.5	-	-	4.5	赤紫蘇	4.5	赤紫蘇4.5
131		SK051	F-14	黒紫蘇	葉	砂糖漬	-	16.4	-	-	(17.0)	にんじん	(17.0)	にんじん17.0
132		SK053	G-14	赤紫蘇	風呂	-	-	(17.6)	(10.8)	-	12.1	にんじん	12.1	にんじん12.1
133		SK054	G-15	赤紫蘇	葉	-	-	16.1	(4.5)	-	4.0	にんじん	4.0	にんじん4.0
134		SK056	G-15	赤紫蘇	葉	-	-	14.5	12.2	-	4.4	にんじん	4.4	にんじん4.4
135		SK056	G-15	赤紫蘇	葉	-	-	13.8	5.7	-	4.5	にんじん	4.5	にんじん4.5
136		SK056	G-15	赤紫蘇	葉	-	-	14.5	12.2	-	4.5	にんじん	4.5	にんじん4.5
137		ST001	G-7	赤紫蘇	葉	-	-	(16.1)	(8.2)	-	3.4	にんじん	3.4	にんじん3.4
138		ST001	G-7	赤紫蘇	葉	3kg	-	(12.2)	7.1	-	3.7	にんじん	3.7	にんじん3.7
139		ST001	G-7	赤紫蘇	葉	3kg	-	(11.0)	(6.5)	-	3.7	にんじん	3.7	にんじん3.7
140		ST001	G-7	赤紫蘇	葉	-	-	(12.0)	(6.5)	-	4.2	にんじん	4.2	にんじん4.2
141		ST001	G-7	赤紫蘇	葉	3kg	-	(11.9)	(6.2)	-	3.75	にんじん	3.75	にんじん3.75
142		ST001	G-7	赤紫蘇	葉	-	No.3	(6.6)	-	(2.9)	にんじん	(2.9)	にんじん2.9	
143		ST001	G-7	赤紫蘇	葉	-	-	(25.8)	-	(15.0)	にんじん	(15.0)	にんじん15.0	
144		ST001	G-7	赤紫蘇	葉	-	-	10.8	6.2	-	4.2	にんじん	4.2	にんじん4.2
145		ST001	G-7	赤紫蘇	葉	-	-	(17.5)	-	-	9.1	にんじん	9.1	にんじん9.1
146		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	-	No.13	(14.2)	-	-	2.15	にんじん	2.15	にんじん2.15
147		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	-	No.33	19.2	-	-	3.7	にんじん	3.7	にんじん3.7
148		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	No.8	(16.9)	-	-	2.0	にんじん	2.0	にんじん2.0	
149		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	-	No.10	(16.0)	-	-	2.5	にんじん	2.5	にんじん2.5
150		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	-	No.12	(17.0)	-	-	3.0	にんじん	3.0	にんじん3.0
151		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	-	No.13	(16.9)	4.8	-	4.4	にんじん	4.4	にんじん4.4
152		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	-	No.14	(12.9)	(6.9)	-	2.8	にんじん	2.8	にんじん2.8
153		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	-	No.131	(13.9)	6.7	-	4.1	にんじん	4.1	にんじん4.1
154		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	-	No.137	(15.4)	7.5	-	3.7	にんじん	3.7	にんじん3.7
155		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	-	No.134	(13.9)	(5.8)	-	3.7	にんじん	3.7	にんじん3.7
156		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	-	No.135	(13.9)	(5.8)	-	3.7	にんじん	3.7	にんじん3.7
157		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	-	No.136	(13.9)	(5.8)	-	3.7	にんじん	3.7	にんじん3.7
158		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	-	No.137	(13.9)	(5.8)	-	3.7	にんじん	3.7	にんじん3.7
159		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	-	No.138	(13.9)	(5.8)	-	3.7	にんじん	3.7	にんじん3.7
160		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	-	No.139	(13.9)	(5.8)	-	3.7	にんじん	3.7	にんじん3.7
161		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	-	No.140	(13.9)	(5.8)	-	3.7	にんじん	3.7	にんじん3.7
162		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	-	No.141	(13.9)	(5.8)	-	3.7	にんじん	3.7	にんじん3.7
163		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	-	No.142	(13.9)	(5.8)	-	3.7	にんじん	3.7	にんじん3.7
164		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	-	No.143	(13.9)	(5.8)	-	3.7	にんじん	3.7	にんじん3.7
165		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	-	No.144	(13.9)	(5.8)	-	3.7	にんじん	3.7	にんじん3.7
166		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	-	No.145	(13.9)	(5.8)	-	3.7	にんじん	3.7	にんじん3.7
167		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	-	No.146	(13.9)	(5.8)	-	3.7	にんじん	3.7	にんじん3.7
168		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	-	No.147	(13.9)	(5.8)	-	3.7	にんじん	3.7	にんじん3.7
169		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	-	No.148	(13.9)	(5.8)	-	3.7	にんじん	3.7	にんじん3.7
170		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	-	No.149	(13.9)	(5.8)	-	3.7	にんじん	3.7	にんじん3.7
171		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	-	No.150	(13.9)	(5.8)	-	3.7	にんじん	3.7	にんじん3.7
172		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	-	No.151	(13.9)	(5.8)	-	3.7	にんじん	3.7	にんじん3.7
173		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	-	No.152	(13.9)	(5.8)	-	3.7	にんじん	3.7	にんじん3.7
174		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	-	No.153	(13.9)	(5.8)	-	3.7	にんじん	3.7	にんじん3.7
175		SK001	G-12	赤紫蘇	葉	-	No.154	(13.9)	(5.8)	-	3.7	にんじん		

Tab.7

番号	Flo No.	ル. No.	地質番号	ブリーフ	材形	品種	厚さ	幅	高さ	重さ	形状	性質	地質	地質名	
154		32	SX001	G-12	土師器	杯	—	No.125.160	(14.4)	(5.4)	—	3.8	褐色V9R7/6	褐色V9R7/6	
157		44	SX001	G-12	土師器	杯	—	No.32	(12.9)	7.5	—	2.6	にぶい褐色V9R7/4	にぶい褐色V9R7/4	
158			SX001	G-12	土師器	杯	—	No.156	(15.4)	(7.2)	—	3.7	褐色V9R7/6	褐色V9R7/6	
159		32	SX001	G-12	土師器	杯	—	—	14.2	8.5	—	4.0	にぶい褐色V9R6/4	にぶい褐色V9R6/4	
160			SX001	G-12	土師器	瓶	—	No.190	(16.1)	8.5	—	6.2	褐色V9R7/6	褐色V9R7/6	
161			SX001	G-12	土師器	瓶	—	No.86	(22.4)	—	—	(8.2)	にぶい褐色V9R7/3	にぶい褐色V9R7/3	
162		45	SX001	G-12	土師器	瓶	—	No.132	(26.4)	—	—	(12.4)	淡黄褐色V9R9/3	淡黄褐色V9R9/3	
163			SX001	G-12	土師器	瓶	—	No.69	(25.7)	—	—	(9.5)	淡白V9R9/2	淡白V9R9/2	
164			SX001	G-12	土師器	瓶	—	No.101	(23.8)	—	—	(8.6)	にぶい褐色V9R7/4	にぶい褐色V9R7/4	
165			SX001	G-12	土師器	瓶	—	No.93	(24.2)	—	—	(13.2)	にぶい褐色V9R7/4	にぶい褐色V9R7/4	
166			SX001	G-12	土師器	瓶	—	No.10.73	—	—	—	(11.4)	淡黄褐色V9R7/3	淡黄褐色V9R7/3	
167		46	SX001	G-12	土師器	瓶	—	No.73	(26.9)	—	—	(22.3)	にぶい褐色V9R7/2	にぶい褐色V9R7/2	
168			SX001	地石	—	—	—	—	—	—	—	—	褐色V9R7/2	褐色V9R7/2	
169			SX001	F-12	透巣岩	瓶	—	No.40	13.7	—	—	1.8	灰N6/6	灰N6/6	
170			SX001	G-12	透巣岩	瓶	—	No.42	(14.2)	—	—	1.2	灰青V9R9/2	灰青V9R9/2	
171			SX001	G-12	透巣岩	瓶	—	No.39	(13.6)	—	—	1.5	灰白V9R9/1	灰白V9R9/1	
172			SX001	G-12	透巣岩	瓶	—	No.26	13.6	—	—	1.6	灰N4/6	灰N6/6	
173			SX001	G-12	透巣岩	瓶	—	No.15	13.8	—	—	1.2	灰N5/7	灰白V9/7	
174			SX001	G-12	透巣岩	瓶	—	No.14.37	14.4	—	—	1.6	灰V9R7/1	灰V9R7/1	
175			SX001	G-12	透巣岩	瓶	—	No.41	14.7	—	—	2.2	灰N6/6	灰N6/6	
176			SX001	G-12	透巣岩	瓶	—	No.72	(13.7)	—	—	2.1	灰N6/6	灰V9R7/1	
177		33	SX001	G-12	透巣岩	瓶	—	No.16.36	15.9	—	—	2.3	灰N7/7	灰白V9/7	
178			SX001	G-12	透巣岩	瓶	—	No.21.22	16.6	—	—	(1.9)	灰白V9R7/1	灰白V9R7/1	
179			SX001	G-12	透巣岩	瓶	—	No.145	17.2	—	—	3.1	灰V9R7/1	灰白V9/7/1	
180			SX001	G-12	透巣岩	瓶	—	No.35	18.7	—	—	3.1	灰N6/6	灰V9/7	
181		47	SX001	G-12	透巣岩	瓶	—	No.89	(16.5)	—	—	2.2	灰V9/7	灰N6/6	
182			SX001	G-12	透巣岩	瓶	—	No.71	16.3	—	—	2.8	灰V9R7/1	灰V9R7/1	
183			SX001	G-12	透巣岩	瓶	—	No.105	16.4	—	—	2.6	灰N6/6	灰N6/6	
184			SX001	G-12	透巣岩	瓶	—	No.142	18.1	—	—	2.8	灰V9R7/1	灰V9R7/1	
185			SX001	G-12	透巣岩	瓶	—	—	11.5	7.0	—	4.3	オリーブグリーンV9/5Y1	オリーブグリーンV9/5Y1	
186			SX001	G-12	透巣岩	杯	—	—	(11.3)	8.0	—	3.8	灰N5/6	灰N5/6	
187			SX001	G-12	透巣岩	杯	—	No.138	11.9	8.6	—	4.1	灰V9R7/1	灰V9R7/1	
188			SX001	G-12	透巣岩	杯	—	No.102	(12.2)	(7.8)	—	3.8	灰N6/6	灰N6/6	
189			SX001	G-12	透巣岩	杯	—	No.44.43	13.1	10.35	—	4.45	灰N6/6	灰N6/6	
190			SX001	G-12	透巣岩	杯	—	—	(13.0)	9.2	—	4.05	灰青V9R7/2	灰青V9R7/2	
191			SX001	G-12	透巣岩	杯	—	No.9	(13.1)	(9.25)	—	4.1	灰V9R7/1	灰V9/7	
192			SX001	G-12	透巣岩	杯	—	No.83	(13.7)	(8.2)	—	3.6	灰白N6/6	灰白N6/6	
193			SX001	G-12	透巣岩	高台付杯	—	No.2	12.6	(8.2)	—	4.7	灰V9R7/2/2	灰青V9/9R6/2	
194			SX001	G-12	透巣岩	高台付杯	—	No.14	(13.5)	8.5	—	4.0	灰N6/6	灰N6/6	
195			SX001	G-12	透巣岩	高台付杯	—	No.18	(14.2)	8.0	—	5.4	灰N6/6	灰N6/6	
196			SX001	G-12	透巣岩	高台付杯	—	No.15	11.5	7.3	—	3.9	灰N6/6	灰V9R7/1	
197			SX001	G-12	透巣岩	高台付杯	—	No.42	13.7	8.9	—	4.7	灰N6/6	灰N6/6	
198			SX001	G-12	透巣岩	高台付杯	—	No.19	(14.0)	(8.6)	—	5.75	灰V9R7/1	灰V9R7/1	
199			SX001	G-12	透巣岩	高台付杯	—	No.144	12.2	6.6	—	4.3	灰N6/6	灰N6/6	
200			SX001	G-12	透巣岩	高台付杯	—	—	13.5	9.2	—	4.2	緑V9/5R6/1	緑V9/5R6/1	
201			SX001	G-12	透巣岩	高台付杯	—	No.131	12.5	8.8	—	4.3	黒灰V9R9/5	黒灰V9R9/5	
202			SX001	G-12	透巣岩	高台付杯	—	No.35	(12.5)	7.1	—	4.3	灰N4/6, 灰V9R6/1	灰N6/6	
203			SX001	G-12	透巣岩	高台付杯	—	No.8	11.4	7.1	—	4.4	灰V9R7/1	灰V9/7	
204			SX001	G-12	透巣岩	高台付杯	—	No.36	13.0	—	—	(4.5)	灰V9R7/1	灰V9/7	
205		48	SX001	G-12	透巣岩	瓶	—	No.130.151	14.05	11.3	—	2.4	灰V9R7/1	灰V9R7/1	
206			SX001	G-12	透巣岩	瓶	—	No.130	13.8	12.0	—	2.3	灰N6/6	灰N6/6	
207		33	SX001	G-12	透巣岩	瓶	—	No.170	13.0	10.4	—	2.4	灰V9R7/1	灰V9R7/1	
208			SX001	G-12	透巣岩	瓶	—	No.38	13.3	11.7	—	2.4	灰青V9R7/2	灰青V9R7/2	
209			SX001	G-12	透巣岩	瓶	—	No.3	(16.8)	(14.0)	—	1.9	灰N6/6	灰N6/6	
210		49	SX001	G-12	透巣岩	短錐形	—	—	(11.6)	12.2	—	19.4	灰白V9R7/1	灰褐色V9R6/2	
211		34	SX001	G-12	透巣岩	短錐形	—	—	(31.0)	—	—	(42.4)	灰N4/0, 灰N6/0	灰N4/0, 灰N6/0	
212			SX001	G-12	透巣岩	短錐形	—	No.1	—	11.8	—	(23.7)	灰N4/0	灰N4/0	
213			SX002	F-14	土師器	瓶	—	—	—	—	—	(1.2)	にぶい褐色V9R7/6	にぶい褐色V9R7/6	
214			SX002	F-14	土師器	瓶	—	—	—	—	—	(0.8)	淡青V9R6/4	淡青V9R6/4	
215			SX002	F-14	土師器	瓶	—	No.9	(17.8)	—	—	4.1	にぶい褐色V9R7/6	にぶい褐色V9R7/6	
216			SX002	F-14	土師器	杯	—	—	12.0	—	—	4.3	にぶい褐色V9R6/4	にぶい褐色V9R6/4	
217			34-45	SX002	F-14	土師器	杯	—	(18.0)	6.8	—	5.0	褐色V9R7/6	褐色V9R7/6	
218			SX002	F-14	土師器	杯	—	(13.4)	(8.5)	—	3.2	反青V9R6/2	反青V9R7/6		
219			SX002	F-14	土師器	杯	—	—	12.6	6.1	—	4.0	にぶい褐色V9R7/6	褐色V9R7/6	
220			SX002	F-14	土師器	杯	—	(14.1)	(6.2)	—	3.7	にぶい褐色V9R7/6	にぶい褐色V9R7/6		
221			SX002	F-14	土師器	杯	4個	(16.0)	(8.2)	—	5.5	にぶい褐色V9R7/6	にぶい褐色V9R7/6		
222			SX002	F-14	土師器	杯	—	—	—	—	—	(1.1)	にぶい褐色V9R7/4	褐色V9R7/6	
223			SX002	F-14	土師器	杯	4個	—	—	—	—	(2.0)	褐色V9R6/6	褐色V9R7/6	
224			SX002	F-14	土師器	瓶	4個	—	(18.2)	—	—	(9.5)	にぶい褐色V9R7/6	にぶい褐色V9R7/6	
225			SX002	F-14	土師器	瓶	4個	—	—	19.2	—	—	10.7	にぶい褐色V9R7/6	にぶい褐色V9R7/6
			SX002	F-14	土師器	短錐形	4個	—	(8.8)	—	—	(6.0)	にぶい褐色V9R7/6	にぶい褐色V9R7/6	

Tab. 8

登録番号	Flo. No.	品種名	ブリード	母	父	性別	年	月	日	販路	販送	年々通算	販路	販送	年々通算	販路	販送	年々通算
227	50	SX002	F-14	土師器	黒	-	-	(21.6)	-	-	-	(10.8)	便2.5YR6/1	便2.5YR6/1	便2.5YR6/1	便2.5YR6/1	便2.5YR6/1	便2.5YR6/1
228		SX002	F-14	土師器	黒	-	-	(17.1)	-	-	(2.1)	便2.5YR6/1						
229	51	SX002	F-14	土師器	黒	-	-	12.95	8.8	-	4.3	便2.5YR6/1						
230		SX002	F-14	土師器	高台竹附	-	No18	17.0	10.7	-	6.3	便2.5YR6/1						
231		SX002	F-14	土師器	黒	-	-	14.1	12.0	-	1.8	便2.5YR6/1						
232		-	-	土師器	黒	-	-	(11.8)	-	-	5.1	便2.5YR6/1						
233		G-5	土師器	黒	-	-	-	12.0	-	-	4.5	便2.5YR6/1						
234		F-G-5	土師器	黒	7盤	-	(14.4)	-	-	(5.2)	便2.5YR6/1							
235		G-5	土師器	黒	7盤	-	(15.0)	7.4	-	5.4	便2.5YR6/1							
236		F-G-5	土師器	黒	7盤	-	14.7	8.3	-	4.6	便2.5YR6/1							
237		G-4	土師器	黒	6盤	-	(13.2)	(7.0)	-	3.6	便2.5YR6/1							
238		F-G-7	土師器	黒	-	-	14.8	6.8	-	3.6	便2.5YR6/1							
239		G-1	土師器	黒	-	-	14.45	8.6	-	3.05	便2.5YR6/1							
240		F-G-3-4	土師器	黒	4盤-3盤	-	(13.3)	(7.6)	-	3.8	便2.5YR6/1							
241	53	F-G-7	土師器	黒	-	-	(14.8)	7.1	-	3.7	便2.5YR6/1							
242		F-G-7	土師器	黒	-	-	15.5	7.1	-	3.9	便2.5YR6/1							
243		F-G-3-4	土師器	黒	4盤-3盤	-	(15.6)	(9.0)	-	4.4	便2.5YR6/1							
244		F-G-4-5	土師器	黒	4盤-3盤	-	14.2	6.9	-	4.1	便2.5YR6/1							
245	45	F-12	土師器	黒	-	-	(12.8)	5.7	-	4.0	便2.5YR6/1							
246		G-7	土師器	黒	-	-	(12.8)	8.4	-	3.4	便2.5YR6/1							
247		F-7	土師器	黒	-	-	(11.8)	(6.8)	-	3.3	便2.5YR6/1							
248		F-G-4-5	土師器	黒	3盤	-	12.4	6.8	-	3.4	便2.5YR6/1							
249	54	G-4	土師器	黒	5盤	-	13.0	7.95	-	3.1	便2.5YR6/1							
250		F-G-13	土師器	黒	-	-	(12.9)	7.7	-	4.1	便2.5YR6/1							
251		F-G-4-5	土師器	黒	3盤	-	(12.7)	-	-	3.3	便2.5YR6/1							
252		F-G-5	土師器	黒	7盤	-	(17.7)	-	-	(29.8)	便2.5YR6/1							
253	55	F-12	土師器	黒	-	-	(14.3)	-	-	3.6	便2.5YR6/1							
254		G-12	土師器	黒	-	-	(15.4)	-	-	2.4	便2.5YR6/1							
255	35	G-5	土師器	黒	-	-	17.4	-	-	(7.1)	便2.5YR6/1							
256		F-G-12	土師器	黒	-	-	14.9	-	-	(22.6)	便2.5YR6/1							
257	56	F-G-4-5	土師器	黒	-	-	18.0	-	-	30.3	便2.5YR6/1							
258		F-11	土師器	黒	-	-	(18.4)	-	-	(8.4)	便2.5YR6/1							
259		F-6	土師器	黒	-	-	19.1	-	-	(19.8)	便2.5YR6/1							
260		G-13	土師器	黒	-	-	25.1	-	-	(19.8)	便2.5YR6/1							
261	57	F-G-7	土師器	黒	-	-	(27.6)	-	-	(37.7)	便2.5YR6/1							
262		G-15	土師器	黒	8盤	-	26.4	-	-	(25.0)	便2.5YR6/1							
263	58	F-G-2-3	土師器	黒	3-5盤	-	(36.8)	-	-	(29.0)	便2.5YR6/1							
264		F-G-2-3	土師器	黒	4盤	-	(36.9)	-	-	33.0	便2.5YR6/1							
265		F-G-14	土師器	黒	巴付蓋	3盤	-	(36.4)	-	-	(37.1)	便2.5YR6/1						
266		F-G-14	土師器	黒	5盤	-	22.6	-	-	(9.2)	便2.5YR6/1							
267	59	F-G-14	土師器	黒	4盤	-	21.2	-	-	(10.2)	便2.5YR6/1							
268		F-14	土師器	黒	4盤	-	(10.7)	-	-	(8.7)	便2.5YR6/1							
269		F-G-3	土師器	平机	4盤	-	-	-	-	(4.8)	便2.5YR6/1							
270		F-G-2-3	土師器	機械	-	-	13.7	-	-	(40.6)	便2.5YR6/1							
271	60	特許登録																
272		A5	G-14	土師器	黒	4盤	-	(18.0)	-	-	(2.5)	便2.5YR6/1						
273		G-14	土師器	黒	4盤	-	-	-	-	(1.4)	便2.5YR6/1							
274		G-14	土師器	黒	4盤	-	-	-	-	(1.0)	便2.5YR6/1							
275		G-14	土師器	黒	4盤	-	-	-	-	(1.6)	便2.5YR6/1							
276		G-14	土師器	黒	4盤	-	-	-	-	(2.0)	便2.5YR6/1							
277		G-14	土師器	黒	5盤	-	-	-	-	(1.3)	便2.5YR6/1							
278		F-14	土師器	黒	5盤	-	-	-	-	(1.0)	便2.5YR6/1							
279		G-14	土師器	黒	-	-	-	-	-	(1.1)	便2.5YR6/1							
280		G-16	土師器	黒	18盤	-	-	-	-	(1.2)	便2.5YR6/1							
281		F-14	土師器	黒	5盤	-	-	-	-	(0.6)	便2.5YR6/1							
282		G-14	土師器	黒	4盤	-	-	-	-	(0.6)	便2.5YR6/1							
283		F-15	土師器	黒	18盤	-	-	-	-	(1.8)	便2.5YR6/1							
284		F-14	土師器	黒	5盤	-	-	-	-	(0.8)	便2.5YR6/1							
285		E-7	土師器	黒	-	-	(7.4)	-	-	(3.4)	便2.5YR6/1							
286		G-8	土師器	黒	-	-	(6.8)	-	-	(1.4)	便2.5YR6/1							
287	45	-	土師器	高台竹附	-	-	(6.4)	-	-	(2.7)	便2.5YR6/1							
288		G-14	土師器	皿	-	-	(12.7)	6.0	-	2.4	便2.5YR6/1							
289	44	F-G-14	土師器	皿	4盤	-	-	6.8	-	(1.0)	便2.5YR6/1							
290		F-12	土師器	皿	-	-	-	-	-	(0.6)	便2.5YR6/1							
291	35	F-G-13	土師器	皿	-	-	(19.3)	(12.0)	-	16.1	便2.5YR6/1							
292		F-14	土師器	皿	-	-	(12.8)	(7.2)	-	3								

Tab.9

陶器部品表

番号	品名	PL%	直営名	規格	種別	属性	出上場所	寸法	重量	単位	備考	販路	内需
13	29		SK016	G-15	耐熱 瓦	一	一箱	—	(5.6)	—	(2.8)	C-216すかひの瓦の他	C-216すかひの瓦の他
36	31		SK030	F-7	耐熱 瓦	4箱			—	(1.4)	C-160耐熱瓦	C-160耐熱瓦	
298	64	48	直営	—	耐熱 瓦	—	一箱	9.0	—	—	C-251耐熱瓦 (耐熱)瓦合5kg	C-251耐熱瓦	

瓦類表

番号	品名	PL%	直営名	規格	出上場所		寸法		重量		販路		内需
					寸法	特記	寸法	特記	寸法	特記	内需	内需	
15	29	37	SK019	耐熱瓦	—	F-15	—	瓦当面	7.9~	—	—	—	—
37	31	36	SK030	平 瓦	—	F-7	(13.9)	瓦当面	22.7 23.2	1.6	にふり7.5kg/74	にふり7.5kg/74	—
299	65		—	平 瓦	3箱	F-14	(8.0)	(11.2)	—	1.65	にふり7.5kg/64	にふり7.5kg/64	
300	65		—	平 瓦	3箱	G-14	(13.3)	(8.4)	—	2.5	にふり7.5kg/64	にふり7.5kg/64	
301	66		—	平 瓦	4箱	G-14	(16.3)	(12.6)	—	1.8	にふり7.5kg/73	にふり7.5kg/73	
302	66		—	平 瓦	4箱	G-14	(17.35)	(21.6)	—	2.2	にふり7.5kg/64	にふり7.5kg/64	
303	66		—	丸 瓦	研磨	G-14	(10.0)	(14.9)	—	1.9	にふり7.5kg/1	にふり7.5kg/1	内需2.5kg/1

器具品部品表

番号	品名	PL%	直営名	規格	出上場所		寸法		重量		販路		内需
					寸法	特記	寸法	特記	寸法	特記	内需	内需	
309	—		新貝	—	—	G-13	—	—	5.0	—	(最大厚)	0.8	—
310	—		新貝	陶り土瓦	2箱	F-G-4.5	5.3	5.2	0.1	—			
311	—		新貝	—	—	G-15	4.3~	—	3.4~	—	0.7	—	
312	—		新貝	—	3箱	F-G-4.5	5.4~	—	0.8~	—			
313	—		刀子	—	—	F-14	(7.4)	—	1.1~	(刃部)	0.8~	(刃部)	0.7
314	—		刀子	—	—	G-7-8	(3.4)	—	0.45	—			
315	—		鉄錠	—	—	G-15	(7.4)	—	—	(刃部)	0.7~	(刃部)	0.3
316	—		鉄錠	—	4箱	G-14	1.8	—	0.2	(刃部)	0.2	(刃部)	0.3
317	—		嵌状手斧	—	—	F-15	6.1~	(1.8)	1.8~	(刃部)	0.1~	(刃部)	1.8~
318	—		嵌状	—	—	—	8.5	—	9.5	—	5.4	—	
319	—		嵌状	—	—	G-8	9.0	—	8.3	—	4.3	—	

石製品部品表

番号	品名	PL%	直営名	規格	出上場所		寸法		重量		販路		内需
					寸法	特記	寸法	特記	寸法	特記	内需	内需	
168	46	38	SK001	麻石	No.82	—	G-12	18.1	6.3	—	6.9	1004.8	
309	—		新貝	—	—	G-7	(3.3)	(1.8)	0.4	—	1.0	32.9	
310	—		新貝	—	4箱	G-15	1.9	(1.8)	0.3	—	1.4		
311	70	38	—	瓦束	—	3箱	F-G-4	2.8	(1.8)	0.45	(大) 0.1 (小) 0.1	(頭) 0.7	2.4
312	—		新貝	—	7箱	G-5	23.7	10.1	—	9.66	3715.2		

鋼錆被部品表

番号	品名	PL%	直営名	規格	出上場所		寸法		重量		販路		内需
					寸法	特記	寸法	特記	寸法	特記	内需	内需	
304	—		SK005	—	—	標準錆	—	—	—	—	—	—	
305	—		SK005	—	—	標準錆	—	—	—	—	—	—	
306	87	37	—	SK005	—	標準錆	—	—	—	—	—	—	
307	—		SK026	3-3箱	標準錆	標準通貫	—	北東	10箱	—	標準	標準	
308	—		SK012	3箱	新錆	元箱通貫	北東	10箱	—	—	—	—	

Tab.10

地主	調査				調査	調査	番号
	内目録	内表面	外表面	内表面			
岩船へ向引	—	へうせり	—	(音) 基石内面に貼り付なし。表面内面に貼り付。表面側系表記。底部内面。(内面貼り込み)印文(河原道臣) (外表面)被覆文。内面にも被覆文のようのがある。(3) 贴り出し系。	313		
表石	—	—	—	—	剥離現象、全面剥離、(表の目録)基石剥離	301	
表石	田舎土子 染付、塗装 染付、塗装	田舎ナマ 染付、塗装	研ぎ出し・基台	—	表石剥離 全面剥離、(表の目録)基石剥離	298	

地主	調査				調査	調査	番号
	内目録	内表面	外表面	内表面			
表石、表石	各目録、ナマ	—	表文、墨井	—	瓦当側面に丸瓦の表目が包圧されている丸瓦との瓦当剥き時間が遅って、丸瓦がより貼りしている状態で貼り付けたという事を示している。表文3箇所残す。表文3箇所残す。墨井3箇所残す。	315	
表石、表石 赤色顔化粧	椅子目クタキ	布目録	—	表取り			37
表石、表石 赤色顔化粧	椅子目クタキ	布目録	—	表取り			299
表石、表石 赤色顔化粧	椅子目クタキ	布目録	—	表取り			300
表石、表石 赤色顔化粧	椅子目クタキ	布目録	—	表取り			301
表石、表石 赤色顔化粧	椅子目クタキ	布目録	—	表取り			302
表石、表石、角開石	ナマ	布目録	—	表取り			303

調査(内)	調査(外)		調査	番号
	表み	表録		
—	—	11.4	積の部屋	309
—	—	11.5	積の部屋に貼る事の出来しきものが残らるがはつきりしない	310
—	—	18.7	積の部が少ない形跡は不思	311
—	—	4.8	豊臣時代には表の部屋 裏面顔化粧がないので形容が不確	312
(表み) 0.25	—	5.1	全体に剥げ表	313
—	—	2.6	刀削は一部を残すのみで不明	314
—	—	8.0	刀削されたが表側に裏面が残られる 裏に裏面が残るだけ裏面あり	315
—	—	5.3	残りが少なく裏部の裏面についてはX線を通してみないと分からぬ	316
(表み) 0.15	(刀削幅) —	10.0	1/2強の裏面、裏部の裏面つづき 裏面	316
—	—	442.6	裏部は表で内部に木質が残る。全体が剥げている 刀削は欠削している	317
—	—	272.6	裏面に大小の凹凸が残られる 裏面と表の部が部分がある 全面に大小の凹凸が残られる	318
—	—	—	全面に裏面	319

色調	石材	調査				調査	番号
		表み	内目録	内表面	外表面		
—	流政岩	使用として使用している心版部分中心部のみが浮く。(鏡面) 表面は全体の使用面ではなくてではないが鉛筆のはつきりした使 用が分かる。				168	
—	碧岩	厚見2箇所残存				318	
深黒色	—	全面に調製痕(削痕)が残られる。孔様は周囲界限。				320	
鐵割色	—	全面に調製痕(削痕)が残られる。孔様は周囲界限。				321	
—	高級岩	鏡面にも使用と思われる部分あり。磨石として使用している部分全体に巻き痕が見られる。 (特に中心部は僅みが浮く)				321	

調査(内)	調査(外)				調査	番号
	表み	内目録	内表面	外表面		
1.3	0.7	0.7	0.3	裏面剥離	308	
1.2	0.6	0.7	0.2	裏面剥離	309	
1.3	0.7	0.5	0.1	記念種存	308	
2.4	0.7	0.2	3.3	記念種存	307	
2.9	0.7	0.2	2.2		308	

被爆車輌別表

被爆 番号	引出 No.	PL.%	遭難者名	種別	品目	被爆部位	被爆度	死 者	重 傷	輕 傷	燒 傷	活 着	活 死
320			—	鉄製	被説車	F-G-4-5	3箇	(4.2)	0.4	0.15	4.8		
321			—	石製	被説車	G-15	4箇	4.8	0.95	0.9	30.3		
322			—	石製	被説車	F-G-17	4箇	(2.8)	0.95	12.1			
323	89	36	—	土製	被説車	G-14	4箇	(3.6)	0.8	1.1	10.1		
324			—	土製	被説車	F-14	4箇	5.5	0.8	2.0	34.4		
325			—	土製	被説車	G-14	4箇	6.1	0.8	1.4	24.9		
326			—	土製	被説車	F-15	4箇	(2.5)	—	1.2	10.7		
327			—	土製	被説車	G-15	4箇	(5.3)	0.8	1.1	17.3		
328			—	土製	被説車	G-7	—	6.0	0.7	1.8	65.7		

被爆車両

被爆 番号	引出 No.	PL.%	遭難者名	種別	品目	被爆部位	被爆度	死 者	重 傷	輕 傷	燒 傷	活 着	活 死
250	95	35	—	機	内燃機	—	F-7	—	—	—	(3.2)	反対側10YR5/2 反対側10YR4/2	反対側10YR5/2 反対側10YR4/2

被説車両

被爆 番号	引出 No.	PL.%	遭難者名	種別	品目	被爆部位	被爆度	死 者	重 傷	輕 傷	燒 傷	活 着	活 死
271			—	土頭機	移動式砲	—	G-8	(27.0)	(28.8)	27.9	被説7.5YR5/6	に5.1場7.5YR5/3	
372	60		—	土頭機	電	—	F-G-5	22.6	—	(11.5)	に5.1場7.5YR5/4	に5.1場7.5YR5/4	

トランク別表

被爆 番号	引出 No.	PL.%	遭難者名	種別	品目	被爆部位	被爆度	死 者	重 傷	輕 傷	燒 傷	活 着	活 死
333			—	トラン	—	—	T.7	9.2	(21.2)	—	—	反対YR4/2 に5.1場YR4/3 (下方部分)	反対YR4/2 に5.1場YR4/3
334	71	38	—	トラン	—	—	8.2	(11.0)	(10.5)	—	—	反対2.5YR4/2 8.7.5YR4/2	に5.1場2.5YR4/4
335			—	トラン	F-5	—	—	9.6	(10.1)	—	—	反対7.5YR4/2	反対7.5YR4/2

Tab.11

材質	基	考	通
—	半ばに溝 2/3残存		320
砂岩	はぼ穴が近いが背面の側面の一部と上面2/3は剥離している複数部に欠損も見られる 丸は背面剥離。		321
砂岩	残存1/4は 丸は背面から剥落してるとと思われる 削り痕が僅かに残る。		322
土壁	残存1/4以下 表面剥離、削落全体に削り痕あり		323
土壁	1/2残存 全面で剥離して調査していると思われる 丸は背面剥離。		324
土壁	丸は背面剥離。		325
土壁	残存1/4		326
土壁	丸は背面剥離。全面に調査したときの削り痕あり		327
土壁			328

地	調	基	考	通
長石、輝石	ナデ	等ナデ	過かしの部分はへラ切りである	255

地	調	基	考	通
粘土、長石、青母、輝石	等ナデ ハク日進ナデ	根ナデ、削り	壁から端へ転用。粘土に滑石を混ぜて構成。	271
青母、石英、長石	等ナデ、へらによる 削離、ナデ	等ナデ ハク日、ナデ		272

地	調	基	考	通
長石、輝石、赤色鉱化物 輝石	全体に工具を使用し 調整後端ナフ	(遮断)鉱物堆積みが見られる (開口)埋んだ鉄鉱あり		333
長石、輝石、赤色鉱化物 輝石	全体に工具を使用し 調整後端ナフ			334
長石	全体に工具を使用し 調整後端ナフ	(開口)一部輝付層		335

### 3 宮地銀行寺遺跡

#### A 遺跡の概要

##### 1区 遺構

本線41区、42区東側に隣接する調査区。

(1) 5層上面検出遺構 (Fig.73)

**柵列SA001** 5層上面で検出された遺構。SA002と並列するが、間隔が近いことから別遺構と判断した。P1は遺構内に段を有し、中心に向かい小さな掘り込みを呈す。P2は下位にまで緩やかなY字を呈し、基部付近で角度を変え垂直に落ちる。柱穴間は1.65m、P1、P2とも掘り込み深度は同じく約0.5mを測る。

**柵列SA002** SA001の南に並び検出した遺構。P1は断面が緩やかなU字状、P2がSA001.P2と同じように下端近くで角度を変えた掘り込みが確認できる。柱穴間は1.7m、掘削深度はP1.P2とも同じく約0.5mを測る。

**柵列SA003** 調査区南端に位置し、検出した遺構。SA001、SA002とはやや角度が違うが、ほぼ東西に伸びると思われる遺構。P1は検出が浅く、わずかに下端を確認ただけである。P2はSA002.P1と下端形状が類似し、段を有しながらもU字状の断面をなす。

**土坑SK001** 柱穴SP001の南に位置し、一部調査区外（西側）に広がる遺構。平面形は長楕円形を呈す。埋土中より須恵器蓋が1点出土している。

**土坑SK002** 平面形が楕円形を呈す遺構。遺構の一部が調査区東側に広がり全容は不明。

**土坑SK003** 調査区南端に位置し、遺構の約半分が調査区外に伸びる遺構。長軸は約2.06m、断面は深く、調査区内で確認できた範囲で約1.05mを測る。出土遺物は主に、最下層にあたる4層、最上層の1層から出土しているが、遺物に時間幅がないことから短時間に埋没した遺構と見られる。2層が堆積し終わり、1層が入る時点で土師器皿が2枚重なった状態に入る。

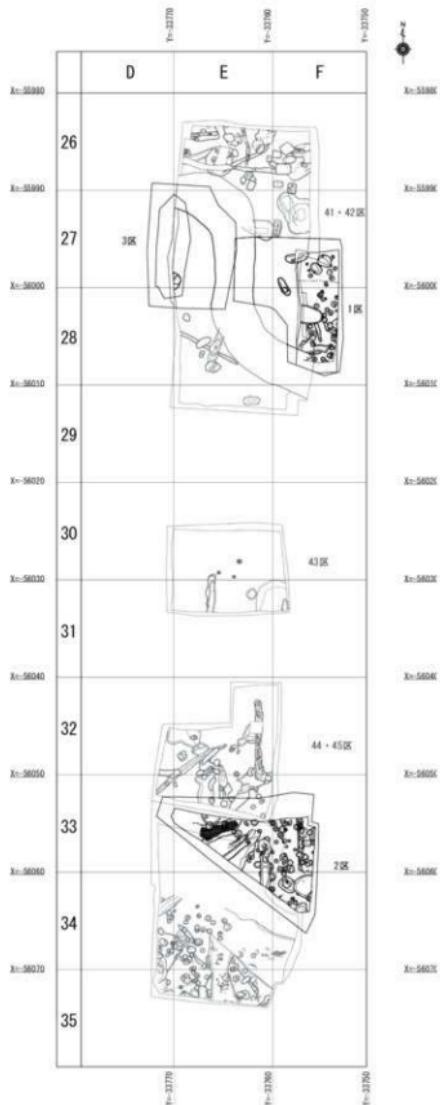
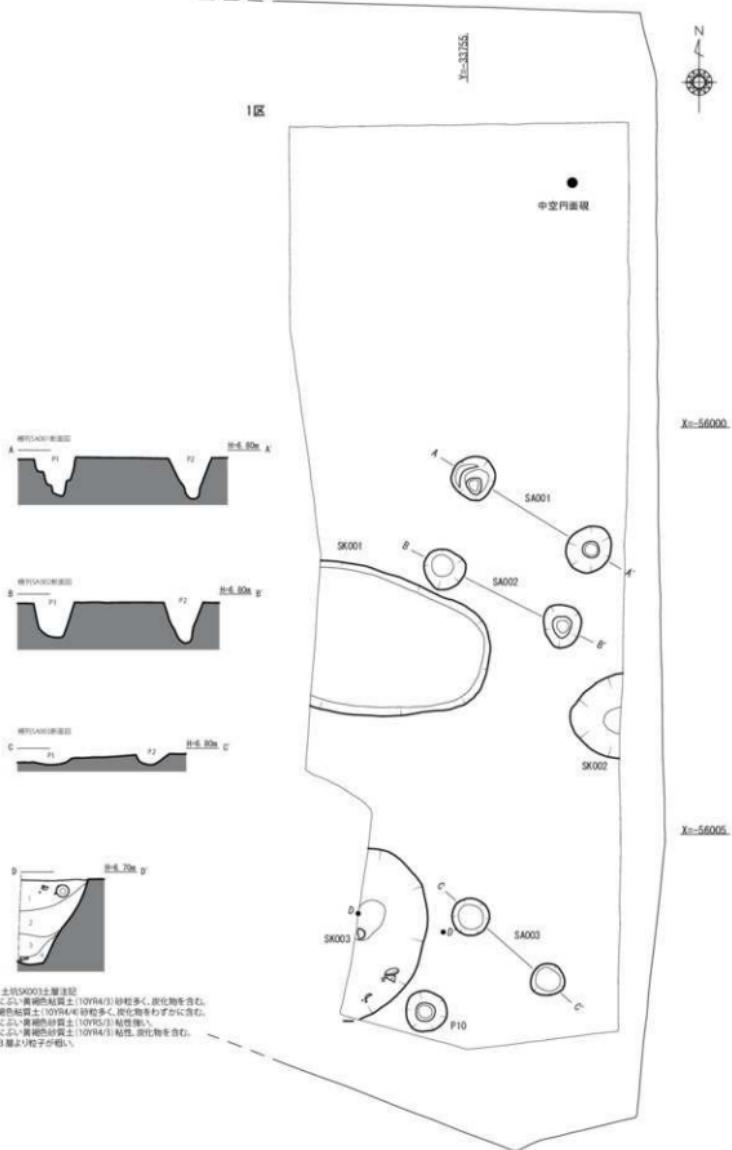


Fig.72 宮地銀行寺遺跡 遺構配図 (1/500)



1区 土器の出土位置図  
 1 にごい青褐色粘土質土(10YR4/3)砂粒多く、液化物を含む。  
 2 褐色粘土(10YR4/4)砂粒多く、液化物をわずかに含む。  
 3 にごい青褐色粘土質土(10YR5/3)粘性強い。  
 4 にごい青褐色粘土質土(10YR4/3)粘性、液化物を含む。  
 3層より粒子が細い。

Fig.73 宮地銀行寺遺跡 1区 5層(古代)遺構配置図

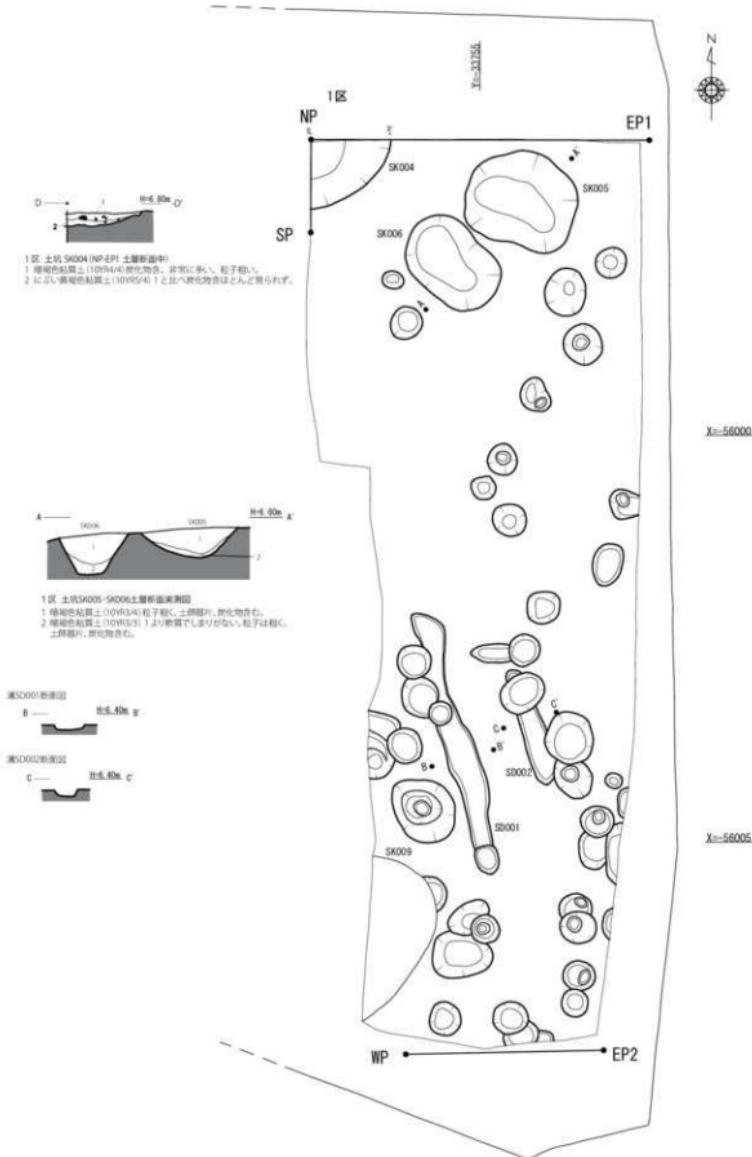


Fig.74 宮地銀行寺遺跡 1区 7層(古代)遺構配置図

(2) 7層上面検出遺構 (Fig.74)

溝SD001 調査区のほぼ中心で柱穴群に切られて検出された遺構。断面(B-B')は浅く下端は垂直に落ちる。遺構南端が柱穴に切られているため正確な全長は不明だが、全長約3.2m、幅約0.34mを測る。

溝SD002 SD001の東に位置し並列する遺構。全長約0.95m、中位における幅は約0.26m (C-C')。途中を柱穴により切られる。

土坑SK004 調査区北西部隅で検出した遺構 (D-D')。全体の1/4しか掘削はしていない。遺構の時代を示す出土遺物は、土器鉢 (12)、壺 (11) で、古墳時代後期の須恵器蓋杯の身 (13) が1点出土している。

土坑SK005-SK006 調査区北側で検出した遺構。2基の土坑が並び土層断面 (A-A')は軸を併せて掘削している。出土遺物はない。

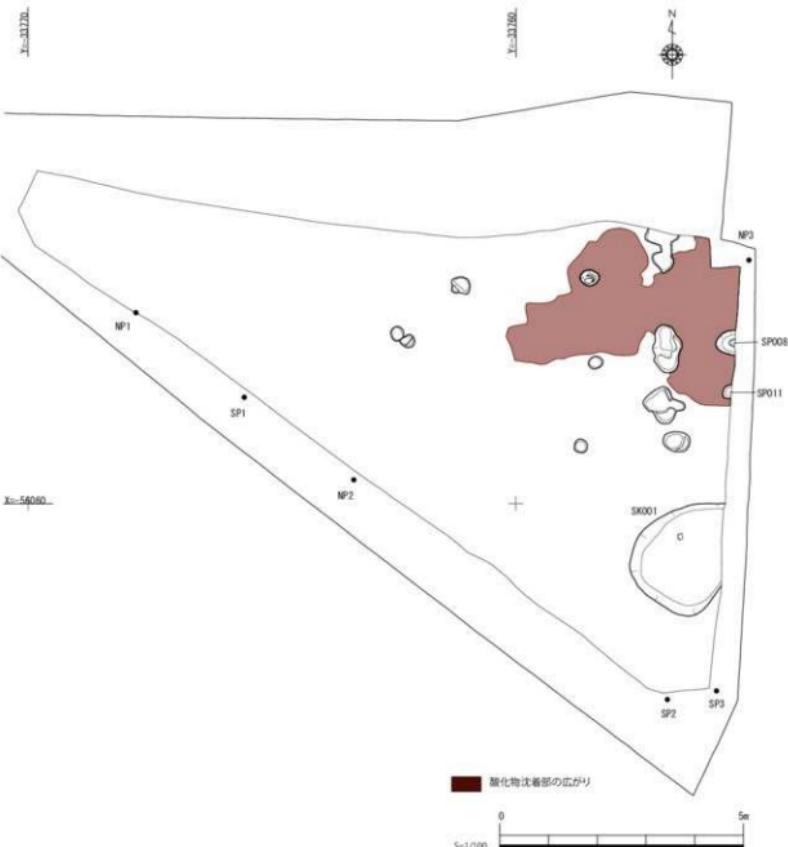


Fig.75 宮地銀行寺遺跡2区4層遺構配置図

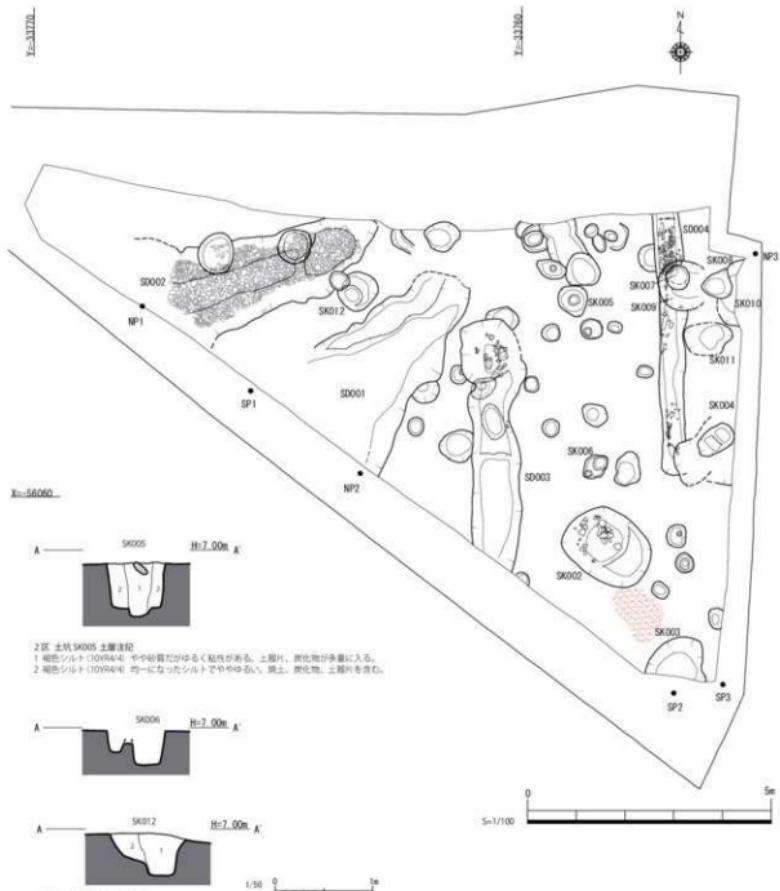


Fig.76 宮地観音寺遺跡2区7層(古代)遺構配置図

## 2区 遺構

(1) 4層上面検出遺構。(Fig.75)

土坑SK001 F-34Grid調査区東側へ遺構の一部が伸び全体形は不明であるが、残りの形状から楕円形の土坑が想定される。長径約2.4m、短径2.0mを測る。遺構の断面の一部が、調査区土層東側(NP3-SP3)の断面図に図示される。出土遺物は埋土中より蓋杯の身(32)が1点出土している。

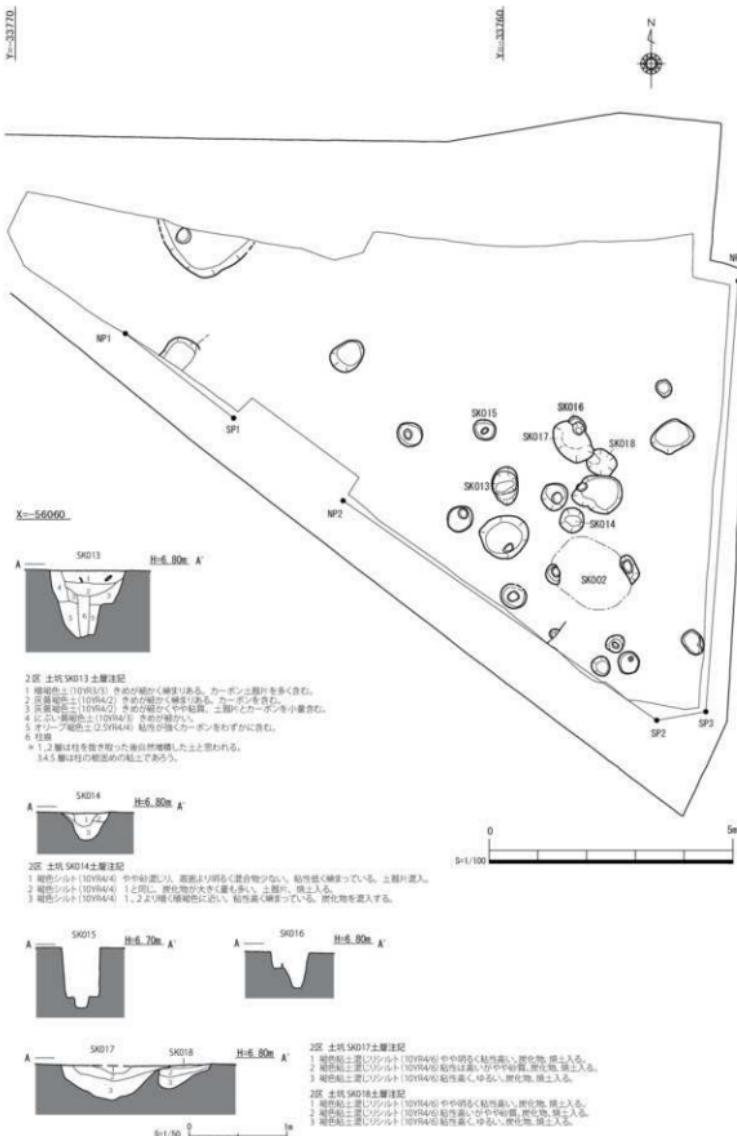


Fig.77 宮地銀行寺遺跡 2区、8層造構配図

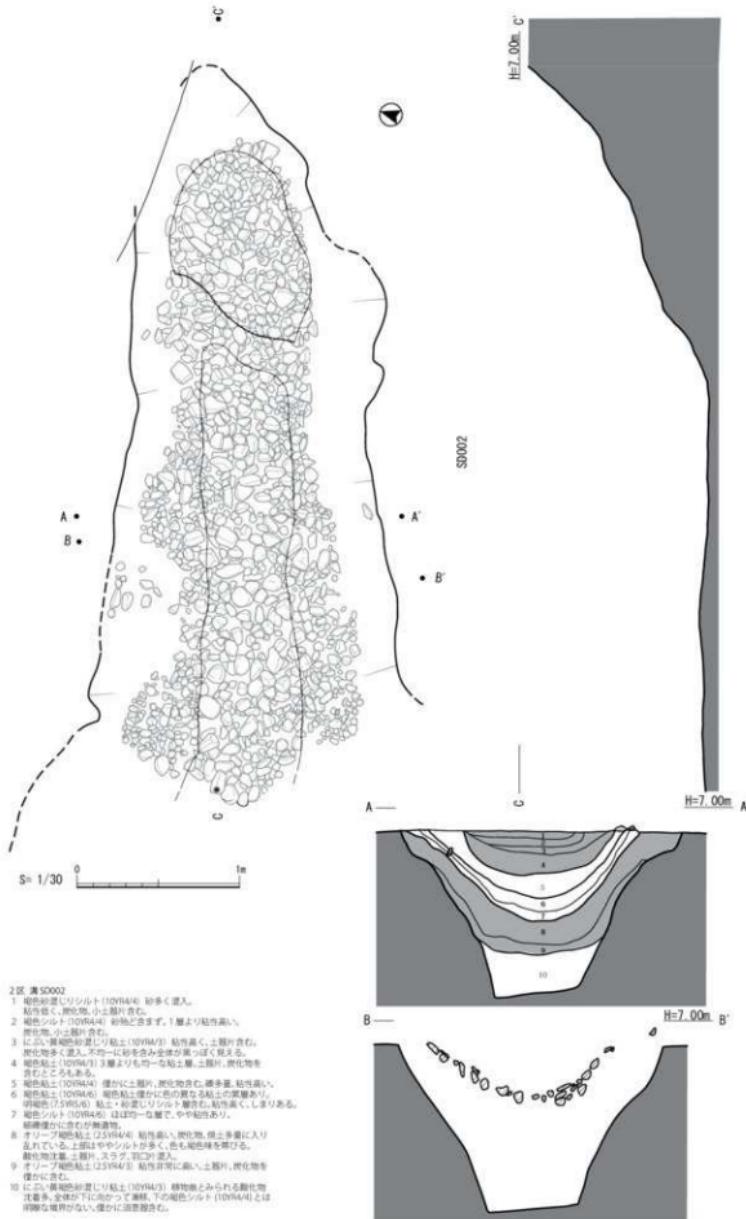


Fig.78 2区 溝SD002平面図と断面図

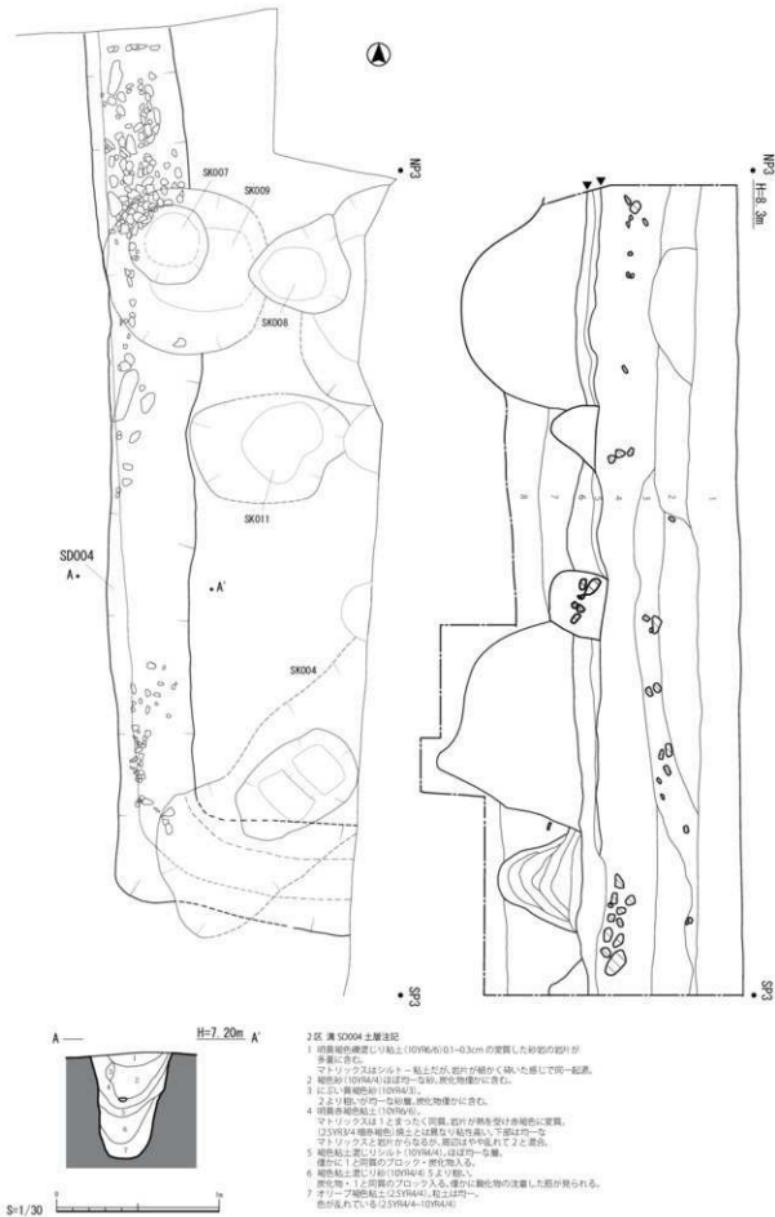


Fig.79 2区 溝SD004平面図と断面図

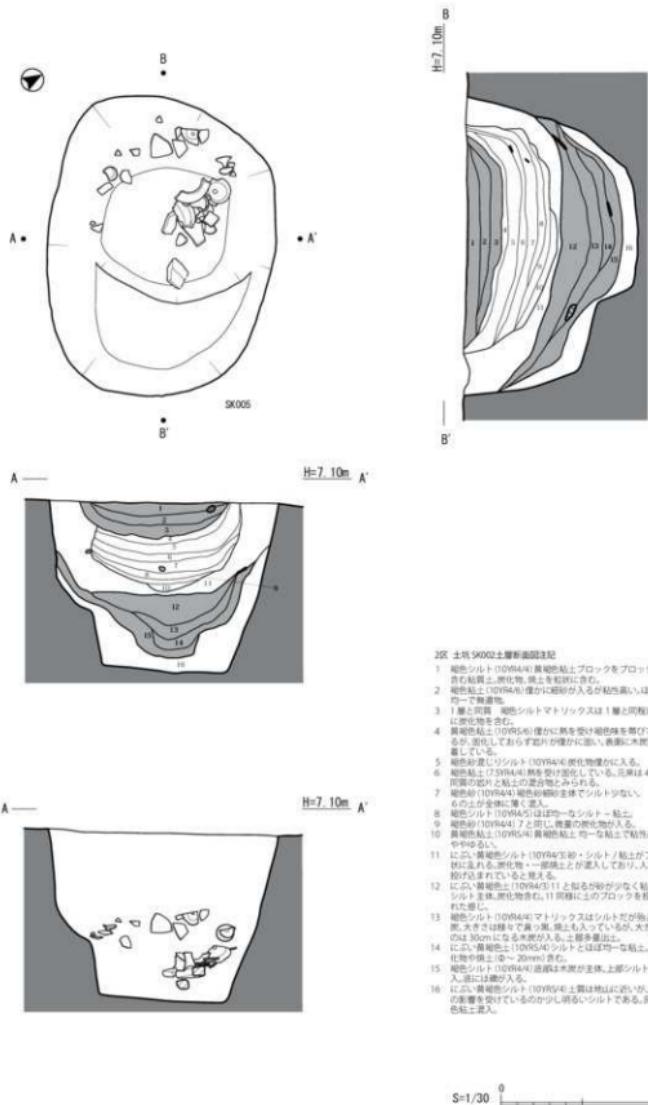
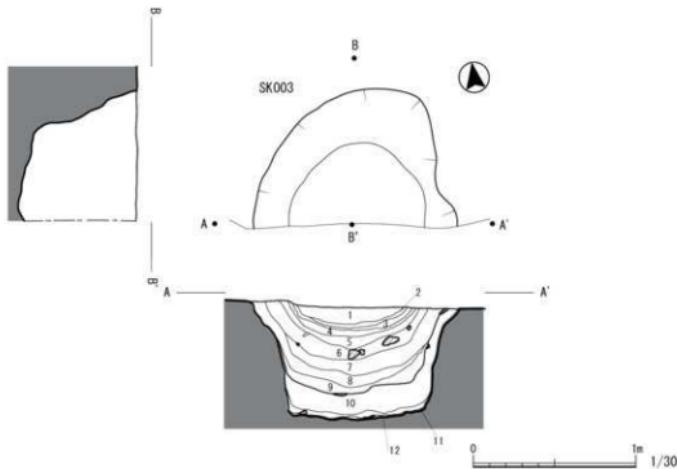


Fig.80 2区 土坑SK002平面図と断面図



2区土坑SK003土壁断面図記

- 1 浅色砂岩(?)1層(0.4m)や砂岩角砾、鈍頭地。土壁に、鉱化物を含み、全体的に溶隙を有する。
- 2 黄褐色粘土(10YR4/8)砂質粘土、それが乾燥化したものとの混合地。
- 3 に(2)の層間に砂質粘土(10YR4/8)を置いたため粘性が低くゆるい、わずかに鉱化物、土壁面を含む。
- 4 黄褐色粘土(10YR4/8)砂質粘土(10YR4/8)を置いたため粘性が低くゆるい、やや弱い(?)3層(0.6m)砂(●)10mmが多く混在。全体が緩やかで、しかも表面に鉱化物ではなく、鉱物も含まれない。
- 5 黄褐色粘土(10YR4/8)砂質粘土(10YR4/8)を置いたため粘性が低く、鉱化物の沈着が見られる。
- 6 に(5)の層(10YR4/8)厚さ(30~40mm)を多く含む。マトリクスはより粗目の方が多く、シルトを含む。
- 7 に(6)の層(10YR4/8)粘土(?)が緩やかで、緩慢に伸びる。砂岩物、鉱物を含み縦の凹凸により林縁の浸透水流入。
- 8 に(7)の層(10YR4/8)より粗目少ないうるさい、やや底付地が緩く、砂質地に鉱化物の沈着する。
- 9 黄褐色粘土(10YR4/8)砂質粘土(10YR4/8)を置いたため粘性が低くゆるい、砂岩物、鉱物を含む。
- 10 黄褐色粘土(10YR4/8)砂質粘土(10YR4/8)を置いたため粘性が低くゆるい、砂岩物、鉱物を含む。
- 11 反復堆積粘土(10YR4/8)粘性粘土、鉱物を含み多量に入れる。北側ではこの層の底に砂利、鉄津を多く含む層がある。
- 12 黄褐色粘土(10YR4/8)1層(マトリクスに鉱化物が沈着している)この調査区でよく見られる透水性土の鉱化層。

Fig.81 2区 土坑SK003 平面図と断面図

## (2) 7層上面検出遺構 (Fig.76)

溝SD001 調査区ほぼ中央で検出し、南に向かい伸びる遺構。掘り込みは明確ではなく、だらだらと広がり浅くなる。検出長径（主軸）4.3m、中心部で上端を確認できる範囲で2.3mを測る。遺構と言うよりも雨水により削り取られた自然地形であるとも見て取れる。出土遺物はない。

溝SD002平面図と断面図 (Fig.78) 調査区西端にて検出した遺構。検出できた面で約4.6m、最大幅約2.06m、遺構中位A-A'で幅1.21m、深さ1.02mを測る。土層断面を残したA-A'では埋土の5層中、6層上面でこぶし大の礫群が敷き詰められている。遺構自体は、北から南へ緩やかに傾斜しているのが窺える。礫を取り上げた後は、北端部と中位で段を有する。

土層断面実測図A-A'で土層を示すが、掘りなおして使用した痕跡を見て取ることができる。礫は底面近くがやや大きく、傾斜にあたる部分は小さくなる傾向がある。5層に含まれる礫群は、全量2,124個のうち、砂岩と頁岩が66%、安山岩18%、礫岩7%、その他流紋岩、チャート、変成岩類等からなる。そのうち熱を受けたと見られる礫は砂岩3個のみである。断面形からは1~4層、5~9層でU字状、10層で逆台形を呈するなど形状の違いが見られ、3期または3回の掘り直しが見られる。出土遺物はない。

溝SD003 E-33・34Grid. SD001東側で検出した遺構。遺構北端を別遺構により切られているため正確な全長は不明だが約4.1m、幅（最大径部）約1.0mを測る。遺構は平面、中位で南に向かって段を有する。

土師器椀（30、31）が出土している。

溝SKD004平面図と断面図(Fig.79) 調査区東側で南北に伸び検出した遺構。北側が調査区外に伸びる。南端は東に直角に折れ、調査区外に向い方形区画を呈する。A-A'で示す土層断面中の4層で検出した粘土層では、明黄赤褐色を呈し、面的に受熱した跡を見る事ができる。本遺構上層の4層にあたる粘質土の広がりの中から、鍛造鉄片が部分的に多量に出土している。そのため、製鉄(小鍛冶)に関連する遺構である可能性が高い。

検出した長さは南北に約5.38m、東西約1.46m、南北の中心部深さ約0.69mを測る。

土坑SK002平面図と土層断面図、遺物出土状況通図(Fig.80) F-34Grid。平面形は梢円形で長径1.84m、短径1.42m、深さは約1.04mを測る。土層断面の堆積状況を詳細に観察すると、細かく分層する事ができ、遺構の性格を探るには重要な要因となる。上層から1~4層、5層~10層、11層、12層~15層、16層とに違いを見て取れる。

下層から本遺構を見ると16層を掘り方とし、12層から15層が16層上面から掘り込まれ、一つのまとまりをなす。13層は木炭が含まれているため、層そのものが黒化している。本層には多くの遺物を含む。特に14層、15層は13層を燃焼面とすると、防湿のためのカーボンベッドの役割を果たしているものと思われる。

12層まで埋まった後は、改めて11層の土を入れ埋め戻され、4~10層が掘り込まれる。4、5層には受熱した砂礫及び燒土が見られ、6層は褐色を呈し、受熱し粘土が固化した層をなす。7~10層がシルト、粘質土からなる層でカーボンベッド相当の役割を果たしていたと思われる。更に、1~3層は5~10層を基礎とし、改めて掘り返され使用された層と見られる。1層に受熱した黄褐色粘土ブロック、炭化物を含むことから新たな燃焼面をなしていたものと思われる。これら他の土坑とは違い、砂礫層、粘質土及びシルト層等の交互層を成していること、粘質土上面に相当する層には木炭、燒土、受熱した砂礫等が見られることから、極端に水分を排除する必要のある性格を有する遺構である可能性が高い。出土遺物は土師器壺(33・34)、甕(35)、高杯(36)、須恵器蓋(37・38)、高杯(39)、長頸壺(40)、鉢(41)、甕(42)、布目平瓦(43)、羽口(44、45)など古代の遺物が多数出土している。

土坑SK003平面図と断面図(Fig.81) F-34Grid。遺構の南側が調査区外へ広がり全体形は分からぬが、残っている平面形から梢円形状の土坑と考えられる。壁にかかっている部分で幅1.26m、深さ0.7mを測る。

掘り込まれた遺構は断面が逆台形を呈し、下端は水平で、立ち上がりは両端とも垂直に立ち上がる。検出した上端付近でやや外反し広がる。本遺構でも土坑SK002でみられた土層の堆積が見られ、主に7~11層で焼土、炭化物、受熱し赤化した土層が見られる。10、11、12層には炭化物が多く入り、埋土中より微小な鍛造剥片を検出している。また、同層からはスラグ、羽口が同時に出土しているため小鍛冶関連の遺構であることは間違いないから。須恵器鉢(46)、蓋(47)、杯(48)、羽口(49~51)が出土している。

土坑SK005 F-33Grid 平面形は円形を呈する遺構。遺構下端中心に更に小さな円形の掘り込みを有する。遺構の形状から掘立柱建物跡もしくは柱を立てる必要のある柱穴である可能性が高い。須恵器高杯(52)が出土している。

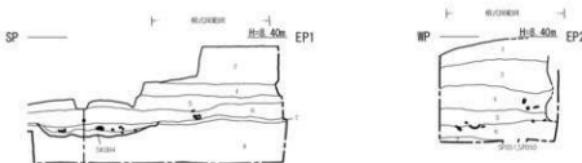
土坑SK006 F-33Grid SK002の北に位置する梢円形遺構。他遺構である小柱穴が上部から掘り込まれる。土師器甕(53)が埋土中より出土している。

### (3) 8層上面検出遺構 (Fig.77)

土坑SK013 F-33Grid。平面形は南北に伸びる梢円形を呈している。掘り方が中間端付近で角度が変わり、下端は東西に間延びしている。須恵器蓋杯部(54)が出土している。

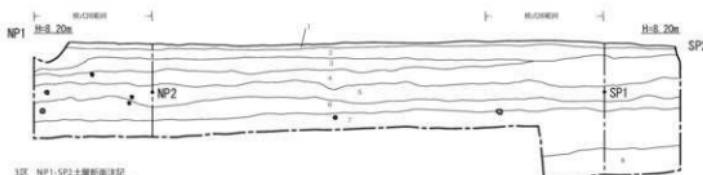
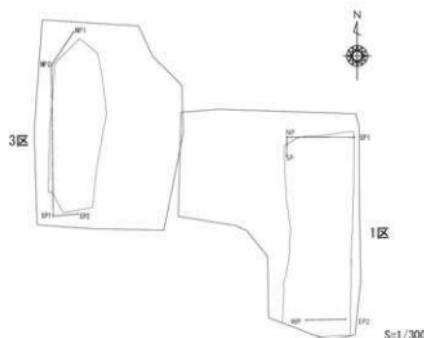
土坑SK014 F-33Grid ほぼ円形を呈する遺構。上、下端とも円形を呈する。土師器高杯脚部(55)が出土している。

土坑SK015 E-33Grid。平面形は円形で下端中央に小規模な柱穴を検出する。須恵器杯蓋部(56)が出土している。



1区 SP-EPI WP-EP2 土層断面注記

- 1 前回開削時に大した隙
- 2 暗褐色粘土質土 (2.5YR4/2) 細粒土、稍褐色粒子・淡色粒子含む、粒子細い。
- 3 黄褐色粘土質土 (2.5YR5/1) 細色粒子含む、粒子細い。
- 4 淡褐色粘土質土 (2.5YR6/1) 粒子細い。
- 5 淡褐色粘土質土 (2.5YR6/1) 粒子細い。
- 6 暗褐色粘土 (7.5YR4/4) 稍褐色粒子・淡色物含む、4A層より粒子細い。
- 7 暗褐色粘土 (7.5YR4/4) 白色粘土ブロック多く、粒子細かい。
- 8 暗褐色粘土 (10YR4/4) 非常に細かな粉を含みシルト質になる。



- 1 暗褐色粘土質土 (5YR4/1) 颗土。
- 2 明褐色粘土質土 (7.5YR5/6) 粘性土、灰褐色粘土ブロック含む。
- 3 暗褐色粘土質土 (7.5YR5/6) 粘性土、灰褐色粘土ブロック含む。
- 4 黄褐色粘土質土 (2.5YR6/1) 稍褐色粒子含む、黄褐色粘土層が含む。
- 5 暗褐色粘土質土 (2.5YR6/1) 粒子細い、粘土に沿うて稍褐色粘土多し。
- 6 暗褐色粘土質土 (10YR4/4) 無機物・土層間に含む。
- 7 暗褐色粘土質土 (10YR4/4) 灰色粘土層が含まれ、比較的同じじめ少ない。
- 8 粉砂。

0 5m  
S=1/100

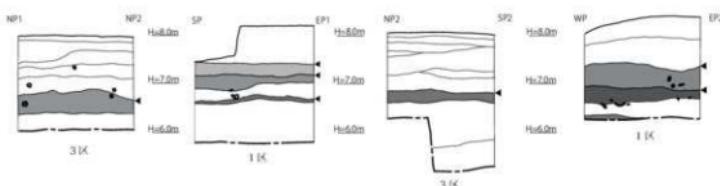
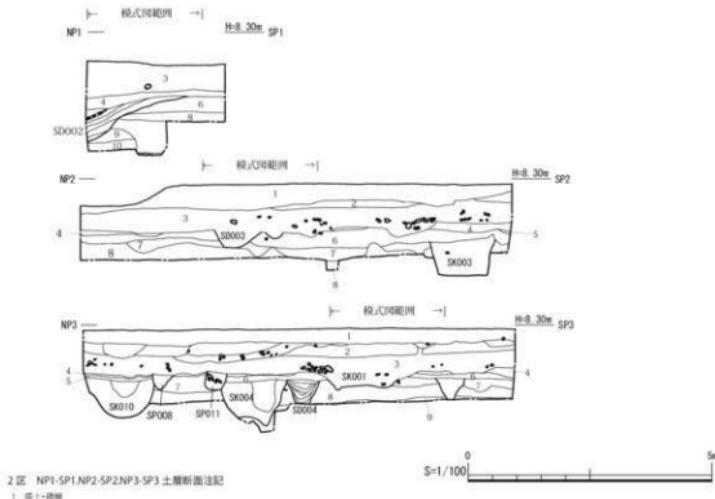


Fig.82 宮地銀行寺遺跡 1・3区土層断面および土層推移模式図



2. 三色シート  
① 色刷り(黒) (10194/4) マグナ-粘合紙、一部(円筒、φ~30mm)墨入。  
下方に「墨」等と手書き。② 黒+白合紙  
③ 色刷り(黒) (10194/4) マグナ-粘合紙、中世古面。A量より墨を多く墨入。  
下方に「墨」等と手書き。④ 黒+白合紙  
⑤ 色刷り(10194/4) 1端だけ墨を刷り、やや墨が濃い。  
⑥ 黄緑色シート (12595/4) 北京だけに墨を刷り、見るから4端の下の方に僅かに堆積している部分もある。  
色が薄れて墨が薄くなっている。  
⑦ 黄緑色シート (12595/4) 墨を刷った後、墨を落すと墨が残る。  
⑧ 色刷り(黒) (10194/4) 5端より墨を刷り、墨が少し色が濃い。  
⑨ 色刷り(黒) (10194/4) 生地感、ノーブル、解剖学的構造物の墨は複数か。  
⑩ 黄緑色シート (12595/4) 墨を刷った後、墨を落すと墨が残る。

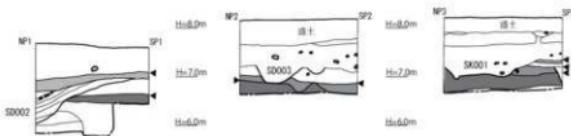
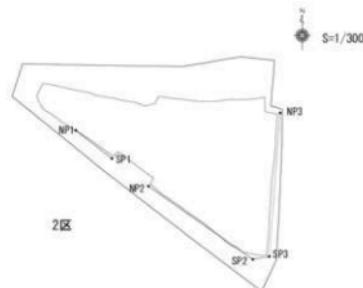


Fig.83 宮地銀行寺遺跡 2区土層断面および土層推移模式図

## B 出土遺物

### 1 1区出土遺物

#### 土坑SK001出土遺物 (Fig.84)

須恵器 蓋（1）外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は低く、口縁端部近くで器壁は薄くなり口縁部で折れ、端部は丸く收める。つまみは天井部が欠損するが、丸みを帯びる形状であった可能性が高い。

#### 土坑SK003出土遺物 (Fig.84)

土師器 杯（2）外面底部、回転ヘラ切り後ナデ、その他は回転ナデ整形。外面底部から体部にかけての屈曲部から2条の回転ヘラ削りを施す。体部は緩やかにやや内湾しながら立ち上がり、端部は丸く收める。

高台付き杯（3）外面底部、回転ヘラ切り後ナデ、その他は回転ナデ整形。底部屈曲よりやや内に断面が三角を呈する高台を貼り付ける。外面底部から体部にかけての屈曲部から3条の回転ヘラ削りを施す。体部は緩やかに反り立ち上がり、端部は丸く收める。杯（4）外面底部、回転ヘラ切り後ナデ、その他は回転ナデ整形。外面底部から体部にかけての屈曲部から2条の回転ヘラ削りを施す。外面底部にヘラ書きを残すが、中心部が欠損しているため判読はできない。皿（5）底部外面、回転ヘラ切り後ナデ、他はナデ整形。口縁は短く、わずかに外反し端部は丸く收める。外面には1条の回転ヘラ削りを施す。口縁に焼き垂みが大きくなる。皿（6）底部外面、回転ヘラ切り後ナデ、他はナデ整形。口縁は短く、わずかに外反し、端部は丸く收める。口縁は短くわずかに反る。外面には1条の回転ヘラ削りを施す。

須恵器 蓋（7）外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体高は高く、丸みを帯び肩部に横ナデによる稜を1条残す。口縁内面は端部をつまみ、天井部にはやや太いつまみを本体整形後に貼り付け、頂部がわずかに窪む。杯（8）外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、その他は回転ナデ整形。外面底部から体部にかけての屈曲部から1条の回転ヘラ削りを施す。口縁は直線的に伸び、端部下でやや肥厚し端部は丸く收める。杯（9）外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、その他は回転ナデ整形。外面体部は横ナデにより稜が残らない。高杯（10）無蓋高杯の身。外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。外面底部から3条のヘラ削りを施す。体高は低く、口縁は直線的に伸び、口縁で肥厚し端部は丸く收める。脚部は杯部と剥離。

#### 土坑SK004出土遺物 (Fig.84)

土師器 壺（11）体部は丸くやや肩の張る球体をなす。頸部は直立し、口縁部で外反し端部に至る。端部上面はわずかに稜を有する。外面はナデ、内面は下から斜め上方へヘラ削り。鉢（12）体部外面は横ナデ整形後ナデ、詳細な整形痕がナデと風化により観察できない。口縁は短く外反し、端部は丸く收まる。体部破片断面に粘土積み上げ痕あり。外面には全体に煤付着。

須恵器 蓋杯の身（13）外面底部は回転ヘラ切り後ヘラ削り整形による、他は回転ナデ整形。受部は短く、端部は丸く收める。直立する返しはや厚みを帯び、受部とのバランスを欠く。内面は横ナデによる稜が細かな単位で残る。外面にわずかに自然釉がかかる。

調査区出土遺物 1区3層から6層出土遺物（14～29）遺構検出を行い、掘下げる過程で層位毎に取り上げた遺物。

3層出土遺物 須恵器 高台付き杯（18）外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、その他は回転ナデ整形。外面底部から体部にかけての屈曲部際に低く、丸みを帯びる高台を貼り付ける。口縁は直線的に伸び、端部下でやや肥厚しわずかに反る。端部は丸く收める。

4層出土遺物 土師器 杯（14）面底部、回転ヘラ切り後ナデ、その他は回転ナデ整形。外面底部にはナデ後にヘラ書きで中心に「大」を施す。杯（15）外面底部、回転ヘラ切り後ナデ、その他は回転ナデ整形。外面底部から体部にかけての屈曲部から1条の回転ヘラ削りを施す。体部は直線的に伸び、端部は丸く收める。

高杯（16）面底部、回転ヘラ切り後ナデ、その他は回転ナデ整形。皿部は口縁で短く折れ、端部で外面に稜を有する。脚部は横ナデ整形により中空を呈する。皿部と脚部は別整形で後に貼り付け。脚底部は欠損し形状は不明。

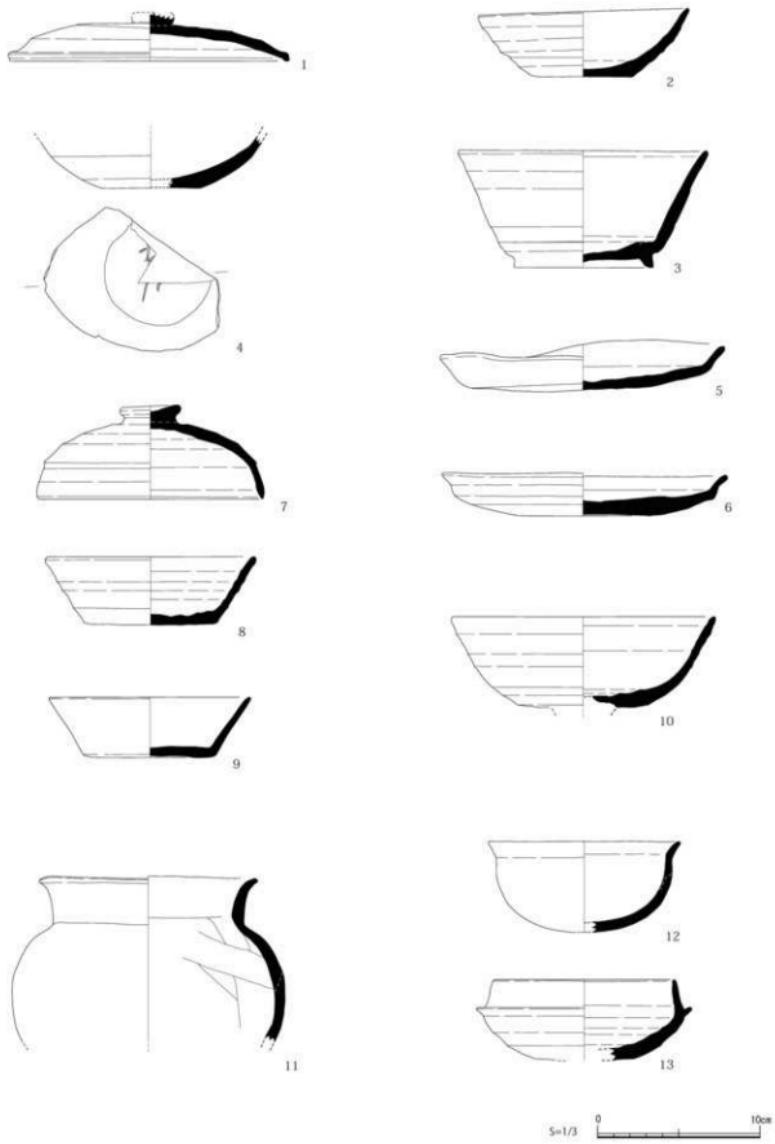


Fig.84 1区土坑SK001(1)・SK003(2・3・4・5・6・7・8・9・10)・SK004(11・12・13)出土遺物実測図

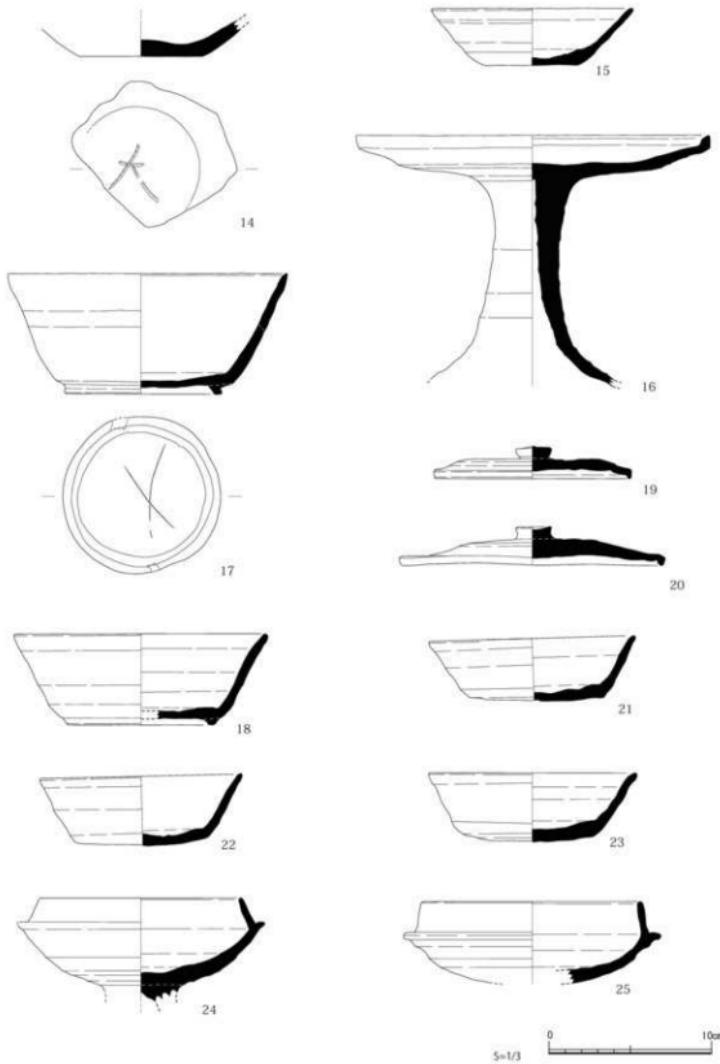


Fig.85 1区3层(18)、4层(14·15·16·19·24)、5层(21·22·23)

6层(17·25)出土遗物实测图

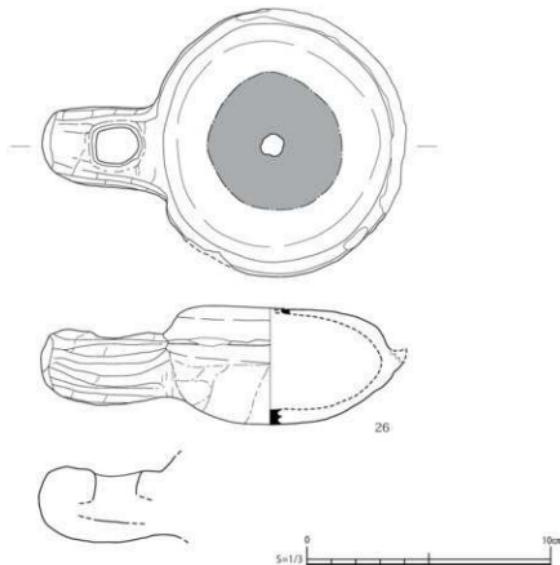


Fig.86 1KF-27Grid 4層出土遺物実測図（中空円面観）

須恵器 蓋(19) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。口縁部は短く折れ、端部は丸く收める。蓋(20) 外面天井部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。高杯(24) 立ち上がりはやや内傾し、端部に至る。端部は丸く仕上げられている。受部は太く、上面にわずかに稜をなす。底部は比較的浅いが丸みを帯びる。底部外面に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ整形を行う。脚部は接合面下より欠損する。

中空円面観(26) 中空をなす円形本体部と、こちらも中空の棒状把手部とに形状を分け説明を加える。まず、本体平面円形部であるが、中心部の円形孔周辺が面を取った状態に擦れる。孔を中心に同心円状に擦れ部は外に広がり、外縁近くでは擦れが薄くなる。本体外面底部は指ナデにより調整され、整形時の調整が残されていない。体部周囲は受部の張り出しがあり、あたかも古墳時代須恵器蓋杯の身に見られる形状の受部のようである。体部平面はほぼ円形で、周囲の受部が一部欠損する。中空の棒状部と本体本体部は、孔で繋がり連結する。棒状部には隅丸方形がやや崩れた孔が粘土切り取りにより穿たれ、体内の中空部と繋がる。外面はヘラ削りにより荒い整形を受ける。本体との連結部は本体整形後穿孔され、別途作成された棒状部とを指ナデにより接合する。

本体中心部に穿たれる孔は、本来は本体の整形時の上面にあたり、中空部を閉める際の蓋に相当する部分であったことが実測業務のなかで観察された。その結果、粘土貼り付け部であるため器壁が薄いこと、その後の用途から面を磨ることにより更に薄さが増して、最終的に擦れることで孔が開いたものと考えられる。擦面には墨痕等は見られない。

土師器 豊(27) 口縁から体部へ移る部位。口縁部は「く」字状に屈曲し、端部に向けわずかに外反し端部は丸く收める。体部はやや膨らみを持ちながら最大径部へ向け伸びる。他の資料との比較から長胴型の豊であることが窺える。

5層出土遺物 (21～23) 須恵器 杯 (21) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線で立ち上がり、端部は丸く収める。底部屈曲部から体部にかけて1条のヘラ削りを施す。杯 (22) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線で立ち上がり、口縁下でやや肥厚し、端部は丸く収める。杯 (23) 外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線で立ち上がり、屈曲部から体部中位まで厚みを帯びるが、口縁部で薄くなる。端部は丸く収める。底部屈曲部から体部にかけて1条のヘラ削りを施す。

甕(28) 口縁から体部の最大径部にあるたる部位。体部は丸みを帯び底部へと向かう。口縁部は「く」字状を呈し、端部はやや肥厚し丸く収めている。釜(29) 体部中位より底部にかけての部位。両端に手づくねとヘラ調整による棒状の把手を貼り付ける。体部はわずかに丸みを帯び底部でわずかに平底状を呈する。外面は横ナデ整形、内面は下から上部に向かってヘラ削り調整を施す。把手貼り付け部を境にヘラ削りは横位に移る。

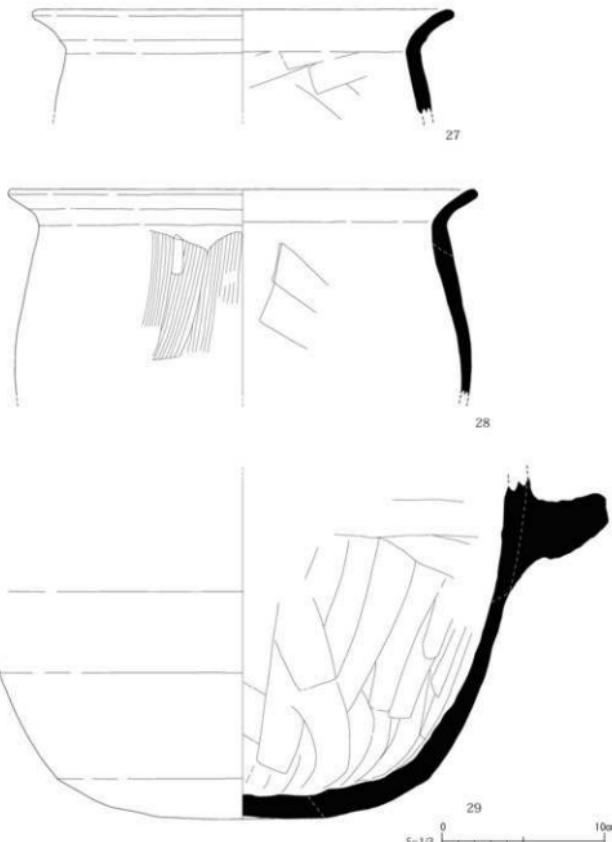


Fig.87 1区4層(27)・5層(28・29)出土遺物実測図

6層出土遺物 土師器 高台付杯（17）外面底部は回転ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ整形。体部は直線で立ち上がり、端部は丸く収める。底部から体部への屈曲部より高台幅分、内に入った位置に高台を貼り付ける。高台内面には「×」のヘラ記号が施される。

須恵器 蓋杯 身（25）立ち上がりはわずかに内傾し端部に至る。端部直下で内外面とも肥厚する。受部は太く、横に短く伸びる。底部は浅いが丸みを帯びる。底部外面に回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ整形を行う。

2-2区出土遺物 本調査区は、本線調査区45区の北東に隣接し位置する調査区。検出面は3面。

溝SD003出土遺物 (Fig.88) 土師器 楪（30）横ナデにより口縁端部まで整形され、外面底部も高台貼り付け後のナデにより調整痕が見られない。外面底部は平坦部を持たず丸みを帯びる形状をなす。高台は端部で外反し内面に稜を有す。体部貼り付け部は指ナデ痕が残る。（31）横ナデにより口縁端部まで整形され、



Fig.88 2区溝 SD003 (30・31) 出土遺物実測図



Fig.89 2区土坑 SK001 出土遺物実測図

外面底部の切り離し痕は高台貼り付け時の調整により不明。外面体部は直線的に外へ開き、中位でやや肥厚しわずかに反る。底部はやや平坦面を有し、体部との屈曲部際に高台を貼り付け、内面に稜を有する。外面体部には1状の回転ヘラ削りを施す。

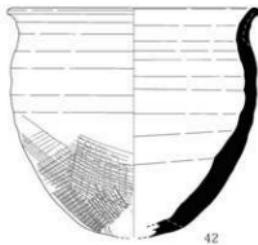
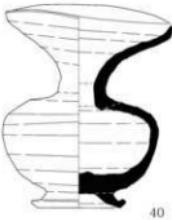
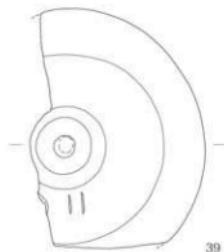
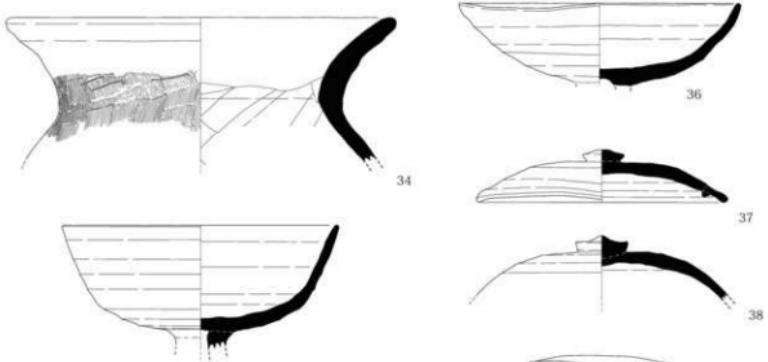
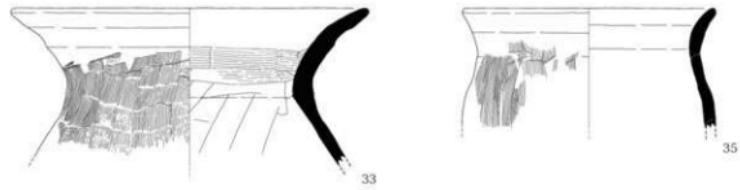
土坑SK001出土遺物 (Fig.89) 須恵器  
蓋杯 身（32）口縁から体部にかけて

の部位。外面底部の調整は不明だが、残存している部分は回転ナデ整形による。立ち上がりは比較的高く、わずかに内傾して上方に伸び、端部は丸く上げられている。受部は短く端部は丸い。6世紀後半。

土坑SK002出土遺物 (Fig.90・91) 土師器 壺（33）口縁から頸部を経て体部上半までの部位。頸部では「く」字状に屈曲し端部に向かい強く外反する。体部との境は、体部ヘラ削りが頸部内面の刷毛目調整を切る位置をもって境をなす。外面は頸部から体部にかけ刷毛目調整が縦方向に入る。刷毛を押しあてた痕跡が明瞭に残る。壺（34）口縁から頸部を経て体部上半までの部位。頸部では「く」字状に屈曲し、端部に向かい強く外反する。35で見られた頸部内面の刷毛目調整は見られないが、ここではナデにより整形する。外面は頸部から体部にかけ刷毛目調整が縦方向に入る。刷毛を押しあてた痕跡が明瞭に残る。

壺（35）壺口縁から胸部上半にかけての部位。わずかにくびれる頸部を中心口縁部に向かってやや肥厚し外反している。また、胸部は張りがなく最大径部下は緩やかに内湾する器形を呈すると考えられる。製作技法は、粘土組輪積み成形であることが、断面に残る2か所の粘土接合線によって見て取れる。外面体部は頸部を境に刷毛目調整、内面は頸部下でヘラ削りを施す。

無蓋高杯（36）外面底部の切り離し痕は後の回転ヘラ削りにより不明である。整形は横ナデ、底部から3条の回転ヘラ削りを施し体部に丸みを持たせる。口縁は緩く内湾し、端部は丸く収める。脚部との接合面は剥



Scale bar: 0 10cm

Fig.90 2区土坑SK002 (33~42) 出土遺物実測図—①

離し、中心部に脚貼り付け時の調整による窪みを残す。やや焼き歪みが残る。須恵器 蓋(37) 天井部はわずかに平坦で、回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ整形を行う。口縁部は内面に突起状の退化したかえりが付く。天井頂部に宝珠状のつまみを貼り付ける。当該器種は、41の鉢に伴う蓋の可能性が高い。蓋(38) 天井部は丸みを有し、現存している部位からは口縁部までなだらかに下る。天井部は回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ整形を行う。天井頂部に宝珠状のつまみを貼り付ける。無蓋高杯(39) 杯部の口縁は、なだらかに上外方に伸び端部へと至る。端部は丸く仕上げられている。外面底部は回転ヘラ削り調整が施される。底部中央には基部の比較的細い脚が接合される。底部にはヘラにより二本の線が刻まれる。長頸壺(40) 口頭部は基部が細く、外湾汽味に上方に伸び、端部近くで角度を変え短く上方へ伸びる。体部最大径は上位に求められる。体部の一部が欠損しているため腹である可能性もある。体部最大径部にまで回転ヘラ削り整形、他は回転ナデ整形を行っている。なお、口頭部に焼き歪みが認められる。鉢(41) 直立する体部は口縁部付近でやや内湾し、端部で内面に稜を有し尖る。底部は回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ整形。甕(42) 短く外反する口縁部は端部に稜を有し、やや角ぼった形状となる。体部は最大径を上位に有し緩やかに底部へ至り、丸底を呈する。外面には格子目叩きを有するが、内面は横ナデにより當て具痕は残らない。

平瓦(43) 四面は布目压痕で、側縁に布の重なりによる压痕が残る。凸面は格子目叩きを呈する。側縁部は直角に切られナデる。羽口(44) 羽口の約1/3が残存する。燃焼面接続部は船色に変化、変色している部分が顕著に見られる。装着角度は26°を測る。羽口(45) 小片であるが、実測図左側に燃焼部接合面を有する。

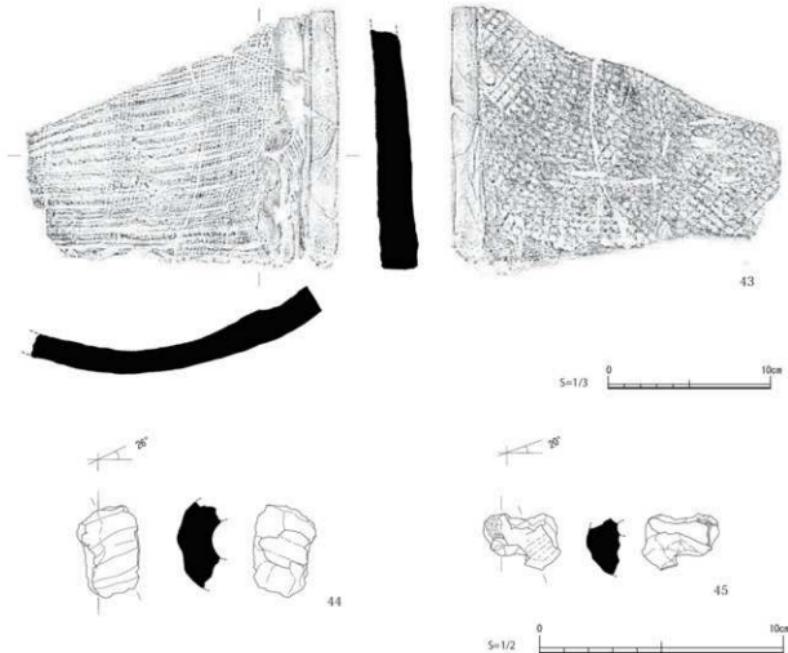


Fig.91 2区土坑SK002 (43~45) 出土遺物実測図-②

燃焼部に面する部分は一部飴色に表面が溶け、その周りを赤化状態から同心円状に色調の変化が見られる。装着角度は $20^{\circ}$ を測る。

土坑SK003出土遺物 (Fig.92) (46 ~ 51) 須恵器 こね鉢 (46) 体部基部のひと回り大きな底部を有し、安定感を持たせる。体部は上方外へ伸び端部は内面に稜を有し、やや角張る。底部は円形で台状を呈し、中央部に外側から内側に向かい3か所の穿孔を施す。蓋 (47) 天井部近くで丸みを帯びる体部は、外側に回転ヘラ削り調整、他は横ナデ整形を施す。口縁部は緩やかに端部に至り、丸く收める。内面に突起状の退化した返しが付く。また、外側天井に宝珠形つまみが付く。杯 (48) 底部のみの部位で、内面にヘラ記号を施す。外側底部は回転ヘラ削り調整、他は横ナデ整形を施す。

羽口 (49) 使用によって破損した羽口の先端部。炉内で飴色に変化した範囲が、内面にまで見られる。赤化した範囲が同心円状に広がる。装着角度は $4^{\circ}$ と推測される。羽口(50)先端部は完形で残り基部は欠損する。

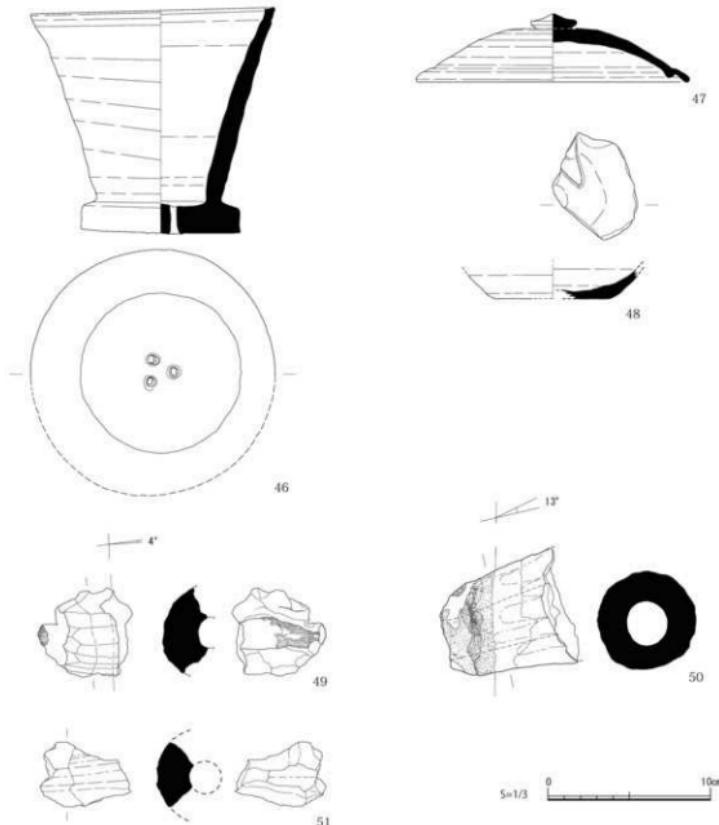


Fig.92 2区土坑SK003 (46~51) 出土遺物実測図

内部の送風孔は装着口と基部側で幅が違うことから先端部が細くなるように整形したものと見られる。先端部は燃焼により鉛色に変色し、その外側は赤化した部分が同心円状に広がる。装着角度は13°と推測される。羽口(51)使用によって破損した羽口の先端部に近い部位にあたる。外面は赤化した面がわずかに残る。装着角度は不明。

土坑SK004出土遺物(Fig.93) 須恵器 高杯(52)脚部欠損のため、杯部のみ出土。外面底部には脚部を貼り付けた後、透かしを入れた切り込み痕が1か所につき2本、計3か所見られる。いずれも鋭利な刃物痕を残す。中心は脚接合後の調整によりやや窪む。杯部はほかに見られる蓋杯の杯と同様の手法で整形される。立ち上がりは低く内傾して端部に至る。端部は丸く仕上げる。受部はわずかに内湾し端部は丸い。底部は浅く、丸みを帯びない。外面底部は回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ整形による。

土坑SK005出土遺物(Fig.93) 土師器 豆(53)長胴で頸部が緩やかでやや伸びた「く」字状に広がり、口縁部で外反する。端部は丸く収める。外面は頸部までは明瞭な刷毛目調整を残すが、口縁部になると刷毛目をナデ消す。内面は胴部にはヘラ削りが縱横に残り、頸部に横刷毛目、口縁部はナデ整形となる。

土坑SK013出土遺物(Fig.93) 須恵器 蓋杯・杯(54)立ち上がりは低く内傾して端部に至る。端部は丸く仕上げる。受部はわずかに肥厚し水平に短く伸び、丸く収まる。底部は浅いが、丸みを帯びる。外面底部は回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ整形による。

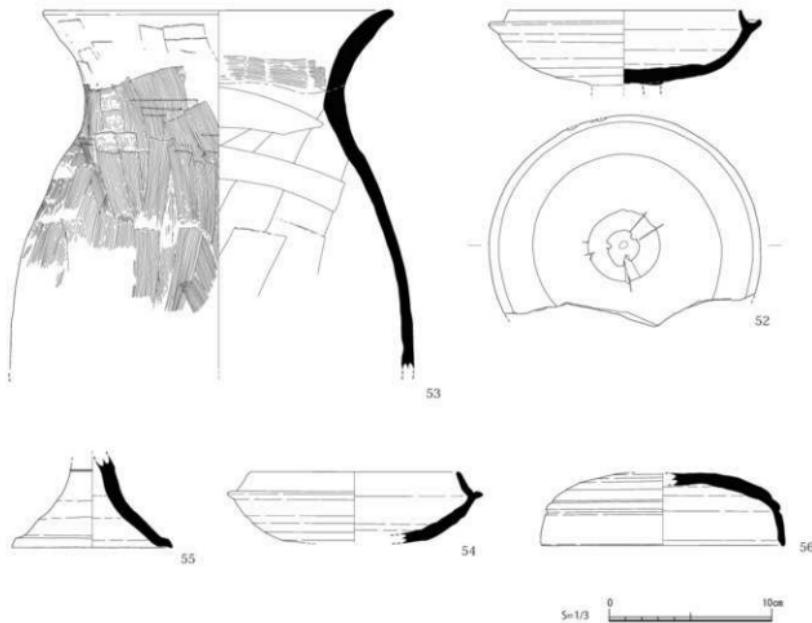


Fig.93 2区土坑 SK004(52)・SK005(53)・SK013(54)・SK014(55)・SK015(56)出土遺物実測図

**土坑SK014出土遺物** (Fig.93) 土師器 高杯(脚部) (55) 細くなる杯部との接点から下部にかけての部位。横ナデにより整形され底部でわずかに折れ、端部に至る。杯部との接点となる基部のやや下に1条の沈線が巡る。

**土坑SK015出土遺物** (Fig.93) 須恵器 蓋 (56) 天井は比較的平らで、口縁部との境は丸みを帯びるが稜を巡らせている。口縁部はなだらかに下がり、端部は内傾する凹面をなす。天井部には回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ整形を行う。各部位とも前時代の同器種に比べ、丸みを帯びる。

#### 調査区出土遺物-① (Fig.94)

F-33Grid出土遺物 土師器 壺 (57) 球体をなす体部を呈し、頭部で急激にすぼまり、頭部を経て口縁部にかけて緩やかに外反する。端部は外面に稜を有し沈線状の窪みを呈する。外面体部は平行引き痕が頸部下から残るが、内面は当て具痕等はナデ整形により残らない。胴部と頭部との境は、横ナデにより断面にわずかに稜が残る。

F-34Grid出土遺物 袋 (58) 最大径部を下方に有する土器。口縁は頭部で「く」字状に屈曲する。体部外面は縱方向を主体とする刷毛目調整で、底部近くで密に施す。内面は下から上へを基本とするヘラ削りを施し、その結果頭部での「く」字状を明瞭に作り出している稜を形づくる。断面に粘土紐輪積み痕が残る。

杯 (59) 外面底部、回転ヘラ削り後ナデ整形、他は回転ナデ整形。高台は比較的長く、開き気味に伸びる。高台外の体部にわずかに横ナデ整形時の粘土の盛り上がりが残る。高台付き杯 (60) 外面底部、回転ヘラ削り後ナデ整形、他は回転ナデ整形。口縁端部は内面を押えやや薄くなり尖る。高台付き椀 (61) 外面底部、回転ヘラ削り後ナデ整形、他は回転ナデ整形。底部から体部にかけての屈曲部から1条の回転ヘラ削りを施す。口縁端部は内面を押えやや薄くなり尖る。高台付き杯 (62) 丸みを帯びる底部から体部にかけて外に向く高台が付く。高台は比較的断面三角形を呈する。

E-34Grid出土遺物 土鍤 (63～66) 狹い範囲から出土している。粘土を細い棒に巻き付け成形した漁労用刺し網の鍤と考えられる。両端部は完全に形を残すものは少なく、中心が膨らみ粘土のバランスにより上部にあたる端部が欠損していることが多く、使用による破損であると考えられる。

調査区出土遺物-② (Fig.95) 須恵器 蓋 (67) 天井部近くで丸みを帯びる体部は、外面に回転ヘラ削り整形、他は横ナデ整形を施す。口縁部は緩やかに端部に至り、丸く収める。内面に突起状の退化した返しが付く。また、外面天井に宝珠形つまみが付く。

F-33・34Grid 10層出土遺物 須恵器蓋杯 身 (68) 立ち上がりは低く、わずかに内傾し端部に至る。端部は丸く仕上げる。受部はわずかに肥厚し水平に短く伸び、丸く収まる。底部は浅く、丸みを帯びない。外面底部は回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ整形による。

F-33Grid 14層出土遺物 須恵器蓋杯 身 (69) 立ち上がりは比較的長く、わずかに内傾して端部に至る。端部は丸く仕上げる。受部は短いが水平に伸び、端部は丸い。底部は深く、丸みを帯びる。底部は欠損のため調整は不明だが、他は回転ナデ整形。(70) 立ち上がりは長く、わずかに内傾し端部に至る。端部内面で横ナデによりわずかに稜を形成する。端部は丸く仕上げる。受部はわずかに内湾し伸び、端部は丸く収まる。底部は欠損のため調整は不明だが、他は回転ナデ整形。

E-33Grid 17層出土遺物 須恵器蓋杯 身 (71) 立ち上がりは比較的長く、わずかに内傾しながら端部に至る。端部は丸く仕上げる。受部は短いが水平に伸び、端部は丸い。底部は浅いが、丸みを帯びる。底部は欠損のため調整は詳細は不明だが、回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ整形。

F-12・13Grid出土遺物 提瓶 (72) 口径部から体部の大半では欠損。体部は扁平な球体をなし、両端にわずかに丸みを持ち、中心部付近に回転カギ目調整を行う。体部両側面にかぎ形をなす退化した把手を貼り付けする。

須恵器蓋杯 蓋 (73) 口縁部は内湾気味に下がり端部に至る。口縁端部は尖り、わずかに丸みを帯びる。天井部は比較的高く平らに近い。天井部外面は回転ヘラ削り、他は回転ナデ整形。

蓋杯 身 (74) 立ち上がりは比較的短くわずかに内傾して端部に至る。端部は丸く仕上げる。受部は短いが、

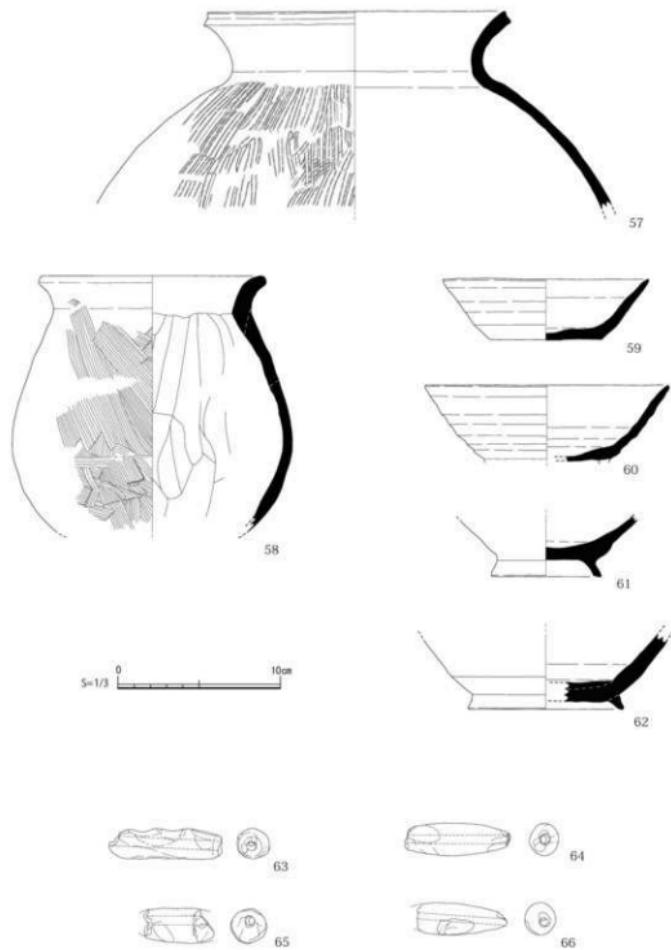
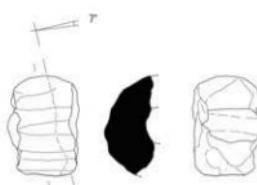
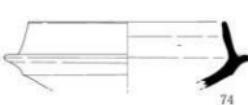
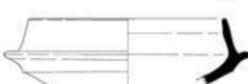
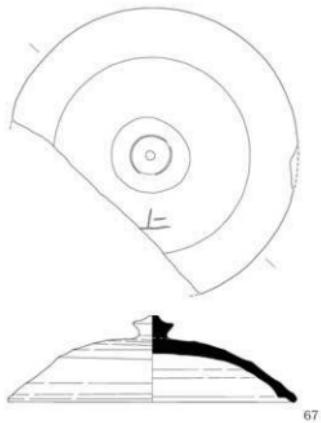


Fig.94 2区调查区出土遗物实测图 (57-66) -①



5=1/3 0 10cm

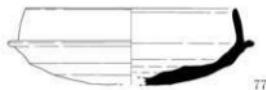
Fig.95 2区調査出土遺物実測図 (67-76)-②

水平に伸びる先端部は丸い。底部は浅く、やや扁平気味。底部外面は回転ヘラ削り調整、他は回転ナデ整形。  
羽口(75)先端部は完形で残り基部は欠損する。内部の送風孔は装着口と基部側で幅が違うことから先端部が細くなるように整形したものと見られる。先端部は燃焼により鉛色に変色し、その外側は赤化した部分が同心円状に広がる。装着角度は25°と推測される。(76)使用によって破損した羽口の先端部に近い部位にある。外面は赤化した面がわずかに残る。装着角度はおよそ7°と推測する。

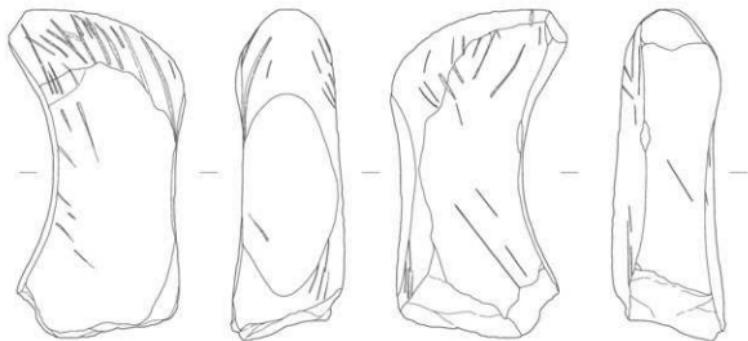
### 3 3区出土遺物 (Fig.96)

須恵器 蓋杯 身(77)立ち上がりは比較的高くわずかに肥厚する。端部は横ナデにより外端部が尖り、内面にわずかに稜を残す。受部は短く上部に稜が巡る。底部は浅く、やや扁平気味。外面底部は回転ヘラ削り、他は回転ナデ整形。

石製品 砕石(78)材質は砂岩で、平坦部を呈する面はすべて中央部が擦り痕により窪むまで使用痕が残る。また、刃部を削るように深く短い線状の擦り痕も多く残る。



77



78



5=1/3 0 10cm

Fig.96 3区出土遺物実測図

宮地觀行寺遺跡 遺物觀察表

宮地銀行寺道跡 出土遺物観察表

番号	部品名	内寸	外寸	材質	形状	表面	特徴	年代	出土地点	記号	備考	
1	40 土師器 井 SK001	—	—	F-26	(13.1)	—	—	(3.7)	灰陶N/0	反697/0		
2	41 土師器 井 SK003	—	No.6	F-27	12.9	5.9	—	4.2	焼7.5VR6/5	燒SVR7/1		
3	41 土師器 高台付井 SK003	—	No.3	F-27	15.2	6.5	—	7.2	燒7.5VR6/5	燒SVR7/1		
4	47 土師器 井 SK003	—	—	F-27	(6.0)	—	—	(3.2)	に点状穿孔の焼7.5VR6/3	に点状穿孔の焼7.5VR6/3		
5	1 土師器 井 SK003	—	No.2	F-27	17.4	8.6	—	3.2	燒7.5VR6/3	燒7.5VR6/3		
6	1 土師器 盆 SK003	—	No.1	F-27	17.4	8.1	—	2.6	燒7.5VR6/5	燒7.5VR6/5		
7	40 土師器 井 SK003	—	No.5	F-27	(13.8)	—	—	5.8	反697/0	反697/0		
8	84 1区 漢漆器 井 SK003	—	—	F-27	(12.8)	(8.2)	—	4.2	灰陶2.5YH7/1	灰陶2.5YH7/1		
9	1区 漢漆器 井 SK003 2層	—	—	F-27	(12.3)	(8.2)	—	3.7	灰2.5YH7/1	灰2.5YH7/1		
10	1区 漢漆器 基盤 SK003 2層	—	—	F-27	(16.1)	—	—	(5.55)	灰2.5YH7/1	灰2.5YH7/1		
11	1区 土師器 井 SK004	—	—	F-27	(13.1)	—	16.0	(10.2)	燒7.5VR6/5	燒7.5VR6/5		
12	1区 土師器 井 SK004	—	—	F-27	(11.7)	—	—	(5.8)	燒7.5VR6/5	燒7.5VR6/5		
13	1区 漢漆器 井 SK004	—	—	F-27	(11.0)	5.9	—	4.95	燒7.5VR6/5	燒7.5VR6/5		
14	1区 土師器 井	—	4層	—	—	(7.6)	—	(2.2)	燒7.5VR6/5	燒7.5VR6/5		
15	1区 土師器 井	—	4層	—	(12.3)	5.7	—	3.5	燒7.5VR6/5	燒7.5VR6/5		
16	41 1区 土師器 高井	—	4層	—	—	21.7	—	(15.4)	燒7.5VR6/5	燒7.5VR6/5		
17	1区 土師器 高台付井	—	6層	—	(17.1)	9.7	—	7.3	燒7.5VR6/5	に点状穿孔の焼7.5VR7/4		
18	40 1区 漢漆器 高台付井	—	3層	—	(16.5)	(8.9)	—	5.6	反697/0	反697/0		
19	1区 漢漆器 井	—	4層	—	(12.0)	—	—	2.0	灰5YH7/1	灰5YH7/1		
20	1区 漢漆器 井	—	—	—	—	16.0	—	2.4	青5YH7/1	青5YH7/1		
21	1区 漢漆器 井	—	5層	—	—	12.6	8.2	—	4.0	反697/0	反697/0	
22	40 1区 漢漆器 井	—	5層	—	—	12.3	3.0	—	4.4	反697/0	反697/0	
23	1区 漢漆器 井	—	5層	—	—	12.7	4.0	—	4.2	灰5YH7/1	灰5YH7/1	
24	1区 漢漆器 高井	—	4層	—	(12.3)	—	—	(6.4)	反697/0	反697/0		
25	1区 漢漆器 高井	—	5層	—	(13.3)	—	—	(5.0)	燒7.5VR6/5	燒7.5VR6/5		
26	95 41 1区 漢漆器 中空付井	—	—	—	—	—	—	—	燒7.5VR6/5	燒7.5VR6/5		
27	1区 土師器 井	—	4層	—	(25.1)	—	—	(6.3)	燒7.5VR6/5	燒7.5VR6/5		
28	1区 土師器 井	—	—	—	(28.9)	—	—	(12.7)	に点状穿孔の焼7.5VR6/4	E-21.5-17.5VR6/4		
29	1区 土師器 井	—	4.5層	—	—	—	—	(21.0)	燒7.5VR6/5	燒7.5VR6/5		
30	85 9区 土師器 井 SK003	No.1	E-33-34	(15.0)	(6.3)	—	—	5.3	燒7.5VR6/5	燒7.5VR6/5		
31	2区 土師器 井 SK003	—	R-32-34	(16.9)	—	—	—	5.6	に点状穿孔の焼7.5VR6/4	E-21.5-17.5VR6/4		
32	2区 土師器 井 SK003	—	F-34	14.0	—	—	—	3.9	青灰10B6/6	青灰10B6/6		
33	2区 土師器 井 SK003	Xo11	F-34	(21.6)	—	—	(9.7)	燒7.5VR6/5	燒7.5VR6/5			
34	2区 土師器 井 SK003	No.19	F-34	23.4	—	—	—	8.9	燒7.5VR6/5	燒7.5VR6/5		
35	2区 土師器 井 SK003	No.24	F-34	(15.3)	—	—	—	(7.4)	に点状穿孔の焼7.5VR6/4	燒7.5VR6/5		
36	2区 土師器 高台高井 SK002	No.22	F-34	(17.2)	—	—	—	5.05	燒7.5VR6/5	燒7.5VR6/5		
37	41 1区 漢漆器 井 SK002	—	F-34	15.1	—	—	—	3.2	燒7.5VR6/5	燒7.5VR6/5		
38	42 1区 漢漆器 井 SK002	—	F-34	—	—	—	—	(4.0)	反697/0	反697/0		
39	47 1区 漢漆器 井 SK002	—	F-34	16.8	—	—	—	7.6	青5YH7/1	青5YH7/1		
40	41 2区 漢漆器 高台高井 SK002	No.3	F-34	10.2	5.8	9.6	11.9	尾N3/0	尾N3/0	尾N3/0		
41	2区 漢漆器 井 SK002	—	F-34	14.2	—	—	—	(7.6)	反697/0	反697/0		
42	2区 漢漆器 井 SK002	—	F-34	(15.0)	—	(15.1)	(14.2)	尾N3/0	尾N3/0	尾N3/0		
43	41 2区 土師器 平瓦 SK002	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
44	44 2区 土師器 窗口 SK002	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
45	42 2区 土師器 窗口 SK002	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
46	2区 漢漆器 こねか SK003 6層	—	—	F-34	15.0	9.8	—	13.9	灰陶N/0	灰陶N/0		
47	42 2区 漢漆器 井 SK003	—	—	F-34	(16.7)	—	—	4.2	反697/0	灰陶10B6/5		
48	47 2区 漢漆器 井 SK003 9層	—	—	F-34	—	—	—	(11.8)	尾白10V97/1	尾白10V97/1		
49	2区 土師器 井 SK003	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
50	2区 土師器 井 SK003	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
51	42 2区 土師器 井 SK003	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
52	2区 漢漆器 高井 SK004 1層	—	F-33	14.3	—	—	(4.5)	燒7.5VR6/5	に点状穿孔の焼7.5VR6/5			
53	2区 土師器 井 SK015 14層	F-33	21.1	—	—	(22.0)	—	燒7.5VR6/5	燒7.5VR6/5			
54	2区 漢漆器 井 SK013	—	F-33	(12.3)	—	—	(4.4)	反697/0	反697/0			
55	2区 土師器 高井 SK014	—	F-33	—	—	—	9.8	燒7.5VR6/5	燒7.5VR6/5			
56	2区 漢漆器 井 SK015	E-33	14.8	—	—	—	4.6	SKBM7/0	SKBM7/0			
57	2区 土師器 井	—	F-33	(8.3)	—	—	(4.7)	—	—	—		
58	2区 土師器 井	—	F-34	(14.0)	—	(17.2)	(15.7)	に点状穿孔の焼7.5VR6/4	に点状穿孔の焼7.5VR6/4			
59	2区 土師器 井	—	—	(12.6)	(8.5)	—	—	3.7	燒7.5VR6/5	燒7.5VR6/5		
60	2区 土師器 高台付井	—	—	—	(14.9)	—	—	4.7	燒7.5VR6/5	燒7.5VR6/5		
61	2区 土師器 高台付井	—	—	—	—	—	—	(3.4)	燒7.5VR6/5	燒7.5VR6/5		
62	2区 土師器 土器	—	—	—	—	—	—	(4.6)	燒7.5VR6/5	燒7.5VR6/5		
63	2区 土師器 土器	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
64	2区 土師器 土器	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
65	2区 土師器 土器	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
66	2区 土師器 土器	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
67	41-47 2区 漢漆器 井 SK016 No.9	F-33	17.5	—	—	5.3	反697/0	反697/0				
68	2区 漢漆器 井	—	10層	E-33-34	(13.0)	—	—	3.7	反697/0	オリーブ5.5G6/6		
69	2区 漢漆器 井	—	14層	F-33	(12.0)	—	—	(4.2)	オリーブ5.5G6/6	オリーブ5.5G6/6		
70	2区 漢漆器 井	—	14層	F-33	(12.0)	—	—	(4.1)	オリーブ5.5G6/6	オリーブ5.5G6/6		
71	2区 漢漆器 井	—	17層	E-33	(12.8)	—	—	(3.9)	BN6/0	BN6/0		
72	2区 漢漆器 井	—	14層	F-33	—	—	—	(13.2)	反697/0	反697/0		
73	2区 漢漆器 井	—	—	—	(12.0)	—	—	(4.5)	青5P6/2	青5P6/2		
74	2区 漢漆器 井	—	—	—	—	—	—	(3.7)	反697/0	反697/0		
75	42 2区 土師器 窓口	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
76	2区 土師器 窓口	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
77	42 3区 石製品 研石	—	6層	—	(12.8)	—	—	4.7	反697/0	反697/0		
78	42 4区 石製品 研石	—	—	—	—	—	—	—	—	—		

Tab.12

種子	内面形態				外観	特徴
	内面形態	内面形態	内面形態	内面形態		
長石・角閃石	楕ナデ	楕ナデ	—	—	—	1
長石	楕ナデ	楕ナデ	回転ヘラ削り	楕ナデ	—	2
長石	楕ナデ・回転ヘラ削り	楕ナデ	手削らへタ削り	楕ナデ	—	3
長石・長石・角閃石	回転ヘラ削り	楕ナデ	へう切り楕ナデ	楕ナデ	へう書きあり	4
長石・角閃石・長石	回転ヘラ削り	楕ナデ	手削らへタ削り・手削らへタ削り	楕ナデ	書き込みあり	5
長石・長石・石英	楕ナデ	楕ナデ	回転ヘラ削り	楕ナデ	書き込みあり	6
長石・石英	回転ヘラ削り・楕ナデ	楕ナデ・楕ナデ	—	—	*(外)カリ・筋のつみ書き削り/筋の書き・楕ナデ	7
長石・輝石	回転ヘラ削り・楕ナデ	楕ナデ・回転ヘラ削り	回転ヘラ削り後楕ナデ	へう切り後楕ナデ	回転ヘラ削り後楕ナデ	8
石英	楕ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	—	9
長石・輝石	回転ヘラ削り後ナデ	ナデ	—	—	全体ら分の1枚卓 展開→縮退なし	10
長石・輝石・金雲母	楕ナデ・ナデ	楕ナデ・削り	—	—	—	11
長石・輝石・金雲母	ナデ	楕ナデ	—	—	輝付層	12
長石	楕ナデ	楕ナデ	へう削り	楕ナデ	回転に自然軸	13
長石	ナデ	ナデ	へう削り	ナデ	へう書き「大」	14
石英・長石	楕ナデ	楕ナデ	へう削り	楕ナデ	—	15
石英・長石・角閃石	へう削り・楕ナデ・ナデ	楕ナデ	—	—	さ色説付	16
石英	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	赤底黒面	17
長石・輝石	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	赤底黒面状底面とへつ記号 赤底黒面	18
長石	楕ナデ	楕ナデ	へう切り後ナデ	楕ナデ	—	19
長石	へう削り・楕ナデ	楕ナデ	—	—	つまみ入り 黑の裏にへうで黄地に無地で白跡あり	20
長石・黒色粒	楕ナデ・へう削り後ナデ	楕ナデ・へう削り	—	—	つまみ入り 少し書き込みがある	21
長石	へう削り・楕ナデ	楕ナデ	へう削り・ナデ	楕ナデ	回転に複数層 黑の裏地のみで白跡の小孔を多く	22
長石	楕ナデ	ナデ	へう削り・ナデ	楕ナデ	全体に書き込みあり 口縁部に保付層	23
長石	ナデ	ナデ	回転・ナデ	ナデ	裏面中央へう書きあり	24
長石	ナデ	ナデ	—	—	伊豆外・御殿門(自然軸) 口縁部を下にして焼成	25
長石	ナデ	ナデ	—	—	—	26
*表面(底)・歩留						
長石・石英・輝石・葉酸	楕ナデ・ハクナ	楕ナデ・へう削り	—	—	表面はハクナの痕があるが厚地ではつまみしない	27
長石・長石・角閃石・葉酸	ナデ・ハクナ	ナデ・ハクナ	ナデ・へう削り後ナデ	—	—	28
長石	へう削り後ナデ	ナデ	へう削り	ナデ	—	29
長石	楕ナデ	楕ナデ	ナデ	ナデ	—	30
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	へう削り後ナデ	楕ナデ	和付馬台	31
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	—	32
石英・葉酸	楕ナデ・へう削り	楕ナデ・へう削り	—	—	—	33
石英・葉酸	楕ナデ・へう削り	楕ナデ・へう削り	—	—	—	34
石英・葉酸	ナデ・ハクナ	ナデ・ハクナ	—	—	—	35
長石	楕ナデ・回転へう削り	楕ナデ	—	—	楕ナデ・ナデ	36
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	へう削り後ナデ	楕ナデ	書き込みあり 黑底あり	37
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	つまみ入り 口縁部に白地	38
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	—	39
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	【形】(底)へう書き	40
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	白地・底・黒・口縁部と等々に作り付 書き込みあり	41
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	書き込みあり	42
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	白子目・平行タキあり	43
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	*表面(底)・歩留	44
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	*表面(底)・歩留	45
長石	楕ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	裏面の左は底面の方から剥離し上面をへうで削りを施す右は裏面の方は特に丁寧に削りに合わせて削り	46
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	つまみ入り 内側に右が何かの痕か、左が何かの痕かの剥離した痕がある	47
長石・石英	楕ナデ	—	—	—	へう穴があり	48
【表面(底)】・歩留						
【裏(底)】・歩留						
【裏(底)】・歩留						
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	裏面の左は底面の方から剥離し上面をへうで削りを施す右は裏面の方は特に丁寧に削りに合わせて削り	49
長石・葉酸	ハクナ・ナデ	ナデ	—	—	【形】(底)へう書き	50
葉酸	ナデ	—	—	—	【形】(底)へう書き	51
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	裏面・底・左を削った右から剥離し左が方向に飛ばれるの剥離の際に井戸の穴などに落着する穴が開ける	52
長石・葉酸	ハクナ・ナデ	ナデ	—	—	表面の左は底面の方は特に丁寧に削りに合わせて削り	53
葉酸	ナデ	—	—	—	【表面(底)】・歩留	54
葉酸	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	【裏(底)】・歩留	55
葉酸	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	【裏(底)】・歩留	56
葉酸	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	裏面の左は底面の方から剥離し上面をへうで削りを施す右は裏面の方は特に丁寧に削りに合わせて削り	57
長石	ナデ・ハクナ	ナデ	—	—	表面・底・左を削った右から剥離し左が方向に飛ばれるの剥離の際に井戸の穴などに落着する穴が開ける	58
長石	ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	【表面(底)】・歩留	59
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	【裏(底)】・歩留	60
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	【裏(底)】・歩留	61
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	【表面(底)】・歩留	62
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	【表面(底)】・歩留	63
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	【表面(底)】・歩留	64
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	【表面(底)】・歩留	65
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	【表面(底)】・歩留	66
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	【表面(底)】・歩留	67
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	【表面(底)】・歩留	68
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	【表面(底)】・歩留	69
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	【表面(底)】・歩留	70
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	前面に自然軸あり 上面は書きなし	71
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	【表面(底)】・歩留	72
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	【表面(底)】・歩留	73
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	【表面(底)】・歩留	74
長石	楕ナデ・へう削り	楕ナデ	—	—	*表面(底)・歩留	75
長石	楕ナデ・回転ヘラ削り	楕ナデ	—	ナデ	*表面(底)・歩留	76
長石	楕ナデ・回転ヘラ削り	楕ナデ	—	ナデ	*表面(底)・歩留	77

破壊試験表

番号	Fg, N	PC, %	測定区	種別	直標名	直標番号	引張強	屈	引張	引張	引張	引張	引張	引張	引張	引張
26	86	41	1区	漆素器	中空内面鏡	—	—	6噸	—	—	—	—	—	漆長14.9	4.9	灰白N7/0

剥離試験表

番号	Fg, N	PC, %	測定区	種別	直標	直標番号	引張強	屈	引張	引張	引張	引張	引張	引張	引張	引張
44	91	—	2区	土製品	羽口	SK002	6噸	—	—	(6.8)	(2.7)	(3.9)	26°	織合性S6/6	漆赤褐色S6/6	
45	—	—	2区	土製品	羽口	SK002	—	No.2	—	—	(4.3)	—	反N4/5	漆(2.9R2/1)	漆Z.SYR6/5	
46	—	—	2区	土製品	羽口	SK003	13噸	—	—	(6.4)	(2.6)	(5.8)	4°	漆赤褐色S6/3	漆赤褐色S6/5	
50	42	—	2区	土製品	羽口	SK002	6噸	—	—	7.2	2.7	(8.0)	13°	織Z.SYR2/1	漆赤褐色S6/6	
51	42	—	2区	土製品	羽口	SK003	13噸	—	—	(6.2)	(2.0)	(5.5)	—	織Z.SYR4/7	漆赤褐色S6/5	
76	—	—	2区	土製品	羽口	—	—	—	—	6.8	2.95	(7.7)	25°	漆Z.SYR6/6	漆赤褐色S6/4	
—	—	—	2区	土製品	羽口	—	—	E-33	(7.4)	(2.6)	(4.48)	—	—	—	—	漆Z.SYR7/4

漆赤褐色表

番号	Fg, N	PC, %	測定区	種別	直標名	直標番号	引張強	屈	引張	引張	引張	引張	引張	引張	引張	引張
79	—	—	1区	漆赤	—	—	—	—	—	鳥類 3.1	織物 2.43	漆赤 10.8	—	—	—	—
80	—	—	1区	漆赤	—	—	—	—	—	長絹 2.3	織物 1.95	漆赤 7.7	—	—	—	—

織石裂痕表

番号	Fg, N	PC, %	測定区	種別	直標名	直標番号	引張強	屈	引張	引張	引張	引張	引張	引張	引張
78	96	42	3区	鉄石	—	6噸	—	—	—	20.2	0.74	漆赤 1.8	—	—	—

瓦類試験表

番号	Fg, N	PC, %	測定区	種別	直標名	直標番号	引張強	屈	引張	引張	引張	引張	引張	引張	引張
43	91	41	2区	瓦瓦	SK002	—	—	—	—	(17.8)	1.4	—	—	—	—

土壁試験表

番号	Fg, N	PC, %	測定区	種別	直標名	直標番号	引張強	屈	引張	引張	引張	引張	引張	引張	引張
63	—	—	2区	土壁	—	E-34	—	—	鳥類	6.91	2.04	孔洞 1.06	—	—	—
64	94	—	2区	土壁	—	E-34	—	—	—	6.36	1.99	1.99	—	—	—
65	—	—	2区	土壁	—	E-34	14噸	—	鳥類	(4.3)	2.1	—	—	—	—
66	—	—	2区	土壁	—	E-34	14噸	—	織物	(5.5)	2.0	—	—	—	—

Tab.13

測定	測定	参考	測定	測定
外観	内観		外観	内観
ナデ	-	縫部は振幅と周囲に盛り合わせてある 縫部前方側にへう卵りによる成形が施されている 縫部外底面は手待ちくらによる成形が施されている	26	

測定	内観	測定	参考	測定
外観	内観	内観	外観	内観
長石 赤色顕化粒	-	-		44
長石	-	-		45
長石	-	-	基面角度は変色部分がほぼ平行で4°しか確認できない	46
長石	-	-		50
長石	-	-		51
長石	ヘラ削り後ナデ	-		75
長石 赤色顕化粒	ヘラ削り後ナデ	-		76

測定 (cm)	測定	測定
内観		内観
-		78
-		80

測定	測定	測定	測定
外観			内観
リフライド			78

測定	測定	測定	測定	測定	測定
内観	内観	外観	内観	内観	内観
長石 赤色顕化粒 E5YU/2	長石 赤色顕化粒	赤目長、ヘラ削ナ デ、ナデ	梅子目タクキ		43

測定 (cm)	測定 (cm)	測定	測定
内観	内観		内観
0.49	25.4		63
0.51	22.7		64
0.55	18.7		65
0.45	19.4		66

## 附編

### 1. 各時代の様相

#### 古墳時代

古墳時代の遺構は少ないが、遺物としてはひどく焼き歪みのある須恵器・融着した須恵器片が多く出土している。このような須恵器は窯が操業されていた近辺で見られることが多い。八代地域の須恵器窯の存在は昔から指摘されているが、明確な窯跡は発見されていない。焼き歪みや融着した須恵器片は各調査区の包含層に広く分布しており、出土も少量ずつであることなどを考慮すると、今回の調査区と直接関係があるというよりも、むしろ水無川によって運ばれてきたと考えるべきであり、水無川の上流に窯が存在する可能性が高いことを示していると考えられる。同様に八代丸山窯跡でも融着した須恵器が出土しており、共に八代地域で須恵器窯が操業されていた可能性を示唆するものとして注目される。

37区SA01(図.1)を含めた37・38区5層検出のビット群と39区SX01(図.1)はこの時期のものと考えられる。これは同一基準にて設置された遺構と思われ、古代の建物群とは明らかな相違が見られる。また37区SA01の側には遺構の軸がほぼ同一の柵列もしくは建物跡がみられ、ある程度継続的に、この軸を基調とした遺構が形成されていたと考えられる。39区SX01は配石遺構であるがその性格は不明である。これらの遺構が当時どのように機能していたかを理解するには資料が少なく困難であるが、36区で多く出土している輪の羽口はこれを理解する資料となりえるかもしれない。

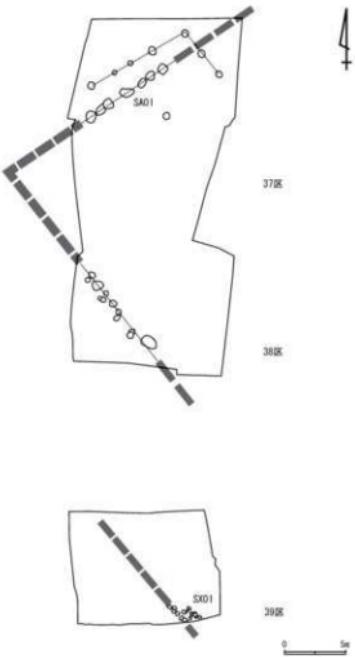


図.1 37～39区検出遺構(古墳時代)

#### 奈良・平安時代

宮地地区付近には片野駅推定地があり、今回の調査でも官衙関係の遺構が検出されるのではないかと期待されていた。調査区が狭いこともあり、まとまった建物群等の検出にはいたらなかったが、建物跡や柱痕の残るビット群が検出され、その周辺からは、刻書土器、硯など当時の識字層の関与が考えられる遺物を多く出土している。刻書土器には「大倉」と書かれているものもあり、この周辺が官衙に関係があった地域の可能性が考えられる。本線部分で報告されている建物は34区SB02(図.5)、37区SB01(図.5)であり、建物になる可能性のあるビット群があるのは34区、35区、36区、37区、38区である。いずれの建物も軸は若干のブレはあるものの北西向きとなり、ほぼ一致する。また、37区SB01の西側には配石遺構が検出されている。この石敷きの遺構には掘り込みではなく、地山上に直接置かれた状態で検出された。詳細は不明であるがSB01に伴うものであると考えられる。建物が検出された34区～37区を中心に刻書土器、硯の出土が集中する点、建物に付随する特殊遺構の存在などを考慮すると、34区～37区を中心として一連の建物群が展開さ

れていたことが想定される。また、これらの建物群は現在の町割とほぼ一致するため、すでにこの時期に現在の町割の基盤ができてきた可能性も考えられる。一方、宮地銀行寺遺跡側道2区では多くの製鉄・精錬遺構の痕跡が検出されている。直接、炉が検出されているわけではないが、高熱による赤化した地山や、炭化物と赤化した土が薄く交互に堆積した土層、スラグ、轍の羽口の出土などが特に多く見られたことは、このあたりに生産遺跡が存在したことを示唆する重要な資料である。

## 中世

中世になると、遺構の検出範囲はほぼ宮地小畠遺跡に限定される。今回検出されたのは建物と溝が主である。また29・30区の中世の遺構面からは貝塚も検出されている（宮地小畠遺跡29区）。貝塚は小規模、範囲は不定形で、確実に投棄された状態であった。29区SD04（図.2）では現在の八代神社の参道に沿うように検出された。中世段階にはすでにこの位置に道があった可能性も示す資料である。またSD04は、一端東西方向に伸びた溝を途中で石垣を組み流路北側に曲げた痕跡がみられ、溝自体も東側では削平され、プランは残っていない。これより上面においてほぼ同じ位置に道路遺構が南北方向に見られる。これは参道に接続する小路を設け、新たな宅地の空間を確保したと考えられるが、SD04においても同じ性格を持つと思われる。30区4層上で検出されたピット群においてもSK01・pit01・SK16・SK06・SK14・SK11・SK12（図.2）で建物を構成する可能性があり、その軸は29区SD04とほぼ同じものである。現在においても調査に入る前には小路が存在しており、この時期に新たにつくられた町割のプランはほぼそのままの状況で現在にまで残っている。

34区SB01（図.3）も29区で検出されたSD04にほぼ直交する軸をとる中世の遺構である。直接SD04とは関連はないと思われるが、34区東側には遺構のない空間が存在しており、34区においても小路が存在した可能性も考えられる。また34区SB01は柱穴が方形プランで0.8m弱あり、大型の建物が想定される。35区SA01（図.3）もこの時期の建物の可能性が高い。柱穴のプラン・規模とも34区SB01（図.3）とほぼ同様のもので、建物の軸もほぼ一致する。34区SB01と同様に大型建物が想定される。36区SD01（図.3）は時期不明の遺構であるが、検出された遺構面の時期からこの溝も中世の遺構であると考えられる。溝の南側は空白地となり、道である可能性もある。現在も36区南側には道があり、中世段階にこの道が形成された可能性が考えられる。37区pit01～pit10（図.5）で構成する建物は、検出された遺構面は古代の面であるが削平を受けた可能性があり、中世段階の建物跡である可能性もある。この建物跡は現在の道と古代の遺構である37区SB01とほぼ同じ軸を取る。同様に34区～36区で検出された古代の建物跡と他の中世の建物跡の軸はほぼ一致しており、かつこれらの遺構は現在の町割ともほぼ一致している。以上のことから、このあたりの町割は古代に形成された町割を再構成しつつも、踏襲していた可能性が十分に考えられる。

八代神社（妙見宮・下宮）が今の位置に移されたのが12世紀であり、古代の町割をベースに、この時期に再編成が行なわれた可能性が高い。それ以後、現在に至るまで大きな変化ではなく、宮地地区の現在の景観は中世段階にはほぼ完成されたといえるであろう。

また、下宮の周辺には、それに関連する施設・またそこに従事していた人の住居があったことが想定されるが、今回の調査で巨大なピット群が多数見つかっており、それらが建物を構成する可能性は十分あり、関連施設の存在の可能性を示す重要な資料となった。

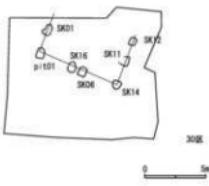
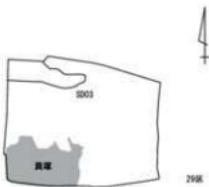


図.2 29-30区検出遺構（中世）

## 近世以降

近世以降の遺構は激しい搅乱や造成のために検出が困難であり、29区の道路状遺構が見られるほかは極めて少ない。

前述の通り、現在の景観がすでに中世段階でほぼ完成されていたとすれば、近世以降の遺構は現在の集落（建物）とほぼ同じ位置に存在すると考えられる。そのため、改築時に遺構が破壊されて検出が困難であったのではないだろうか。

## 結び

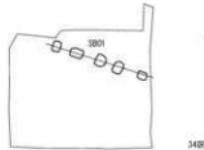
今回の調査において古墳～中世にかけて建物跡を検出することができ、それぞれの建物の軸から宮地地区の町割の変遷を解明できる可能性が出てきた。それによると古墳時代から古代に至る時期に建物の軸が変化し、それ以降は大きく変化することがない。この状況は現在の町割にも当てはまり、古代から現在まで大きく変更されることなく現在に至っている。

この地域は文献資料も豊富に残っていることから、これらの資料と発掘調査によって得られた資料をすり合わせることにより、今後、更なる詳細な調査が期待される。（宇田）

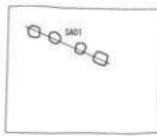
### 参考・引用文献

「生産遺跡基本調査報告 II」熊本県文化財報告 第48集 1980

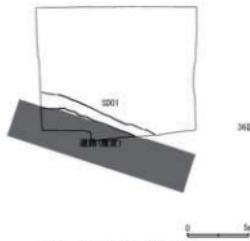
この中では須恵器生産の拠点の一つとして八代地域を八代窯跡群として認識しているが、平原瓦窯跡・八代丸山窯跡の2例しかなく、一方は瓦窯、もう一方は窯体自体が未検出である。など八代窯跡群として設定する物証が乏しい



34区



35区



36区

図. 3 34～36区検出遺構（中世）

## 2. 宮地小畠・觀行寺遺跡で検出された建物の官衙的要素について

今回の調査区は、古代官道である西海道のルートと推定される地域に含まれる。また現在の八代神社付近は片野駅の推定地の一つとして考えられているが、今回の調査で直接それらに関係のある成果はみられなかった。しかし、興味深い成果が多くみられたのも事実である。これらのことと踏まえつつ、新幹線建設に伴う宮地地区の発掘調査がもたらした成果と今後の課題を述べる。

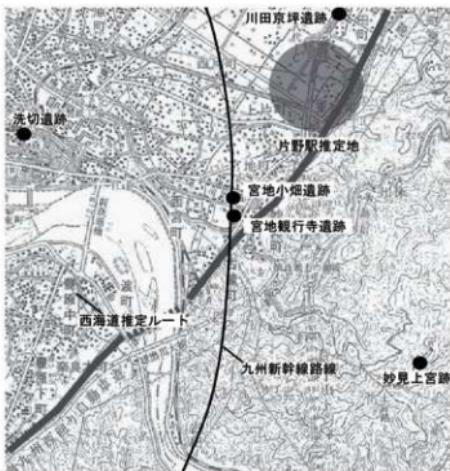


図4 西海道推定ルートと周辺遺跡

### 古代西海道の推定ルート

古代官道は現在の高速道路の路線と一致する事例が多い。八代地区においても推定ルートは九州道もしくは国道3号線に沿って伸びると考えられる。高速道路は各都市間を最短距離で結ぶことを前提に設計されるが、官道が国衙と国衙との間を最短距離で結ぼうとした意図と一致している。そのためルートが類似するのは当然のことであろう。その一方で、このあたりの当時の海岸線は山際近くまで来ていたと思われ、本格的に有明海の干拓が行われる以前の遺跡は山際周辺に集中している。このような地形的な制約が大きい中、当然、官道を建設する候補地に当たってもそれほど選択肢はなかったと考える。現在の高速道路は安定地盤を選択し建設されているが、これも官道のルートと一致する由縁であろう。

すでに推定ルートは多くの研究者によって研究されている。それに拠れば、現在の八代ICあたりに片野駅が設置され、そこから今回の調査区を通り古麓町から球磨川を抜け豊原中町へ至り、3号線と山際軌道を辿る。このルートでは今回の地区が西海道のすぐ西側を抜ける場所に位置する。

### 検出された建物群について

このように、今回の調査区が西海道の推定ルートに非常に近く、関連性が高いであろうことは調査前から容易に推測でき、西海道そのものの検出、片野駅またはその関連施設の検出の2点が期待された。西海道のルートに関してはすでに述べたように推定ルートそのものが調査区を抜けるわけではなく、若干西側に外れるため西海道自体の検出は困難であるが、それに伴う小規模な道などが検出される可能性も考えられた。一方、片野駅に関しては現在の八代IC付近を推定地とする場合や、八代神社北側付近を推定地とする場合があるなどはっきりと場所の特定ができない。そのため、八代神社に近い今回の調査区においても、官衙関係の建物跡検出の可能性が非常に高かったのである。

今回検出された古代の建物跡等はおおよそ8世紀中頃から末の時期のもので、34区SB02、35区4層下から検出された土坑群、36区6層土坑群、37区の列に伸びる配石遺構SX01とそれに伴う掘立柱建物群SB01やピット群などがあげられる。これらはいずれも北から70度程度東へ軸が振れており、一定の規則性が見られる。

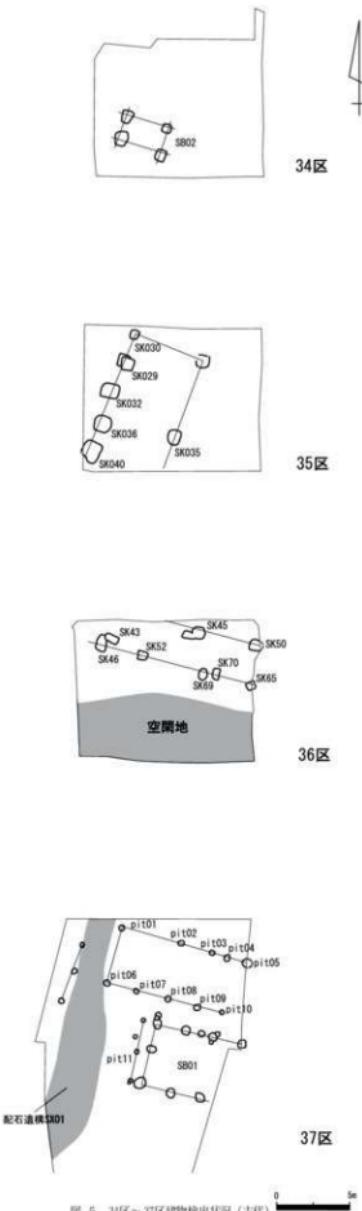


図. 5 34区～37区建物検出状況（古代）

なお35区SK29・30・32・35・36・40（図.5）、36区SK43・45・46・50・52・65・69・70の土坑群は一列に並び、規模も34区SB02とほぼ同一であるため、これも柱穴である可能性が高いと考えられる。

34区SB02（図.5）は2間×2間が残った状態で検出され、建物の長軸は北東方向を向く。しかし、後世の搅乱のため他の柱穴が失われた可能性もあり、その規模は不明である。35区SK29・30・32・35・36・40の土坑群が構成する建物は4間以上×2間の建物である。建物の長軸は北西方向を向く。この建物は調査区外にさらに広がる可能性がある。36区SK43・45・46・50・52・65・69・70の土坑群はSK45・50とSK46・52・65・69・70がそれぞれ一直線に並び、構成される2線は平行になる。この状態では建物とはい難いが、その可能性は十分考えられるものである。これらが建物を構成するならば、その長軸は北東方向を向く。また35区・36区の建物群として認識すれば「コ」字状の配置をする可能性も考えられる。「コ」字状の建物配置は官衙的な要素が強く、35区を中心として施設が存在した可能性を示唆するものである。

37区ではSB01とpit01～pit10で構成する建物の2棟の建物群が検出されている。SB01で検出された柱穴は2間×3間であり、さらに西側に伸びる。また、その東側には2間の柵列が検出された。pit01～pit10は1間×4間の建物を構成し、さらに西側に伸びている。どちらの建物も調査区外に伸びているため、その規模は不明である。また建物の東側に配石遺構SX01が検出されその関連性が注目される。このSX01の東側にはさらに柵列がみられ、東側にも建物群が広がる可能性を窺わせる。

なお34～36区と37区の建物の柱穴は若干の相違がみられ、36区南側には遺構が見られない空闊地が存在する。そこから北と南で柱穴の大きさ、プランが変化しているのである。柱穴の規模は34～36区のものと比較すると小さく、プランも34～36区で検出された柱穴は方形であるのに対し、37区では円形に近い形状となっている。これは建物の規模に拠るものと考えられるが、36区の遺構空闊地を境にこの様な相違が見られることは非常に興味深い。また37区から北側に伸びるSX01はそのまま一直線に伸びれば36区においても検出されるはずであるが、36区側では検出されていない。これも36区と37区の間に空間

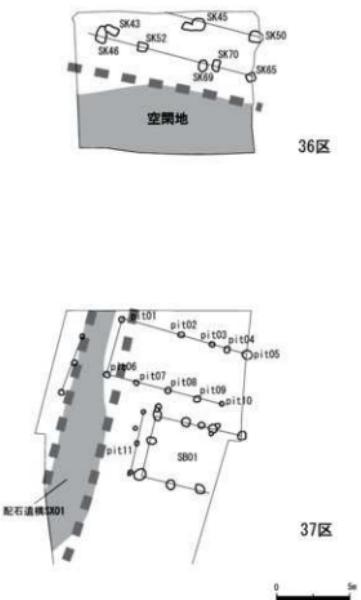


図. 6 34区～37区出土物検出状況(古代)

ある。36区以降の調査区で繩の羽口の出土が多く見られることを考慮すれば、36区以降は工房的な空間であるとも考えられる。この点に関しては茨城県石岡市鹿の子C遺跡において国衙に付属した大規模な官営工房跡が検出されているが宮地地区においても同様な官衙付属の工房の存在の可能性も念頭に置いておくべきであろう。いずれにせよこの空閑地によって空間的性格的差異を意図的にもたらしていると考えられる。37区SX01はこの空閑地に直交する形となるが、これも、大路に対する小路の痕跡と考えれば、この空閑地に土壙が設置されても土壙の南側には道路が敷設されていたと解釈することができる。この場合、敷設された道路は現在の道路と位置がほぼ一致する可能性もあり、非常に興味深い。

なお37区pit01～pit10で構成する建物はSB01よりもさらに小規模である。また、ピットが浅く削平を受けているため、上面からの掘り込みである可能性も考えられる。とすれば古代の遺構ではなく、配石遺構がこれらのピット群付近で不自然に細くなることもこれに起因するものと考えられる。つまり、もともとは左図に破線で示した範囲に配石されていたが、建物を建てる際に除去されたということである。破線の範囲がもともとのSX01の範囲であるならば、幅3m程度の細長い空間が浮かび上がる。SX01は掘り込みがなく地山上に配石された遺構であるが、この配石によって作られた空間に関しても36区南側の空閑地と同様これは道路もしくは壙として使用されていた痕跡ではないかと考えられる。

#### 出土遺物について

今回の調査では多くの刻書土器が出土し、墨書き土器・硯も出土している。これらは識字可能な人間の存在を示唆している。また平瓦も若干、出土しており、遺物からここに特殊な建物が存在していたことを示唆している。今回出土した刻書・墨書き土器は29・30区・33～40区と今回の調査区においてほとんどの調査区で出

的な差異があることを示している事象であろう。

#### 36区南側で見られた遺構空閑地について

このような空閑地の出来る要因として、下部構造を必要としない構造物の存在が考えらる。まず考えられるのは道の存在であろう。36区と37区との間には現在も道路が存在する。この道路に対し建物跡の軸もほぼ一致しており、36区4層（遺構空閑地が検出された上面）では道路の側溝と思われるSD01が検出されている。この溝は現在の道路と同じく北東一南西方向に伸びる。4層は中世の遺構面と考えられており、少なくともこの場所には中世の段階において道路が存在していたことがわかる。中世の道路もこの古代に作られたものの踏襲する形で形成したとすれば、この空閑地が道路として使用されていたと考えができる。この場合37区SX01はその道路上に当て収束させたこととなる。他にこの空閑地に土壙のようなもの構造物が存在した可能性も考えられる。いずれにせよ37区との建物規模の相違がその空閑地を境に変化するということは道路ないし土壙によつて空間を意図的に区別されたことによる現象であると考えられる。つまり36・37区間の道路ないし土壙によりそれより北側は官衙的な空間、南側は集落的な空間という区別がなされたということである。

土しているといえる。今回出土した刻書土器・墨書き土器は全体で82個体あり、約46%の刻書土器が37区で出土している。また全体の約24%を「秋女」または「秋」「女」と刻まれた土器が占める。ついで「宣」「福得」の文字が刻まれた土器が多く見られている。また川田京坪遺跡でも出土が確認された「川大」も4点出土している。「川大」に関しては高田郡との関係性を考える説もあり、今回の出土した「川大」の刻書土器も同様に解釈することも可能であるが他の文字が示す意味は今のところ不確定な点が多くはっきりしない。ただ建物を意味する文字を含んだ「大倉」が刻まれた土器も見られ、ここが官衙に無関係でないことを示唆している。出土した硯に聞かしては獸脚円面硯・圓足円面硯・特殊硯（風字硯・中空円面硯）・転用硯とバリエーションは多い。この中の獸脚円面硯は希少性が高く、中央官衙級の性格を持つ遺跡の可能性があるとされるが、これは今回の調査区に伴うものではなく、妙見宮（上宮）に関係していると考えた方が自然であろう。それ以外の他の出土した硯も遺構内から出土したものではないが看過できない遺物である。この様な硯が出土する遺跡の場合、地方官衙的性格を帯びる可能性があるからである。

### まとめ

調査開始時は便宜上遺跡名を変え宮地小畠遺跡・宮地觀行寺遺跡としたが、調査の結果この遺跡名の違いがそのまま遺跡の性格の違いとなる可能性が出てきた。36区空閑地を境に遺跡の状況が変化するのは先にも述べたが、その空閑地に道路が敷設されていたとすれば約6m弱の大きなものとなる。その大路は西海道に接続し、その大路北側により大型建物が形成された景観は、非常に官衙的なものを連想させる。刻書土器がその大路よりも南側の37区で多く出土している点はさらに熟考の余地があるが、37区SX01も大路に対する小路の可能性もあり、何らかの機能を備えた空間であると考えることもできる。また40区～43区ではいったん遺構密度が減少し、44区以降で遺構密度が増加する傾向がある。ここで見つかる遺構は今までの遺構とは性格が異なるものであり、一旦40区周辺で集落が途切れているのではないだろうか。現在の宮地地区においても36区・37区間の道路から南側では田畠として土地を利用しておらず、古代においても同じような景観を持っていたのであろう。

現在の集落と今回の調査で検出された遺構の軸が一致することは各時代で共通して見られた。つまり、中世の建物跡の軸、古代の建物跡の軸、また現在の町割りの軸はあまり変化がない。29区SD04・30区4層のピット群（建物を構成する可能性が高い）、34区SB01、35区SA01・36区SD01などが中世の遺構として挙げられるが、これらの軸は古代の遺構と比較しても相違ない。古代官道が土地開発の基線となっていたことはよく知られるが、宮地地区においても官道が周辺の土地開発の基線となった可能性が十分考えられる。古代において側を通る西海道を基線として利用し現在の町割の基盤がすでに形成されていたのであろう。

記録に残るほど風水害が多いこの地域において、幾度も建物の倒壊、水没等の災害に見舞われていると思われるが、それにもかかわらず、前時代の町割を踏襲し、土地を再開発していくという点はこの地域の特殊性を示す事例の一つと考えられる。おそらく妙見宮（下宮）が現在の位置に移動した頃には土地も安定していたと思われるが、それでもなお、新たな町割プランを立てることがなかったのは古代において計画された町割が非常にこの地域にとって都合よいものであったのかもしれない。

くしくも今回の調査区は八代神社に直線距離で300m弱と非常に近い位置にあり、この付近に片野駅が存在したとすれば、今回の調査で検出された遺構は駅家に関連する遺構である可能性が高いといえる。しかし、残念ながら調査区が狭く、建物の規模を測ることはできず、まとまった建物群を検出できたと断言はできない。また、片野駅の存在がはっきりしない状況では官衙的な性格を持つ建物群が形成されていた可能性があ

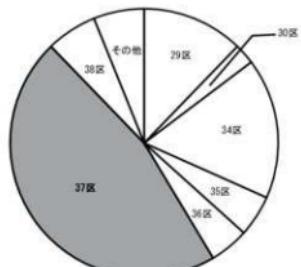


図.7 刻書・墨書き土器の出土地区別の割合

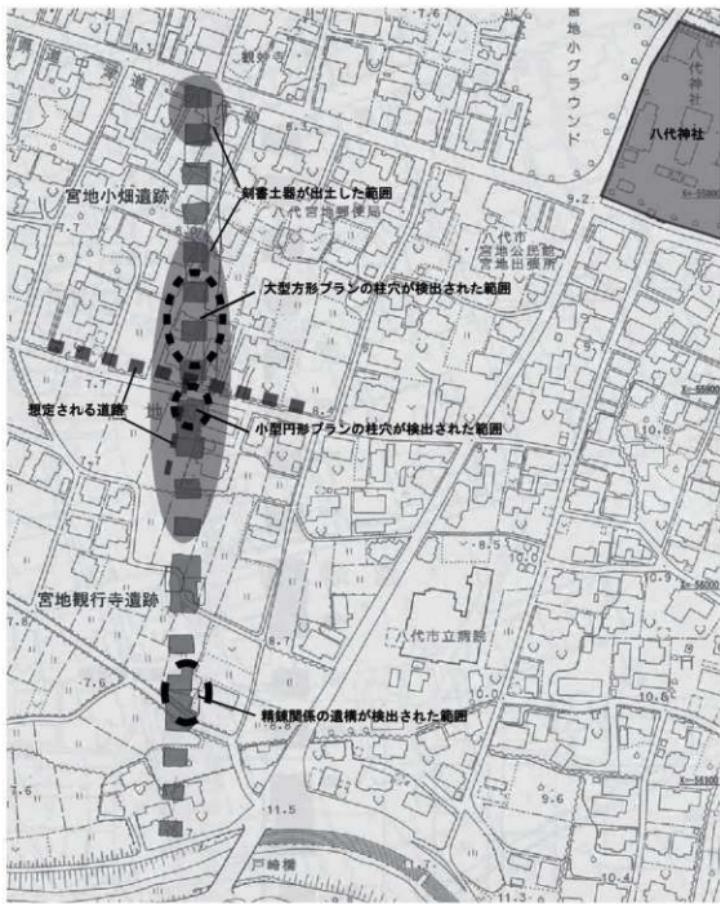


図 8 宮地小畠・銀行寺遺跡各調査区の道構の性格（古代）

るということでとどめておくほかない。この周辺の都市計画が本当に西海道を基線としたのかという点においても、未だ西海道自体の検出がない以上、更なる同時代の調査事例と精査が必要である。

古代官道は9世紀になると8世紀代の道路を移転、改廃、道幅の変更などの再編成が行われている。今回の調査区で見られたように、古代から変化が少ないという特徴を持つ状況で、この事態がどのように関係してくるのかということ也非常に重要な問題である。

以上、筆者の力量不足もあり、問題点や不明な点も多いが、この場所においてまとまった建物群が見られることは推定地の位置や周辺の当時の状況を考える上で貴重な資料となったことは間違いない。（宇田）

参考・引用文献

- 佐藤浩司 「墨書き土器、ヘラ書き土器と礎に関する一考察」『古文化談叢 第30集（下）』 九州古文化研究会 1993  
村上豊喜 「川田遺跡の歴史的背景」『川田京坪遺跡 熊本県文化財調査報告 第46集』 熊本県教育委員会 1980  
鶴崎俊彦 「肥後國」『日本古代道路事典』 古代交通研究会 2004  
町田 章 「古代の宮殿と寺院」『古代史復元8』 1989  
木下正史 「国衙・郡衙・郷衙道路の配置計画」『考古学ジャーナル №420』 1997  
木下 良 「古代日本の計画道路 一世界の古代道路とも比較してー」『地学雑誌 110巻1号』 2001

八代宮地地区における  
自然科学分析業務報告

バリノ・サーヴェイ株式会社

2004年

## 八代宮地地区における自然科学分析

### <目次>

はじめに	p.141
1. 試料	p.141
2. 分析方法	
(1) 放射性炭素年代測定	p.141
(2) テフラ分析	p.141
(3) 珪藻分析	p.144
3. 結果	
(1) 放射性炭素年代測定	p.144
(2) テフラ分析	p.144
(3) 珪藻分析	p.144
4. 考察	p.158
引用文献	p.159

### <図表・図版一覧>

表1. 分析試料一覧	p.142
表2. 放射性炭素年代測定結果	p.145
表3. 歴年較正結果	p.145
表4. テフラ分析結果	p.145
表5. 164870地点の珪藻分析結果	p.150
表6. 183600地点の珪藻分析結果	p.152
表7. 197960地点の珪藻分析結果	p.154
表8. 226570地点の珪藻分析結果	p.157

図1. 各地点の柱状図および試料採取位置	p.143
図2. 164870地点の主要珪藻化石群集の層位分布	p.146
図3. 183600地点の主要珪藻化石群集の層位分布	p.147
図4. 197960地点の主要珪藻化石群集の層位分布	p.148
図5. 226570地点の主要珪藻化石群集の層位分布	p.149

図版1 火山ガラス	p.161
図版2 珪藻化石（1）	p.162
図版3 珪藻化石（2）	p.163

## 八代宮地地区における自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

今回器械ボーリングによる地質調査が行われた八代宮地地区は、八代平野南東部の標高6～8mほどの沖積低地に位置する。調査地点の南東方約500mには、比奈久断層の断層崖からなる九州山地の縁辺が迫っており、また、南西方約2kmには、球磨川の九州山地から八代平野への出口があり、山地をほぼ南北方向に流れている流路が、平野に出たところではほぼ東西方向へと大きく蛇行している。宮地地区は、蛇行する球磨川のカーブの外側に位置している。

八代宮地地区的地質調査は、100m前後の間隔を開けてほぼ南北方向に深度30m程度の10数本の器械ボーリングにより行われた。熊本県教育委員会では、その調査結果と得られたコア試料を保管し、熊本県内における沖積低地の構造および形成史に関わる資料の作成を進めている。今回、放射性炭素年代測定、テフラ（火山灰）の検出同定、珪藻分析の各分析調査に実施が要望された。本報告は、これらの分析結果について報告するものである。

### 1. 試 料

試料は、八代宮地地区で行われたボーリング調査のコアより採取した。熊本県教育委員会では、コア試料の観察から、153010、164870、183600、197960、226570の5地点の試料を選択している。今回の分析では、これらについて、当社技術者2名による観察を行い、分析に適すると考えられるシルト～粘土質の堆積物の層位を中心として適宜採取した。採取した試料は、5地点で計34点であり、便宜的に試料番号1～34を付した。このうち、試料番号1～7は、153010地点から採取したものであるが、熊本県教育委員会との協議により、今回の分析では、この地点の試料については対象としない。今回対象とする164870、183600、197960、226570の各地点の柱状図および各試料の採取位置を図1に示す。

今回の分析のうち、放射性炭素年代測定については、コアの詳細な観察から、微細な植物片または炭化粒が含まれている層を見出し、4点の試料を抽出して測定した。また、テフラ分析については、コアの観察から、テフラの主体となる碎屑物（スコリア、火山ガラス、軽石など）が含まれていると思われる層より4点の試料を抽出し、分析に供した。さらに珪藻分析については、珪藻化石が多く含まれていると考えられるシルト質の堆積層を中心に、21点の試料を抽出した。各分析の試料を抽出した地点および試料番号は、一覧にして表1に示す。

### 2. 分析方法

#### (1) 放射性炭素年代測定

測定は株式会社加速器分析研究所の協力を得て、AMS法により行った。なお、放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4(Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer)を用いた。

#### (2) テフラ分析

適量を蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破碎片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた纖維束状のものとする。

表1. 分析試料一覧

地点名	試料番号	深度(m)	形狀(長さ)	土質名	色調	備考1	14C	テフラ	珪藻	備考2
153010	1	22.75-22.95	柱状(15cm)	シルト混じり砂礫	暗青灰					
	2	25.85-25.95	柱状(9cm)	粘性土	黒灰	細隙混じり砂質シルト				
	3	26.65-26.90	柱状(25cm)	固結粘性土						
164870	4	27.00-27.30	塊状							
	5	27.45-27.60	柱状(16cm)	粘土質砂礫	暗褐	細隙混じり砂質シルト				
	6	28.50-28.70	柱状(16cm)	シルト質砂礫	暗褐	不規則な層				
	7	30.00-30.50	塊状		暗褐	粗粒				
	8	22.15-22.45	塊状	粘性土	暗灰	シルト、極微量炭化物	●	●	●	
	9	26.75-26.85	柱状(10cm)	砂、粘性土互層	暗褐～黑褐	シルト質砂	●	●	●	
	10	27.60-27.75	柱状(12cm)	柱状(6.5cm)		上部シルト下部砂礫				
	11	28.80-28.90	柱状(7.5cm)	砂、粘性土互層	暗青灰～黄灰	砂質シルト				
	12	29.55-29.60	柱状(7.5cm)							
	13	18.15-18.45								
	14	18.50-18.65	柱状(14cm)	粘性土	暗灰	砂質シルト	●	●	●	14Cは植物遺体
	15	19.55-19.75	柱状(25cm)							貝殻片ではなく現代のビニールカラースチック
	16	19.55(貝殻片)	塊状							
183600	17	20.25-20.45	塊状							
	18	25.85-25.95	柱状(10cm)	粘土質砂礫	反黃褐	基質は細砂				
	19	26.15-26.45	塊状	粘性土	黒褐	細隙混じりシルト				
	20	26.85-27.00	塊状							
	21	27.15-27.45	塊状							
	22	27.60-27.80	柱状(15.5cm)	粘土質砂礫	暗灰					
	23	12.00-12.30	塊状	砂質シルト						
	24	16.00-16.50	塊状	粘性土						
	25	16.60-16.70	柱状(10cm)			シルト	●	●	14Cは炭化物	
197960	26	17.00-17.50	塊状		暗灰					
	27	17.80-17.90	柱状(9cm)	粘土混じり砂		シルト質砂	●	●	●	14Cは植物遺体?
	28	18.70-18.80	柱状(11cm)	粘性土	暗灰	シルト	●	●	●	
	29	19.60-19.70	柱状(11cm)							
	30	20.00-20.50								
	31	20.15-20.45	塊状	粘性土	暗灰	砂質シルト	●	●	●	テフラ?は白色薄層
	32	20.75-20.85	柱状(11cm)	砂混じり粘性土	暗灰					14Cは微細な炭化物
226570	33	21.15-21.45	塊状							
	34	21.70-21.85	柱状(11cm)			細隙混じり砂質シルト	●	●	●	
					点数	4	4	4	21	

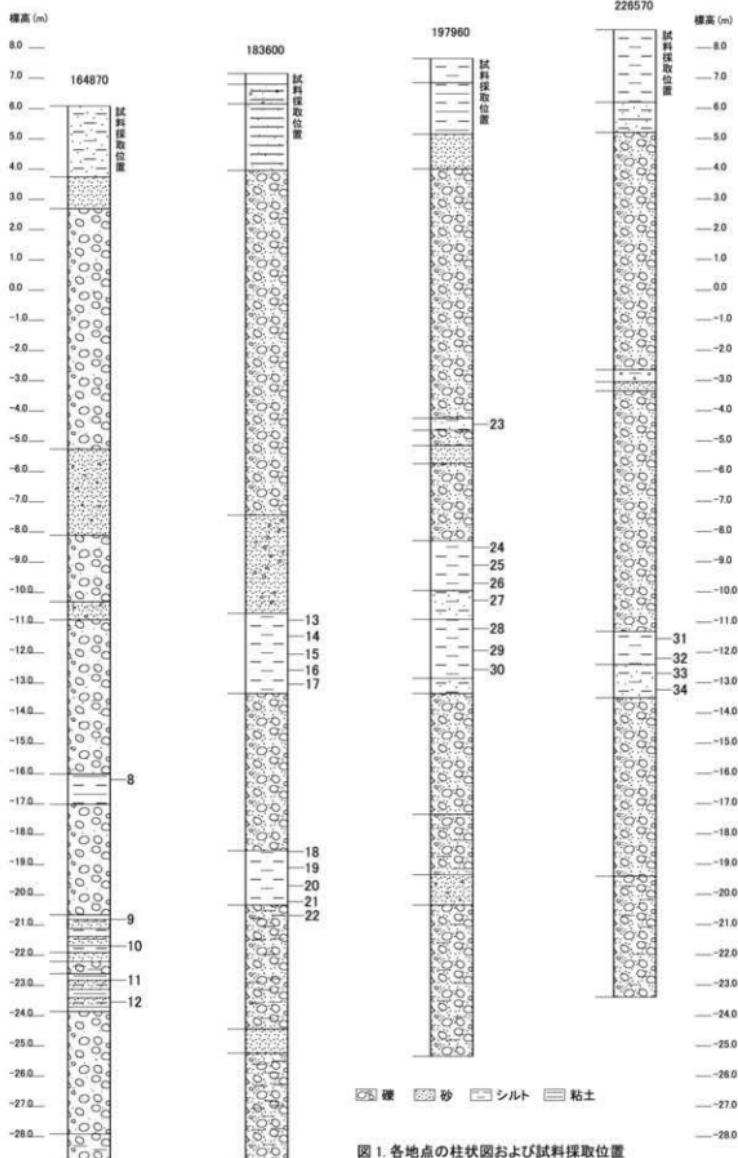


図 1. 各地点の柱状図および試料採取位置

なお、火山ガラス質テフラが検出された場合は、テフラ同定の精度を上げるために、火山ガラスの屈折率の測定も行う。測定は、古澤（1995）のMAIOTを使用した温度変化法を用いた。

### （3）珪藻分析

試料を湿重で7 g 前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、ブリュウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1,000倍で行い、メカニカルステージでカバーガラスの任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する（化石の少ない試料はこの限りではない）。種の同定は、原口ほか（1998）、Krammer（1992）、Krammer & Lange-Bertalot（1986, 1988, 1991a, 1991b）、Witkowski et al.（2000）などを参照する。

同定結果は、海水生種、海～汽水生種、汽水生種、淡水～汽水生種、淡水生種の順に並べ、その中の各種類をアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種はさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度（pH）・流水に対する適応能についても示す。また、環境指標種についてはその内容を示す。そして、産出個体数100個体以上の試料については、産出率2.0%以上の主要な種類について、主要珪藻化石群集の層位分布図を作成する。また、産出化石が現地性か異地性かを判断する目安として、完形殻の出現率を求める。堆積環境の解析は、海水～汽水生種については小杉（1988）、淡水生種については安藤（1990）、陸生珪藻については伊藤・堀内（1991）、汚濁耐性については、Asai & Watanabe（1995）の環境指標種を参考とする。

## 3. 結 果

### （1）放射性炭素年代測定

結果を表2に示す。4点の試料の測定年代（同位体補正年代）は7000～7300年前の範囲に入る。この年代は、柴畠（1997）などに示される南九州の考古編年では縄文時代早期に相当する。また、各試料の曆年較正を行った年代を表3に示す。いずれも測定年代より概ね1000年ほど古く、7900～8200年前の範囲に入る。

### （2）テフラ分析

結果を表4に示す。164870地点試料番号8および197960地点試料番号30には極めて微量、183600地点試料番号17には微量、226570地点試料番号31には少量の、それぞれ火山ガラスが認められた。火山ガラスは、いずれの試料においても無色透明のバブル型が多く、極めて微量の褐色を帯びたバブル型も認ることができた。226570地点試料番号31の火山ガラスの屈折率を測定したところ、n1.499～1.500に集中し、微量のn1.510前後を示す高屈折率の火山ガラスの混在も認められた。

なお、スコリアおよび軽石は、いずれの試料からも全く認められない。

### （3）珪藻分析

#### • 164870地点

結果を表5、図2に示す。全般的に珪藻化石の産出が少なく、試料番号8からが産出したが、試料番号10～12は無化石であった。試料番号8は、海水～汽水生種と汽水生種が多産しており、両者を合計すると全体の約80%を占める。これに付随して海水生種、淡水生種がそれぞれ約10%産出した。完形殻の出現率は、約30%と化石の保存状態が悪い。産出分類群数は、10属16分類群である。産出種の特徴は、内湾指標種群（小杉, 1988）のCyclotella striata-C. stylorumが約30%と優占し、汽水付着性で海水泥質干潟指標種群（小杉, 1988）のNitzschia granulata、N. coccineiformis、内湾指標種群のParalia sulcata等が10～20%と多産したことである。内湾指標種群とは、塩分濃度35～26%の内湾水中で浮遊生活することからそのような環境を指標するとのできる種群、海水泥質干潟指標種群とは、塩分濃度30～12%の泥底の泥に付着生育するこ

表2. 放射性炭素年代測定結果

地点名	試料番号	深度(m)	試料の質	補正年代BP	$\delta^{13}\text{C}$ (%)	測定年代BP
183600	15	19.55-19.75	微細な植物遺体	7400 ± 50	- 30.38	7490 ± 50
197960	25	16.60-16.70	微細な炭化物	7060 ± 40	- 24.92	7060 ± 40
197960	28	18.70-18.80	微細な植物遺体	7340 ± 40	- 27.88	7390 ± 40
226570	32	20.75-20.85	微細な炭化物	7540 ± 50	- 29.12	7610 ± 50

1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。

2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。

3) 付記した誤差は、測定誤差  $\sigma$  (測定値の68%が入る範囲) を年代値に換算した値。

表3. 历年較正結果

地点名	試料番号	補正年代(BP)	历年較正年代(cal)			相対比	
			cal BC	6,377 - cal BC	6,309 cal BP		
183600	15	7404 ± 47	cal BC	6,377 -	cal BC 6,309	cal BP 8,327 - 8,259	0.519
			cal BC	6,300 - cal BC	6,287	cal BP 8,250 - 8,237	0.078
			cal BC	6,267 - cal BC	6,220	cal BP 8,217 - 8,170	0.403
197960	25	7061 ± 38	cal BC	5,988 - cal BC	5,940	cal BP 7,938 - 7,890	0.547
			cal BC	5,929 - cal BC	5,889	cal BP 7,879 - 7,839	0.453
197960	28	7341 ± 38	cal BC	6,229 - cal BC	6,201	cal BP 8,179 - 8,151	0.348
			cal BC	6,191 - cal BC	6,161	cal BP 8,141 - 8,111	0.322
			cal BC	6,136 - cal BC	6,106	cal BP 8,086 - 8,056	0.329
226570	32	7538 ± 48	cal BC	6,444 - cal BC	6,378	cal BP 8,394 - 8,328	0.814
			cal BC	6,308 - cal BC	6,300	cal BP 8,258 - 8,250	0.051
			cal BC	6,286 - cal BC	6,267	cal BP 8,236 - 8,217	0.135

計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4 (Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer) を使用。計算には表に示した丸める前の値を使用している。

付記した誤差は、測定誤差  $\sigma$  (測定値の68%が入る範囲) を年代値に換算した値。

表4. テフラ分析結果

地点名	試料番号	深度(m)	スコリア		火山ガラス	軽石 量
			量	量	色調・形態	
164870	8	22.15 - 22.45	-	(+)	cl·bw >> br·bw	-
183600	17	20.25 - 20.45	-	+	cl·bw >> br·bw	-
197960	30	20.00 - 20.50	-	(+)	cl·bw >> br·bw	-
226570	31	20.15 - 20.45	-	++	cl·bw > br·bw	-

## 凡例

- : 含まない、(+) : きわめて微量、+ : 微量、++ : 少量、+++ : 中量、++++ : 多量、

cl : 黒色透明、br : 褐色、bw : バブル型、md : 中間型、pm : 軽石型。

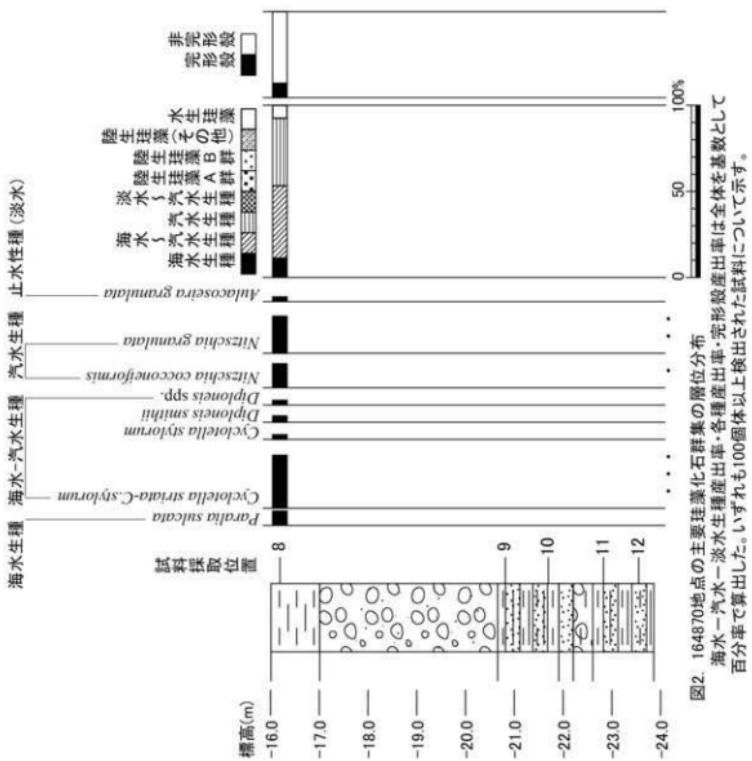
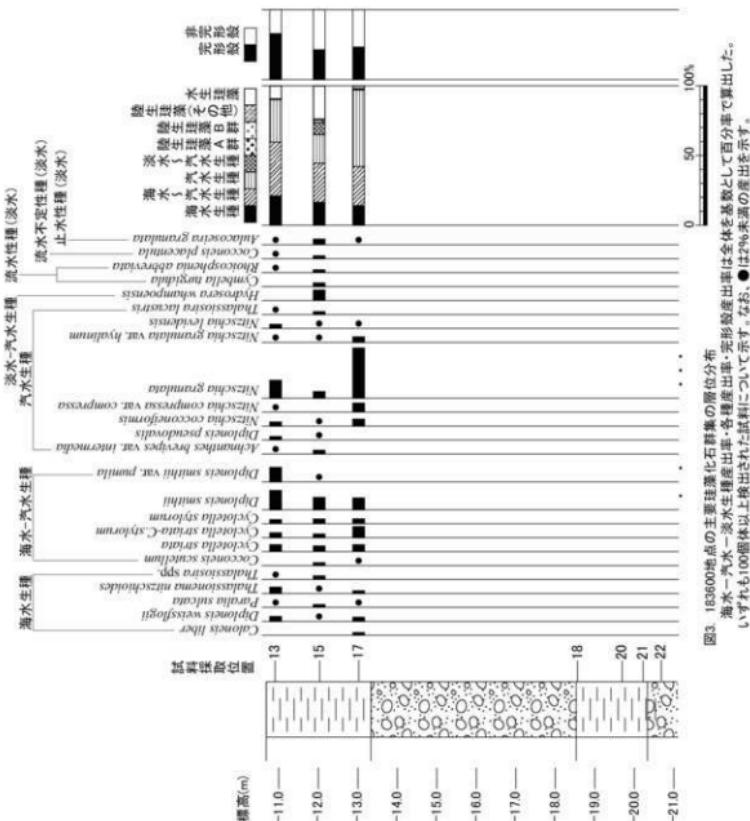


図2. 164870地点の主要珪藻化石群集の層位分布  
海水-汽水-淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体を基数として  
百分率で算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示す。



油水一気水-淡水生産出率・各種出率・完形産出率は全体を基數として百分率で算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は2%未満の値を示す。

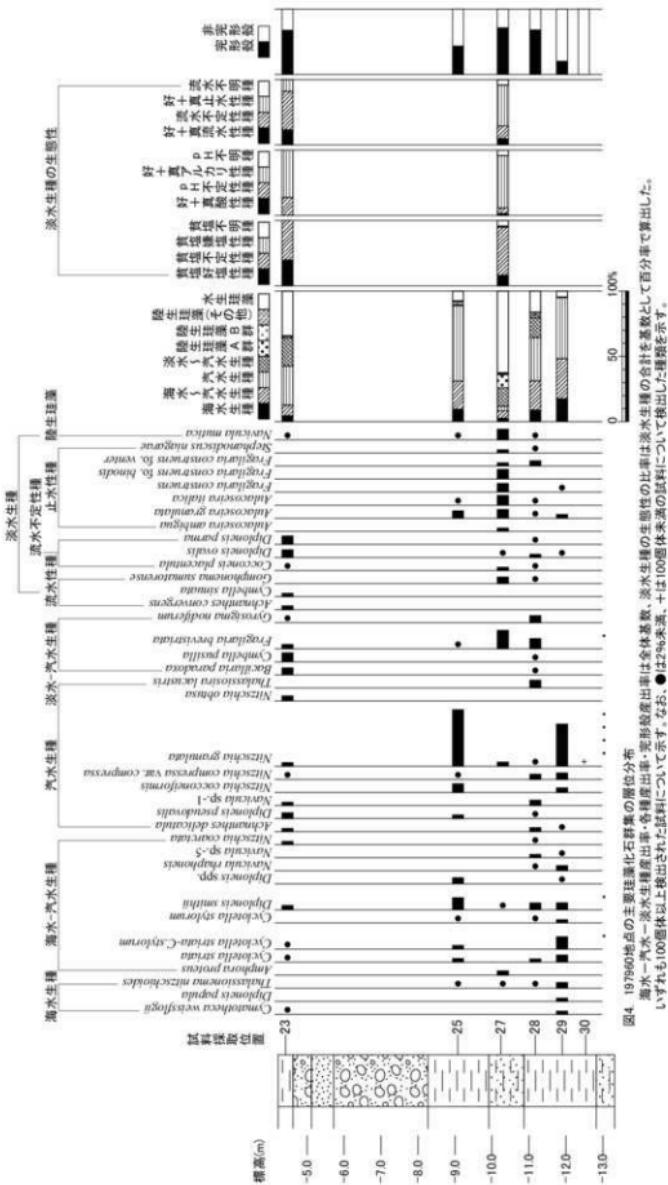


図4 19760地の主要な化石群の層の位置分布  
柱状圖は、各種の層について示す。柱の高さは、水準によって算出される層の厚さを示す。●は100個体以上の層である。

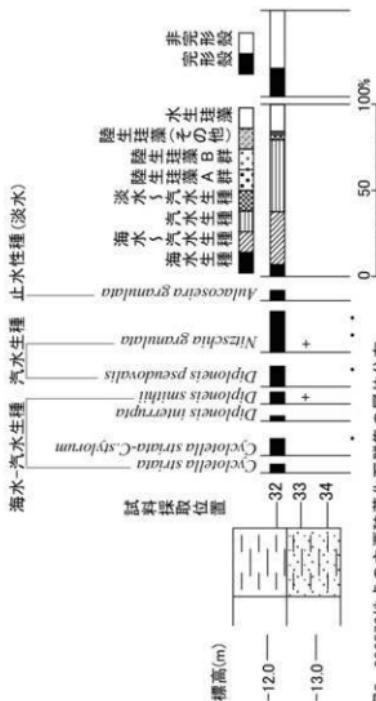


図5-2267年度の主要漁獲物と群衆の層別分布  
海水-汽水生産量出率、各種出率、完全船出率はいずれも100個体以上換出された試料について示す。

表5. 164870地点の珪藻分析結果

種類	生態性			環境指標種	8	9	10	11	12
	塩分	pH	流水						
Coscinodiscus spp.	Euh				1	-	-	-	-
Diploneis weissflogii (A.Schmidt) Cleve	Euh				1	-	-	-	-
Paralia sulcata (Ehr.) Cleve	Euh			B	9	-	-	-	-
Thalassionema nitzschiooides (Grun.) Grunow	Euh			A,B	1	-	-	-	-
Cyclotella striata (Kuetz.) Grunow	Euh-Meh				B	2	-	-	-
Cyclotella striata-C. stylorum	Euh-Meh				B	33	-	-	-
Cyclotella stylorum Brightwell	Euh-Meh				B	3	-	-	-
Diploneis smithii (Breb.) Cleve	Euh-Meh			E1	4	-	-	-	-
Diploneis spp.	Euh-Meh					3	-	-	-
Caloneis permagna (Bailey) Cleve	Meh					2	-	-	-
Nitzschia cocconeiformis Grunow	Meh			E1	15	-	-	-	-
Nitzschia compressa var. elongata (Grun.) Lange-Bertalot	Meh			E1	1	-	-	-	-
Nitzschia granulata Grunow	Meh			E1	23	-	-	-	-
Nitzschia granulata var. hyalinum	Meh					1	-	-	-
Achnanthes crenulata Grunow	Ogh-ind	al-bi	I-ph	T	1	-	-	-	-
Autoseira ambigua (Grun.) Simonsen	Ogh-ind	al-ll	I-bi	N,U	1	-	-	-	-
Autoseira granulata (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-ll	I-bi	M,U	3	-	-	-	-
Cyclotella distinguenda var. unipunctata (Hust.) Hak. & Ca.	Ogh-ind	al-ll	I-bi		2	-	-	-	-
Fragilaria construens var. triundulata Reichelt	Ogh-ind	al-ll	I-ph		1	-	-	-	-
海水生種					12	0	0	0	0
海水～汽水生種					45	0	0	0	0
汽水生種					42	0	0	0	0
淡水～汽水生種					0	0	0	0	0
淡水生種					8	0	0	0	0
珪藻化石総數					107	0	0	0	0

## 凡例

H.R. : 塩分濃度に対する適応性	pH : 水素イオン濃度に対する適応性	C.R. : 流水に対する適応性
Euh : 海水生種	al-bi : 真アルカリ性種	I-bi : 真止水性種
Euh-Meh : 海水生種～汽水生種	al-ll : 好アルカリ性種	I-ph : 好止水性種
Meh : 汽水生種	ind : pH不定性種	Ind : 流水不定性種
Ogh-hil : 貧塩好塩性種	ac-il : 好酸性種	r-ph : 好流水性種
Ogh-ind : 貧塩不定性種	ac-bi : 真酸性種	r-bi : 真流水性種
Ogh-hob : 貧塩嫌塩性種	unk : pH不明種	unk : 流水不明種
Ogh-unik : 貧塩不明種		

## 環境指標種群

- A : 外洋指標種, B : 内湾指標種, E1 : 海泥質干潟指標種(小杉, 1988)  
 M : 湖沼浮遊性種, N : 湖沼沼澤地指標種(安藤, 1990)  
 S : 好汚濁性種, U : 広域適応性種, T : 好清水性種(以上はAsai and Watanabe, 1995)  
 R : 陸生珪藻(RA : A群, RB : B群, RI : 未区分、伊藤・堀内, 1991)

とからそのような環境を指標することのできる種群のことである（小杉,1988）。

• 183600地点

結果を表6、図3に示す。試料番号13、15、17から珪藻化石が産出したが、試料番号18、20-22は無化石であった。完形殻の出現率は50-70%と化石の保存状態は比較的に良かった。産出分類群数は、合計で35属93分類群である。主要種の消長は、試料ごとに違いが見られた。

試料番号17は、汽水生種が約50%、海水～汽水生種が約30%、海水生種が約15%産出した。主な産出種は、海水泥質干潟指標種群の*Nitzschia granulata*が約40%と優占し、内湾指標種群の*Cyclotella striata*、*Cyclotella striata-C. stylorum*、海水泥質干潟指標種群の*Diploneis smithii*、*Nitzschia compressa var. compressa*、*N. cocconeiformis*等を作う。

試料番号15は、海水生種、海水～汽水生種、汽水生種、淡水生種が約20%前後産出した。とくに多産するものではなく、海水泥質干潟指標種群の*Diploneis smithii*、淡水～汽水生種の*Hydrosera whampoenensis*が約10%産出し、内湾指標種群の*Cyclotella striata*、*C. stylorum*、海水泥質干潟指標種群の*Nitzschia granulata*等を作う。

試料番号13は、海水生種、海水～汽水生種、汽水生種が約20-30%前後産出した。海水泥質干潟指標種群の*Diploneis smithii*、その変種の*Diploneis smithii var. pumila*、*Nitzschia granulata*が10%前後産出し、海水底生の*Diploneis weissflogii*、外洋指標種群または内湾指標種群の*Thalassionema nitzschiooides*、内湾指標種群の*Cyclotella striata*、*C. stylorum*等を作う。外洋指標種群とは、塩分濃度が約35‰の外洋水中で浮遊生活を営む種のことである（小杉,1988）。

• 197960地点

結果を表7、図4に示す。試料番号23、25、27-29から珪藻化石が産出したが、試料番号30からは、殆ど産出しなかった。完形殻の出現率は、試料番号23、27、28が70%前後と高かったが、試料番号25、29は40%以下と低かった。産出分類群数は、合計で38属136分類群である。主要種の消長は、試料ごとに違いが見られた。

試料番号29は、海水生種、海水～汽水生種、汽水生種の合計が約95%と産出種の大部分を占め、中でも汽水生種の割合が高い。主な産出種は、海水泥質干潟指標種群の*Nitzschia granulata*が約30%と優占し、内湾指標種群の*Cyclotella striata-C. stylorum*、*Cyclotella striata*、海水泥質干潟指標種群の*Diploneis smithii*、*Nitzschia cocconeiformis*、*Nitzschia compressa var. compressa*等を作う。

試料番号28は、海水生種、海水～汽水生種、汽水生種、淡水～汽水生種、淡水生種の全てのカテゴリーにわたって珪藻化石が産出した。主な産出種は、海水～汽水生種の*Diploneis smithii*、汽水生種の*Nitzschia compressa var. compressa*、*Thalassiosira lacustris*、淡水～汽水生種の*Fragilaria brevistriata*、*Gyrosigma nodiferum*、淡水生種で好止水性の*Fragilaria construens fo. venter*等が産出した。

試料番号27は、淡水生種が約60%と多産した。これに付随して、淡水～汽水生種、陸上のコケや土壤表面など多少の湿り気を保持した好気的環境に耐性のある陸生珪藻等が産出した。淡水性種の生態性（塩分濃度、水素イオン濃度、流水に対する適応能）の特徴は、貧塩不定性種（少量の塩分には耐えられる種）、真+好アルカリ性種（pH7.0以上のアルカリ性水域に最もよく生育する種）、真+好止水性種（止水域に最もよく生育する種）が優占した。とくに多産するものではなく、淡水～汽水生で偶来性浮遊性種（本来、付着性種であるが、波等の物理的影響を受けて基物から剥離した後は、浮遊生活を営む種）の*Fragilaria brevistriata*、種の淡水浮遊性で湖沼浮遊性種群の*Aulacoseira granulata*、*Aulacoseira italica*、偶来性浮遊性種の*Fragilaria construens*とその変種の*Fragilaria construens fo. binodis*等が産出した。陸生珪藻では、耐乾性の高い陸生珪藻A群（伊藤・堀内,1991）の*Navicula mutica*が産出した。

表6. 183600地点の珪藻分析結果

種類	生態性			環境指標種							
	塩分	pH	流水		13	15	17	18	20	21	22
<i>Actinopyctus senarius</i> (Ehr.) Ehrenberg	Euh		A	1	—	1	—	—	—	—	—
<i>Amphora marina</i> W. Smith	Euh			1	—	—	—	—	—	—	—
<i>Caloneis liber</i> (W. Smith) Cleve	Euh			—	—	4	—	—	—	—	—
<i>Chaetoceros</i> spp.	Euh			2	—	—	—	—	—	—	—
<i>Coscinodiscus radiatus</i> Ehrenberg	Euh		A	—	—	1	—	—	—	—	—
<i>Coscinodiscus</i> spp.	Euh			1	1	1	—	—	—	—	—
<i>Cymatotheca weissflogii</i> (Grun.) Hendey	Euh		B	3	1	—	—	—	—	—	—
<i>Diploneis littoralis</i> (Donk.) Cleve	Euh			—	1	—	—	—	—	—	—
<i>Diploneis papula</i> (A.S.) Cleve	Euh			2	—	3	—	—	—	—	—
<i>Diploneis weissflogii</i> (A. Schmidt) Cleve	Euh			7	2	6	—	—	—	—	—
<i>Grammatophora macilenta</i> W. Smith	Euh			—	—	1	—	—	—	—	—
<i>Navicula cancellata</i> Donkin	Euh			—	1	—	—	—	—	—	—
<i>Nitzschia acuminata</i> (W. Smith) Grunow	Euh		E1	2	1	1	—	—	—	—	—
<i>Nitzschia cf. carnicobatica</i> Desikachary & Prema	Euh			—	1	—	—	—	—	—	—
<i>Nitzschia lanceola</i> Grunow	Euh			—	—	2	—	—	—	—	—
<i>Nitzschia pandiformis</i> Gregory	Euh		E2	—	1	—	—	—	—	—	—
<i>Paralia sulcata</i> (Ehr.) Cleve	Euh		B	2	3	3	—	—	—	—	—
<i>Pleurosigma aestuaria</i> (Breb.) W. Smith	Euh			2	—	—	—	—	—	—	—
<i>Pleurosigma normanii</i> Ralfs	Euh			1	2	—	—	—	—	—	—
<i>Rhizosolenia alata</i> Brightwell	Euh			2	1	—	—	—	—	—	—
<i>Rhizosolenia bergonii</i> Peragallo	Euh			2	—	—	—	—	—	—	—
<i>Rhizosolenia setigera</i> Brightwell	Euh			1	—	1	—	—	—	—	—
<i>Surirella fastuosa</i> (Ehr.) Kuetzing	Euh			1	1	—	—	—	—	—	—
<i>Thalassionema nitzschoides</i> (Grun.) Grunow	Euh		A,B	9	2	4	—	—	—	—	—
<i>Thalassiosira oestrupii</i> (Osten.) Proskina-Lavrenko	Euh		A	1	1	—	—	—	—	—	—
<i>Thalassiosira</i> spp.	Euh			1	4	—	—	—	—	—	—
<i>Trachyneis aspera</i> (Ehr.) Cleve	Euh			1	1	—	—	—	—	—	—
<i>Amphora protus</i> Gregory	Euh-Meh			1	—	—	—	—	—	—	—
<i>Coccconeis scutellum</i> Ehrenberg	Euh-Meh		C1	—	3	2	—	—	—	—	—
<i>Cyclotella caspia</i> Grunow	Euh-Meh			—	2	—	—	—	—	—	—
<i>Cyclotella striata</i> (Kuetz.) Grunow	Euh-Meh		B	10	6	10	—	—	—	—	—
<i>Cyclotella striata-C. stylorum</i>	Euh-Meh		B	7	4	16	—	—	—	—	—
<i>Cyclotella stylorum</i> Brightwell	Euh-Meh		B	6	5	7	—	—	—	—	—
<i>Diploneis interrupta</i> (Kuetz.) Cleve	Euh-Meh			—	—	1	—	—	—	—	—
<i>Diploneis smithii</i> (Breb.) Cleve	Euh-Meh		E1	28	13	17	—	—	—	—	—
<i>Diploneis smithii</i> var. <i>pumila</i> (Grun.) Hustedt	Euh-Meh		E1	21	2	—	—	—	—	—	—
<i>Diploneis smithii</i> var. <i>rhombica</i> Mereschkowsky	Euh-Meh			1	1	—	—	—	—	—	—
<i>Diploneis</i> spp.	Euh-Meh			—	—	1	—	—	—	—	—
<i>Navicula alpha</i> Cleve	Euh-Meh		D2	1	—	—	—	—	—	—	—
<i>Navicula formenterae</i> Cleve	Euh-Meh			—	—	1	—	—	—	—	—
<i>Navicula iaphoneis</i> Ehrenberg	Euh-Meh			—	1	1	—	—	—	—	—
<i>Nitzschia grossesistriata</i> Hustedt	Euh-Meh			2	—	—	—	—	—	—	—
<i>Nitzschia sigma</i> (Kuetz.) W. Smith	Euh-Meh		E2	—	1	—	—	—	—	—	—
<i>Pinnularia elegans</i> (W. Smith) Krammer	Euh-Meh			—	2	—	—	—	—	—	—
<i>Rhoicosphenia marina</i> (W. Sm.) M. Schmidt	Euh-Meh			1	1	—	—	—	—	—	—
<i>Achnanthus brevipes</i> Agardh	Meh		D1	—	2	—	—	—	—	—	—
<i>Achnanthus brevipes</i> var. <i>intermedia</i> (Kuetz.) Cleve	Meh		D1	1	4	—	—	—	—	—	—
<i>Amphora ventricosa</i> Gregory	Meh			1	—	—	—	—	—	—	—
<i>Caloneis westii</i> (W. Smith) Hendey	Meh			1	2	3	—	—	—	—	—
<i>Caloneis</i> spp.	Meh			1	—	—	—	—	—	—	—
<i>Campyloidiscus echeniae</i> Ehrenberg	Meh			1	1	—	—	—	—	—	—
<i>Diploneis pseudoulvalis</i> Hustedt	Meh			5	2	—	—	—	—	—	—
<i>Fragilaria fasciculata</i> (Agardh) Lange-B.	Meh			—	2	—	—	—	—	—	—
<i>Navicula cruciculoides</i> Brockmann	Meh			—	1	—	—	—	—	—	—
<i>Navicula peregrina</i> (Ehr.) Kuetzing	Meh			4	1	2	—	—	—	—	—
<i>Nitzschia cocconeiformis</i> Grunow	Meh		E1	6	1	10	—	—	—	—	—
<i>Nitzschia compressa</i> var. <i>compressa</i>	Meh		E1	1	—	13	—	—	—	—	—
<i>Nitzschia compressa</i> var. <i>elongata</i> (Grun.) Lange-B.	Meh		E1	1	—	1	—	—	—	—	—
<i>Nitzschia constricta</i> (Kuetz.) Ralfs	Meh			—	1	—	—	—	—	—	—
<i>Nitzschia granulata</i> Grunow	Meh		E1	26	7	72	—	—	—	—	—

種類	生態性			環境指標種								
	塩分	pH	流水		13	15	17	18	20	21	22	
Nitzschia granulata var. hyalinum	Meh				3	1	8	-	-	-	-	
Nitzschia levidensis (W. Smith) Grunow	Meh				6	1	1	-	-	-	-	
Nitzschia levidensis var. salinarum Grunow	Meh				1	-	-	-	-	-	-	
Nitzschia littoralis Grunow	Meh				2	-	-	-	-	-	-	
Synedra tabulata Agardh	Meh				-	1	-	-	-	-	-	
Thalassiosira lacustris (Grun.) Hasle	Meh				1	3	-	-	-	-	-	
Bacillaria paradoxica Gmelin	Ogh-Meh	al-il	I-ph	U	-	2	-	-	-	-	-	
Hydrosera whampoensis (Schwartz) Deby	Ogh-Meh	al-il	r-ph	U	-	11	-	-	-	-	-	
Navicula capitata var. hungarica (Grun.) Ross	Ogh-Meh	al-il	r-ph	U	-	-	1	-	-	-	-	
Achnanthus crenulata Grunow	Ogh-ind	al-il	I-ph	T	3	2	1	-	-	-	-	
Achnanthus minutissima Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	-	-	-	-	-	-	
Amphora pedunculata (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	1	-	-	-	-	-	
Aulacoseira ambigua (Grun.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	I-bi	N,U	1	2	1	-	-	-	-	
Aulacoseira granulata (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	I-bi	M,U	1	6	2	-	-	-	-	
Aulacoseira italica (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	I-ph	U	-	1	-	-	-	-	-	
Coccocella placenta (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	U	4	3	-	-	-	-	-	
Coccocella placenta var. euglypta (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	2	1	-	-	-	-	-	
Cyclotella distincta Hustvedt	Ogh-ind	al-il	I-bi		1	-	-	-	-	-	-	
Cymbella silesiaca Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	T	-	1	-	-	-	-	-	
Cymbella sinuata Gregory	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	1	-	-	-	-	-	-	
Cymbella tumida (Breb. ex Kuetz.) V. Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	2	-	-	-	-	-	
Cymbella turbigula Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	-	4	-	-	-	-	-	
Diploneis ovalis (Hilse) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	T	1	2	-	-	-	-	-	
Epithemia adnata (Kuetz.) Brebisson	Ogh-ind	al-il	ind	-	1	-	-	-	-	-	-	
Eutonia biseptatoidea H. Kobayasi	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	1	-	-	-	-	-	
Fragilaria construens (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	I-ph	U	-	1	-	-	-	-	-	
Fragilaria construens var. triangulata Reichelt	Ogh-ind	al-il	I-ph		1	-	-	-	-	-	-	
Gomphonema angustum Agardh	Ogh-ind	al-il	ind	-	1	-	-	-	-	-	-	
Gomphonema clevei var. inaequilongum H. Kobayasi	Ogh-ind	ind	r-ph		1	1	-	-	-	-	-	
Gyrosigma acuminatum (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind	-	1	-	-	-	-	-	-	
Gyrosigma spencerii (W. Smith) Cleve	Ogh-ind	al-il	I-ph	U	-	1	-	-	-	-	-	
Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	R,A,S	-	-	1	-	-	-	-	
Navicula symmetrica Patrick	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	1	-	-	-	-	-	
Orthosira roesiana (Rabh.) O'Meara	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	1	-	-	-	-	-	
Pinnularia appendiculata (Ag.) Cleve	Ogh-hob	ind	ind	RB	1	-	-	-	-	-	-	
Rhoicosphenia abbreviata (Ag.) Lange-B.	Ogh-hill	al-il	r-ph	K,T	1	3	-	-	-	-	-	
Rhopalodiella gibba (Ehr.) O. Muller	Ogh-ind	al-il	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	
Stauroneis obtusa Lagerstedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	1	-	-	-	-	-	
海水生種					42	24	28	0	0	0	0	
海水～汽水生種					78	41	56	0	0	0	0	
汽水生種					61	30	110	0	0	0	0	
淡水～汽水生種					0	13	1	0	0	0	0	
淡水生種					20	38	5	0	0	0	0	
硅藻化水生種					201	146	200	0	0	0	0	

## 凡例

- H.R. : 塩分濃度に対する適応性 pH : 水素イオン濃度に対する適応性 C.R. : 流水に対する適応性  
 Euh : 海水生種 al-il : 対アルカリ性種 I-bi : 真止水性種  
 Euh-Meh : 海水生種～汽水生種 al-il : 好アルカリ性種 I-ph : 好止水性種  
 Meh : 汽水生種 ind : pH不定性種 ind : 流水不定性種  
 Ogh-Meh : 淡水～汽水生種 ac-il : 好酸性種 r-ph : 好活性種  
 Ogh-hill : 貧塩好塩性種 ac-bi : 真酸性種 r-bi : 真活性種  
 Ogh-ind : 貧塩不定性種 unk : pH不明種 unk : 流水不明種  
 Ogh-hob : 貧塩嫌塩性種

## 環境指標種群

- A : 外洋指標種, B : 内湾指標種, C1 : 海水藻場指標種, D1 : 海水砂質干潟指標種,  
 D2 : 汽水砂質干潟指標種, E1 : 海水泥質干潟指標種, E2 : 汽水泥質干潟指標種 (以上は小杉, 1988)  
 K : 中～下流水性河川指標種, M : 濱沿浮遊性種, N : 湖沼沼澤地指標種 (以上は安藤, 1990)  
 S : 好汚濁性種, U : 広域適応性種, T : 好清水性種 (以上はAsai and Watanabe, 1995)  
 R : 陸生珪藻 (RA : A群, RB : B群, RI : 未区分、伊藤・堀内, 1991)

表7. 197960地点の珪藻分析結果

種類	生態性			種 指標種	種 指標種					
	塙分	pH	流水		23	25	27	28	29	30
Bacteriastrum sp.	Euh				—	—	—	—	1	—
Caloneis egena (A.Schmidt) Cleve	Euh				—	—	—	1	—	—
Coscinodiscus spp.	Euh				—	1	—	1	1	—
Cymatotheca weissflogii (Grun.) Hendey	Euh			B	2	—	—	—	5	—
Diploneis papula (A.S.) Cleve	Euh				—	—	—	—	5	—
Diploneis littoralis (Donk.) Cleve	Euh				—	—	1	—	—	—
Diploneis vacillans (A.S.) Cleve	Euh				—	—	—	2	—	—
Diploneis weissflogii (A.Schmidt) Cleve	Euh				—	1	—	1	2	—
Hyalodiscus stellaris Balle	Euh				—	—	—	1	—	—
Navicula cancellata Donkin	Euh				1	—	—	—	—	—
Navicula granulata Bailey	Euh				—	—	—	1	—	—
Nitzschia antilarum (Cleve) Meister	Euh				1	—	—	—	—	—
Nitzschia acuminata (W.Smith) Grunow	Euh			E1	—	1	—	3	1	—
Nitzschia lanceolata Grunow	Euh				—	—	—	1	1	—
Nitzschia pandiformis Gregory	Euh			E2	1	—	—	—	—	—
Nitzschia siccata (Castracane) Hustedt	Euh				1	—	—	2	—	—
Paralia sulcata (Ehr.) Cleve	Euh			B	1	2	1	1	3	—
Pleurosigma aestuaria (Breb.) W.Smith	Euh				—	—	—	—	3	—
Rhizosolenia alata Brightwell	Euh				—	—	—	—	1	—
Rhopalodia dubia (H.& M.Peragallo) Paddock & Sims	Euh				2	—	—	—	—	—
Surirella fastuosa (Ehr.) Kuetzing	Euh				—	1	—	—	—	—
Thalassionema nitzschioides (Grun.) Grunow	Euh			A,B	—	2	1	2	9	—
Thalassiosira eccentrica (Ehr.) Cleve	Euh			A	—	—	—	1	—	—
Thalassiosira spp.	Euh				—	2	—	1	3	—
Amphora proteus Gregory	Euh-Meh				—	—	4	—	—	—
Cocconeis scutellum Ehrenberg	Euh-Meh			C1	—	—	—	1	1	—
Cyclotella caspia Grunow	Euh-Meh				—	—	—	—	—	—
Cyclotella striata (Kuetz.) Grunow	Euh-Meh			B	1	3	—	5	11	—
Cyclotella striata-C. stylorum	Euh-Meh			B	2	3	—	—	19	—
Cyclotella stylorum Brightwell	Euh-Meh			B	—	2	—	4	5	—
Diploneis bombus (Ehr.) Cleve	Euh-Meh				—	—	—	1	—	—
Diploneis smithii (Breb.) Cleve	Euh-Meh			E1	7	10	2	11	11	—
Diploneis smithii var. pumila (Grun.) Hustedt	Euh-Meh			E1	—	—	—	2	2	—
Diploneis smithii var. rhombica Mereschkowsky	Euh-Meh				1	—	—	3	—	—
Diploneis spp.	Euh-Meh				—	5	—	—	1	—
Navicula formenterae Cleve	Euh-Meh				—	—	1	2	—	—
Navicula raphoneis Ehrenberg	Euh-Meh				—	—	—	3	8	—
Navicula sp.-5	Euh-Meh				—	—	—	5	4	—
Nitzschia coarctata Grunow	Euh-Meh				5	—	—	3	—	—
Nitzschia fasciculata (Grun.) Grunow in Van Heurck	Euh-Meh				1	—	—	—	—	—
Nitzschia grosseserrata Hustedt	Euh-Meh				—	—	—	1	—	—
Rhoicosphenia marina (W.Sm.) M.Schmidt	Euh-Meh				—	—	—	4	—	—
Achnanthes brevipes Agardh	Meh			D1	—	—	—	1	—	—
Achnanthes brevipes var. intermedia (Kuetz.) Cleve	Meh			D1	1	—	—	3	—	—
Achnanthes delicatula Kuetzing	Meh			D1	5	—	—	6	3	—
Amphora cf. borealis Kuetzing	Meh				—	—	—	1	—	—
Amphora coffeeaeformis Agardh	Meh				—	—	—	—	2	—
Amphora stigmosa Hustedt	Meh				—	—	—	1	—	—
Campylocidus echeniae Ehrenberg	Meh				—	—	—	—	1	—
Caloneis rhombica H.Kobayashi	Meh				4	—	—	—	—	—
Caloneis westii (W.Smith) Hendey	Meh				—	2	—	3	2	—
Diploneis pseudovalvis Hustedt	Meh				9	3	—	2	—	—
Fragilaria fasciculata (Agardh) Lange-B.	Meh				—	—	—	1	—	—
Navicula comoides (Dillwgn) Peragallo	Meh			D2	4	—	—	4	—	—
Navicula peregrina (Ehr.) Kuetzing	Meh				1	—	—	—	—	—
Navicula sp.-1	Meh				5	—	—	8	—	—
Nitzschia calida Grunow	Meh				1	—	—	—	—	—
Nitzschia coccoideaformis Grunow	Meh			E1	—	7	—	—	7	—
Nitzschia compressa var. compressa	Meh			E1	1	1	—	8	10	—
Nitzschia compressa var. balatonis (Grun.) Lange-Bertalot	Meh			E1	2	—	—	1	—	—

種類	生態性			灌 水	指標種	23	25	27	28	29	30
	塙分	pH	流水								
<i>Nitzschia compressa</i> var. <i>elongata</i> (Grun.) Lange-Bertalot	Meh			E1	—	—	—	1	1	—	—
<i>Nitzschia compressa</i> var. <i>vexans</i> (Grun.) Lange-Bertalot	Meh			E1	1	—	—	—	—	—	—
<i>Nitzschia constricta</i> (Kuetz.) Raiffs	Meh				2	—	—	—	—	—	—
<i>Nitzschia granulata</i> Grunow	Meh			E1	6	46	4	3	65	1	—
<i>Nitzschia granulata</i> var. <i>hyalinum</i>	Meh				—	2	—	1	3	—	—
<i>Nitzschia hungarica</i> Grunow	Meh			E1	—	—	—	1	—	—	—
<i>Nitzschia levidensis</i> (W. Smith) Grunow	Meh				1	—	—	3	—	—	—
<i>Nitzschia levidensis</i> var. <i>salinarum</i> Grunow	Meh				2	—	—	2	—	—	—
<i>Nitzschia littoralis</i> Grunow	Meh				1	—	—	3	—	—	—
<i>Nitzschia lorenziana</i> Grunow	Meh			E2	2	—	—	—	—	—	—
<i>Nitzschia obtusa</i> W. Smith	Meh				8	—	—	—	—	—	—
<i>Nitzschia tyblionella</i> Hantzsch	Meh			E2	1	—	—	—	—	—	—
<i>Pseudopodosira kosugi</i> Tanimura et Sato	Meh			E2	3	—	—	—	—	—	—
<i>Rhopalodia musculus</i> (Kuetz.) O. Muller	Meh				—	—	—	1	—	—	—
<i>Stauroneis cf. submarina</i> Hustedt	Meh				1	—	—	—	—	—	—
<i>Synedra tabulata</i> Agardh	Meh				—	—	—	1	—	—	—
<i>Thalassiosira lacustris</i> (Grun.) Hasle	Meh				—	—	—	12	—	—	—
<i>Amphora fontinalis</i> Hustedt	Ogh-Meh	al-il	ind		1	—	—	—	—	—	—
<i>Bacillaria paradox</i> Gmelin	Ogh-Meh	al-bi	i-ph	U	11	—	—	1	—	—	—
<i>Cymbella pusilla</i> Grunow	Ogh-Meh	al-il	ind		14	—	—	1	—	—	—
<i>Fragilaria brevistriata</i> Grunow	Ogh-Meh	al-il	i-ph	U	7	1	17	16	—	—	—
<i>Gyrosigma nodiferum</i> (Grun.) G. West	Ogh-Meh	al-il	ind		3	—	—	11	—	—	—
<i>Hydrosera whampoensis</i> (Schwartz.) Deby	Ogh-Meh	al-il	r-ph	U	1	—	—	1	—	—	—
<i>Navicula capitata</i> var. <i>hungarica</i> (Grun.) Ross	Ogh-Meh	al-il	r-ph	U	—	—	—	1	—	—	—
<i>Navicula pygmaea</i> Kuetzing	Ogh-Meh	al-il	ind	U	1	—	—	—	—	—	—
<i>Nitzschia capillata</i> Hustedt	Ogh-Meh	al-il	ind	S	1	—	—	—	—	—	—
<i>Rhopalodia gibberula</i> (Ehr.) O. Muller	Ogh-Meh	al-il	ind		4	—	—	—	—	—	—
<i>Suriella brebissonii</i> var. <i>kuetzingii</i> Krämer & Lange-Bertalot	Ogh-Meh	al-il	ind		1	—	—	—	—	—	—
<i>Achnanthes convergens</i> H. Kobayasi	Ogh-ind	ind	r-ph	T	6	—	—	—	—	—	—
<i>Achnanthes crenulata</i> Grunow	Ogh-ind	al-bi	i-ph	T	1	1	1	1	1	—	—
<i>Achnanthes lanceolata</i> (Breb.) Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	1	—	1	1	—	—	—
<i>Achnanthes peragalli</i> Brun et Herbaud	Ogh-ind	ind	i-ph		—	—	1	—	—	—	—
<i>Achnanthes silvahercynia</i> Lange-Bertalot	Ogh-ind	ac-il	ind		—	—	1	—	—	—	—
<i>Achnanthes subhudsonii</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	r-ph	T	4	—	—	2	—	—	—
<i>Amphora affinis</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	—	—	1	—	—	—	—
<i>Amphora pediculus</i> (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	T	2	—	—	—	—	—	—
<i>Aulacoseira alpigena</i> (Grun.) Krämer	Ogh-hob	ac-il	i-bi	N,U	—	—	1	—	—	—	—
<i>Aulacoseira ambiguus</i> (Grun.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	i-bi	N,U	—	—	3	—	—	—	—
<i>Aulacoseira granulata</i> (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	i-bi	M,U	—	6	8	1	6	—	—
<i>Aulacoseira italicica</i> (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	i-ph	U	—	1	9	1	—	—	—
<i>Caloneis angustivalva</i> Pettit	Ogh-unk	unk	unk	R,I	—	—	1	—	—	—	—
<i>Caloneis bacillum</i> (Grun.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	1	—	1	1	—	—	—
<i>Coccconeis placenta</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	—	3	4	—	—	—
<i>Coccconeis placenta</i> var. <i>euglypta</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	—	—	—	2	—	—	—
<i>Cyclotella</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		—	—	1	—	—	—	—
<i>Cymbella silesiaca</i> Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	T	2	—	—	1	—	—	—
<i>Cymbella sinuata</i> Gregory	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	5	—	—	—	—	—	—
<i>Cymbella tumida</i> (Breb. ex Kuetz.) V. Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	4	—	—	—	—	—	—
<i>Cymbella turgidula</i> var. <i>nipponica</i> Skvortzow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	3	—	—	—	—	—	—
<i>Cymbella</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		—	—	1	—	—	—	—
<i>Diploneis ovalis</i> (Hilse) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	T	12	—	2	5	1	—	—
<i>Diploneis parma</i> Cleve	Ogh-ind	ind	ind		13	—	—	1	—	—	—
<i>Epithemia adnata</i> (Kuetz.) Brebisson	Ogh-ind	al-bi	ind		—	—	1	—	—	—	—
<i>Eurotia duplicigraphis</i> H. Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	i-ph		—	—	1	—	—	—	—
<i>Fragilaria construens</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	i-ph	U	—	—	8	—	1	—	—
<i>Fragilaria construens</i> fo. <i>binodis</i> (Ehr.) Hustedt	Ogh-ind	al-il	i-ph	U	—	—	9	—	—	—	—
<i>Fragilaria construens</i> fo. <i>venter</i> (Ehr.) Hustedt	Ogh-ind	al-il	i-ph	S	—	—	3	8	—	—	—
<i>Fragilaria construens</i> var. <i>trundulata</i> Reichelt	Ogh-ind	al-il	i-ph		—	—	1	—	—	—	—
<i>Fragilaria elliptica</i> (Schumann) Carlson	Ogh-ind	al-il	i-ph	U	—	—	1	—	—	—	—
<i>Frustulia vulgaris</i> (Thwait.) De Toni	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	—	—	—	—	—	—

種類	生態性			環境指標種	種別					
	塩分	pH	流水		23	25	27	28	29	30
Frustulia weinholdii Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind		1	-	-	-	-	-
Gomphonema clevei Fricke	Ogh-ind	al-bi	r-ph	T	-	-	-	1	-	-
Gomphonema parvulum Kuetzing	Ogh-ind	ind	U		-	-	-	1	-	-
Gomphonema sumatrense Fricke	Ogh-ind	ind	r-bi	J	-	-	6	1	-	-
Gyrosigma acuminatum (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	1	-	-
Gyrosigma scalpoides (Rabh.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph		1	-	-	-	-	-
Gyrosigma spenceri (W. Smith) Cleve	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	2	-	-	-	-	-
Hantzschia amphioxys (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	R.A.U	-	-	2	-	-	-
Navicula capitatoradiata Germain	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	2	-	-	-	-	-
Navicula contenta Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	R.A.T	1	-	-	-	1	-
Navicula cryptcephala Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	2	-	-	-	-	-
Navicula decussata Oestrup	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	-	-	2	-	-	-
Navicula ignota var. palustris (Hust.) Lund	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	-	1	-	-	-
Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	R.A.S	1	2	10	3	-	-
Navicula mutica var. ventricosa (Kuetz.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	RI	-	-	-	1	-	-
Navicula symmetrica Patrick	Ogh-ind	al-il	ind	T	1	-	-	-	-	-
Navicula viridula var. rostellata (Kuetz.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U	1	-	-	-	-	-
Navicula spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	2	-	-	-
Nitzschia brevissima Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	R.B.U	1	1	-	2	-	-
Pinnularia schroederi (Hust.) Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	-	1	-	-
Pinnularia spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	2	-	-	-
Rhoicosphenia abbreviata (Ag.) Lange-B.	Ogh-hill	al-il	r-ph	K,T	2	-	-	-	-	-
Sellaphora bacillum (Ehr.) Mann	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	-	-	-	-	-
Sellaphora pupula (Kuetz.) Mereschkowsky	Ogh-ind	ind	ind	U	1	-	-	-	-	-
Stauroneis obtusa Lagerstedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	-	-	1	-	-
Stephanodiscus niagarae Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	I-bi	M	-	-	3	1	-	-
Stephanodiscus spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	2	-	-	-
海水生種					9	10	3	18	35	0
海水～汽水生種					17	23	7	45	62	0
汽水生種					61	61	4	67	94	1
淡水～汽水生種					44	1	17	31	0	0
淡水生種					73	11	89	41	10	0
珪藻化石細數					204	106	120	202	201	1

#### 凡例

H.R. : 塩分濃度に対する適応性	pH : 水素イオン濃度に対する適応性	C.R. : 流水に対する適応性
Euh : 海水生種	al-bi : 真アルカリ性種	I-bi : 真止水性種
Euh-Meh : 海水生種～汽水生種	al-il : 好アルカリ性種	I-ph : 好止水性種
Meh : 汽水生種	ind : pH不定性種	ind : 流水不定性種
Ogh-Meh : 淡水～汽水生種	ac-il : 好酸性種	r-ph : 好流水性種
Ogh-h : 貧塩好塩性種	ac-bi : 真酸性種	r-bi : 真流水性種
Ogh-ind : 貧塩不定性種	unk : pH不明種	unk : 流水不明種
Ogh-hob : 貧塩嫌塩性種		
Ogh-unk : 貧塩不明種		

#### 環境指標種群

A : 外洋指標種,	B : 内湾指標種,	C 1 : 海水藻場指標種,	D 1 : 海水砂質干潟指標種,
D 2 : 汽水砂質干潟指標種,	E 1 : 海水泥質干潟指標種,	E 2 : 汽水泥質干潟指標種(以上は小杉, 1988)	
K : 中～下流性河川指標種,	M : 濘沼浮遊性種,	N : 濗沼泥質地帯指標種(以上は安藤, 1990)	
S : 好汚濁性種,	U : 広域適応性種,	T : 好清水性種(以上はAsai and Watanabe, 1995)	
R : 陸生珪藻(RA : A群, RB : B群, RI : 未区分、伊藤・堀内, 1991)			

表8. 226570地点の珪藻分析結果

種類	生態性			環境指標種	32	33	34
	塩分	pH	流水				
Coscinodiscus spp.	Euh				1	-	-
Diploneis suborbicularis (Greg.)Cleve	Euh			E1	1	-	-
Diploneis weissflogii (A.Schmidt)Cleve	Euh				2	-	-
Nitzschia lanceola Grunow	Euh				1	-	-
Paralia sulcata (Ehr.)Cleve	Euh			B	1	-	2
Thalassionema nitzschiooides (Grun.)Grunow	Euh			A,B	1	1	-
Trachyneis spp.	Euh				-	-	2
Cyclotella striata (Kuetz.)Grunow	Euh-Meh			B	5	-	-
Cyclotella striata-C. stylorum	Euh-Meh			B	10	-	-
Cyclotella stylorum Brightwell	Euh-Meh			B	2	-	2
Diploneis interrupta (Kuetz.)Cleve	Euh-Meh				3	-	-
Diploneis smithii (Breb.)Cleve	Euh-Meh			E1	7	14	-
Diploneis smithii var. pumila (Grun.)Hustedt	Euh-Meh			E1	-	1	-
Diploneis smithii var. rhombica Mereschkowsky	Euh-Meh				1	-	-
Diploneis spp.	Euh-Meh				2	5	-
Navicula alpha Cleve	Euh-Meh			D2	1	-	-
Navicula sp.	Euh-Meh				-	1	-
Caloneis westii (W.Smith) Hendey	Meh				2	-	-
Caloneis spp.	Meh				1	-	-
Campylodiscus echenensis Ehrenberg	Meh				1	-	-
Diploneis pseudovalvis Hustedt	Meh			E1	12	-	-
Nitzschia compressa var. elongata (Grun.)Lange-Bertalot	Meh			E1	1	-	-
Nitzschia granulata Grunow	Meh			E1	24	3	-
Nitzschia granulata var. hyalinum	Meh				1	-	-
Gyrosigma nodiferum (Grun.)G.West	Ogh-Meh	al-il	ind		2	-	-
Navicula capitata var. hungarica (Grun.)Ross	Ogh-Meh	al-il	r-ph	U	1	-	-
Achnanthes crenulata Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	1	-
Achnanthes lanceolata (Breb.)Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	-	1	-
Achnanthes inflata (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	1	-	-
Amphora pediculus (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	al-bl	ind	T	1	-	-
Aulacoseira ambigua (Grun.)Simonsen	Ogh-ind	al-il	i-bl	N,U	1	-	-
Aulacoseira granulata (Ehr.)Simonsen	Ogh-ind	al-il	i-bl	M,U	6	-	-
Cocconeis placentula (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	1	-
Cocconeis placentula var. euelypta (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	1	-	-
Cymbella tumida (Breb. ex Kuetz.)V.Heurck	Ogh-ind	ind	r-ph	T	-	1	-
Diploneis ovalis (Hilse.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	1	-
Diploneis parma Cleve	Ogh-ind	ind	ind		1	-	-
Diploneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-	-
Fragilaria construens fo. venter (Ehr.)Hustedt	Ogh-ind	al-il	i-ph	S	2	-	-
Fragilaria exigua Grunow	Ogh-hob	ac-il	i-ph		1	-	-
Gomphonema sumatrense Fricke	Ogh-ind	ind	r-bl	J	-	1	-
Hantzschia amphioxys (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	-	2	-
Navicula contenta Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	-	1	-
Navicula contenta fo. biceps (Arnott)Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	-	1	-
Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	-	2	-
Nitzschia brevissima Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RB,U	1	-	-
Orthoseira roesiana (Rabh.)O'Meara	Ogh-ind	ind	ind	RA	1	-	-
Stephanodiscus spp.	Ogh-unk	unk	unk		0	-	-
Synedra ulna (Kuetz.)Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	2	-
海水生種					7	1	3
海水～汽水生種					31	21	2
汽水生種					42	3	1
淡水～汽水生種					3	0	1
淡水生種					18	14	1
珪藻化石組數					101	39	4

凡例 H.R. : 塩分濃度に対する適応性  
 Euh : 海水生種  
 Euh-Meh : 海水生種～汽水生種  
 Meh : 汽水生種  
 Ogh-Meh : 淡水～汽水生種  
 Ogh-hob : 黄緑好塙性種  
 Ogh-ind : 黄緑不定性種  
 Ogh-hob : 黄緑塙性種  
 pH : 水素イオン濃度に対する適応性  
 al-bl : 真アルカリ性種  
 al-il : 好アルカリ性種  
 ind : pH不定性種  
 ac-il : 好酸性種  
 r-ph : 好酸性種  
 unk : 不明確  
 C.R. : 流水に対する適応性  
 I-bl : 真止水性種  
 I-ph : 好止水性種  
 ind : 流水不定性種  
 r-ph : 好流水性種  
 r-bl : 真流水性種  
 unk : 流水不明確

環境指標群  
 A : 外洋指標群, B : 内湾指標群, D2 : 汽水砂質干潟指標群, E1 : 海水泥質干潟指標群(以上は小杉, 1988).  
 M : 湖沼浮遊性種, N : 湖沼泥沼地指標群(以上は安藤, 1990), S : 好汚濁性種,  
 T : 好清水性種(以上はAsai and Watanabe, 1995), R : 陸生珪藻(RA: RB: RS: RI: 未区分, 伊藤・船内, 1991)

試料番号25は、試料番号29に群集が近似しており、汽水生種が約60%と最も多く、海水～汽水生種が約20%、海水生種が約10%産出した。主な産出種は、海水泥質干潟指標種群の *Nitzschia granulata* が約45%と優占し、海水泥質干潟指標種群の *Diploneis smithii*, *Nitzschia coccineiformis* 等を伴う。

試料番号23は、汽水生種、淡水～汽水生種、淡水生種が20～30%産出した。とくに多産するものではなく、海水泥質干潟指標種群の *Diploneis smithii*、汽水底生の *Diploneis pseudovalis*、淡水～汽水生種の *Bacillaria paradoxa*, *Cymbella pusilla*, *Fragilaria brevistriata*、好流水性で付着性の *Achnanthus convergens*、中～下流性河川指標種群（安藤,1990）の *Cymbella sinuate*、流水不定性の *Diploneis ovalis*, *Diploneis parma* 等が産出した。中～下流性河川指標種群とは、河川中～下流部や河川沿いの河岸段丘、扇状地、自然堤防、後背湿地などに集中して出現することから、その環境を指標することができる種群のことである（安藤,1990）。

#### • 226570地点

結果を表8、図5に示す。試料番号32から珪藻化石が産出したが、試料番号33、34は少なかつた。化石が産出した試料番号32の完形殻の出現率は、約40%と化石の保存状態は良くはない。産出分類群数は、合計で22属42分類群である。試料番号32は、海水～汽水生種が約30%、汽水生種が約40%、淡水生種が約20%産出した。産出種の特徴は、海水泥質干潟指標種群の *Nitzschia granulata* が約25%と優占し、汽水底生の *Diploneis pseudovalis*、内湾指標種群の *Cyclotella striata*, *Cyclotella striata-C. stylorum*、海水泥質干潟指標種群の *Diploneis smithii* 等を伴うことである。

## 4. 考 察

分析の対象とした4箇所のボーリング試料で認められたシルト質の堆積層は、放射性炭素年代からは約7000～7500年前頃の年代観が得られた。しかし、テフラ分析からは、火山ガラスが検出されたものの年代指標になり得るほどのテフラ層といえる状態ではなかった。また、検出された火山ガラスは、その形態と屈折率から、姶良Tn火山灰（町田・新井,1976）に由来すると考えられ、混在する高屈折率の火山ガラスは、阿蘇4火山灰（Aso-4：町田ほか,1985）に由来する可能性がある。おそらく、極めて微量認められた褐色を帯びたバブル型火山ガラスもAso-4に由来すると考えられる。なお、ATの噴出年代については、80年代後半から90年代にかけて行われた放射性炭素年代測定（例えば松本ほか（1987）、村山ほか（1993）、池田ほか（1995）、宮入ほか（2001）など）から、放射性炭素年代ではおよそ2.5万年前頃にまとまる傾向にある。一方、最近の海底コアにおけるATの発見から、その酸素同位体ステージ上における層準は、酸素同位体ステージ2と3との境界付近またはその直前にあるとされ、その年代観は2.5～3.2万年前におよぶとされている（町田・新井,2003）。町田・新井（2003）は、ATの放射性炭素年代を層年に換算することがまだ困難であると述べているが、上述の海底コアの年代観も考慮すれば、層年ではおそらく2.6～2.9万年前頃になるであろうとしている。また、Aso-4の噴出年代は、層位学的に8.5～9万年前頃とされている（町田・新井,2003）。したがって、各箇所のシルト質堆積層から検出された火山ガラスは、いずれも陸上に堆積していたテフラ層に由来する碎屑物であり、それを含む堆積層は、そのテフラの噴出年代以降の堆積年代であることは確実であるが、堆積年代自体はわからない。ところで、九州地方の完新世における第一級の指標テフラとして鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah：町田・新井,1978）があげられる。今回検出された火山ガラスの中でAso-4に由来するとした高屈折率かつ褐色を帯びた火山ガラスは、K-Ahの火山ガラスにも共通するものである。しかし、八代平野付近におけるK-Ahの分布（例えば町田・新井,2003）を考慮すれば、K-Ah降灰以降の堆積物中に、K-Ahの火山ガラスが微量でATの火山ガラスが多量という状況は考えにくい。さらに、K-Ahの噴出年代は、放射性炭素年代で約6300年前、層年代で約7300年前とされている（町田・新井,2003）ことと今回のシルト質堆積物中における植物遺体等の放射性炭素年代を考慮すれば、シルト質堆積物の堆積は、K-Ahの降灰より以前

であった可能性が高い。すなわち、今回の各地点におけるシルト質堆積物の堆積年代は、概ね7000～7500年前（放射性炭素年代）頃の堆積層であったと考えて良い。

一方、珪藻分析では、各地点のシルト質堆積層から、内湾指標種群または海水泥質干潟指標種群を多産する海水～汽水生種および汽水生種によって特徴付けられる群集が得られた。上記においてシルト質堆積物の年代とした7000～7500年前頃は、いわゆる繩文海進とよばれる高海面期である。一般に、繩文海進の高頂期は、放射性炭素年代で約6000年前、歴年代で7000～7300年前とされている（米倉ほか編,2001）から、今回のシルト質堆積層は、高頂期に向かう海面の上昇期に堆積した海成層であると考えられる。ここで、各地点のシルト質堆積物の上面高さをみると、いずれも標高10m以下にある。これは、下山ほか（1999）が述べたように、九州西海岸地域における12.5万年前から現在に至るまで地殻が沈降傾向にあることを反映していると考えられる。

ところで、各地点のシルト質堆積物の下部では、珪藻化石の産出が不良であった。これは、シルト質堆積物の下部がいずれも上部に比べて砂分の多いやや粗粒の堆積物であることが原因と考えられる。すなわち、珪藻化石は死後シルト粒子以下の微細な碎屑物と挙動を共にする（小杉,1989）と言われていることから、砂が堆積するような流速の速い環境では下流側に流下してしまい、化石が残らなかったと考えられる。

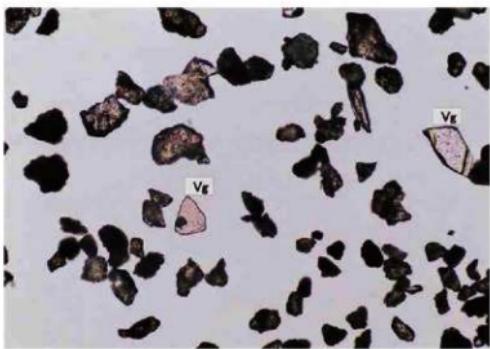
なお、197960地点のシルト質砂からなる試料番号27は、群集的に見て他地点との連続性に欠ける。本試料は、結果でも述べたように海水～汽水生種も産出したが、淡水生種（浮遊性種を含む止水性種が多産）を主体とした群集から構成されていた。これは、一時的に河道が接近するなど陸側からの淡水の影響が高かったことを示唆していると考えられる。

#### 引用文献

- 安藤 一男,1990.淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用.東北地理,42,73-88.
- Asai, K. & Watanabe, T.,1995.Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa. *Diatom*,10, 35-47.
- 古澤 明,1995.火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別.地質学雑誌,101,123-133.
- 原口 和夫・三友 清史・小林 弘,1998.埼玉の藻類 硅藻類.埼玉県植物誌,埼玉県教育委員会,527-600.
- 池田晃子・奥野 充・中村俊夫・筒井正明・小林哲夫,1995.南九州、姶良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火碎流中の炭化樹木の加速器質量分析法による14C年代.第四紀研究,34,377-379.
- 伊藤 良永・堀内 誠示,1991.陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用.珪藻学会誌,6,23-45.
- 小杉 正人,1988.珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用.第四紀研究,27,1-20.
- 小杉 正人,1989.珪藻化石群集の形成過程と古生態解析.日本ベントス研究会誌,35/36,17-28.
- Krammer, K.,1992,PENNULARIA.eine Monographie der europäischen Taxa.BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND26. J.CRAMER,353p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1986.*Bacillariophyceae*.1.Teil : *Naviculaceae*. In : *Suesswasserflora von Mitteleuropa*.Band2/1. Gustav Fischer Verlag,876p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1988.*Bacillariophyceae*.2.Teil : *Epithemiaceae*,*Bacillariaceae*,*Surirellaceae*. In : *Suesswasserflora von Mitteleuropa*.Band2/2. Gustav Fischer Verlag,536p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1991a.*Bacillariophyceae*.3.Teil : *Centrales*,*Fragilariaeae*,*Eunotiaceae*. In : *Suesswasserflora von Mitteleuropa*.Band2/3. Gustav Fischer Verlag,230p.
- Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1991b.*Bacillariophyceae*.4.Teil : *Achnanthaceae*,*Kritsche Ergänzungen zu Navicula (Lineolatae)* und *Gomphonema*. In : *Suesswasserflora von Mitteleuropa*.Band2/4. Gustav Fischer Verlag,248p.

- 柴畠光博・東 和幸,1997,南九州の火山灰と考古遺物.月刊地球19,208-214.
- 町田 洋・新井房夫,1976,広域に分布する火山灰-始良Tn火山灰の発見とその意義.科学,46,339-347.
- 町田 洋・新井房夫,1978,南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ-アカホヤ火山灰.第四紀研究,17,143-163.
- 町田 洋・新井房夫,2003,新編 火山灰アトラス.東京大学出版会,336p.
- 町田 洋・新井房夫・百瀬 貢,1985,阿蘇 4 火山灰-分布の広域性と後期更新世示標層としての意義-火山,30,49-70.
- 松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗,1987,始良Tn火山灰の<sup>14</sup>C年代.第四紀研究,26,79-83.
- 宮入陽介・吉田邦夫・宮崎ゆみ子・小原圭一・兼岡一郎,2001,始良Tn火山灰のC-14年代のクロスチェック(演旨).地球惑星科学関連学会合同大会予稿集(CD-ROM),2001,Qm-010.
- 村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村 真・安田尚登・平 朝彦,1993,四国沖ビストンコア試料を用いたAT火山灰噴出年代の再検討-タンデトロン加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の<sup>14</sup>C年代.地質学雑誌,99,787-798.
- 下山 正一・木下 裕子・宮原 百々・田中 ゆか里・市原 季彦・竹村 恵二,1999,旧汀線高度からみた九州の後期更新世地殻変動様式.地質学雑誌,105,5,311-331.
- Wikowski, A., & Lange-Bertalot, H. & Metzeltin, D.,2000, *Iconographia Diatomologica 7. Diatom flora of Marine coast I.* A.R.G.Gantner Verlag K.G., 881p
- 米倉伸之・貝塚爽平・野上道男・額西清高,2001,日本の地形 1 総説.東京大学出版会,349p.

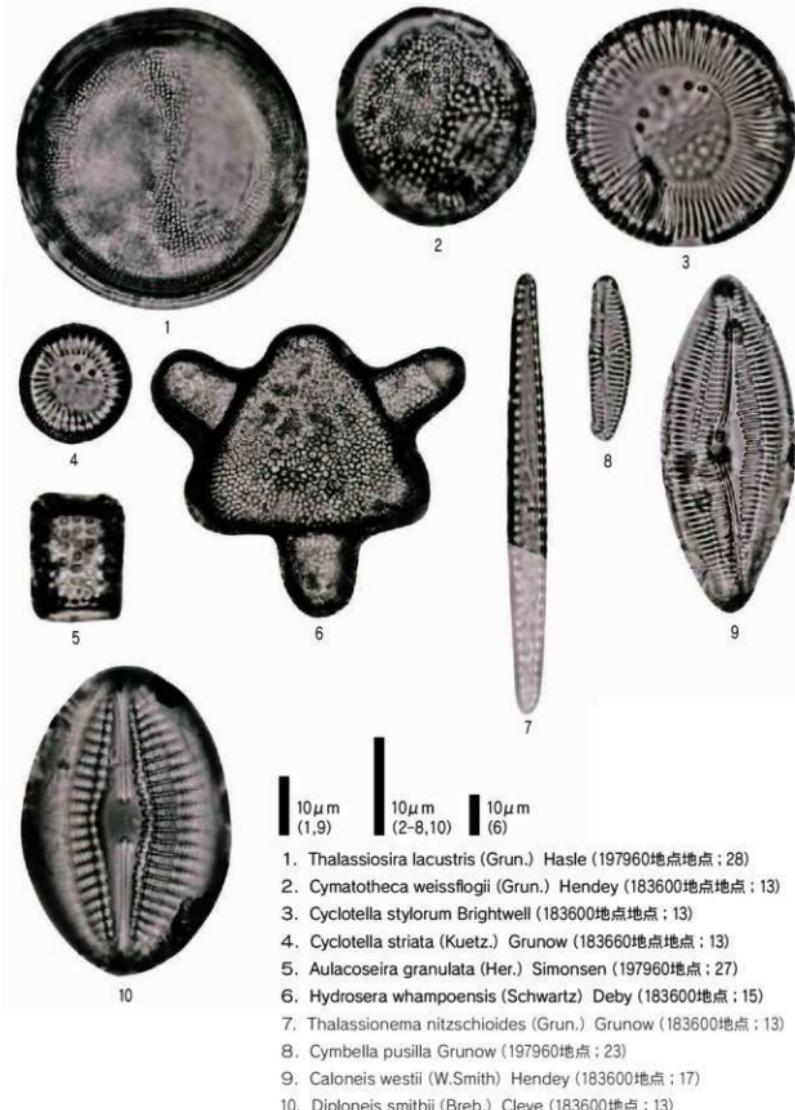
図版1 火山ガラス



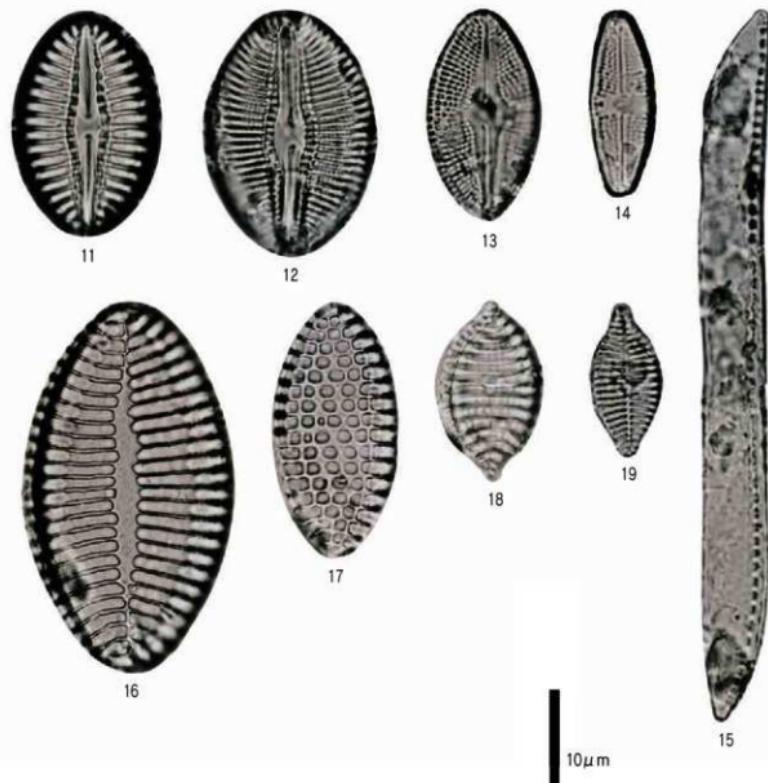
1. 226570地点:31 Vg:火山ガラス

0.5mm

图版2 硅藻化石(1)



图版3 硅藻化石(2)



11. *Diploneis pseudovalis* Hustedt (197960地点; 23)
12. *Diploneis parma* Cleve (197960地点; 23)
13. *Navicula* sp.-1 (197960地点; 23)
14. *Navicula mutica* Kuetzing (197960地点; 27)
15. *Nitzschia obtusa* W. Smith (197960地点; 23)
16. *Nitzschia coccineiformis* Grunow (164870地点; 8)
17. *Nitzschia granulata* Grunow (164870地点; 8)
18. *Nitzschia compressa* (Bailey) Boyer var.*compressa* (183600地点; 17)
19. *Achnanthes delicatula* (Kuetz.) Grunow (197960地点; 23)

PLATE  
写真図版

撮影機材及び使用フィルム  
カメラ リンホフスーパー・テヒニカ  
レンズ Nikon90mm SW・W125mm  
フィルム kodak T-max100, kodak E100G  
(PL. 9を除く)

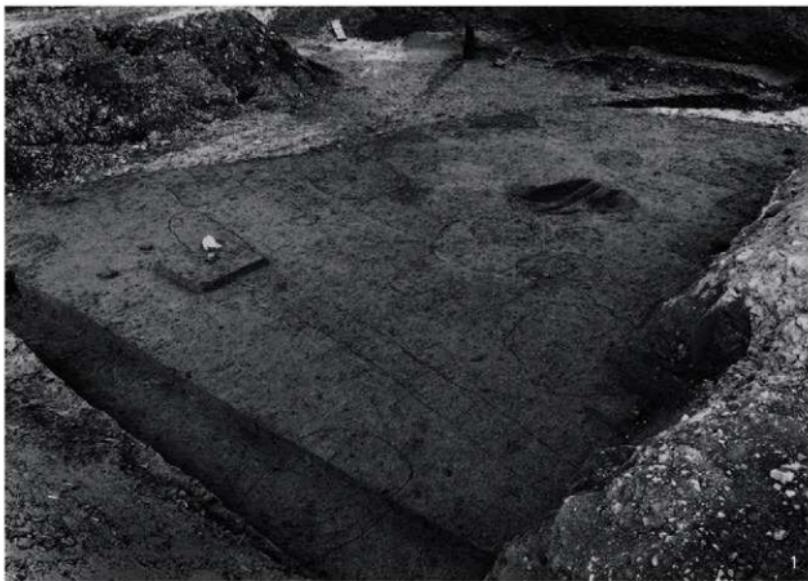


1

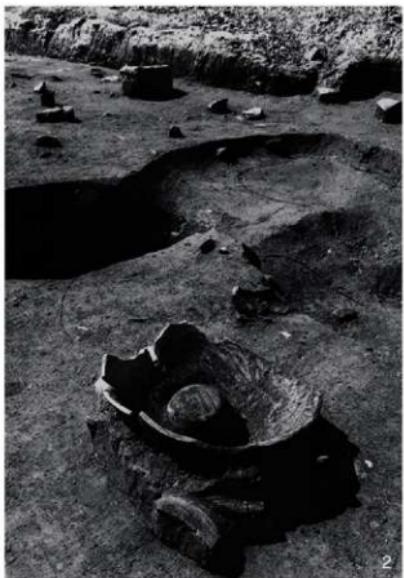


2

1.四百町開旧堤防全景(上空より) 2.四百町開旧堤防 石積み検出状況



宮地小烟遺跡 E・F-11・12Grid 5層 遺構 1. 検出状況 2. 完掘状況

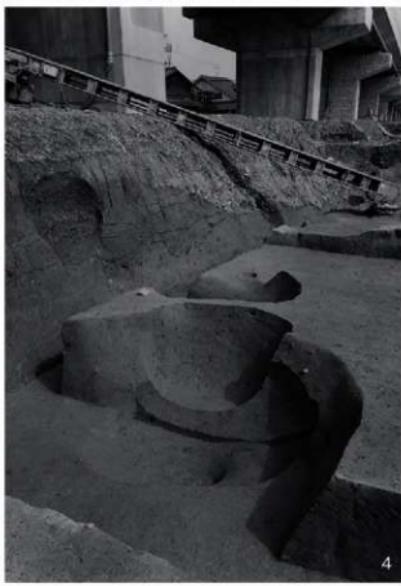
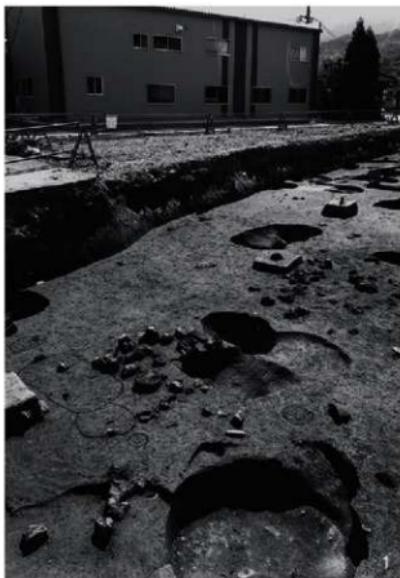


1. 宮地小烟遺跡 溝SD001完掘状況

3. 宮地小烟遺跡 土坑SK003・SK004遺物出土状況

2. 宮地小烟遺跡 F・G-14・15Grid 5層遺物出土状況

4. 宮地小烟遺跡 G-15Grid 5層遺構完掘状況



1. 宮地小烟遺跡 7層遺構検出状況

2. 宮地小烟遺跡 土坑SK029遺物出土状況

3. 宮地小烟遺跡 土坑SK030・SK033・SK034遺構検出状況

4. 宮地小烟遺跡 土坑SK031・SK032完掘状況



1



2



3



4

1. 宮地小烟遺跡 土坑SK030檢出調查狀況

3. 宮地小烟遺跡 土坑SK033遺物出土狀況

2. 宮地小烟遺跡 土坑SK030土層斷面

4. 宮地小烟遺跡 土坑SK033遺物出土狀況



1



2



3



4

1. 宮地小烟遺跡 土坑SK035遺物出土狀況

3. 宮地小烟遺跡 土坑SK044遺物出土狀況

2. 宮地小烟遺跡 土坑SK036遺物出土狀況

4. 宮地小烟遺跡 土坑SK048完掘狀況



1



2



3



4

1. 宮地小畠遺跡 墓ST001検出調査状況

3. 宮地小畠遺跡 墓ST001、pit2充填状況

2. 宮地小畠遺跡 墓ST001遺物出土状況

4. 宮地小畠遺跡 不明遺構SX001遺物出土状況



宮地小烟跡 7層上面(古代)完掘状況

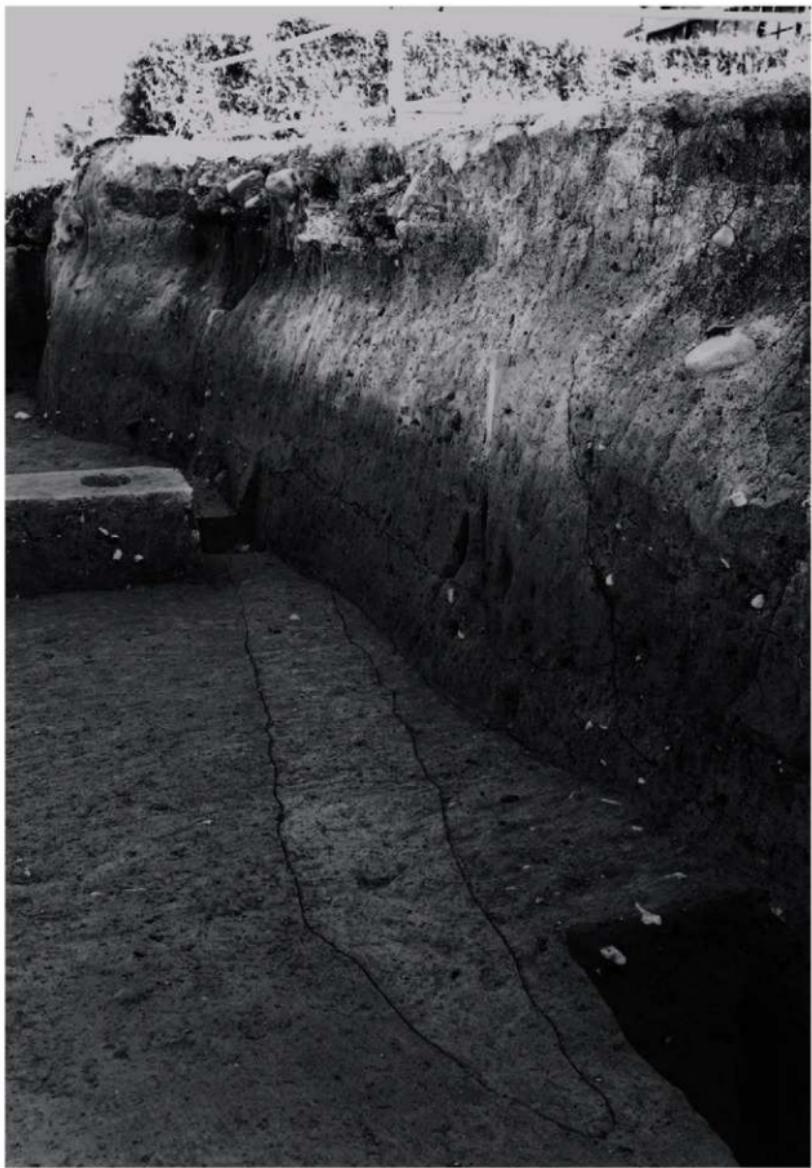


1

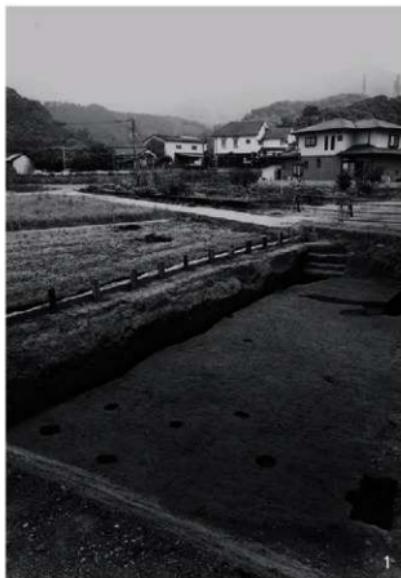


2

宮地小畠遺跡 土坑SK051～SK054 1. 検出状況 2. 完掘状況



宮地小烟遺跡 G-14•15Grid土層断面、検出状況



1



2



3



4

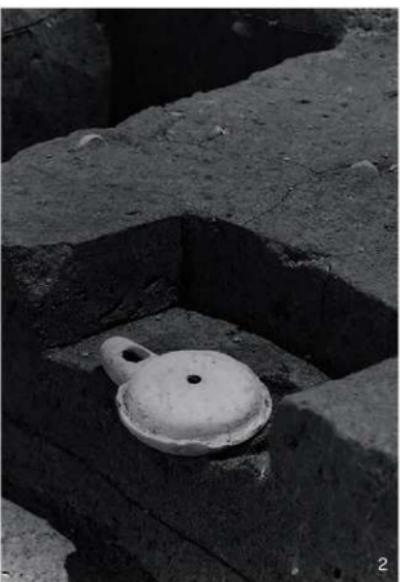
1. 宮地觀行寺遺跡 1 区 4 層遺構完掘状況

2. 宮地觀行寺遺跡 1 区 5 層遺構検出状況

3, 4. 宮地觀行寺遺跡 1 区 土坑SK003土器出土状況



1



2



3



4

1. 宮地觀行寺遺跡 1 区 土坑SK004土層断面

3. 宮地觀行寺遺跡 1 区 7 層検出状況

2. 宮地觀行寺遺跡 1 区 5 層遺物出土状況(中空円面観)

4. 宮地觀行寺遺跡 1 区 7 層完掘状況



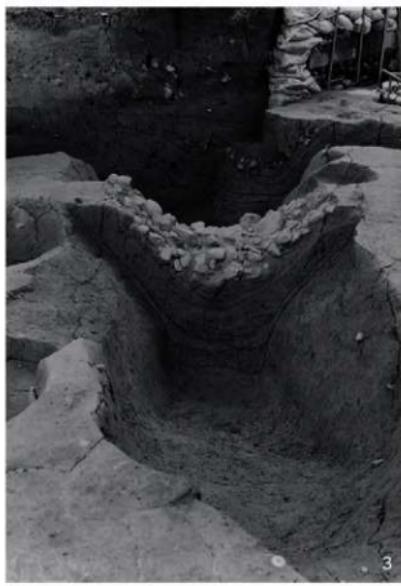
宮地觀行寺遺跡 2 区 4 層遺構 1. 検出状況 2. 完掘状況



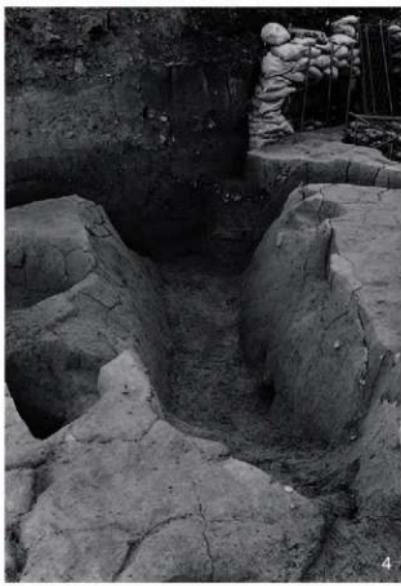
1



2

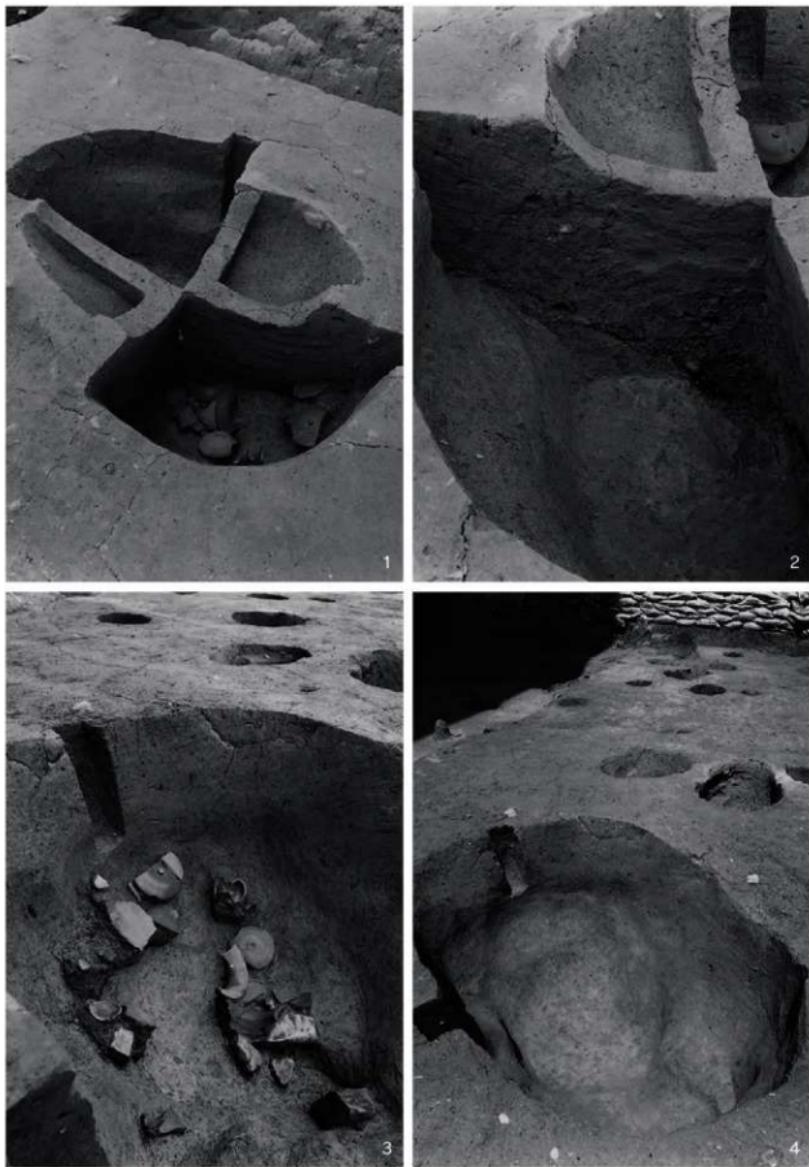


3



4

宮地觀行寺遺跡 2 区 溝SD002 1. 2. 碟出土状況 3. 土層断面 4. 完掘状況



宮地觀音寺遺跡 2 区 土坑SK002 1. 3. 遺物出土狀況 2. 土層斷面 4. 完掘狀況

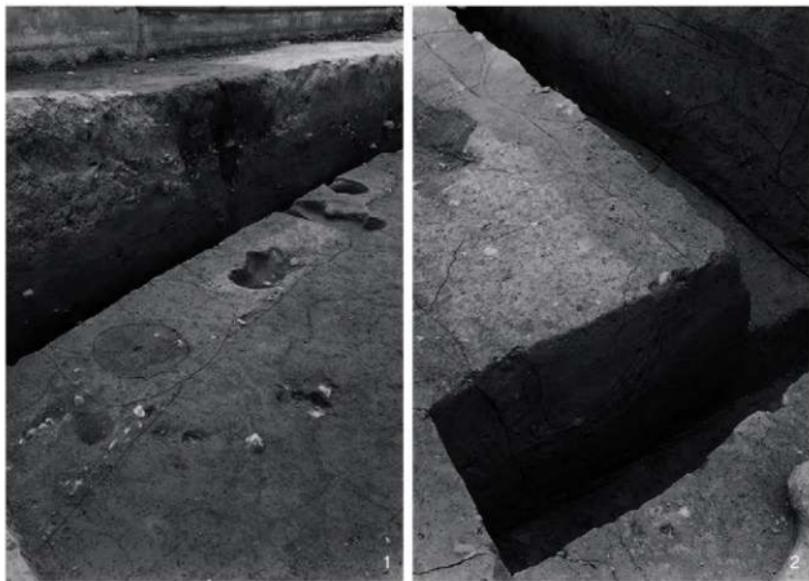


1. 宮地觀行寺遺跡 2 区 溝SD004縹列出土状況

3. 宮地觀行寺遺跡 2 区 作業風景

2. 宮地觀行寺遺跡 2 区 溝SD004縹出土、SK009完掘状況

4. 宮地觀行寺遺跡 2 区 古代完掘状況



宮地銀行寺遺跡2区 溝SD004 1. 檢出状況 2. 土層断面 3. 碓出土状況 4. 完掘状況



1



2

1. 宫地小烟遗址 沟SD002出土遗物      2. 宫地小烟遗址 土坑SK027出土遗物



1. 宫地小烟遺跡 土坑SK030出土遺物

2. 宮地小烟遺跡 土坑SK033出土遺物



1.2. 宮地小烟遺跡 土坑SK035出土遺物



1



2

1. 宫地小烟遺跡 土坑SK036出土遺物

2. 宮地小烟遺跡 土坑SK044出土遺物



1



1



2



3



4

1. 宫地小烟道跡 土坑SK027出土遺物
2. 宮地小烟道跡 土坑SK050出土遺物
3. 宮地小烟道跡 土坑SK036出土遺物
4. 宮地小烟道跡 土坑SK054・SK055出土遺物



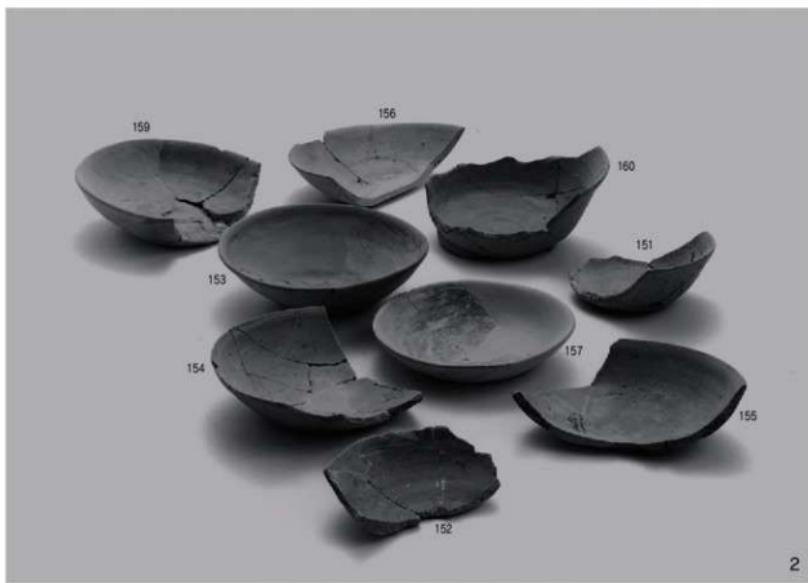
1. 宮地小烟遺跡 土坑SK051出土遺物
2. 宮地小烟遺跡 土坑SK045出土遺物



- 3. 宮地小畠遺跡 土坑SK056出土遺物
- 4. 宮地小畠遺跡 土坑SK054出土遺物



- 3. 宮地小畠遺跡 土坑SK056出土遺物
- 4. 宮地小畠遺跡 土坑SK054出土遺物



1. 宮地小烟遺跡 土坑SK041(80)・不明遺構SX001出土遺物      2. 宮地小烟遺跡 不明遺構SX001出土遺物



1, 2. 宮地小烟遺跡 不明遺構SX001出土遺物



1



2

1. 宮地小烟遺跡 不明遺構SX001出土遺物    2. 宮地小烟遺跡 不明遺構SX002出土遺物



1. 宫地小烟遗址 不明遗构SX002出土遗物

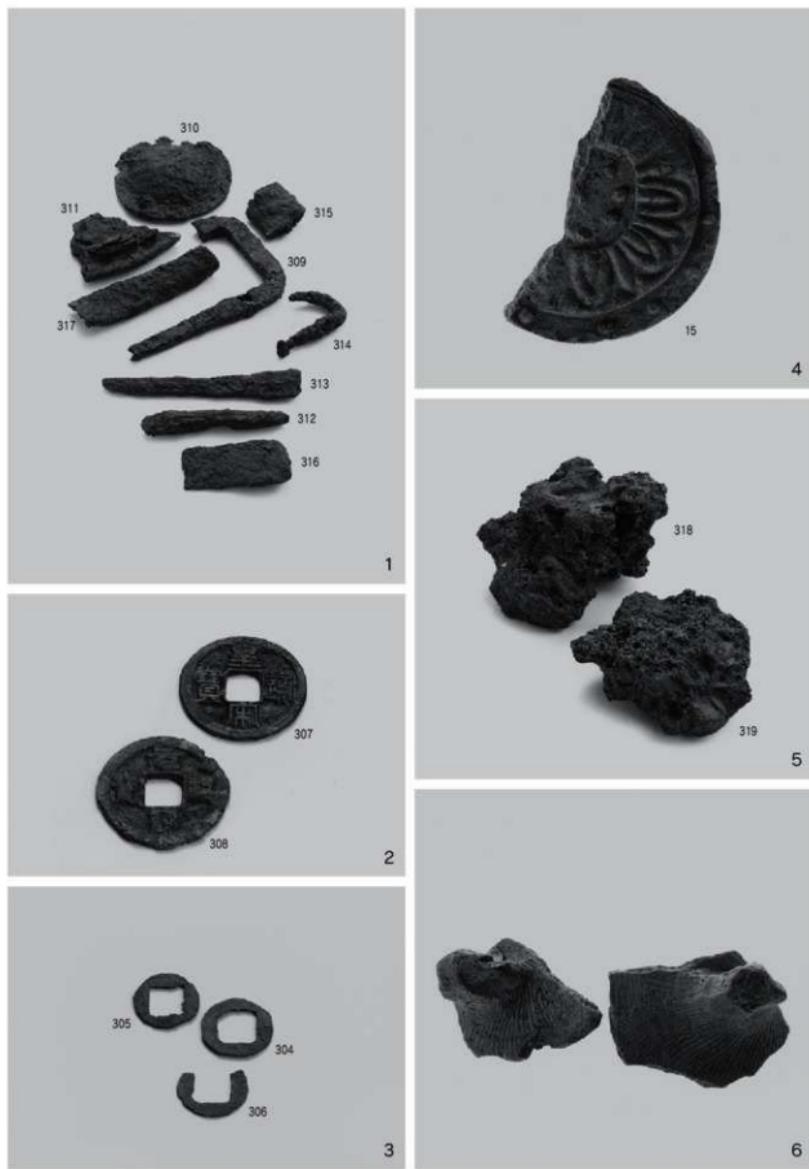
2. 宫地小烟遗址 不明遗构SX001出土遗物

3. 宫地小烟遗址调查区出土遗物

4. 宫地小烟遗址F-G-13Grid出土遗物



1. 宮地小烟遺跡 調査区出土遺物(転用磚) 2. 宮地小烟遺跡 土坑SK030(37)・調査区出土遺物(瓦)



1. 宮地小烟遺跡 調査区出土(鉄製品)  
 2. 宮地小烟遺跡 土坑 SK012・SK026出土遺物  
 3. 宮地小烟遺跡 土坑 SK005出土遺物(模造銭)

4. 宮地小烟遺跡 土坑 SK019出土遺物(軒丸瓦)  
 5. 宮地小烟遺跡 調査区出土遺物(鐵滓)  
 6. 宮地小烟遺跡 調査区出土遺物(軒・脇部)



1. 宮地小畠遺跡 調査区出土遺物(紡錘車) 2. 宮地小畠遺跡 調査区出土遺物(底石)



1



2

1. 宮地小烟遺跡 調査区出土遺物(土錐)

2. 宮地小烟遺跡 調査区出土遺物



1



2

1. 宮地觀行寺遺跡 1 区 土坑SK001(1)・調査区出土遺物

2. 宮地觀行寺遺跡 1 区 土坑SK003出土遺物



1. 宮地觀行寺遺跡 1 区 土坑SK003・調査区出土遺物  
2. 宮地觀行寺遺跡 1 区 調査区出土遺物(中空圓面鏡)  
3. 宮地觀行寺遺跡 2 区 土坑SK002・SK016出土遺物



1.2. 宮地觀行寺遺跡 2区 土坑SK003出土遺物

3. 宮地觀行寺遺跡 2区 土坑SK004出土遺物

4. 宮地觀行寺遺跡 2区 調査区出土遺物

5. 宮地觀行寺遺跡 3区 調査区出土遺物



参考資料(江上コレクションより 八代市立博物館 未来の森ミュージアム所蔵)



宮地小畠遺跡 出土遺物（へら書き）－①



宮地小畠遺跡 出土遺物（ヘラ書き・ヘラ記号）-②



宮地小畠遺跡 出土遺物（へら書き）－③



1. 宮地小畠遺跡 出土遺物（墨書） 2. 3. 宮地觀行寺遺跡 出土遺物（ヘラ書き・ヘラ記号）



宮地小烟遺跡出土遺物（盡符燒・窯道具）

## 報告書抄録

ふりがな	やつしろへいやかんたくいせきぐん	みやじねばたけいせき	みやじかんぎょうじいせき			
書名	八代平野干拓遺跡群(高田手永旧堤防 四百町開田堤防) 宮地小畠遺跡 宮地銀行寺遺跡					
調書名	九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告					
卷次						
シリーズ名	熊本県文化財調査報告					
シリーズ番号	第254集					
編著者名	宮地小畠遺跡・宮地銀行寺遺跡 長谷部善一・宇田員特 八代平野干拓遺跡群 坂口圭太郎					
編集機関	熊本県教育委員会					
所在地	〒862-8609 熊本市水前寺6丁目18番1号 Tel.096-333-2706					
発行年月日	2010年(平成22年)3月31日					
所取遺跡名	所在地	コ一ド	北緯 東経 調査期間 調査面積 調査要因			
	市町村	遺跡番号				
高田手永旧堤防	熊本県 (43)	八代市(202) 千丁町(462)新牟田	004 座標数値No.1 32° 32' 04.28845°	座標数値No.1 130° 37' 42.84865° 平成15年1月14日 平成15年3月31日	240m <sup>2</sup>	九州 新幹線 建設工事
四百町開田堤防		八代市(202) 鏡町(463)西出	015 座標数値No.1 32° 33' 05.16500°	座標数値No.1 130° 38' 38.54634° 平成16年11月5日 平成16年12月24日	60m <sup>2</sup>	
宮地小畠遺跡	熊本県 (43)	八代市(202) 宮地町字小畠348 ほか14筆	230 座標数値No.1 32° 29' 59.30203°	座標数値No.1 130° 38' 18.54634° 平成15年6月23日 平成15年9月30日	1,111m <sup>2</sup> (×3面)	
宮地銀行寺遺跡		八代市(202) 宮地町銀行寺	229 座標数値No.1 32° 29' 52.15891°	座標数値No.1 130° 38' 18.38322° 平成15年5月1日 平成15年8月25日	352.4m <sup>2</sup> (×2面)	
所取遺跡名	種別	主な年代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
高田手永旧堤防	堤防	近世(文政2年) 1819年~	石列 1条	—	—	
四百町開田堤防	堤防	近世(寛政11年) 1799年~	石列 2条 溝状遺構 1条	染付椀(椀、皿)	—	
宮地小畠遺跡	集落 散布地	古墳後期 (6世紀後半)	掘立柱建物、土坑、溝、 用途不明遺構、 土石流跡	土師器、須恵器、縄釉陶器、 青磁、白磁、軒丸瓦、平瓦等	本線部調査に引き続 き、東側側道部の調 査を実施。本線部で 検出した土坑群を検出。 大型掘立柱建物 跡の可能性もある が、調査区が限定さ れることから詳細は 不明。	
宮地銀行寺遺跡		奈良・平安時代 (8世紀から9世紀初期)	製鉄(小鋼治)関連遺構、 礎敷溝、土坑(灰窓)		1 区古代の遺物包含 層中から「中空円面 鏡」が出土。 2 区では、粘土を張 り込んだ溝を検出。 また、隣接する土坑 層からは製鉄用(小 鋼治)の炭窯と見ら れる土坑を検出。製 鉄関連の遺構と考え られる。	

本表中、北緯・東経は日本測地系で表記している。

---

印刷仕様

- 判型 / A4判
  - 頁数 / 222頁・A3折
  - 組版 / 写真写植（13級 小塚明朝Pro）
  - 製版 / スクリーン線数200線で製版
  - 用紙 / 表 紙（アートポスト220kg）  
本 文（上質紙110kg）  
写真図版（特アートSA金藤4/6判135kg）
  - 製本 / 左糸懸り
- 

熊本県文化財調査報告 第254集

八代平野干拓遺跡群

（高田手永旧堤防・四百町開旧堤防）

宮地小畠遺跡・宮地觀行寺遺跡

---

平成22年3月31日

編集・発行 熊本県教育委員会  
〒862-8609 熊本市水前寺6丁目18番1号

印 刷 白木メディア株式会社

21 教委 教文
② 009

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 254 集を底本として作成しました。  
閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用  
してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図  
書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用  
方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：八代平野干拓遺跡群（高田手永旧堤防 四百町開旧堤防）宮地小畠遺跡  
宮地觀行寺遺跡群

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号

電話：096-383-1111

URL：<http://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：2015 年 12 月 8 日